

阿部夏乃子さんのお母様

早く受験が終わらないかな、終わったらあれをしよう、これをしよう親子ともに思いながらも頑張った数ヶ月がやっと終わりました。2月受験校は早稲田実業と都立大泉のみという、今の首都圏中学受験の主流から大きく外れたパターンだったので、参考になる自信はないですが、娘が頑張った記念に体験を書いてみようと思います。

●受験することになる経緯

色々な事にチャレンジすることが好きな娘は、幼なじみの友人達が中学受験をしたこともあり、自然と自分もしたいと思うようになったようです。私も夫も地方出身だし頭が昭和なので、私立の中高にわざわざお金をかけて行くなら余程の進学校でない、と思ってしまうタイプ。近くには都立大泉があり、校舎も校庭もきれいで広くて、受験するならばここは受けさせたいと思っていました。

あまり深く考えず、コロナ休校になって暇だった時に体験授業で娘が気に入った大手塾に入れました。が、4年生の終わり頃に、このままでは私立の学校を受けまくる流れになってしまうと気づいた母。何人かからアントレは凄く面倒見がいいとか、人数の割に進学実績が凄くいいという話を聞き、HPを見ると確かに！それに都立にも毎年数人入っているし良いかも！と娘に体験授業を受けさせました。この時に都立受験に特化しているenaも勧めましたが、私立の難しい学校も受けたいよ！という娘。地元の中学でいいじゃん、という夫。色々考えて、早稲田実業なら大学まで行けるからこの先受験しなくていいし、文武両道だし共学希望のうちの子にも合うし、これなら学費がかかっても夫も私も納得。娘にどんな学校か説明し、すごく勉強できる子達がすごく頑張っているかどうかの学校だけど、家の方針としてここと都立大泉なら受験していいけどそれでもいいか聞いたら「がんばる」と。こんな流れで5年生の5月からアントレにお世話になることになりました。

●アントレに転塾

算数より国語の方が得意でBクラスからスタートしましたが、最初のまとめテストでたまたま成績が良く、フンチャンに早いうちにAクラスに上がるでしょうと言って頂き、早速できたお友達にもそう言われ、本人も親もそう思っていました。が、初めのうちは塾から帰るといつもその日やった内容や白板の出来などを楽しそうに語っていたのが、しばらくするとだんだん、前の塾と違ってクラスに男子も多く賑やかな雰囲気になってきてしまったらしく、誰がこう言った、誰がこんなことをして面白かった、楽しかったというような話ばかりになり・・・白板の復習もその日にしないし毎日プリントはほぼ手つかずで、クラスを上がろうという気概があまりない様子。

友達がいるから転塾するのを嫌がっていた娘だったので、初めは私も楽しかったなら良かったと思っていましたが、日が経つにつれてちょっと違うんじゃない？と思うように。見かねてガミガミ言うも効果は一時的という日が続きました。

●そうしているうちに6年生に。

本人もそろそろAクラスに上がりたいようでしたが、いつも算数がもう一つで相変わらずBクラスのまま。夏前にAに上がらなかつたらいくら何でも早実とか無理だからもうやめさせると伝えたら、フンチャンに「どうやったらAに上がれますか」と交渉しに行き、次のテスト算数80点以上取れたらと条件を頂いて、無事クリアしてAに上がったのでした。

フンチャンもでしたが、A担任のタケノコも、面談でこちらが早実と大泉しか受けないことを伝えると「もう少し、頑張れば丸をもらえそうな学校で併願を考えたほうが本人のためにいいです」と勧められました。当然だなと思いつつ、「夫とも相談して、うちは早実か大泉がダメなら地元の公立でと決めました。どこに行くことになったとしても夏乃子はやっていけると思うし、本人もそう思えるように努力します」と話し、どうしても早実に行かせたいのではなく、親の中では本命は大泉ですとお伝えしたら何とか了承して頂けた感じです。

●NN早実模試

四谷大塚模試以外に、早稲田アカのNN早実模試も受けていました。7月から5回受けましたが、初めは合格判定40%、NN合格（NN学校別特訓を受けられる）まであと8点、とか手が届きそうな数字が出ましたが、回を重ねるごとにデコボコしながら下り坂。最後の12月の回は25%でした。NN合格にはもちろん届かずじまい。

●都立大泉対策

9月からe n aの模試を受け始め、こちらはNNに反比例して回を重ねるごとに上がりました。適性検査1の作文はもとと文章を書くのが好きなので慣れたら時間内に書けるようになったのと、適性検査2、3の理系問題も私立対策の算数をやっていたので基礎ができていたのは良かったです。より合格可能性を上げておきたかったので、最後の2か月だけe n a個別にお世話になりました。

●秋～冬休み

もしNN早実合格したら、今まで通りアントレに通いつつ土日にNN早実特訓を受講するのを目指していたのですが、なかなか合格ラインに届かない。早実が都立大泉がダメなら公立と決めてはいるものの、内心はグラグラで、秋も深まると「どっちも受からなかったらかわいそう」というのが頭から離れませんが。本人は本人で、頑張っているのだけど以前は夏休みには封印すると言っていたYouTube視聴を何だかんだ言って続けているし、漫画もそこそこ読んでいてもう一つ本気になれていない感じがしました。

NNにも合格できないなら早実は無理なんじゃないか。早実対策に時間と労力をさいて都立対策がおろそかになったら、ちゃんとやればいけそうな都立も落ちてしまうかも。長い目で見たら都立に絞らせたほうが娘のためかも知れない、と思い至り、12月のNNもダメだったら都立に絞ろうと娘に伝えました。娘は一応承諾。

12月の娘の個別面談に先駆けてタケノコに面談をお願いし、次のNNがダメだったら都立に絞ろうということになったとお話ししました。「夏乃子さんとの面談ではなんと伝えてほしいですか」と聞かれたので、「都立に絞っても今までの勉強が無駄になるわけではない。適性検査は夏乃子にあってから頑張れと背中を押してほしい」と伝えました。

翌週タケノコとの面談を済ませて帰宅した娘が

「ママ、タケノコに早実受けていてって言ったの？」と言うのです。何で？と聞くと「タケノコに次のNNダメなら早実やめるって言ったら、NNにノーって言われたからって、早実落ちたわけじゃないのにあきらめるのかって言われた」と言うではありませんか。うーん？「ママも都立に絞るって言ったんだけど。夏乃子もしNNダメでも早実受けるの？」と聞くと、受けたいと返事。本人が受けたいなら、と結局当初の予定通り早実と都立を受けることになりました。

方針を本当に決めてしまうと親もかなり気が楽になりました。12月のNNがダメなら都立に絞ろうと言ったものの、本当は早実受けたいんだろうな、受けるのやめることで都立のモチベーションも下がるかも知れないな、そもそも都立に絞ったからってそちらは絶対受かるという保証もないよな、と悶々としていたので、本人がとにかく受けたいと意思表示をしてくれたのは良かったです。

先に書いたように12月のNNも結局ダメだったのですが、先生に背中を押してもらったこともあり、「NNに入れなくてもアントレがあるから」と、娘もそれ以降本当に本気になったような気がします。受験して落ちたならあきらめもつくけど、本当は受けたかったけど受けずにあきらめたのではしこりが残りそう。タケノコは私が娘に伝えてほしいと言った内容も伝えてくださったようですが、その上で娘の気持ちを考えて背中を押してくれたのかなと、ありがたく思いました。受験は子供が主役というのを忘れてはいけませんね。

●過去問

早実の過去問は本当に難しく、合格最低点は超えられずじまいでした。算数が特に娘にとってはハードルが高く、百点満点なのに30点前後はザラ。でも他の学校の過去問をやらない分（都立大泉はやりましたが）見直しにしっかり時間をかけられました。国語は平均点よりけっこう上のことが多いし、社会は頑張れば取れるはず。4教科総合での勝負だから、と出来るだけ前向きに考えられるようにしました。

●四谷大塚合不合模試

参考までにですが、四谷大塚の早実合格判定は秋以降ずっと30%でした。40くらいは出ていると気分的に良かったのですが。でも、「昨年の合格者とあなたの偏差値比較」の表を見ると、いつも必ず娘より下の偏差値の人が数人いるのです。だから望みはあるよ、とこれも出来るだけ前向きに考えられるようにしました。

●1月受験校

いきなり2月に本番でも緊張しそうなので、適性検査型と普通の4教科を1回ずつ、練習で受験することになりました。適性検査型は前に天野先生から細田学園と西武文理のチラシを頂いていて、後日講評を送ってもらえる西武文理に。4教科のほうはタケノコに相談すると、2月受験校は決まっているので、1月は必ず受かりそうな安全校にして勢いをつけたほうが良いとの事で、西武文理と日がかぶらない開智中学にしました。2校とも合格を頂き、娘はほっとしたようでした。

●2月1日 早稲田実業

1月の時オーディオ接続がうまくできず失敗したズーム応援も今回は問題なく受けられたし、寝坊や電車遅延もなく無事に国分寺駅に着いただけで、もう半分合格だね！タケノコが背中を押してくれなかったら今日受けてすらいなかったかも知れないから、本当に感謝だね！と話しながら学校に向かいました。門から先、1人で校舎に向かう後ろ姿は頼もしかったです。ピアノのコンクールで1人ステージに向かう後ろ姿を思い出しました。いつも本番が一番上手だったな。

帰り道、前の週にタケノコが言っていた内容が算数で出た、社会でダンディにももらった記述プリントからたくさん出た、と言いき、手がしびれるほど緊張しながらも力を出し切った感触ではあったようです。国語はできた気がすると言ったり、算数のミスに気付いて打ちひしがれたり、1日の中でこんなに色々な感情が交錯した日はないだろうと思います。

●2月3日 都立大泉→13時早実合格発表

本当に何て近くて行くのが楽なんだろう、ここにさえ受かってくれれば万々歳と思いました。試験後の娘も手ごたえがあったようです。

帰宅後一緒に早実の合否確認→まさかの合格。5度見くらいしました。

娘によると、早実の問題は適性検査に寄せたの？と思うくらい過去一記述が多かったそうで、都立対策がマッチしたのかも知れません。

以前から「早実も大泉も両方受かったら早実に行くからね！」と宣言していた娘。その前向き思考、最後まであきらめずに頑張って本番で全力を出す根性、本当にすごいと思います。

また、タケノコはじめアントレの先生方の温かいご指導、本当にありがとうございました。通塾している期間、どの先生のお名前も娘の口から聞き、どの先生も生徒1人1人に目を配っていることが分かりました。この場をお借りして改めてお礼申し上げます。

阿保詠子さんのお父様

娘の中学受験は、十代の多感な6年間を高校受験にとらわれずのびのびと過ごして欲しいとの思いから始めました。また娘自身も、通っている小学校のほとんどの生徒が中学受験をするので、自然と目指すようになりました。受験に臨むにあたり、夫婦で、勉強面は父親である私、健康管理面と学校訪問は妻と役割分担を決めました。役割分担をしたことで余計な衝突をしなくて済んだかなと思います。

アントレには新4年生からお世話になりました。塾を選ぶ際、SAPIXや早稲アカも考えましたが、大量のプリントの管理が大変そうであったり、熱血な雰囲気が娘に合わなそうだったり、我が家にはしっくりきませんでした。あれこれ調べる中で、近所で、比較的少人数のクラス編成で、難関校合格の実績もあり、何より授業が楽しそうなアントレに辿り着きました。予習シリーズを使った予習が必要なところも、自学自習の習慣をつけられそうで魅力的でした。体験授業を受けたところ、娘も「楽しかった！ここが良い！」との感想でしたので、迷わず入塾しました。後々知ったことですが、アントレの前身は、私が小学校時代に通っていた塾の別校舎だったということがわかり、不思議な縁を感じました。塾選びは、中学受験における最も大事な親の仕事です。アントレを見つけたことは、妻と娘にも褒められた会心の偉仕事でした。

志望校は、「自宅から通いやすい」、「自立した女性を育む」、「高い進学実績を持つ」、「女子校」という観点で選んでいきました。その後、妻と娘で学校訪問や学園祭に足を運び、ここはちょっと違うなと感じたり、ここは楽しい学校生活を過ごせそうだと感じたりで、具体的に志望校を絞っていきました。第一志望は「女子学院」。目標としては高すぎるとは感じる面もありましたが、結局、目指すのも通うのも娘本人なので、本人の気持ちを大事にしました。その他、「吉祥女子」「豊島岡女子」「浦和明の星」を志望校としました。志望校への本人のやる気を引き出すためにも、少しでも気になる学校には早めに親子で実際に訪問することをおすすめします。

3年間のクラスの変遷は、4年生はA、5年生はS、6年生はSと最上位クラスで過ごすことができました。ただ、まとめテストでは成績上位者に載ったり載らなかったりで、良い成績を安定して取れていたわけではありません。5年の頃、まとめテストの算数でC判定が結構続き、SからAにクラス替えした方が良いのではないかと、娘には内緒で担任の柏原先生に相談したほどです。そのとき、テストの点数だけではなく授業での様子も加味して「このままSクラスで大丈夫ですよ」と言っていただき、踏ん張ることができました。そこはやはり中学受験のプロ。親では見えないポテンシャルなども見てくださっている安心感がありました。

【算数】

中学受験の成否は算数で決まるとよく言われます。我が家も算数をいかに伸ばすかに腐心しました。その点、アントレの算数指導と白板問題は本当に素晴らしく心強かったです。

5年生後半に差し掛かるところまでは、わからないところは私が教えていきましたが、その頃になると単元も難しくなってきた、私には手が余るようになってきました（現役時代、私も優秀な受験生ではなかったですし…）。また、高学年になると、娘も親からの指導が煩わしく感じて素直に親の指導を聞いてくれなくなりしました。このままではまずいと思い、当初6年生になってから頼もうと考えていた個別指導を、5年生12月からスタートさせました。これが功を奏し、理解度がグッと上がり成績が安定していきました。加えて、歳の近い個別指導の上原先生から中高生時代や大学でのお話などを聞くことで、娘の目標校へのモチベーションも高く維持できたように思います。上原先生には感謝しても感謝しきれません。

振り返って、算数力を大きく養ってくれたと感じるのは、6年夏期講習の白板問題演習です。夏休み前に担任の柏原先生との面談で、正答率60%を超えようと目標を定めて夏期講習に臨んだようです。そして毎回、各単元の白板問題をきちんと復習してから授業に臨むサイクルを回せた結果、66%と目標を達成できました。これにより算数が武器になるほど強くなりましたし、本人も大きく自信をつけることとなりました。

【国語】

国語は入塾当初から得意科目で、あまり苦勞はしませんでした。低学年時から、本が好きでよく読んでいたことで文章を読むスピードがわりと早かったこと、自宅学習で市販の出口汪「論理エンジン」をしていたことが良かったかもしれませんが、はっきりとした理由はわかりません。読書量を増やすためにしていたことは、娘が読みそうな本をランダムに図書館から妻が借りてきて家に置いておくことくらいです。

得意科目ではありましたが、一度、模試（合不合第5回）でやらかしてしまい、結果を見て泣き崩れることもありました。担任の柏原先生に相談し、前向きになれるような声かけをお願いしました。おかげで引きずることなく立て直すことができたと思います。身内の言葉よりも先生の言葉が効くなと感じました。

【理科】

まとめテストや模試では、出来不出来の波が大きい科目でした。第一志望の女子学院の傾向を踏まえて、学だったら天体をしっかりやった方がいいのではないかと、ちょっと口を挟むことはありましたが、ほぼ勉強方法は娘任せ塾任せでした。過去問でわからなかった問題は、個別の上原先生に聞いたりしていました。

【社会】

一番苦勞し最後まで苦戦した科目でした。社会には地理・歴史・公民・時事の分野がありますが、娘はどの分野にも興味が湧かないようで、知識がなかなか頭に定着しなかったようです。講談社の学習まんが「日本の歴史」セットを揃えてみたり、「読売 KODOMO 新聞」を購読してみたりしましたが、あまり効果は見られず。まとめテストではそれなりの点数を取るものの、6年生時の模試では偏差値 50 超えれば良い方で、40 未満の回もありました。

【学校別対策】

学校別対策として、6年生の後期は、土曜の入試演習（女子学院・雙葉・豊島岡クラス）を受講しました。前年は女子学院のクラスが無かったようで、無ければ早稲アカの NN 女子学院か SAPIX の SS 女子学院に行くことも考えていましたが、幸い今期はクラスができたので、アントレだけで完結させることができました。入試演習では、回によって合格したりしなかったりと安定はしていませんでしたが、問題の相性次第で勝負できるレベルにはあることを確認できました。

【外部模試】

6年生時に、四谷大塚の合不合格判定テスト（6回）、個別で申し込む NN 女子学院オープン（4回）、学校別サピックスオープン（女子学院2回、豊島岡1回）、サピックスオープン（2回）を受けました。模試の結果にも波がありましたが、5月・6月に30~40%程度だった女子学院の合格可能性判定が、12月には80%に届くようになっていました。特に SAPIX の猛者が集まるであろう「学校別サピックスオープン（女子学院）」で、合格可能性80%を取れたのはかなりの自信になりました。なお、四谷大塚の合不合格判定テスト6回分の平均偏差値は、算国2科目で70.3、4科目で66.6でした。

どの模試も得点構成は、算国でリードするものの理社でそれなりの合計点に落ち着くという傾向でした。女子学院は4科目全て100点配点ということもあり、模試終了から本番までは、いかに算国の得点力を落とさずに理社を詰めていくのが大きな課題でした。正直、理社の知識は完成するのか（特に社会！）、本番までハラハラしていました。

【過去問対策】

6年生の夏休みに1回、本格的には9月から毎週1回~2回分くらいのペースで取り組んでいきました。それぞれ、女子学院（11回分）、豊島岡女子（5回分）、吉祥女子（6回分）、浦和明けの星（6回分）、栄東（1回分）を解きました。採点後は、できなかった問題をノートにまとめて復習することを重ねていきました。当初は、どれも合格最低点に届かなかったのですが、11月には豊島岡女子以外は最低合格点（女子学院は非公開なので推定で275点）に届くようになってきて、娘の成長を感じるとともに、志望校を変えずにいこうと腹を決めることができました。

1月入試（前受け）の初戦は10日の栄東A。栄東は本番入試の雰囲気慣れるための受験。娘はさほど緊張せず受けられたようで、東大クラスになんとか合格。算数の得点があまり良くなかったのが気になりました。当日、会場の最寄り駅の東大宮駅は大混雑になるので、電車で行く場合は結構早めに現地に着くようにした方が親子共々ストレス少なく良いです。

14日は浦和明けの星。本当に通うかもしれない学校の初めての受験。過去問では合格最低点を余裕を持ってクリアできていたのですが、本人はかなり緊張していました。ここで合格をいただき、進学先候補を一つ確保できたことで精神的にかなり楽になりました。浦和明けの星は延納制度があり、所定の手続きをすれば入学金の納入を2月3日16時まで待ってくれるので、親にとってもありがたい学校です。

浦和明けの星の合格発表から2月1日までの最直前期の2週間余りは思った以上に長く感じましたが、自宅学習をするのに Zoom 自習室は非常に良かったです。仲間がいるのを感じながら取り組むので、集中力高く勉強できていました。ぜひ来年以降も続けて欲しい取り組みです。

最直前期は何よりも健康管理が重要と考え、感染者数が増えていたインフルエンザやコロナ感染症対策のため、1月23日から学校を休ませていました。また、インフルエンザ対策として、自費になりますが予防に抗インフルエンザ薬をかかりつけの小児科で処方していただき、1月23日から2月1日まで毎日服用していました。おかげで万全の体調で2月1日を迎えられたと思います。

2月1日は女子学院。第一志望ということもあり、さすがに前日から緊張していました。入試を終え、娘は「算数ができなかった…。他はできたと思うけど…」と一言。過去問の経験上、算数ができていないと結構厳しいので内心不安でしたが、「今年の問題は難しかったのかもね」と努めて気にしないようにしました。

2日は吉祥女子。本人曰く算数は良くできたものの、社会ができなかった模様。なかなか安心させてくれません。帰宅後に女子学院の結果をWebで確認。「不合格」の表示を見て娘は号泣しました。親である私も胸が詰まりました。ここから同日20時半の吉祥女子の結果発表までがとても長く感じました。20時半、吉祥女子の「合格」の表示を確認し、娘は喜びを爆発させていました。私も一日でこんな感情のジェットコースターは経験がなく、精神的にかなり疲れました。第一志望の不合格は、想像以上にダメージが大きかったです。

3日は豊島岡女子。過去問でも合格最低点に届かないことが多く、偏差値的にも倍率的にも厳しい戦い。試験後はめずらしく手応えを口にしませんでした。口にするのが怖かったのだらうなと思います。同日19時に合格発表。娘の受験番号を見つけ、家族みんなで喜び合いました。アントレに電話報告し「豊島岡に進学します」とお伝えし、娘の中学受験は終わりました。

学校別サピックスオープンでは、合格可能性80%を取っていた女子学院が不合格で、40%だった豊島岡女子に合格。模試はあくまで参考程度なもので、実際の合格と不合格は紙一重であることを思い知らされました。まさに合格とは「縁」だなと感じました。勉強面を面倒みる役割のはずだった私は5年生の途中まで算数をみていたくらいで、ほぼ娘が自学自習とアントレで培った力で手繰り寄せた「縁」です。私が受験した頃とは比べ物にならないほど難化した中学受験を、走りきった娘を尊敬します。

娘の中学受験は、第一志望の女子学院への合格が叶わなかったものの、第二志望の豊島岡女子に合格することができ、悔しさも喜びも味わう貴重な人生経験となったと思います。

中学受験を描いた尾崎英子の小説「きみの鐘が鳴る」に、子どもたちが通う塾の塾長が受験日直前に「まぎれもなく、この中学受験、君たちの青春です」と子どもたちに語りかける場面があります。娘にも人生を振り返った時に、楽しかったアントレでの日々を思い出して、そのように感じてくれたら嬉しいなと思います。3年間、そのような楽しく学べる場を提供していただき、ご指導いただいた柏原先生はじめアントレの先生方と個別指導の上原先生に心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

荒瀬瑠惟さんのお父様

受験校と結果：

1/1 2 星野学園 ○
2/1 午前 三輪田学園中学校 ○ 2/1 午後 三輪田学園中学校 ×
(不合格だった場合、2/2以降も三輪田中学だけを受験する予定でした)

4人兄弟の末っ子(3人の兄姉もアントレで先生方に大変お世話になりました)、4~5年は、なんとなく通塾して目標も明確でないまま過ごしていたと思います。6年次になったころから、家庭内では兄や姉が3人とも私立中学に進学していることもあり、自然な流れで徐々に受験を意識するようになったと思います。6年次のクラスはCクラス(成績はCクラスの上位だったはず)でした。日々の予習・復習が不十分であった時期もあり、順調に勉強が進んでいる様子は全くありませんでした。性格的に、勉強を強制されることは嫌いで、私も5年生まではほとんど関与せず、6年生から私が勉強予定の作成をサポートしました(テストの点数も妻から間接的に聞いていた程度で、今思えばこれが私と娘の丁度よい距離感だったかもしれません)。

三輪田中学への興味は、親からではなくお友達から話を聞いて、学校を見てみようかなと、行ってみて制服が気に入ったようでした。

*志望校の選択は、一番には本人が気に入った学校を尊重し、次に現実的な学力や通学時間も考慮し、文化祭や学校説明会などに参加して学校の雰囲気を見て決定していました。親としては、学校の掲げる教育方針もホームページなどで確認していますが、実際には説明会での「校長先生のお話や感じたお人柄」も大事に見ていました。

模試の結果：

4月、7月の四谷大塚合不合格模試→四教科偏差値 36、35
9月以降は首都模試
9月 2教科偏差値 50 4教科偏差値 45
10月 2教科偏差値 51 4教科偏差値 47
11月 2教科偏差値 56 4教科偏差値 52
12月 2教科偏差値 52 4教科偏差値 49
*模試の結果で合格可能性80%と判定されたのは、11月の2教科での成績だけでした。

過去問：

8月末から過去問を始めましたが社会は50点満点中10点もとれない状況でした。

初回の過去問成績は合格最低点からマイナス18点。

11月の時点で、理科と社会の点数が伸びず、過去問も4教科では合格最低点には至らず、2教科で合格最低点を超える状況でした(三輪田は、4教科受験でも国算2教科での得点で合格できる)。4教科の勉強時間配分を考えると、時間的な余裕はなく、理社は過去問→復習だけをやり続けることにしました。冬期講習以降も、理社の過去問はあまり点数が伸びませんでした。算数に費やす時間が減らないような勉強予定とし、算数は白板復習、過去問、苦手分野は四科のまとめをやりました。算数では簡単な計算ミスにより10点以上失っていることが度々あり課題でした。計算のどこで間違っているのかを明確にするため、過去問の計算問題や予習シリーズの計算問題を数十題ピックアップして、計算ノートを作り(1問につき1ページほどのスペースで)毎日2~3問解いていきました。途中式も書いていくので、間違えた場合にどこでミスをしたのか、本人も、チェックしている親もわかるので、具体的なアドバイスができました。

以降、過去3年分は4教科で2回目までやりました。11月以降は算国2教科であれば合格点を超えており、合格者平均点に達することも数回ありました。

*4人の中学受験を経験して実感していることは、模試の偏差値よりも志望校の過去問ができるかどうかが重要だということです。4人とも、合格した学校の過去問は合格点を数回とることができておりました。

今回は、4人の兄弟のなかで一番大変な受験になると思っていたのですが、本当によく頑張ったと思います。合格おめでとう！

長男が入塾してから10年以上、アントレの先生方には大変お世話になりました。教室で友達と踊っていた長男、1月もサッカーをやり続けていた長女、おだてて調子に乗せて頑張った次男、お友達に恵まれ辞めずに頑張れた次女、4人ともアントレだったので楽しく通塾でき頑張ることができたと思います。いつも親身で丁寧なご指導をして頂いた素晴らしい先生方との出会いに本当に感謝しております。長い間、ありがとうございました。先生方の益々のご活躍を祈念しております。

飯塚英彦くん、智彦くんのお父様、お母様

3年生の冬季講習からアントレでお世話になりました。アントレを知ったきっかけは、知り合いの方からの情報をもとにホームページを調べると、楽しく学び、学習の習慣が身につく等書かれていて、自ら進んで勉強できるようになってほしい、との親の期待もあり、体験授業に参加させていただきました。二人(双子)とも授業がとても楽しかったようで、アントレで勉強したいとのことだったので、費用も二人分を考え他の塾と比較し、アントレに入塾を決めました。

授業は毎回楽しく、集中してまじめに勉強していたようですが、なかなか自宅で予習・復習をすることが習慣化できず悩みの連続でした。一週間の学習計画表をたてて、勉強が終わったらチェックをするというやり方を続けていました。

志望校は入塾当初よりほぼ決まっていました。小学校受験で不合格だった学校をリベンジしたいとの息子たちの思いもあったようです。4、5年生の頃はコロナ禍で制限がありましたが、志望する中学校のオープンキャンパスやイベントに何度も参加し、合格したいという思いを高めていたように思います。行きたい学校があるのなら、それに向けて頑張ればよいのにという親の思いもありつつ。

学年があがるごとに思春期や受験へのプレッシャーなどからか、なかなか親から言われることも嫌がる時期にも突入し、勉強のスケジュール管理も難しくなっていました。最後はほぼ塾と本人にお任せ状態になっていきました。とにかくゲームが大好きで、一日の時間制限を設けながら、試験前日までゲームはやり続けていました。6年生の9月以降は、自宅での過去問の実施をサポートしました。保護者会に行くたびに、「やる気スイッチがみつかりません」と先生方に相談していました。「授業はまじめに受けて頑張っています」とのことでしたが、やはり自宅での学習時間が足りず、特に復習の習慣が定着せず、成績はいつもAクラスで下位だったため不安でいっぱいでした。最後の保護者会の時には「落ちてから気がつく人もいる」と言われ正直ショックでした。今までの3年間はなんだったのだろう。と、叱咤激励と受け止めましたが。

ここまで本人たちなりに頑張ってきたのだから、あとは使命を信じて、祈り、励まし見守るしかないと思いました。なかなか思春期双子男子の中学受験は悪戦苦闘の日々でしたが、結果、無事に二人一緒に志望する中学校に合格することができました☆多発表の時は二人で飛び上がって喜んでいました！アントレの先生方の熱心なご指導のおかげと心から感謝の思いでいっぱいです。大変にありがとうございました。色々ありましたが、息子たちの使命を勝ち開くことができ本当に嬉しく思います。4月からの中学校生活を今からとても楽しみにしております。親としてはどこまでサポートできたか分かりませんが、親子共戦の3年間、振り返るとかけがえのない貴重な経験をさせていただくことができたと思っております。

アントレの先生方、3年間大変お世話になり本当に本当にありがとうございました。
皆様のご健勝と益々のご発展を心からお祈り申し上げます。

石黒航太くんのお母様

入塾時に頂いてから何度読み返したかわからないほど私の愛読書の一つとなっていた受験体験記を今自分が書いているということで受験の終わりを実感しています。受験の形は本当に人それぞれですが我が家の受験の記録が少しでも誰かのお役に立てれば幸いです。

【アントレ入塾に至るまで】

息子は海外生活が長く、3年生から日本の小学校生活をスタートしました。当初は英語力が残っていたので英語をキープできる環境を求めて親が中学受験を意識し始めました。3年生の冬にとある塾のオンライン冬期講習に参加。楽しく受けていたので通塾も考えましたがサッカーを週5でやっていたため新4年生の2月からは踏み切れず、通信教育で様子を見ることにしました。しかし、映像を見ながら4教科を自分で進めていくには限界を感じ、夏期講習から通える塾を探していたところアントレを発見。入塾テストがない、駅前で家からのアクセス抜群、サッカーと両立できそうなスケジュール等々の理由で候補に上がり、体験授業で授業中のにぎやかさに圧倒されつつも楽しかったということで入塾を決めました。

【志望校選び】

英語力をキープできる環境を優先すると共学や校庭が狭い都市型校舎の学校が多く、男子校やサッカーができる人工芝のグラウンドなどを希望していた息子は興味を示さず。受験勉強をやればやるほど英語が抜けていっていたので英語環境にこだわるのは一旦リセットし、①男子校②人工芝の校庭③学食④通いやすさといった息子の希望を基準に選び、6年秋頃には下記の学校に絞られていきました。

- ・武蔵…①②③④全て満たし、じっくりと学びを深めていける教育環境に魅力を感じました。タイミングが合わず校舎内を見たり生徒さんと話したりできる機会がなかったのでなかなか最終決断できませんでした。がアントレの仲間に受験する子が多いこと、私服であることが本人の決め手となりました。
- ・海城…足を運ぶ機会も多く、会話をした生徒さんはみんな親切でイキイキとしていて英語を学べる環境も整っており、6年生夏前までは第一志望としていました。
- ・東京都市大学付属…④以外は息子の希望条件に合っていて英語を伸ばせる環境もある。帰国子女受験の権利をいただけただけで1月の受験校として決めました。
- ・本郷…条件はほぼ揃って学校施設の施設もしっかり確認することができギリギリまで志望校としていましたが過去問との相性がどうにも合わず受験校から外すことにしました。
- ・成城…駅近でアクセスがよく、面倒見がとても良さそうな印象を受けました。都市大付属の結果次第では受験の可能性がありました。

【通塾と6年前期までの学習状況】

4年生の夏期講習は4教科Bクラスで受講しました。初めての塾通いに最初こそ緊張が見られましたがアネックスの外までみんなの笑い声が漏れてくるにぎやかさに息子も楽しそうに通っていました。9月からの通常授業は2教科Bクラスでスタートし、冬期講習前にAクラスへ。5年生から6年生最後までは4教科Sクラスで学びました。6年生前期には武蔵算数を受講。苦戦しながらも花丸をもらえることもあり難問に取り組む粘り強さがついていった時期でした。

〈算数〉

基本的に塾で指示された通りの範囲とやり方で進めていました。季節講習以外は予習シリーズの授業範囲を予習して授業に臨み、白板の間違った問題はその日のうちに解き直し。週末に宿題プリントと白板全問の復習、まとめテスト前はテスト範囲の白板を総復習するというスタイルです。予習シリーズは基本的に自力で解き進め、丸付けは私が担当し間違った問題はその理由を確認するようにしていました。自走が厳しくなったら個別をお願いしようと思っていましたが、予習に関してはわからない問題に悔し泣きすることもありません。最後まで自力でやり抜きました。

〈国語〉

日々の漢字練習やワークシート、授業の解き直しをしっかりとやっていました。もともと記述問題に苦手意識はなく間違っていようが何かしら必ず書くという意識は持っていました。5年生の記述対策授業を経たことで6年時の模試や演習で自信を持って問題を解くことができているように思います。

〈理科・社会〉

予習はテキストを読み込んだあとに演習問題集に取り組むのが基本でした。復習をひととおりするもの

全てを覚えていることは無理だったので完璧を求めすぎず、季節講習のたびに知識を上塗りするイメージで進めていきました。科学系の漫画や歴史漫画はよく読んでいて楽しみながら知識を補っていました。

【6年生夏休み以降】

平日のサッカーは6年生の5月末で区切りをつけ、週末のサッカーは9月に入っても模試がない日曜日に参加していました。しかし、9月の大会で思うように体が動かず、このままだと勉強もサッカーも中途半端になると本人が判断し受験が終わるまで休むことにしました。

夏休みは夏期講習の時間も日数も長く必然的に勉強時間は長くなりましたが、家では(かなりの)隙間時間を見つけてはゲームやユーチューブで息抜きしていたので比較的穏やかに過ごせていたような気がします。家庭でやることは基本的に夏前の保護者会で指示されていたことに絞り、精度を高めることを重視しました。

9月に入ると授業の予習が必要なくなるかわりに、土曜日の入試演習、過去問、模試が入る上に直しの時間も必要になり急に忙しくなりました。私自身の頭を整理するためデカッチョに面談を申し込み、冬期講習前までにやるべきことを確認させていただきました。どの教科も日々の授業の後始末をしっかりしていくことが基本。その上で算数は4科のまとめと夏の白板、武蔵入試演習の直し、併願校の過去問と直し、武蔵対策プリントに取り組みました。何をいつやるかがわかるように大まかなスケジュールを組み立て、息子の取り組み具合を見ながら日々柔軟に調整することが私の仕事でした。9月中頃、息子から「受験が終わるまで我慢する」と突然のゲーム断ち宣言。自ら考えて決断できたことに受験を自分のこととしてとらえられるようになってきていると感じました。一方で休憩時間はユーチューブ、勉強する時は音楽を聞きながら歌を歌うなど切羽詰まった様子はあまり見られずマイペースな息子の姿に、本番が確実に近づいているのにまだやるのがたくさんあるという焦りと不安に私が襲われていた時期でした。秋以降に受けた模試で好成績を出すことができたのでその勢いそのまま行ってほしいと願うばかりでしたが冬期講習まであと1週間という時期に息子がインフルエンザになり数日間勉強がストップ。1月6日に東京都市大学付属の帰国子女受験が控えていたのでこのタイミングで良かったという安堵と、予防接種とマスクで対策していてもなる時はなるという事実健康意識が一層高まりました。

また、9月からは算数の白板などの理解度を確保してもらうために個別授業をお願いしました。担当の清水先生には算数以外の教科や様々な質問にもご対応いただき本当に感謝しております。

【模試と武蔵演習】

四谷大塚の合不合判定テスト第1回～第6回

算数でケアレスミス連発で撃沈した時も国語でカバーするなどバランスをとりながら前半は4科偏差値60前後。最後は4科揃えることができて第6回は69.4で終わりました。

四谷大塚学校別判定テスト【武蔵】(9月)/学校別サピックスオープン【武蔵】(11月)

2つのテストの受験者数は全く異なりましたがどちらも予想をはるかに上回る好成績を収めることができ、武蔵の問題との相性の良さを感じました。

武蔵演習

15回すべて合格。理科社会の記述に苦戦していましたが個別授業でコツを教えてもらったり過去問の解説をじっくり読み込むなどして少しずつ点が取れるようになっていきました。

【冬期講習から1月、そして本番】

1月6日の都市大付属の試験に向けて、冬期講習で理科と社会を仕上げるつもりで復習に力を入れました。算数は授業の白板と並行して夏白板を繰り返し解き、国語は授業以外に語彙と詩の対策を家でやりました。

試験当日は少し緊張が見られ、会場に着いてからお腹が痛くなりトイレに駆け込んでいました。この時点で都市大付属のⅡ類を第3志望にした受験スケジュールを組んでいたためⅡ類の合格がもらえるかどうかで今後の予定が左右されました。試験が終わってすぐに強気な言葉を口にしていたのでおそらく大丈夫だろうという気持ちを持ちつつ、合格の文字を見るまでは落ち着きませんでした。通う可能性ありで志望していた都市大付属Ⅱ類に無事合格し、1月は他に受験せず2月の武蔵と海城に向けての勉強に集中しました。

3学期は3日間だけ学校に通い、後は受験が終わるまで欠席することに。夕方からの塾以外は自宅で勉強していたのでオンライン自習室はありがたかったです。残りの期間は都市大合格で気がゆるんでしまわないように注意しつつ、2月に自信をもって試験に臨めるように精神面の安定に努めました。算数は計算、夏白板と武蔵対策プリント、過去問や入試演習バツ問題の直し、国語は入試演習や過去問の解説の読み込みと漢字、理科と社会は授業の復習と入試演習や過去問の見直しと隙間時間にコアプラスをやっていました。普段は強気発言の多い息子が最後の入試演習の日にボソッと「今日不合格だったらどうしよ

う」とつぶやきました。模試やそれまでの入試演習で比較的順調だったことで彼なりにプレッシャーを感じていたようです。無事に合格判定が出て、あとは本番を平常心で迎えるのみだと感じました。

2月1日の朝は緊張というよりも受験がもうすぐ終わるということにやや興奮しているようでした。気持ちを落ち着かせるために朝の5時台にユーチューブで歌をかけながら熱唱している姿に頼もしさすら感じました。武蔵の横の公園で先生方の ZOOM 応援を受けていざ会場へ。アントレの仲間の姿を見ていつもの自信满满モードになって中へ入っていきました。いつも通りの表情で出てきたことと多少の手ごたえを感じていた様子から「行けたかも」と思いましたが3日の発表まで私は今までに味わったことのない緊張感を感じていました。その横で息子は2日も歌いながら勉強。3日もしっかり歌ってから海城に向かいました。試験を終えて出てきてすぐに海城の近くの公園で武蔵の結果を確認。無事に合格をいただくことができました。武蔵より自信がないと言っていた海城も4日に合格を確認し航太の受験は終了となりました。

【最後に】

アントレで過ごした約2年半で息子の勉強に対する自信が確実についていくのを感じました。ここまで導いてくださったアントレの先生方、個別でたくさんお世話になった清水先生、そして切磋琢磨しながら一緒に学びあったお友達に感謝の気持ちでいっぱいです。また、私自身も迷いが生じた時は保護者会の資料や受験体験記を読み返したり面談で伺ったことを実行したりとアントレを信じ切ることで乗り切ることができました。本当にありがとうございました。アントレの益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

市川乃依さんのお母様

アントレの先生方、一緒に頑張ってきたクラスのお友達、そして個別の先生方、長きにわたる受験生活を支えて下さった全ての方々に感謝申し上げます。

我が家の受験体験記、何も参考になるような事は書けそうになく、むしろ反面教師にさせていただいたほうがいいのでは・・・?!と悩みましたが、

私自身、迷う時や悩む時、何度も受験体験記を読み直し、励まされてきました。なんの一助にもならないかもしれませんが、こんな家庭もあるんだ、くらいの感じでお読みいただければ幸いです。

主人の書いた体験記を読むと大変すばらしいことが書かれていますが(笑) 現実、我が家ではここにはかけないくらいのピーーーーー音が鳴る怒号が飛び交ったこともありますし、一度は本当に中学受験を撤退しようと思ったこともあります。本人の自尊心を損ねない受験を夫婦として共有して志してはいたものの、実際のところ私は、あまりにも勉強に対してやる気を見せない娘を詰めたことも一度や二度ではありません。子育てでは「早く」というのが最も言うてはいけないNGワードとして知られていますが、私は多分、受験を始めてからこの3年間で100万回以上「早く早く!!」と娘を急ぎ立ててきました。私のがのんびり娘に喝を入れ、夢(志望校)と現状とのギャップを思い知らせる(やらなければいけないことを淡々と提示する)→落ち込む娘を父親が「よく頑張っているね。大丈夫だよ。キツイのならいつでも辞めていいんだよ。」と慰め(?) 励ますという役割分担があったことをここに記しておきます。

【家族構成】

父: 地方(岐阜)の公立高校出身。中学受験経験なし。当初は中学受験必要ある?的な考えだったが、家族を思う気持ちは優しさでできているバファリン並みに高濃度のため、最終的には中受を始めた娘(と私)を全力サポート。

母: 都立高から就職を経て大学卒業。中学受験経験なし。人生数学での苦労が付きまどってきたタイプなので、娘にはせめて算数を苦手にしてほしくない思いでアントレを選択。せっかち、無謀な計画を立てがち。

乃依(受験した本人): マイペース星から来た完全なるマイペース星人。人目を気にせず己のペースを貫ける強者。体の大きさに伴う体力とコツコツと努力できることが強味。しかし謎のこだわりなどあり、何をするにもものすごく時間がかかる。意外と頑固。算数不得意(白板○はもらえないけど、楽しい、好き) 国語大好き(得点源)、理科(生物大好き、物理、地学、計算単元苦手)、社会(地理歴史公民すべてにおいて最後まで苦労)

妹: 乃依の2歳下。完全なる自由の国の人。

【アントレ入塾】

3年生になり、受験を考えるようになりました。というのも、習い事として続けていたバレエ、ピアノが大好きだったので、高校受験を回避し、好きなことに熱中できる6年間を確保できる中学受験に魅力を感じました。そのような理由からスタートした中学受験だったので、塾選びに苦労しました。ほぼ万遍なく体験&見学にいった大手塾は集団授業や成績順によるクラス分けで、曜日が固定され、習い事との両立が難しいと感じました。

また、人との競争が好きではない娘が伸びるようにも思えず、悩んでいたところ、入塾テストもなくクラスも4年生の間は、習い事の都合で融通をきかせてくれるとおっしゃるアントレを見つけ、体験に行かせたところ本人も楽しかった、というので入塾を決めました。

【志望校選択の基準】

我が家はキリストに信仰を持つクリスチャンです。できれば女子の伝統校でキリスト教の学校がよいという親の希望がありました。ただ、絶対にそうでなければいけないと決めていたわけではなく、本人は女子校でも共学でもよい。できればキリスト教だとなおよい、とのことだったのであくまで校風や学校の雰囲気、生徒さんたちの様子(娘が通っていることを想像できるか)、通学のしやすさ(=習い事を続けることが出来る環境)に重きをおいて学校を探しました。

4年次には、コロナ渦の影響もまだまだ強く、学校見学は5、6年生が優先。そして見学の予約も激戦でほとんどこの学校も見学に行くことができませんでした。コロナがひと段落した今でも、5、6年生になると勉強が忙しくなり、学校見学に行く勉強時間が減るというジレンマに陥ることと思います。中学受験

に興味のある方は、実際にするかしないかはさておき、早めに1、2年生からでも学校のイベントに行っておくと良いかもしれません。

【見学に行った学校】

分不相応なのは重々承知でしたが、御三家の一角から順々に社会科見学のような気持ちで学校見学に行きました。この他にも初期のころに国際フォーラム開催の私学フェアなどに足を運んで、ドルトン、青学、桜蔭、西武文理の説明ブースにも行きました。

<女子校>

- ・女子学院
- ・雙葉
- ・豊島岡
- ・吉祥女子
- ・立教女学院
- ・鷗友学園
- ・晃華学園
- ・浦和明の星
- ・富士見
- ・跡見
- ・光塩女子学院

<共学校>

- ・中央付属
- ・明大明治
- ・法政大学中学校
- ・成蹊
- ・開智所沢（新校舎建築中のため説明会のみ）

※実際に見学はいけなかったのですが、娘の憧れの学校として恵泉がありました。緑のある素敵な図書館があり、服装も自由で、キリスト教。通える距離だったらきっと受験していたと思います。立教女学院は最初に娘と見学会に行った学校です。緑豊かなキャンパスと、歴史ある建物、素敵なチャペル、大好きな要素が満載で立地もよく、「ここ素敵！」と娘がまず気に入りました。

同じように、活気のある文化祭が楽しく、生徒さんも意外とお嬢様というよりも澁刺と元気な雙葉も娘のお気に入りでした。しかし高すぎる偏差値、満員電車に乗ることが必須の通学経路、志望校に入ることはもちろんありませんでしたが、今でも憧れるとても素敵な学校です。

晃華も生徒さんたちが元気で、探求学習に力を入れており、調布の緑豊かなゆったりと広いキャンパスが魅力でした。生徒さんも華やかな感じの子たちがいる一方、「私、鰻が大好きなので安くたくさん鰻が食べられるように、鰻の養殖を研究している大学を目指しています！陰キャが楽しく通える学校です！」（校内案内をして下さった高3生）と言う個性的な生徒さんもいて、娘もここなら楽しく通えるかもと、こちらも親子とも気に入った学校です。

光塩も伝統のある女子キリスト教の学校で、生物部があり、のんびりした娘が通うことを想像できる学校でした。面倒見も良いとのことでフンちゃん先生にお薦めしていただいた学校の一つです。最終的に、5年後期には全く適正校ではないもののチャレンジとして立教女学院を第一志望とすることとし、同じくらいの志望校として晃華、そして安全校として光塩の受験をなんとなく決めるような形となりました。結局受験することはなかったものの、成蹊も志望校になりました。ここは近さから合不合の会場として選択しただけだったのですが、その際に娘の心を驚掴みにし（理科室の生物の充実さが素晴らしい）、6年後期に急遽受験を考えるようになりました。出願準備までしていたものの結局受験することはありませんでした。

【4年生】

<Bクラススタート>

- 習い事の都合で、Bクラスに入れていただきました。習い事は週3バレエ、週1ピアノ、月に2回の理科実験教室にも通ってました。まずは予習スタイルに慣れるところからはじめました。これが中受無理かも…と不安になるくらい大変でした。計算シリーズの計算にまず時間がかかり（下手をすると1時間以上）、算数の予習も親が横について教えるものまったく水を吸わないスポンジのように、何一つ理解ができない、進まないの繰り返しで、親子喧嘩ばかりでした。（算数の予習は父担当）怒って教えても、結局は勉強時間をロスするだけで娘の予習が余計長引

くだけ、ということをやや理解した父親は、サングラスをかけた謎の「メントス君」というキャラクターを編み出し、メントス君が娘に算数を教えるというスタイルを確立していました。4年の後期になってくると、メントス君の教えがなくてもなんとか自分で類題例題まで進められるようになり、わからないところを父親がサポートするスタイルに落ち着き、メントス君は自然消滅しました。受験が終わった今、娘と冗談で懐かしく「メントス君、今どうしてるかな（笑）」と思い出す初期のころの笑い話です。理社については予習範囲の読み込みにとどまり、まとめてみようまでできないことも多かったです。

<個別>

- 夏までにはだいぶアントレスタイルに慣れてきたものの、夏期講習での算数の出来が壊滅的な悪さで、それまでは通えていれば大丈夫と悠長に構えていた私ですが、さすがに不安になり、担任のフンちゃん先生に相談したところ、これまでの単元の復習目的で個別をつけましょとなり、秋から算数の個別をお願いすることになりました。この個別は年内でいったん終了し、自走を目指すものでしたが、結局のところ個別をつけても算数が飛躍的に伸びることはなく、6年生3月まで算数の個別をなくすことはできませんでした。

<志望校>

- このころはぼんやりとアントレからも毎年多数の合格者を出す吉女目指してもいいかも～などと夢をみており（今ならアホか！と突っ込みを入れたい）、娘はまだまだ受験を自分事として捉えることができず、学校見学も出来ない中で勉強でしたのでモチベーションは相当低かったと思います。

【5年生】

<Aクラススタート>

- こちらもまったく実力相応ではなく、ただ単に習い事の都合上、Aクラスに在籍させていただいていました。それでも娘なりに算数に必死にくらいつき予習と復習をこなす毎日でした。ただ、このころ娘は通っていた小学校で担任の先生とのトラブルがあり、絶対に私立に行きたい、環境を変えたいと思う出来事があり、受験に対して自分事としてとらえるきっかけになったと思います。
- この頃もまだバレエを週3回、ピアノもコンクールに出るなどし、コンクール前は週2回以上のレッスンを受けていました。理科実験教室は楽しく通っていたものの場所が五反田と遠く、続けることがむずかしくなり辞めました。それでも楽しく魚の解剖などしていたので、受験理科に苦手意識を持つことなく取り組むためにやって良かったことの一つであったと思います。実験系や化学反応などはどうしても予シリやコアプラスの知識だけでは無味乾燥で子供にとってつまらないものになりがちです。地元近くに通りやすい実験教室があったらよかったのにな、と今も思っています。

<Bクラスへの移動>

- 10月にAクラス担任のタケノコ先生との面談で、国語をSクラスに案内されるものの、算数に苦戦しており、「国語がSでなければBクラスへの移動をおすすめするつもりでした」とお話いただきました。ここで、あと2回（年内）のまとめテストで算数を50点以上とれなかったらBクラスに移動する、という条件をいただきました。タケノコ先生のアドバイスは、「わからない算数の授業を受け続けて自信を無くしていくよりも、クラスをいったん下げて、〇をもらい、しっかり基礎を理解したほうが長い目で見たときに目標達成の近道になります。」とのことでした。

この話に私自身が想像以上のダメージを受け、面談で「お母さま、大丈夫ですか？何かご納得いただけませんか？」とタケノコ先生に聞かれたことが今でも強く印象に残っています。当時はなぜなのかわからなかったのですが、今思うと勉強の不条理のようなものを感じたのだと思います。ピアノやバレエなら出来なくてもコツコツ努力し時間をかけ取り組めばできるようになる、勉強も同じようにあれこれ工夫したらなんとかAクラスについていけるようになる信じ、頑張ってきたけれども結果が出ない…結果の出ない努力を続けることがしんどい、どのように娘を導いていいのかわからない、そんな思いだったように思います。この頃には、第一志望は立教女学院と漠然とですが思っていたので、Aクラスについていけないのであれば難しいという現実を受け入れることも厳しかったのだと思います（私が所有していた数年分の受験体験記には、Bクラスから立女に合格した方はいませんでした）。

しかし、タケノコ先生のアドバイスは的確でそして正確でした。この面談の後、家で話し合いの時間をじっくり持ちました。この時点で娘は習い事をバレエ週3回、ピアノも週1回続けており、このペースは減らしたくない、とのことだったのでその意見を尊重し、2回のまとめテストの結果を待たず、Bクラスに移動することを決めました。娘は泣いていましたが、Bクラスで自信を取り戻し、Aクラスでもやっていける実力を証明したらAクラスに戻らせてもらおう、と話し合い、クラスの移動をお伝えしました（とはいえ、結局6年最後までBクラスで頑張ることとなりました）。我が家にとってここが中学受験における大きなターニングポイントであったと思います。好きなバレエやピアノをあきらめない。受験と出来る限り両立する。そういった当初受験を始めた時の目標、目的を家族で再確認しました。また第一志望を変えることでもっと気楽に臨める無理のない中学受験にすることも可能であるということも娘に再三伝えましたが、しかし娘はかたくなに第一志望は立女！と譲りませんでしたので、私たちももうどんな結果であっても娘の希望を最優先とし、サポートするという覚悟を決めました。

【6年生】

<Bクラス／卒業まで在籍>

- ピアノは2月の発表会をもって一旦お休みとし、バレエは9月まで週2回、10月末まで週1回で続けました。10月末にはいよいよやらなければいけないことがこなせなくなり、話し合い、受験が終わるまで一旦お休みとすることにしました。

<個別の変更>

- アントレは算数の実力でクラスが決まります。算数はBクラス相応の娘でしたが、同時に得意の国語もBクラスになり、記述対策や選択記号対策などについて不安も残りました。そこで、思い切ってアントレの国語の授業を取るのをやめ、他塾の国語の個別を取ることにしました。あちこちで個別となると大変なので、いったんアントレでお願いしていた算数の個別も辞め、同じ他塾で国語と算数のフォローをお願いすることにしました。こちらの勝手な都合のお願いでしたが、担任のフンちゃん先生に相談すると快く「よいですよ。」とおっしゃっていただき、さらには「他塾でやってみてうまくいかない場合はいつでもまたご相談ください。」とまでおっしゃってくださいました。色々な状況に合わせ、臨機応変に対応してくださる懐の深さもアントレの魅力のひとつであると思います。

<6年夏期講習>

- 夏期講習最後のまとめテストの結果とともに、前年度の生徒さんたちのまとめテスト得点と実際の進学先を表にしたものをいただきました。娘の結果は第一志望である立女進学した方の点数よりも20点近く下で、やはりむずかしいチャレンジであることを再確認し、本人とも「はじめてのBクラスからの立女合格目指して伝説つくろうぜ！！」と秋からの勉強に向けて気合を入れました。

<引越／転校>

- 何と驚くことに、私達両親の無謀な「いけるっしょ！！」という勢いで、9月に引越、転校をしました。同じ西東京市内でしたし、アントレには歩いていける距離になり（それまではバス通塾）、ある意味通塾は楽にはなりましたが、娘には生活全般として大きな負担だったと思います。引越に伴う忙しさで全く娘の勉強のケアが出来ず一時がくんと全体の成績が落ちました。誰も我が家のようなアホなことをするご家庭があるとは思いませんが、受験期のお引越し、厳しいです（笑）無茶でした。そんな中でも持前のコツコツで少しずつBクラスでは順調に白板で○をもらえることが増え、週2回ある算数のクラスの1回目をAクラス、2回目をBクラスで受けることになりました。それに伴って理社も1回目はAクラス、2回目はBクラスとなりました。
- 変則的な授業の取り方をしていた娘なので、Bクラスに在籍しながら担任のフンちゃん先生の算数授業を受けることがない、という奇妙な状況が発生しました（1回目、2回目ともにプーさん先生の授業）。そのような状況でしたので、主にフンちゃん先生に面談をお願いしておりましたが、場合によっては算数の解き方や授業での様子、勉強の優先順位のつけ方などについてプーさん先生に面談をお願いしたり、タケノコ先生にお電話で質問させていただくこともありました。その場合も、どの先生も的確に娘の様子を把握してくださっており、本当に頼りにさせていただきました。

<9月からの入試演習クラス>

- 秋からの入試演習クラスは、フンちゃん先生から女子上位クラスでのスタートを打診され、喜び勇んで乗り込んだ娘ですが、まず名前が載りません（笑）補欠にすら名前が載らないことが続き、タケノコ先生に相談し、男女中堅上位クラスで上位にいられるのであれば十分に立女を目指すというお言葉に従い、10月以降、残りの演習クラスを男女中堅上位で受けることとしました。男女中堅上位クラスでは、大体安定して上位に名前が載り合格をいただける状況でした。

<四谷合不合>

- 6年の4月から12月まで全6回受けた娘の合不合ですが、結果は惨憺たるものでした。第一志望の立女の合格判定は良いときで35%、ほぼ大体25%、最後の12月6回に至っては過去最低の20%。4科合計偏差値45.5を叩き出し、途方にくれ、フンちゃん先生にすぐさま電話をかけました。出来なかった直しをしっかりとやるようアドバイスをもらい、復習後は気にするのをやめました。結果として見てみると合不合の結果（志望校合格判定）はあまり当てにならないなあという実感です（実際、保護者会でカッシーもそのようにおっしゃっていた記憶があります）。ですが、初めての中学受験で実際に目にする数字（偏差値、合格判定の%）には、不安を増幅する威力がありました。でも、大丈夫です。どうぞアントレの先生方のアドバイスを信じてください。そして不安があればすぐ先生方に相談すると良いと思います。

<過去問>

- これまで書いてきた通り、立女受験は娘にとって無謀ともいえるチャレンジでした。秋から取り組み始めた過去問ですが、全くと言っていいほど合格者最低点に届きません（当たり前か）。最初はマイナス50点。11月になってマイナス30点。12月前半でマイナス15点。このまま受験日を迎えることも覚悟しながら、ただただ娘は前向きで「前回よりもちょっと点数があがった！」「お母さん、私絶対立女合格するからね」と繰り返していました（スーパーポジティブでした）。結局一度も立女の過去問で合格者最低点を超えることなく1月の受験に突入しました。
- 秋からのフンちゃん先生のアドバイスに従い、同率第一志望の晃華学園の過去問もしっかりと取り組みました。そちらは11月には合格者最低点を安定して超えるようになりました。そんな中、私としては晃華以外の受験予定校の対策にも力を入れたいと思っていました。娘も気に入っていた成蹊や法政の過去問にも取り組もうと思っていたのですが、フンちゃん先生からは「あまり手を広げすぎないほうがよい」とのアドバイスをいただき、きっぱりと切り捨てました。また、この頃フンちゃん先生から算数の初見問題にも触れておいたほうがよい、とのアドバイスをいただき、「入試初見一問一答ノート」なるものを作成し、立女以外の受験予定の晃華、開智、法政、成蹊の過去問の中から娘の苦手な「速さ」「図形」「比」の問題を切りとり、問題を上に下部分に解答と解説をはりつけたノートを作成して毎日必ず1問（時にはそれ以上）を解くことをルーティンとしていました。立女と晃華以外の過去問にほとんど手をつけなかった（つける余裕がなかった）我が家にとって、受験可能性のある学校の問題にも触れられるため、これはやってよかったと思っています。
- その他にも立女の過去問で間違えたところをまとめたミスノートを作りましたが、結局こちらは他にも優先すること（理科社会の知識固め）があり、あまり解かずにお守りのように作っただけになりました。

<6年冬期講習>

- 1月は全然間に合っていない受験対策のため、2学期終了後は受験が終わるまで学校を完全に休むことにしました。
- 徐々に受験生の自覚も芽生え（我が家では、10月頃から、2月1日までの本命受験までの日めくりカレンダーを用意し、毎日めくらせていました。）、この頃には、朝に一日の計画を立て、優先順位をつけ、一日の終わりにできたところ、できなかったところ、明日やらなければいけないことを振り返る時間を必ず作っていました。これは2人で相談しながらやっていました。
- 算数の四まとを完全にすることを目指し、四まとのまとめテストのやり直しをし、各回80%の正答率をめざして、それ以下だったものは四まとに戻ってやり直す、を繰り返していました。
- また、母自作のハチマキを2本用意し、娘が自分で「立教女学院絶対合格！」「自分の全力をつくす！」と書いたものをその日の気分で頭に締めて気合を入れて勉強に臨んでいました（もちろん毎日ではなかったです。Zoom自習室の時間が始まると当然のようにはずしていました（笑）（母は何度か締めて出なよ〜と勧めていましたが）

- このころ、第3志望の成蹊の過去問に手を付けていないことを不安に思い、やったほうがいいのかでは、と言う母と、「私の第一志望は立女だから立女に合格できるように必要だと思える事以外に時間を使いたくない」と主張する娘とで何度か意見がぶつかりました。結局本人がタケノコ先生に相談したりする中で、受験する本人が悔いのないように残りの時間を使うのが一番だということになり、本人の優先順位にまかせることにしました。成蹊法政の過去問には結局一度も手を付けることはなかったです（後に触れる受験予定で、1日午後の晃華がとれていれば、2日は丸一日あくことになるので、そこで過去問対策をする予定でした）。

<まさかのインフルエンザ感染>

- 秋以降、感染対策には人一倍気を付けてきたつもりです。家族全員でインフルエンザの予防接種も受けていたのに、まさかの年末冬期講習中に罹患し、5日間講習を休むことになりました。勉強に対するモチベーションもあがり気合も入ってきたところだっただけに、この5日間のロスは本人以上に私のメンタルにダメージ大でした。もう最後の追い込みが間に合わないかもしれない…1月校の準備も何も出来ていない…ひどく落ち込む私を励ましてくださったのは、急速申し込んだ面談で、優しく諭すように励ましてくださったフンちゃん先生と、正月箱根駅伝での青学の逆転優勝でした。優勝インタビューでの原監督の言葉「年末多くの選手が体調を崩す中、3週間での追い上げが素晴らしかった。みんなの「絶対に優勝したい！」という強い思いが導いた結果だ」（母記憶による）を娘と2人で見ていました。最後の最後まであきらめない！その思いで、娘と2人で最後まで第一志望に向けて走りぬこうと励まし合いました。

<冬期講習後の理科個別>

- 理科の単元ごとのまとめテストで、物理単元が全くと言っていいほど取れていないことに12月に配られた結果プリントで気づき、顎が外れそうになりました。急速1月から3回分個別をつけていただけないか相談し、個別で集中的に苦手な単元をつぶしました。間に合ったかどうかはわかりませんが、できることはやった、と自信をつける意味でもやってよかったと思っています。我が家の無茶なお願いにも対応してくださり、アントレには本当に感謝しかありません。個別の大和田先生も、丁寧にわかりやすく教えてくださって、短い間ですが本当にありがとうございました。

<1月校受験について／開智所沢>

- 我が家は1月校は開智所沢だけを受験しました。他の1月校は受かってもし実際に通う可能性の低いこと、万一2月校が×だった場合に本当に行っても良いと思える学校だけ出願することになりました。
- 開智所沢は2024年に開校する新規校で倍率など読めないところもありましたが、探求学習や英語に力を入れているところに魅力を感じました。全部の回を受験しても受験料一律20000円、そして第1回と第2回を受験すると30点の加点も魅力に感じ、決めました。第1回(1/10)第2回(1/15)に出願しました。開智所沢は入試対策説明会を開いてくれて、その中で各教科どんな問題が出るのかを教えてくださいました。教えてくれたからと言ってできるわけでもないですが(笑)受験を検討する方は心の準備ができるので、聞いておくことをお勧めします(私は動画配信で確認しました)。
- 過去問対策は結局インフルエンザの後1年分だけやりました。その際、合格者最低点を20点ほど超えていたので少し安心し、臨むことができました。結果、無事に合格を頂きました。

<第一志望／立教女学院>

- フンちゃん先生には、残り20日間の過ごし方について、とにかく基礎固め、と言われていました。またインフルエンザで休んでいた冬期講習の白板のキャッチアップを優先とのアドバイスをいただき、必死で毎日動画を確認しながら算数と理社の休んだ分に追いつきました(国語については得意単元でしたので毎日の漢字出る順ルーティン以外は切り捨てました)。それ以降は3年分残っていた立女の過去問に取り組みました。ここで初めて合格者最低点を2点超えました。1/16、本番15日前のことです。その後は合格者最低点+8点、+2点となんとか超えることができました(とはいえ、今思っても全然安心できる点数ではないですね)。最終的に、立女の過去問は12年分を解きました。

【立女の事前面接について】

- 立女には保護者同伴の事前面接があります。合否には関係なく、キリスト教教育の理解の確認をするものです。コロナで3年間中止されていましたが2024年度から復活しました。学校側は保護者1人で大丈夫との案内でしたが、フンちゃん先生に相談すると、「第一志望であればご両親揃ってのほうがよいでしょう」とのことです。主人と娘、3人で臨みました。
- 来年度以降、立女を目指す方に少しでもお役に立てるか分かりませんが、私たちの面接について残しておきます。アントレでも面接対策をさせていただきます。家では「中学受験面接試問の要領（改訂第2版）/ 教栄出版」を購入し親子で練習しました。
- 当日の面接は、願書受付順でグループを分けるようでした。12時までには全グループ終了予定でしたが、早めを希望される場合は願書（提出書類）の郵送を早めにするとうまいと思います。
- 面接会場はいくつかに分かれ、スムーズに案内されました。コートや靴は部屋の外の荷物置き場に置き、ノックして入室します。面接官は2人で、向かい合って正面真ん中に子供、子供を挟む形で両親が着席しました。入室後、最初に受験番号と名前を聞かれます。
- 面接時間はおよそ12〜3分だったと思います。面接官の先生方は終始にこやかでとても優しく、最初は緊張していた娘も徐々にリラックスして答えられるようになりました。

<主人への質問> ※我が家は特に指定されない限りは主人が答えるというように決めていきました。

- ご家庭の教育方針として大事にしていること、これだけは譲れないといったことはなにか
- 娘にどのような女性になってほしいか

<娘への質問>

- 小学校生活で頑張ってきたこと、良い思い出、逆に小学校でのバッドな思い出は何か
- 両親についてそれぞれ紹介してください
- 将来の夢はなにか
- 得意な教科、苦手な教科について教えてください
- 最近の気になるニュースは何か、それについてどう思うか
- お父様の「このような女性になってほしい」という思いを聞いて自分についてどのように感じるか

<母親への質問>

- 娘の性格について
- 娘に期待すること、またその期待において今現在の娘に点数をつけると何点か

コロナ以降、面接をしない学校も増えたと思います。ある程度準備に時間もとられるでしょうし、正直無いほうが良かったなど当初は思っていました。しかし娘には、受験本番直前に校舎に足を運び、憧れの在校生の案内で、より一層「この学校へどうしても来たい！」というモチベーションに繋がったように思います。そういった意味で我が家は事前面接があつてよかったと思いました。（試験後の面接はまた違って体力的にも大変と思います…）

【受験前の健康管理について】

- インフルエンザ予防接種
- R-1、ヤクルト1000、マヌカハニーなど気分によってどれかを毎日摂取する。
- R-1を培養した自家製ヨーグルト（父親作成担当）を毎日食べる。

<インフルエンザ予防薬>

- インフルエンザは治療薬を自費で予防薬として購入することができます。我が家はリレンザの吸入薬（10日間分）を家族分購入し、2月3日までに使い切る予定で家族全員で使用しました。自費なので医療機関によって値段は違うようですが、我が家のかかりつけでは1人分¥5000ほどでした。最近では病院にいかななくてもオンライン診療で自宅まで郵送してくれるサービスもあります。

<トランポリン購入>

- 勉強の息抜きと運動不足対策に、室内用トランポリンを購入しました。娘はカラオケが好きだったので、アレクサで大音量で好きな音楽を1曲流し、歌いながら元気よく跳ぶことを朝勉強の前や勉強の合間にしていました。見ていて楽しそうだったので、私も、と思い跳んでみたら、ぎっくり腰になりました。大人のトランポリンは跳んではいけないと後で知りました。踏みしめるそうです。開智試験の際は、痛み止めを飲んで前かがみになって娘に介護されるように付き添いました。息抜きにトランポリンご使用を検討中の保護者の方、ご使用にあたってはどうぞどうぞお気

をつけください（多分子供は思い切り跳んで大丈夫です。本番前の骨折等には十分お気をつけください）。

<妹も小学校をお休み>

- 妹も感染症対策のため受験本番 1.5 週間前から学校を休みました。風邪の症状がでたらすぐに隔離できるよう想定し準備もしていました。

<女の子の生理について>

- 娘が体験記に書いても良いよ、と言ってくれたので記載します。娘は5年生から生理があり、6年生くらいからは安定した周期で生理が来ていました。そして丁度、本命受験日の2月1日に生理があたりそう、ということになりどうするか本人と相談し、婦人科で生理日をずらすため、ピルを処方してもらいました。本番約1週間前から飲み始めましたが、あまり体にあわず、朝吐き気がしたり、気持ち悪さが続いたのでやめようかとも思ったのですが（医師からは副作用がきついならあきらめなさいね、と言われていた）、本人がどうしても1日の生理だけは避けたいとのことで（通常の生理時は痛み止めを服用するほどの腹痛、また貧血症状が出ます）、前日まで頑張っただけで飲みました（ピルは服用中止後2-3日後に生理が来ます）。ピルを飲んでいても、絶対に来ないわけではありませぬので、生理対策として、急に来ても慌てないように、試験の日にはユニクロの生理用吸水ショーツを生理でなくても履くようにしました。生理用品を持たせ、貼るホッカイロや痛み止めなども持参していました。生理痛などは人それぞれだとは思いますが、ベストコンディションで本番当日を迎えるために我が家では頑張っただけでよかったと思っています。

【2月受験スケジュール】

2/1 <午前> 立教女学院 <午後> 晃華学園

2/2 立女×、晃華×なら

<午前> 光塩女学院 <午後> 大妻中野

※1月合格校の開智所沢への進学も視野に入れ、晃華が×でも娘の状態によってはどこも受験せず第3志望の成蹊対策に充てることも検討していました。

2/3 法政大学中学校

2/4 成蹊

2/5 法政大学中学校

【2/1 受験本番当日】

<立教女学院/午前>

- 朝5時に起きました。前日はピルを服用するのをやめていたため、朝の食欲もありしっかりとごはんを食べられました。乃依はパン派なので、パンとR-1ヨーグルトとフルーツ、温かいココアを飲みました（ラクダ先生お薦めのお鍋でなくてすみません）。立女は休憩のおやつは禁止なので（とはいえこっそりラムネなど必要であればトイレで食べられるように持参していました）、糖分補給のために温かいココアをお茶とは別の水筒で持たせました。朝はいつものルーティン（シリーズ計算、出る順漢字、入試一問一答ノート）をこなし出発しました。
- 7時半開門のところ、7時45分に受付前に到着し、応援 ZOOM に接続しました。フンちゃん先生とピーちゃん先生、モモタロー先生がいてそれぞれ声をかけてくださって元気が出たようです。
- 見送る前、娘には「自分にできることは全部やってきたよね。あとはそれを精一杯出すだけ。全力でいってきな！」（母記憶による）というような声かけをしました。父親とハグをして（なぜか私とはしなかった。なんでだろう）、振り返らず、受付に入っていました。
- 保護者控室としてホールが提供されていましたが、あのシン…と張りつめた空気に耐えられず、吉祥寺まで出てお茶をして待つことにしました。何度も何度も時計を確認し、体感11時くらいの際にまだ9時35分を指す時計を見た時の絶望感忘れません。ただただ祈り、待つことしかできない時間は本当に長く感じました。

<試験終了>

- 12時20分には試験が終了し、スムーズな誘導で試験番号順に出てきた娘と12時30分過ぎには合流出来ました。私から出来を問うことはしませんでした。浮かない顔で「算数難しかった。あんまりできなかったかも。理社も全部おわんなかった」とポツリ。「でも自分の出せる精一杯や

ったし、最後まであきらめなかったよ。だからもし合格じゃなくても後悔しない…けどやっぱりここに通いたいなあ」これが娘の試験後の感想でした。

- 私は午後の晃華受験に備え、気持ちしっかり切り替えていこうと声かけし、乃依の希望で近くのお蕎麦屋さんで昼食を済ませました。情けないことに午前中はただお茶を飲みながら待っていただけの私ですが、全然食欲がなく、頼んだおうどんを半分も食べることができませんでした。娘はしっかり天ぷらそばをもりもり食べて、午後に向けても疲れを見せていませんでした。
- お昼を待つ間、算国2科受験なので、漢字の確認をしようか、と出る順を取りだし、私が慣用句のクイズを出す、というのをやってみたのですが、まさかの全然答えられない娘にイライラし、「一緒にやるのはやめよう」と即座にやめました。

<晃華学園／午後>

- 移動もスムーズで受付時間までに余裕があり、乃依と一緒に気持ちのあがる音楽を聞きリラックスしました。受験期最後はよく Perfume のチョコレイトディスコを一緒に聞いていました（お願い、想いが届くといいな、対決の日が来た〜♪）。この時間いたリズムが刻まれたせいか、晃華試験中、試験問題のページをチョコレイトディスコっ！のリズムでめくってすごく調子よかった、と試験後に出てきました（笑）本人曰く、算国満点取れたんじゃない?! というくらい自信があったようです。

【結果発表】

- 夕方6時に帰宅し、1日留守番をしてくれた（途中父親が出入りしていましたが）、妹と一緒にスイッチでカラオケをしたり、漫画を読んだりリラックスする時間を持ちました。21時に立女、23時に晃華の合格発表の予定でした。私はなにもしていないのにフラフラで、主人に夕飯や子供の世話を任せ、発表まで横になることにしました。
- 娘には23時の晃華の合格発表は翌日の受験を考えると起きていられないので、立女が×だったらアントレに電話のあとすぐに寝るように指示していました。光塩の受験準備を済ませ、21時を待つよう伝えて私は気絶しました。
- 21時に合格発表の画面を開きました。確認ボタンは乃依が押しました。パッと画面に「合格」や「不合格」の文字が出ると思っていたのですが、合格者の番号だけ一覧に表示されるスタイルで、一瞬戸惑いましたが、上から順にスクロールしていくと乃依の受験番号を見つけました。親子で信じられず、「嘘じゃないよね??間違っていないよね??」と受験票の番号と画面を何度も何度も確認しました。試験後の娘の反応から合格するとは思っておらず、娘もそう思っていたようで抱き合っ泣きました。泣き止み、気持ちが落ち着くまで待つ本人からアントレにご報告の電話をしました。フンちゃんが出て、とても喜んでくれました。
- 第一志望に合格をいただいたので、23時の晃華の発表も自分で見たいとのことで、一緒に合格を確認し、これで乃依の中学受験が終了しました。
- 入金を済ませ、翌日12時まで合格書類を受け取りに家族全員で学校へ行きました。そこで合格証をいただき、改めて親子で喜びを噛みしめました。

【最後に】

- 私にとっては長い長い中学受験生活でした。終わってみると1日で受験を終了することができた孝行娘のように思います。ですが、本番当日を迎えるまで、本人はとにかく一生懸命にやっているものの、フンちゃんにも「乃依さんは、ほんとうにゆっくりでね、計算もなんでも時間がかかりますね!」と言わしめる娘、志だけは人一倍高い娘を安心して見守れる日はありませんでした。
- 私が娘をアントレに入れ、中学受験の道を踏み出した当初の妄想?では、6年後期ともなれば、基礎固めが終了し、苦手単元や理社の暗記単元の穴を少しずつ埋めていく時期であり、ゲームのRPGで言えば、4、5、6年前期までに立派な武具と装備を身につけ、丹念に磨いた刀を携え、第一志望の受験本番に出陣するものだと思っていました。しかし実際には、受験直前1月になっても身につけているものと言えば、ぼろぼろの布っ切れ、そして携えているのは木の棒。一体どんどころに向かうのか、娘の中学受験の帰結はどこなのか、、、不安しかありませんでした。ですが、1月から始まったZOOM自習室、娘は塾以外の時間は、ほぼ接続し、自分で決めた1日のやるべきことを黙々とこなしていました。画面に映るアントレ生に力をもらっていました。もしかしたら最後まで私の目にはボロキレに見えた防具や武器もこの頃に磨かれたのかもしれませんが。ぜひぜひ、今後もこのZOOM自習室、続けて頂けたらと思います。

- 私たち両親は、あくまで娘の第一志望を尊重し、それに向けて100%のサポートをするよう協力体制を整えていました。しかし実際のところ、受験予定の学校はどこも素敵で、親子ともに気に入っており、どこに進学しても良いと心から思っていました。どこに進学するかよりも、どのように娘が受験勉強に取り組んだのかのほうが今後、娘の人生において大事なことだと思っていました。全力を出す、タイムマシーンで過去に戻れたとしても後悔しない取り組みをする、よく娘に話していたことです。秋までのんびりマイペースな娘でしたが、最後は決めた目標に向かい必死で頑張る姿を見せてくれ、もうその時点で娘は立派に成長したのだ、と感じさせてくれました。
- 体の大きい割に甘えんぼうで、なかなか母子分離ができなかった娘。幼稚園でも毎朝、先生に引きはがされ、スイミングでは小学1年生になっても始まりのチャイムが鳴っても一人で降りていくことができず、コーチやお友達に助けてもらっていた、そんな娘が2月1日、後ろを振り返らずに試験会場に入っていった姿を見ることが出来ただけで感無量です。幼い娘は到底中学受験に向いていないと思ったことも何度もあります。でもやり切りました。立女の試験後、「ダメでも全力を出し切ったから後悔はない」と言ったあなたは恰好よかったです。目標に向かって、コツコツと歩む姿は（私は何度も何度も「そのペースだとあなたの第一志望には間に合わないんだよー！」と叫んでいましたが）、立派でした。そのコツコツを失わずに、知的好奇心の羽を大きく広げて、中学校での生活を思い切り楽しんでね。
- 習い事と中学受験との両立は想像以上に茨の道で、我が家ではアントレでなくてはかなわなかったと思います。今、受験を終えた娘は早速バレエのレッスンに戻り、笑顔で「めっちゃ体固くなってるー！筋肉痛〜すご！」と喜んでいます。娘の特性を理解し、認め、温かい励ましの言葉をかけ続けてくださったフンちゃん先生他、アントレの先生方、ここまで娘を導いてくださり本当にありがとうございました。今後、アントレの益々のご発展をお祈りしております。

市川乃依さんのお父様

● アントレの先生方へのお礼

小学校3年生の2月から3年間、娘の指導や親の面談に関わってくださったアントレの先生方に感謝いたします。中学受験をはじめから、決して楽な道のみではありませんでしたが、親子そろって、先生方に根気強く、柔軟に支えていただいたことに感謝です。

● はじめに

合格するための技術的なことは、プロである塾の先生方から聞いたほうが的確なアドバイスを得られるため、ここでは、我が家の経験を通して、私が自分なりに考えてきた、「子供や家庭の健全性を守りながら中学受験に取り組むポイント」として、「①中学受験のよいところ」と、「②中学受験で気をつけたほうがよいこと」の2点を、記載しようと思います。

中学受験に挑んだ結果、家族の絆が壊れてしまったり、子供が本来持っていた、生き生きとした興味関心・好奇心の芽が摘まれてしまったりすることは、大変悲しいことだと思っています。

私がここに記載する内容が、これを読まれた方にとって、上記のような悲しい状況に陥ることを避けることに少しでも役立つものであることを祈っています。

● ①中学受験のよいところ

中学受験では、「最終的にどの学校に合格できるか」も当然大事ですが、受験勉強の経験を通して、子供が身につけることができる「スキル」と「知識」に、より多くの価値があると感じます。「志望校に合格する」以外の部分にも価値を見出しておくことで、合否の結果に飲み込まれすぎず、子供が、あるいは家族として、中学受験から価値ある体験を得やすくなるのではないかと思います。

○ スキル：目標達成のサイクル（目標をたてる、計画を立てる、実行する、振り返る）を回す力

■ 書店のビジネス書コーナーに並ぶ本のタイトルにも「目標達成」という単語はよく見かけますが、目標に向かって正しく努力する方法は、一生使えるスキルとなります。中学受験では、「合格を目指す」「100点をとる」など、目標を立て、そのために何をすれば良いのかを考え、計画を立て、実行する、というサイクルを何度も繰り返します。10歳～12歳という年齢的にも、このサイクルを自力でまわせる子供は少ないと思いますので、親のサポートを必要としますが、親子で、目標達成するために必要な行動習慣を、繰り返し繰り返し経験していくことは、その子が今後、自分でやりたいことを見つけ、目標を立て（夢を持ち）、実現していくためのベーススキルの習得に繋がるものと感じました。

○ 知識：（小学生には過剰と思われるほど）膨大な量の知識ベースのインプット

■ インターネットやAIの進歩により、「知識そのもの（何かを知っていること）」の価値は、だんだんと低くなっていく傾向にあるようです。その代わりとして、自分の興味関心を掘り下げていく「探求学習」という言葉が注目されはじめています。しかし、さまざまな分野・領域に興味関心を持ち、深く探求していくためには、そもそもその分野・領域があることを「知識」として知っている必要があります。中学受験を通して触れる知識は、分量が多く、範囲も広いため、一見、10歳～12歳の子供には過剰と思えます。しかし、この「膨大な量・範囲の知識に触れる体験」は、（その知識を十分に消化でなかったとしても）、その子が、その後に興味関心を広げる土台となると感じました。

（*娘が中学受験を始めたころは、娘が十分に消化できるとは思えない量の知識の詰め込みは、むしろ勉強嫌いの原因になるのでは、、と否定的に思っていました。子供が生来持っている興味関心・知的好奇心・探求心をつぶしてしまわないように配慮することができれば、10歳～12歳の時期に、膨大な量の知識ベースに触れることは有益であると、考えを改めました。）

● ②中学受験で気をつけたほうがよいこと

○ 親・大人が子供を傷つけない

- 「子供の人生の主人公はその子自身であること」を忘れて、親・大人が、子供の人生の物語（ストーリー）を、無理やり捻じ曲げてしまうようなことは、最も避けるべきこととして自戒していました。親・大人は、まだ幼い小学生である子供に対して、非常に大きなパワーを持っていて、やろうと思えば、いとも簡単に子供の人生を捻じ曲げることができます。そして、たいていの小学生は、親から逃げることはできません。そのようなパワーバランスの中で、親・大人が「悪意の虐待」ではなく、むしろ子供のために「善意で行っていること」が、結果として、子供の人生を捻じ曲げうる危険性がある、という点は、自分や家族内の閉じた環境では気づきにくいので、注意が必要と思いました。
- 「子供が笑顔かどうか」・「親子で（あるいは夫婦で）オープンな会話ができているか」・「子供がやめようと思ったら、いつでも中学受験をやめられる選択肢があることを、子供に伝えていて、子供もそれを理解しているか」といったことを定期的に夫婦・親子間で確認できる環境作りが重要となります。
- 受験が終わった時に、試験の可否結果に関わらず、子供は、自分の自尊心を保つことができている。そして、自分の受験に関わった親・大人から、「自分は大切にされた（サポートしてもらえた）」と感じてもらう。これらを「その受験は成功だったと言えるかどうか」の基準とすることで、子供の人生を親・大人がスポイルしてしまうことがないように意識していました。（現実には、私自身も、受験の伴走者・支援者であることを逸脱し、娘を傷つけるような発言を何度もしてしまい、何度も反省しながら、3年間を過ごしました。これは大変難しいことです。。。）
- （本の紹介）「勇者たちの中学受験」（著者：おおた としまさ）という本には、事実に基づいた3人の中学受験生のエピソードが紹介されています。特に2人目のエピソードでは、親・大人が、子供の人生を、大人の都合で著しく破壊する様子が描かれています。興味がある人は、予防の意味でも、ぜひ読んでみてください。（私は何度読んでも、涙なしでは読めません。）

○ 「学ぶこと」の楽しさを損なわない

- 受験の体験を通して、子供が、「勉強＝つらくて我慢するもの」という考えを強く持ってしまう、受験が終わった時に、「もう勉強しなくて（学ばなくて）いいんだ！」と思ったとしたら、それはその子の将来にとって、あまり有益ではない体験を提供してしまったことを意味するようになります。
- そのような状況を生まないように、子供から、「知的探求の始まりにある驚異」（新しいことを知る・発見することのワクワク・ドキドキする心の躍動）を奪うことは、その子の将来にとって、大きな損失であり、「最も避けるべきこと」と考えることにしていました。
- 学ぶことの楽しさを伝えることは難しいですし、受験対策の視点では、効率的とはいえないので、優先順位が下がりがちではありますが、自分が伝えられる限りの「学ぶ楽しさ」を、子供に伝えるように意識していました。
- 学ぶ楽しさを伝える一番の方法は、親が楽しんで学んでいる様子を見せることだと思います。私は歴史が好きなので、自分が学んで楽しかった歴史のエピソードを子供に伝えることをしていました。例えば、吉田松陰が、幕末に来航した黒船に命がけて単身乗り込んだことや、取り調べの役人から聞かれた訳でもないのに、自分から幕府要人暗殺計画を企てていることを告白して処刑されるにいたったというような、破天荒なキャラクターやドラマは、予シリの教科書にも記載されておらず、入試問題に出ることはほぼありません。しかし、歴史を学ぶこととは「単語と年号を暗記するツマラナイもの」ではないことが、少しでも伝えられるよう、日々の会話で、自分が学んで楽しかったことを娘に伝えていました。

○ 偏差値や学歴を重視する価値観（社会通念）を押し付けない

- 偏差値の高い学校の生徒＝人間的に優れているわけでは全くない。また、幸福が確約されるわけでもない。

- 偏差値の低い学校の生徒＝人間的な価値が低いわけではない。また、不幸になるわけでもない。
- ときどき、自分よりも下位のクラスの子や、偏差値の低い学校を目指している子を見下すような態度・発言をする子がいると聞くこともあります。数字による優劣が明確になる中学受験を体験する以上、そのような価値観を子供が持つてしまうことは、なかなか予防しにくいことと思いますが、個人的には、偏差値という数字と、人間的な価値や人生の幸福度を「混ぜない」考え方を子供に伝えたいと思っていました。
- 自分にできることとして、日頃のコミュニケーションで、親である「自分が」、数字偏重の価値観をベースにした発言をしていないか、気をつけていました。

○ 「失敗体験」を作らない

- 子供が決めた第一志望の学校に合格できなかったときに、その体験が「残念」で「悲しい」・「悔しい」ものであったとしても、「失敗」ではないと捉えられると良いと思います。
- そのために、第一志望に向けて全力で取り組みつつも、「結果としてどの学校に行くことになっても成功」という考え方を、親子で共有しておくことが大切と感じます。
- 娘には、「中学受験に取り組む期間に、自分が得た知識や、目標に向かって努力した体験は、誰にも奪えない宝物である。だから、あなたが、どの学校に行くことになっても、（さらにいうと、受験前日に、受験をやめるという決断をしたとしても、）何の問題もないよ」と、何度も伝えるようにしていました。

アントレの先生方のご支援のおかげで、娘は、学ぶ楽しさを維持しながら、中学受験の3年間を過ごすことができたように思います。娘にとって、一番苦手で、苦戦していた教科が「算数」でしたが、そんな娘が「算数は一番苦手だけど、一番楽しい」と話してくれたことは、とても嬉しい瞬間でした。先生方、本当にありがとうございました。

今井心春さんのお母様

アントレの先輩たちが残してくれた受験体験記には、大変お世話になりました。恩返しの気持ちで、我が家の3年間を綴らせていただきます。

◆ 入塾の経緯

親族に誰一人中受経験者がいない中、巷に渦巻くネガティブな情報、中受懐疑派の夫、受験を始めるまでとにかく悩みました。現在通っている学校の中等部へ進む、近所の公立、中学受験、この三択があることを本人に説明すると「他の学校を見たことないしよくわからないけど、自分がどれ位頑張れるのか挑戦してみたい」の一言。この頃、青い鳥文庫の『KZ 事件シリーズ』にはまっており（塾に通う中学生が事件を解決するストーリー）塾への憧れがあったのかもしれませんが。

寝るのが大好きな娘なので、睡眠時間確保のためなるべく家近。帰宅してから遅い夕食を取る必要がなく、生活リズムをできる限り大切にできる塾を探しました。アントレには知人のお子さんが数名通っていることがわかり、また説明会でフンちゃんの漫談の面白さに母はハートを掴まれ、ここなら楽しい受験ができるかも！とお世話になることを決めました。

◆ 娘の性格

気が強く、競争好きで負けず嫌い。

小学校ではクラスで一番うるさい女子と言われるほど、大変活発なポジティブモンスター。

しかし対人関係の構築には時間がかかるタイプで、塾では超控えめ。

鋼のメンタルで、ピアノの発表会でも緊張や失敗ナシ！

おっちょこちょいで大切なものをよく無くす。

◆ 習い事や検定

5才から珠算を始め、1級を取得して辞めました。数字や計算に苦手意識を持たずに済みましたが、暗算力をもう少し鍛えておけば良かったです。

家庭学習の一環で算数検定に取り組み、3年までに6級を取得しました。

ピアノとバレエは良いリフレッシュと運動になり、模試の日や講習中はお休みを挟みながら細々と続け、ピアノは6年夏で休会、バレエは直前期1ヶ月のみお休みしました。

◆ 志望校の選定

本人の希望は ①できれば共学 ②イエーイッという雰囲気のある学校 ③なるべく近く でした。

地方出身の私には何の知識もなく、アントレ卒業生の進学先を参考に4年時から20校近く訪問しました。予約も訪問も中々大変でしたが、娘は学校と生徒さんの雰囲気を重視していたようで、色々な学校を見ていく過程で志望校も自ずと決まっていきました。

渋谷教育学園渋谷は文化祭に訪れた際、学校全体の熱気とフレンドリーに話しかけてくれる生徒さん達のエネルギーに「超楽しい！校庭とか無くても全然良い！」と一瞬で心を奪われた様でした。

吉祥女子と富士見も文化祭に訪れ、明るい雰囲気を気に入ったようです。

志望校になる可能性を感じた学校へは、休校日に早起きし実際の通学時間にも訪れました。ワイワイと楽しそうだったり、颯爽と歩いたり、登校風景を眺めるだけでも生徒さんの様子を感じられますし、電車や乗り換えの混雑具合を確認する意味でも行って良かったです。帰りにカフェでお茶したり、映画を観たり、良い気分転換にもなりました。

共学を志望していた為、都立も視野に入れていました。しかし娘が作文に難色を示したこと、また筑附の運動会を訪れた際「楽しそ〜！」と好感触だったことから、2/3は都立では無く筑附に決めました。

5年の秋にはそれぞれの偏差値帯にお気に入りの学校が見つかり、最後まで志望校は変わらず下記の受験計画としました。

2/1：渋渋 2/2(AM)：吉祥女子 (PM)：富士見 算数1科 2/3：筑附 2/5：渋渋

過去問の点数が伸び悩んでいた頃「2/1は吉女にして、合格を手にしてから渋渋へ挑戦もアリだよ」と提案しましたが「絶対嫌だ、1日は渋渋を受ける」と拒否されました。

◆ 学習について

入塾は新4年スタートと同時に、Bクラスからスタート（5月頃Aに移り、5・6年はS）

とにかく言われたことをやる！というアントレー神教スタイルです。

伴走を始めて思ったことは、勉強を教えるのは無理！勉強を習慣化するお手伝いが私の役割！ということ
で、以下のことを試みました。

① スケジュール管理

勉強のリズムを掴むまでが大変でした。保護者会の資料を参考に、エクセルで1週間のスケジュールを組み立て、1週やってみて微調整。まとめテスト前前週からは、4回分の白板や理社の復習を組み込んだ別のスケジュールを。季節講習前や学年が上がると新たなスケジュールを立てました。ザッと考えたら「こんな感じでどう？」と本人に投げて決定させ、自分で立てた計画だと思わせるようにしていました。

② 白板復習

保護者会や体験記を通じ、受験で大切なのはとにかく算数、そして白板だと知りました。タケノコ推奨の2連勝ルール実行のため作成したのが「やっつけカード」です。(コレクト情報カード No. C-602B 使用) 白板・まとめテストで間違えた問題を1問ずつカードの表に、裏に解説を書きリングで閉じます。○なら赤、✕なら青で上部に日付を記入、2連勝できるまで繰り返し解き、1日5枚を朝の勉強に組み込みました。やっつけたカードは単元毎にインデックスを付けて箱に立て、季節講習前や苦手単元を見直したい時にも解いていました。

夏期講習中は大量のカードを書かなければならず、娘が勉強している横で夫とヒーヒー言いながら、時には「うわ！むず！こんな解いてるの？すご！」と娘口調で称えたりしながら3年間続けました。

大変でしたが、家族で一緒に頑張れることがあるというのはとても嬉しいことでした。

受験後に数えたら1400枚もあってビックリです。

③ 語彙力アップ

『漢字とことば』の「覚えておきたい〇〇」の部分をコピーし、単語帳を作成。1冊めくってから寝ることを習慣化しました。テスト前には4冊分を見直し、5年後期頃からはこれまで作った単語帳をランダムに見返し、覚えたものはちぎって捨てていました。

④ 社会への関心を

テレビを見る習慣が無かったので、夕飯時にNHKのnews7を見てわからない言葉を毎日一つ調べる、ということを始めました。そのお陰か公民や時事問題は得意だったようです。

大河ドラマやプラタモリ、100カメ等も楽しんで見ていました。

◆ リフレッシュ法

一番苦しかったのは、5年の頃だった様に思います。算数の予習や最難関問題集に時間がかかり、就寝時間が11時を回ることもよくありました。早く寝かさなければと焦り、家庭内はピリピリした空気に。自分の部屋で勉強したが、まとめテストの成績は下がり気味。タイマーを導入して勉強を区切ってみたり、リビング学習に戻したり、試行錯誤の日々。夏から秋にかけては毎週末の説明会や文化祭で、楽しくはあるもののクタクタでした。

彼女にとってのリフレッシュ法のひとつがお風呂で、毎晩熱唱しつつの長風呂で心身をリセットしていた様です。大事なメリハリだね！と勉強の合間にカードゲームや卓球をしたり、観劇やカラオケに行ったりもしました。

6年の夏は毎年恒例のひいおばあちゃん家へ帰省、年末の紅白は最初から最後まで見て初詣へ。受験本番の10日前から学校はお休みしましたが、気分転換にバドミントンをしたり、パン屋へ昼食を買いに行ったり、受験生なのにこんなんで大丈夫？と度々考えましたが、楽しいことがあるとやる気倍増タイプの彼女には、これで良かったのだと思います。

〇〇特訓などの無いアントレのカリキュラムは、我が家に合っていました。

◆ 6年前期

渋渋を目指すなら算数を磨く必要がある、難問を解く力をどこまで伸ばせるかが鍵、とのことで武蔵算数を受講。

元々算数が得意なタイプではなく、ついていくのは大変だったと思います。たまに花マルをもらおうと嬉しそうでした。練馬からの帰り道、お友達と一緒にの電車も楽しかったようです。

◆ 6年後期

土曜入試演習クラス：女子上位（算数のみ男子上位へ出稽古）

カッシーから「算数は男子上位の方が難易度が高いので、できればそちらを受けた方が良いのですが…」とのお話。娘には「カッシーが算数は男子上位へ行けてさ」と脚色して伝え「えー、やだー…」とぼやきながらのスタート。

実名が載る順位表に燃え、算数での男子との戦いもいつの間にか楽しんでいるようでした。国語には安定感があることを知り、理社も徐々に力がついていったようです。

過去問スタート：解いた回数は下記の通り、カッコ内は2回目です。

渋渋 18回(+7回)・吉祥女子7回(+2回)・富士見2回・筑附4回(+1回)・栄東2回
渋幕2回+算理のみ4回

休日に渋渋、火・木曜に他校を2科目ずつ、予想を上回るペースで進みました。

理由は、渋渋志望だと学校別模試が少なく土日が潰れることが少ない・志望校が確定していた為、説明会などに時間を取られず済んだ・第2志望の吉祥女子は最初から合格最低点プラス30点程取れていた為、直しにさほど時間がかからなかった、等が考えられます。

渋渋との問題の相性はあまりよくないと言われており覚悟はしていましたが、合格最低点マイナス20点から上がらない日々が続き、面談へ。10月中旬、過去問から一旦離れレベルアップを目指すことにしました。新たに取り組んだものは、算数と理科の予習シリーズ『難関校対策テキスト』・『中学への算数〜必ず解きたい算数の100題〜』・渋幕過去問です。

渋幕は渋渋より解きにくさを感じるようで「嫌い！もうやりたくない！」と嫌がりましたが「カッシーがやれてさ」と先生への絶大な信頼を利用して続けさせました。

再度過去問に戻った頃「なんか算数が1段上がった気がする！」と言ったのを覚えています。

12月中旬、取っておいた2023年1回目の渋渋過去問に取り組むと、合格最低点を超えている…！届くかもしれない、と思えた瞬間でした。

受けた模試：<6年前期>四谷合判2回、サピオープン1回

<後期>サピオープン4回、サピ渋渋オープン1回、ジーニアス吉祥オープン1回

サピオープンでの渋渋合格可能性は20~60%。渋渋オープンで出た80%をお守りに突き進みました。

受験本番を落ち着いて迎えるためのキーワードは「いつも通り」だと思っていました。

鋼メンタルの彼女に必要だったかはわかりませんが、秋からの模試には本番の服を着用、食べなれた蒟蒻ゼリー&お菓子、冷たい麦茶、50度のはちみつミルクティー。

送り出す言葉は「よっしゃ、こはちゃん！いつも通りブチかましておいで！」に決め、受験終了まで同じことを繰り返しました。

◆ 受験本番と結果

1/11 栄東

栄東のA日程は二日間あります。初日か二日目どちらにしようか迷っていたところ「すいてる方がいい」とのことで二日目に。本番の練習になればと受験したのですが、全く緊張することなく、模試みたいだった〜と出てきました。結果は東大クラス1年特待の合格。過去問では届いていなかった好結果に驚きましたが、ここまで積み上げてきたものが確かに身につけている実感を得られました。

2/1 渋渋

私は緊張であり眠れなかったのですが、本人は前日9時半にはスヤスヤ寝ていました。

zoom応援でカッシーとダンディーに勇気をもらい、一度も振り返ることなく校舎へ消えて行きました。

試験後の第一声は「過去問より算数と社会が簡単だった気がする！」手応えに少しホッとしつつ、何度か行った俺流ラーメンで温まり、帰宅。

2/2 吉祥女子 → 富士見算数1科

この日の14時が前日受けた渋渋の発表で、もし受かっていれば富士見は受けずとも受験終了です。

いつ発表を見るか事前に相談した際「もし落ちていたら富士見の試験に悪影響が出るかもしれないから、富士見を受けた後で結果を見る」と自分で決めました。

午前の吉祥女子の手応えは今ひとつだったようで、結構難しかった〜と出てきました。馴染みの吉野家で牛丼を食べ阿佐ヶ谷へ。時間調整のため喫茶店でプリンを食べてから、バスで富士見へ向かいました。

富士見の受験を終え、中村橋の駅のすみっこで渋渋の発表を確認。

私が出願に気合いを入れ過ぎたのか？受験番号はまさかの1番。羅列された中から受験番号を探す様式でしたが、ページを開いた瞬間に自分の番号を見つけ「よかった〜」と涙が溢れました。いつも強気な娘の涙にもらい泣き。よかったね〜と背中をさすりました。

夜になり、吉祥女子と富士見の合格を確認。本人熱望の渋渋に合格をいただけた為、出願済みの筑附には挑戦することなく、受験終了としました。

◆ 最後に

「アントレで良かった。楽しかったし、算数を鍛えてもらえた！」娘の感想です。

いつも淡々として見えて、頑張っているんだろうけれど本気が見えにくい。

「あの子の目の色が変わる日は来るんでしょうか」とカッシーに相談した時

「どうでしょうね〜彼女は今のままいきそうですね」その通りでした。最後まで明るく前向きで、直前になっても「あと10日で終わるぞ、ヤッホー！」と浮かれる姿に少タイラっとしつつも、彼女の底知れぬ強さを感じました。恐る恐る足を踏み入れた中学受験は、これまで知らなかった娘の姿を沢山見せてくれる、面白いものでした。

楽しく導いてくださった先生方、応援に来てくださる先輩たち、一緒に戦ってくれた愉快的な仲間の皆さん、本当にありがとうございました。

浦辻文弥くんのお母様

【はじめに】

「普通って何?」「みんなやってる、みんな言ってるって言うけど、みんなって誰のこと?」「どうしてみんなと同じことをやらなきゃいけないの?」といった疑問や様々な生きづらさを抱えるお子さんとそれを支えるご家族にとって、何か少しでもお役に立てる文章になればという気持ちで書きます。そのためアントレに通塾するまでの描写が長くなりますが、息子の受験を語る上で必要であると判断したことをご理解の上でお読み頂けたら幸いです。なおこちらの記載内容につきましては本人も確認の上、了承済みです。

【息子について】

息子は生活全般を雑にこなすわりに、変なところにこだわる神経質な部分もあるという厄介な性格です。勉強面では、長すぎる息抜きの合間に短すぎる集中(勉強)があり、集中しているときは一気に仕上げる勢いはあるけれど、雑なミスも目立ちます。

そんな息子の幼少期についてですが、3歳頃に宇宙人が出てくるテレビ番組をきっかけに「宇宙人って誰?宇宙ってどんなところ?」と宇宙に対して強い興味を持つようになり、NHKのコズミックフロントという番組を録画して毎週欠かさず見ていました。宇宙の他にも科学や恐竜なども好きで、本人が興味を示した絵本や図鑑は基本的に全て買い与えていました。科学館や博物館といった場所も好きで、一日中いても飽きないと言っていました。

幼稚園から小学校入学頃までは宇宙飛行士になることが夢と一緒に宇宙に行ってくれる仲間をずっと探していましたが、小学校入学後は同年代の子と興味の対象がやや異なったようで、宇宙の話などを出来る相手がいないとぼやいていました。

協調性に乏しく集団行動に意味を見いだせない性分の息子は、気の合うお友達もなかなか出来ず、担任の先生に注意を受けることが多かったです。そのため自己肯定感が非常に低く「どうせ自分なんてダメなんだ。」といつも自己卑下、そして学校も嫌いでした。

そんな息子を見ながら親として何が出来るだろうかと思い悩んでいたところ、「学校に宇宙クラブ(天文部)があれば良いのに。」と言い出したので、自宅から近く天文部がある中学校を私が調べたところ太陽観測部のある(私立)武蔵中学が検索にひっかかり、名前は聞いたことがあるけれどどんな学校なんだろうと興味をひかれました。

詳細は割愛しますが、学校生活は息子にとって苦労の連続でした。しかし息子の話に耳を傾け様子をよく観察し、関係各所とのやり取りや担任の先生方との情報共有を通じて、息子を取り巻く状況は少しずつ改善していきました。そして息子は自分自身への理解を深め、肯定することが出来るようになっていきました。

このときに、息子は周囲の環境変化に弱く適応するまでに時間がかかる一方で、いったん信頼関係が構築されると自分の長所を発揮できるタイプだと分かりました。このことは、後に志望校や塾を考えるときの一つの観点になったように思います。

【通塾の開始】

息子に武蔵中学の話をしたところ、そんな学校があるの?と喜び、興味を持つようになりました。ちなみに両親ともに中学受験の経験はなく、私立中学への進学については本人の希望があればサポートするというスタンスですが、小学校2年生になる直前に近所に大手中学受験塾が新規開校したので見学に行ったところ、息子がここで勉強してみたいと言ったため、情報収集を兼ねて入塾してみました。

【大手塾での日々】

大手塾での授業自体は低学年はクイズ的な問題も多く息子本人は楽しんでいましたが、低学年でも月に一回程度は休日テスト受験があるため、好きなことに費やす時間が取られる点には不満に思うようになりました。他にもテストの点数のみでクラスが決まるため、雑なミスを連発して点数の芳しくない息子のクラスは当然上がりませんでした。テストの成績がふるわない生徒への対応が冷たく感じられることも多く、段々と親子ともにモチベーションの低下を感じるようになりました。

3年生直前の新年度説明会で、理社を早めに始めたほうが有利になるとのことで通塾日数が増えると説明があり、4年生になるまでは算国をしっかりと固めることに重きを置きたいという我が家の方針と合わず、様々な疑問も積み重なり転塾を検討し始めました。

【アントレへの転塾】

2年生のGWに思い立ってふらっと遊びに行った武蔵中の記念祭(当時は予約も必要なかった)で、多種多彩な部活動の展示や説明する生徒さん達の楽しそうな様子を見た息子は、「ここなら自分の居場所があるん

じゃないかと思う。」と言いました。この日のことを振り返ったときに「何か直感のようなものが働いた。」と語った息子は、この日以降は「志望校は武蔵中！」と言うようになりました。

こうして武蔵中の受験を考えるようになり「武蔵中 受験 塾」といった検索で知ったアントレが、もしや我が家の求める塾なのでは？と感じたため、転塾先候補としてアントレの新3年生入塾説明会に参加を申し込みました。そしてタケノコ先生の活気ある授業にすっかり魅了され、ここに自分の居場所があると息子は感じたそうです。

体験授業の様子は夫婦で見学し、息子の明るい表情を見てその日のうちに入塾を申し込みました。自分の居場所をずっと求めていた息子にとって、武蔵中とアントレとの出会いはとても幸運なものでした。

【アントレに感じた魅力】

算数はテストの点数だけでクラスを決めることはなく授業中の様子などを鑑みて総合的に判断する方針とのことですが、これは指導する先生が生徒の様子をよく見ていないと成立しないと思いますので、そこが良いと感じました。クラス担任の先生、周囲のお友達と打ち解けるまでに時間のかかる息子にとって、クラス昇降をあまり気にせずマイペースに勉強出来る環境は合っているとの判断です。何より息子の志望する武蔵中への進学実績が堅調であることも、転塾を決意した大きな理由です。

大手塾には大手塾ならではの情報も多く、親身になって下さる先生も勿論いらっしゃいました。ただ我が家の方針とは異なる部分が多かっただけで、大手塾である安心感やノウハウに魅力を感じる場合もあるかと思えます。それぞれの家庭の方針に合う塾を選ぶことが大事であると実感することばかりでしたので、あえて比較した形での表記とさせて頂きました。

【転塾後】

・3年生

体験授業で案内のあったAクラスでのスタート。3年生になる直前にコロナ禍となり小学校は休校、アントレの授業も同時期はオンラインになりました。休校中でもアントレの授業があったので親子ともに学習面の不安を感じることはなく、様々な制約がある中でも授業形態のアンケートなどで丁寧な意向調査をして授業を続けて下さったことは忘れられませんし、感謝の念しかありません。塾への信頼感が確固たるものとなり、以降の通塾においてアントレを信頼してついでいこうと感じた大事な最初の1年でした。

コロナ禍では学校説明会などに参加することも出来なかったため、学べる場所と志望校があったことが勉強のモチベーションとなり救われました。対面授業に戻った後も、先生方の工夫が随所に散りばめられたアントレの授業のおかげで、息子は入試までずっと通塾を何より楽しみにしていました。

中学受験は算数が大事とカッシー先生のブログで言及があったので、入塾当初から算数最優先で取り組み入試直前まで基本的にこの方針でした。

我が家は夫が算数担当で、私が暗記項目や漢字などの採点・プリント整理・進捗状況のチェック・日常生活全般の見守り担当といった適材適所の分担制でした。

・4年生

Aクラスでのスタート。理社の学習とまとめテストが始まり、予習のサイクルがある程度軌道に乗るまで少し苦労しました。

前期はそこそこ順調にこなしていましたが、後期からテストの点数(特に算数)そのものはふるわない状況が続きました。しかし算数担当の夫は点数や成績について何か言うことはなく、答案の中身や計算の工夫などについてのみ指摘していました。息子は上手くいかないもどかしさはあったようですが弱音を吐くこともなく元気に通塾していたので、私も極力何も言わず見守りました。

4年生の前期に、担任のカッシー先生とのアントレ入塾後初の面談をお願いしましたが、そのときに息子のちょっとしたこだわりが気が付いた上で「いいんじゃないですか。武蔵は向いていると思いますよ。」とお声がけ頂きました。このまま武蔵中を目指していてもいいのかよく分からなかったため、何だか背中を押して頂けたようで嬉しかったことを覚えています。このときの言葉があったからこそ、焦らずにいられたと思います。

・5年生

全教科Sクラスでのスタート。前期に国語は一度Aクラスへ。このときに息子なりに危機感を覚えたようで、次のクラス昇降のタイミングで再びSクラスとなり、以降は入試まで全教科Sクラス所属でした。

4～6月にかけて、息子の条件(男子校、付属校でない、なるべく自由な校風)を考慮しつつ、親が通学圏だと判断した学校や面談時に名前が挙がった学校の説明会に、全て息子本人と共に行きました。武蔵中・本郷中・城北中・巣鴨中・学習院中・成城中です。

このときに息子は「どの学校にもそれぞれに良さがあるけれど、やはり武蔵中が一番好きだ。」とのこと

で、入試まで不動の第一志望校となりました。

この学校説明会のときに武蔵中の在校生に質問できる機会があり、息子は「どのくらい自由であるか、同調圧力はあるか。」という質問をしたのですが、「本当に自由でこれをしてはいけないということがない、同調圧力もない。でも自由を得るために不自由(中学受験の勉強)な思いをするのはちょっと矛盾しているかもね。」と笑って答えてくれました。

この「自由のための不自由がある」という言葉は、その後も勉強で大変なときに親子で思い出して励まされる言葉となりました。

相変わらず算数に取り組み続けていた息子でしたが、低迷していた成績は夏期講習前のやり込みがようやく結果に現れ、これ以降は浮き沈みは依然あるものの、底は打ったような手応えがありました。

この経験は息子の大きな自信となったようで、この頃から合格発表の瞬間まで「俺は絶対に武蔵に受かる。」と常に言い続け、自ら設定した目標を有言実行で次々とクリアしていきました。あれほど自己肯定感が低かった息子は、アントレの素晴らしい先生方や優秀で個性的なお友達との切磋琢磨の日々で、いつの間にか大きく成長していました。

・6年生

毎日の学習に加えて前期は外部模試や武蔵算数クラス、そして後期は学校別模試や過去問や土曜の入試演習クラスと忙しさが加速していきましたが、集中力にはやはりムラがあり、すきま時間の有効活用は相変わらず出来ていませんでした。十分な睡眠時間と食事で気力体力を充実させつつ、息子はいつもテンション高くアントレに向かっていました。

休日に夫と息子が受験予定校の過去問の直しを和気あいあいとやっている姿が、記憶に残っています。

外部模試の成績は気にせず(でも直しは欠かさず)過ごしつつ、普段の授業のさらに一段上の気力を土曜の入試演習に投入、気が付くと冬期講習も終わり、強気な姿勢そのまま栄東中に入試に突入しました。

そこから2月1日までの短い間でしたが、スイッチが入るとはこのことだったのかと見ていて実感するほど、一気にギアを上げてかつてないほど集中モードの日が増えました(毎日ではありませんでしたが)。

出来ることはやりきった、と言って武蔵中を始めとする2月校の受験に向かった息子は、本人が実現すると信じて疑わなかった2月3日を迎えて受験を終えました。

【最後に】

これから先の人生を生きていく上で大きな糧となる学ぶための姿勢を、親子ともにアントレで教えて頂きました。息子と関わって下さった先生方、お友達、ありがとうございました。

浦辻文弥くんのお父様

小3からの4年間お世話になりました。信頼できる指導員の方々、切磋琢磨できるクラスメートとの日々は息子にとっての財産です。ありがとうございました。

受験体験記は度々読みました。まず1周目では、志望校やクラスが同じような方のページに高速で付箋を貼っていきます(下の子の志望校にも色を変えて貼ります)。2周目で付箋の有無にかかわらずゆっくり読んで、必要に応じて付箋を追加します。後々読み返すときに付箋が役立ちます。

中学受験に対しての考え方は十人十色で、家庭によって適したやり方も異なります。基本的には保護者会の拡大解釈ですが、万人に当てはまりそうなこととそうでないことが混在した乱文であること、浅学浅慮かつ極端な人間の意見ということを踏まえつつご笑覧ください。

以下が我が家の属性のまとめです。

クラス：3A→4A→5S→6S+前期武蔵算数+後期土曜演習(武蔵)。個別指導なし

志望校決定：小2時に学校祭を訪れた息子が自分で決めた(こちらとしては公立含め行きたいところでよい)

アントレ入塾理由：カッシー先生のブログを読んで方針に納得。小2で通った某塾から迷いなく転入

併願校：本郷、城北、巣鴨(受験したのは算数選抜)、成城(学習院も説明会に行った。見学は全て5年時)

普段の勉強：当初はマグネットボードで課題管理も、徐々に勝手にやるように

娯楽：ゲームやYouTube等の流行には特に乗らず(≠勉強時間が長い)。来たる日のためにプラモを積む日々

塾指定以外のテキスト：5年途中までマスター1000(計算)。「合格する〇〇の授業」シリーズを4-5年あたりに数冊。朝日小学生新聞の購読あり。中学への算数は未履修

習い事：低学年で水泳、ピアノは6年の12月まで継続(毎年の発表会は出る)、さすがに1月は中断

親の中学受験歴：なし

【方針と普段の勉強】

私は経済力と狂気担当でした(読んでいただければ分かります)。塾の迎えと学校見学・模試・入試引率もやりましたが、普段のいろいろと大変なことは妻に任せっきりで、妻には感謝しかありません。

勉強は遊びの土台で、多様に、そして深く遊ぶには知識が必要と思っています。どんな道を選んでも、一生勉強は続くことになるのですから、はじめに学び方を教わるのは効率がよいと思うのです。アントレでは「勉強のやり方」を教えてくれています。テストの点の取り方に終始するような塾ではないです(もちろん、特に受験期にはそちらもちゃんと指導してくれます)。遊ぶように学ぶこと、学びの通過点はあるてもゴールはないことを伝え、かつ親も学が姿勢を見せておく。自学は自転車の漕ぎ始めのようなもので、乗れるまでは手を添えれば後は勝手に走れて(適宜ディレクションは必要)、アントレ卒業後も役に立ちます。

国・理・社は課題をやった後はアントレ任せです。6年前期までの知識系は、「まわりに置いていかれない」レベルでよいと思っていました。忘れませんが、覚えないと忘れることもできないので、ゼロはなしです。

算数の白板問題は4年~6年夏季講習まで全部Excelに入れていましたが、子供のためではなく単なる自分の趣味です。読める字であれば、そんなことをしなくてもコピーすれば復習できます。しかし彼の文字はちっとも読めないで、結果的には復習に役立ちました。図形はPowerPointで作っていましたが、図が複雑化してきたのでiPadでGoodnotesというアプリを買ってやるようになりました(保護者会動画を見ながら資料にメモ、過去問の採点や管理あるいは問題の整形・復元など、非常に便利です。iPadを持っている方はお勧めです)。6年後期の白板は普通に難しい+プリントもあったので、間違えた問題だけ直接Wordに打ち込む/Goodnotesでスキャンしてやり直しました。ちなみに、なんでもかんでもExcelというわけではなく、子供の成績推移は積極的には管理していません(まとめテスト分は毎回アントレからもらえます)。

親がある程度算数できるとお得なことが多いと思います(当然、中学以降の方法は使わず、本人が習うやり方で)。私は、問題や答案を通して子供の成長を実感できました。もちろん、勉強の他にもそれを感じる機会はいくつもありますから、必須ではないです。偏差値が伸びるとか点数がよくなるとかの些末なことではなく、「以前は解けなかったけどようやく身につけたな」とか、「昔からこの系統はできない、まだ理解できる段階にはないのだな」とか、答案をみれば分かります。また、下にも受験予定のお子さんがいるなら、重要単元や繰り返し要素がある程度分かるので精神的に楽になります。5年のカリキュラムは大変ですので。ただし、「何でこんな問題も分からないんだ!!」と言うだけの知識なら、ない方がずっとマシです。つい似たようなことを言うてしまうことはあるかもしれませんが、それが本心ならあまりに酷でしょう。

親子とも算数の力が伸びたのは小5の夏期講習です。各単元の復習をしてくださいねということで、該当単元を全部印刷して(前述の通り問題はあつた)、自分はiPad miniに入れたものを通勤電車で先に解いてから、息子に復習する範囲を指示しました。数字替え問題は飛ばします。400問くらい解いたと思います

が、よかったです。サラッと書きましたが、夏休み前から準備しても授業は一瞬、あっという間に貯金を食いつぶしていきます。追いつかれないように各クールの間の休みも解かないといけませんので、ある程度追い立てる必要はあります。お盆休みくらいまで来ると先が見えますので、なんとか駆け抜けましょう。というより、ノーガードで5年以降の季節講習に臨むのはもったいない。

SNS等では子供の成績で一喜一憂しがちですが、アントレではある程度白板がとれていればそんなに心配しなくてよいと思いますし（おすすめクラスの基準でまとめテストの比重は高くないと保護者会で言われます）、過程において点数は本質ではないです（1点でも取りにいく姿勢は必要）。算数の答案を見れば、点が悪かったとしても戦って前のめりに倒れたのか丸腰で撃たれたのかが分かります。分からなければ一緒に勉強するか、過程を褒めるか、どちらかにしましょう。点数が低くてもその子の価値が下がるわけではないです。テストで測定できない能力もあり、それを評価する態度を子供に示すのは大事です。もちろん、点が取れて一緒に喜ぶのはいいと思います。

面談は半年ごとに夫婦で行って、あらかじめ家での様子や質問事項をA4で1~2枚にまとめておき、息子にも見せて、家族間の認識を共通にしておきました。

また、旅行は6年生になってからほぼ行けず、その分はしっかりおいしいものを食べるようにして英気を養いました。また、子供の成長には睡眠が必須で（最低でも8時間。厚労省の睡眠指針参照/大人も睡眠は大事）、眠いのには勉強しても効率が悪いです。勉強しろというよりは、さっさと寝ろと言っていました。

【模試とその評価】

直しは絶対当日です。初回の合不合で、帰りに上野の国立科学博物館でも行くかと生つちよろいことをやっていたら、案の定帰ってからの直しがほとんどできませんでした。結局直しに1週間くらいかけることになり、やったのかまだなのかというお互いによくない問答も発生します。日曜であれば（家庭によりますが）親が直しの状況を管理しやすいし、本人の記憶も鮮明で効率がよいです。この件はその後の模試や過去問演習に生かしたので、初回は必要な犠牲でした。

夏以降はサピックスオープン（以下S0）にしました。S0は四谷の合不合と違い、受験間隔が3週おきなので割とあっという間に4回終わってしまいます（来年度以降の日程は分かりません）。3週で修正できるなら苦労しません。S0は、初回にちょっとだけいい点が出た以外はちょうど偏差値50前後でした（各社の模試、回数で母集団が違うので、数値の単純比較はできないことに注意）。判定は渋いのですが、そもそも本番は各校共通のテストではありません。測定している能力が違います。まとめテスト同様、点の取り方に着目して、正答率の高い問題や自分の受ける学校の頻出単元を押さえれば、数字にこだわる必要はないです。しかし、やはり「1点を削り出す努力」は大事ですので、その形跡には注意します。すべての問題を解けるようにする必要は一切ないです。

学校別S0も算数でえらくひどい点が出たものの、2回とも上位陣以外を正確に判別できない残念なセットということが分かったので、特に落ち込みもしませんでした。とにかく解き直しが大事です。

合不合含め、受験会場はなるべく学校会場を選びました（S0の本郷は本科生で埋まります。受けもしない学校でも面白いです）。待ち時間はありますが、その辺を2~3時間くらい歩けば運動にもなります。

とにかく成績では否定しない。模試の偏差値ごときで一喜一憂したくなければ、統計を学び直されることをおすすめします。今は高校でも統計をやるはずですし、おそらく人生では役に立ちます（統計検定というのがあります）。

あと、当然模試の回数が重なれば徐々に寒くなっていくので、リラックスも兼ねて飲み物はコンビニのホットレモンにしました。雨の日の塾の帰りなどにコンビニで度々買って飲んでいました。模試の休み時間に飲むときには冷めていそうなものですが、それでも落ち着くそうです。入試時にも持っていました。

【受験校選定と過去問】

ある程度行きそうな学校は10~15校くらいピックアップして、試験日時、通学時間、始業時間含め調べておきました。例えば、芝はよさそうな併願校でしたが、朝が早いので早々に消えました。

誤解されるのを承知の上で申しますと、高校からの大学進学実績は割とどうでもいいと思っています（注：こればかりは妻と同一意見ではありません）。実績がないなら、作る側に立とう、と。しかし、切磋琢磨できる環境のほうが支えにはなりますから、その点では全く参考にしていないことはないです。〇〇大に何人合格とかあっても、その学校に入るだけでそうなるわけではないですから、勘違いはしたくないところです。私立中学には「建学の精神」がありますので、そちらを重視して選びました。

合格発表が1~2日後とかの学校では合否が分からないまま2/2~3まで受け続けることになるので、出願パターンは漏れのない場合分けがほしいです。「この学校は合格できる」と思うのはいいのですが、実力を発揮できない事態や思わぬ難化/あるいは易化（必ずしもよいとは限らない）など、何事も起こり得ます。心配するだけでは学力はつきませんが、親だけは最悪を想定した計画を立て、面談で見てもらいましょう。そういう意味で学校は幅広く見たほうがいいので、5年前半から見学に行かれるのがよろしいかと思います。

過去問はアントレから言われた通りにします。集中しやすい空間で、本番のように（実力があっても挙動

不審で×になるケースがあるとのこと。独り言禁止。同じ空間で監視はしていませんが)。一般的にチャレンジ校、適正校、抑え校と分けられますが、その中でも解きやすさ、相性のよし悪しがあり、かつ各校ごとで採点のポイントも違います。書いてあれば採点はしてくれるであろう武蔵(常識的な言葉は漢字で書かないと心証は悪いでしょう)と、他の学校を並列に考えてはいけません。各校の説明会や分析をみておきましょう。武蔵をはじめ、配点不明の学校は声教等準拠とするも、採点時によく子供と点を与える根拠をすり合わせてください。甘くつけて合格最低点に達したとしても、嬉しいのは一瞬だけです。9時前後から始めて、昼食をはさんで直し含めて16時くらいまでかかりますが、そこは頑張ってもらいます。答えは各教科の終了直後に都度前述のGoodnotesで撮影してスキャンすれば共有と採点が楽ですし、後々のやり直しのときに間違えた問題の確認にも役立ちます。

出題形式や採点の問題で、武蔵対策と併願校の問題は難しいように思いますが、国語では解答の根拠を明示できること、算数は作業すればできる問題や検算の時間を作るためのスピード・時間配分、社会は流れや大枠の理解、理科は正直なんでもありの中で観察や実験の基礎を固めることは対策として共通しているような気がします。各校の試験問題は暇つぶしにぴったりで第一志望と併願校の傾向が似ているのか違うのか、あるいは受けない学校でも演習としてやってもいい問題かを判断するのに何校か解きました(面談で聞けば教えてくれます)。抑え校の算数で高得点が出るかと思いきや、意外に難問が混じっていてスカッとした点は出にくい。正答率が示されている学校はそれを参考にして、正答率の高い問題は落とさない、低い問題は単元により捨てる(ただし武蔵志望なら速さと平面図形はよほどの悪問でなければ履修)といった判断もしていきます。正答率1%程度の問題を正解できたとしても、小問集合1問落としたらとんとんです。

【1月の受験と最後の詰め、そして2月の受験】

1月は栄東A日程初日を受けました。概ね出願順に受験場所と退出順が決まるので、最短で出しました。最寄りには東大宮駅ですが、足に自信のある親子でしたら是非1つ前の土呂駅から歩いてみてください。人がいなくて信号がないので、気持ちよく歩けます。我が家は20分で着きました(ゆっくり歩いても30分かかるでしょう)。また、その前の電車もそれなりに混みますが、池袋から湘南新宿ラインのグリーン車は満席で乗れませんから、切符は買うだけ無駄でしょう。受験番号が小さいほど早く解放されるので、30-40分くらい違います。帰りに、2月に向けた教訓を本人に聞いておきます。1月校の結果は出たものが最良と言われますので、その通りに受け止めます。2月校の出願もこの辺です。1日校以外は受験番号の早さをそこまで気にしませんが、たまたまキリのいい番号が当たって気分がよかったです。

小学校の始業式に出てからは、感染症の罹患はもう懲り懲りということで1月の小学校はお休みさせてもらいました。武蔵の過去問で理科の知識系、間違えた算数の問題(前述のGoodnotesに全部残っている)や、前期の武蔵算数の解き直し、過去間違えている漢字(国語、社会)の書き取りをしていました。

ここまで算数算数と言ってきましたが、それは「受験資格」であり、かつアドバンテージを取りやすい・取られやすいからであって、結局、最後の材料は総合力だと思います。算数は、その学校の求める最低限のレベルに達していないと勝ちはないです。受験者の得点の幅は他教科より広いはず。算数一本でぶち抜くスタイルの場合、思わぬ易化時に差を広げられず相対的に沈むのと(2023年の開成の算数など)、トップ層でも間違うときは恐ろしく単純なミスをすることもあり、算数で逃げ切れない場合の勝率がぐっと下がるというか、合否を他者に求める部分が多くなり大きくなります。他の教科は平均付近で戦い続け、置いていかれないだけの理社の力があれば、直前の詰めでそのあたりが伸び得ると思います。もちろん、強みが複数あるほど刺さりやすいのは受験に限ったことではありません。

入試前日～期間中は、特に心配してないつもりでもさすがに眠りは浅くなりました。何事も起こり得るとはいえ、心配して合格率が上がるわけでもない。いつも通り送り出すのみ。Zoomでの応援では生徒に応じた有用な声掛けをいただけるのと、トイレの位置など本人が現地で確認すべき事項もあるので、早めの到着が無難です。

当日発表の入試では発表時間がずれこむこともあり(1日の巣鴨算数がそうでした)、見てから寝ると思っても待たされるとストレスです。午前午後入試は練習していても疲れます。息子は結果を見ずにさっさと寝ました。結果次第で次の出願を決めることとなりますが、事前に出願分岐を詳細に場合分けしておいた家庭は、そこで悩むことは少なく済むはず。気持ちの推移はあると思うので、計画がないと感情に翻弄される可能性があります。

長々と偉そうに書きましたが、初めから上記のような心境に達したわけではありませんし、褒めまじうと言われていてもその真逆をいってしまうことも多々ありました。取り返しのつかないレベルでの破綻がなく、親子間や夫婦間のコミュニケーションがとれていれば、なんとかなるのではと思います。

また、身も蓋もありませんが、子ども親もいろいろですのでこれらの再現性はないでしょう。それでも、下記の点はお勧めできますので、ごく一部でも参考にできれば幸いです。

- ・一喜一憂したくなければ親も勉強…Knowledge is power. 適切に使えるなら有用なのは算数と統計学
- ・みんなと同じことをやる…知識系や計算などの積み重ね、「追いつける位置」へのポジショニング
- ・他人と同じ道を行かない…子供の特性や成長に応じて対応する。他塾生との単純比較はするだけ無駄
- ・試験で測定できない能力にも目を向ける…自己肯定感の醸成
- ・学力向上に適した環境を整える…十分な食事と睡眠、合えば学習支援のツール(親子用 iPad+Goodnotes)
- ・何よりも、自塾を信頼する…保護者会で言われたことを受け入れる素直さ。疑問があれば聞く。信者くらいでちょうどいい(カッシーブログは教典)、疑うより信じる方が楽でその苦労はしない方がいい

今は何のことか分からなくても、時期が来ればこのことだったかと分かると思います。せっかくやるなら、楽しんでください。

2年後に娘の話を書く予定ですが、全然違うことを書いているかもしれません。

音羽優吾くんのお父様、お母様

★母記載ページ★

【入試結果】

[1月]	学校名		可否	志望度
1月10日	開智所沢(先端)	→	合格	☆
1月11日	栄東(A日程)	→	合格(難関大)	☆☆
1月12日	開智所沢(特待B)	→	合格(S特待)	☆
[2月]※				
2月1日[AM]	広尾学園(本科)	→	不合格	☆☆☆
2月1日[PM]	広尾学園(本科)	→	不合格	☆☆☆
2月2日	桐朋	→	不合格	☆
2月3日	都立大泉	→	合格 → 進学	☆☆
2月5日	広尾学園(本科)	→	不合格	☆☆☆

※2月の「不合格」連投時の家庭内の状況は、後段に詳細を記載いたします。乞うご期待！

【クラス変遷】

4年前期	他塾(北海道札幌市で大手塾に所属していました)
4年後期	C→B
5年前期	B→A(国理社はS)
5年後期	A(国理社はS)
6年前期	〃
6年後期	A(全教科)(土曜の入試演習は男子上位校)

【我が家の中受スタンス】

本人の能力や適性に合わせた「ゆる受験」を希望。下駄をはかせた学校選択はしない。無理をさせない。

理由1：大手塾在籍中の週テ/組分けランキング競争に親子ともども精神を翻弄されすぎた。

理由2：父親の経済力はともかく、母親の狂気が足りない(共働きで、母は仕事のことで頭がいっぱい)。

理由3：母自身の過去の中学受験経験がつらすぎた。中学入学後も勉強が続き「詐欺じゃん」と思った。

「あのまま大手で中学受験してたら、俺、死んでたと思うよ」(アントレ転塾後)

「ママのために毎週勉強して、順位取ってきてるわけじゃないからね」

「子どもの成績やクラスや志望校が良いと、そのお母さんまでえらいの？ それってなんなの？」

我が家の受験勉強量のピークは4年前期でした(!)圧倒的物量とストレス量で偏差値は爆上がり。でも、このまま続けていたら何かが歪んでいくという不安感がありました。私自身が子の偏差値中毒に陥り、毎週火曜は朝からスマホを確認。振り返れば受験本番より出来(結果)が気になっていくくらいです。

【アントレ転塾後の勉強風景】

順位や偏差値にとらわれず自分のペースで自学でき、本人が苦手な算数に力を入れているアントレに転塾を果たすことで中学受験を継続できました。この出会いがなければ中受は頓挫していたと思います。

早押しや白板の対抗戦が楽しくて、帰路の夜道で毎回結果を嬉々として語る姿が可愛かった。

6年になるとクラスのお友だちも志望校が徐々に固まり、土曜の演習では切磋琢磨することになりました。

・算数(白板)だけはひたすら夫が伴走。詳細は【父記載ページ】にお任せします。

・5年時の理科の穴がひどすぎたため、6年春から個別を受講。

・都立対策として、Z会の作文添削(通信教育)と、他塾の都立模試を前期1回後期3回ほど受験。

【余談：優吾、勉強しなさすぎエピソード集】

・理社は趣味なので、寝ながらテキスト5分読むだけ(まとめテスト週)

・コアプラスは受験終了時の現在でも新品同様の美しさ。本人は「筋トレ」と呼んで毎日リュックに入れ持ち運びをすることで満足していました。

・毎日プリントの存在は保護者会で聞いていたものの、家で見かけたこともなく都市伝説かな？と思っていました。実は子が隠していただけと数か月経過後に発覚。以来我が家では「ツチノコプリントやれ」と言っていました(ツチノコ=存在が珍しいものの例え)。

【都立作文、直前1か月の対策ポイント(都立受験の方には絶対参考になる自信あり)】

●最初の100文字

・冒頭100文字程度で、課題の文章1、2の要旨を踏まえたまとめを記載。

(条件の指示に必ず従うことを忘れない)

- ・文章1、2の要旨が取れないと、筆者の主張の共通点もしくは相違点が適確に踏まえられないため、読んだ直後に「一言で言うとそのひと何が言いたい？」と口頭で答えさせて要旨取りを一緒に練習。
- 残りの300~340文字
- ・冒頭100文字を踏まえ、残りの約300文字で自分の考えを記載。この際、全体構成を「はじめ(100文字)中・終わり」の3段落とする。
- ・「中」では、自分の具体的な体験などのエピソードを踏まえ、「その経験を通じ、before/afterで自分の考えや行動がどう変容(できれば成長)したか」を意識して書く。
- ・「終わり」では、はじめと「中」の内容を踏まえて、さらに今後の学校生活等でどう「発展」させたいかを書くが、急に異なるテーマに発展させることなくなだらかに着地させる。時間を意識して速やかに。
- ・「僕自身の変化を描く」とはこういう流れ
中「○○に疑問を持った【思った】→調べたり・試したりした【やった】→自分なりの答えをもつ【考えた】」→ 終わり「さらに発展させて～～していきたいです」
- ・時間内に上記パターンで書けるように何回か練習する(過去問を使用)いきなり一度うまく書けないので、同じ問題で、親が添削して精度を上げていく(2~3回繰り返す)。
- ・本人納得の作文は当日のお守りになるので、試験会場に持っていく。
- *「適正Ⅱ」「適正Ⅲ」の対策はアントレの授業で十分なので、時間を割きませんでした。

【2月受験には魔物が棲んでいた件について】

1月受験で好調な滑り出しだった我が家ですが、1月の勉強量の少なさと気の緩み、受験校設定のミスから不合格を連発します。進学可能校の「栄東」A日程で合格を取ってしまったことから崩れが始まり、信じられない恐怖を体験することとなりました。

1日(第一志望 広尾学園)

午前・午後とも本人&パパ第一志望の「広尾学園」を受験。

チャレンジ校でしたが、1月に栄東を取っていたため本人(とパパ)の希望を優先しました。

ママ案では初日午前中に桐朋を取って気分を上げ、5日の広尾につなげて欲しいと提案するも却下。

1度でも多く受験することで可能性に賭けたい気持ちも汲みたく、2月全落ち覚悟でのスケジュールリング。

「優吾が全落ちしたときに、泣いたり、傷ついたりする姿を見たくない。私は母親として勇気が出ない」「勉強が足りなかったのは自己責任。自分の人生なんだからどんな結果でも本人にケリをつけさせる」

2日(桐朋)

2日の桐朋は1日より厳しいというデータから、出発の直前まで受験を引き留めました。前日の帰宅は夜9時を回っており、疲れも心配・・・本当は休んで都立の対策に時間を取って欲しい本音も。

「Zoom応援で先生たちが待ってるのに、朝、いきなり入ってこなかったら先生が心配するから」「受ければアントレの合格実績になるんだから、受けに行く」

この日は曇天で、いつもは清々しく感じられる大学通りが天候と時間帯のせいか薄暗く感じられました。Zoom設定ミスでスピーカーになってしまい、本人の気が動転。別れ際なんか気もちを立て直させました。当日の試験は難易度が低く、社会は満点に近い手ごたえだったと言います。前日の広尾はこの日、不合格が判明しましたが、チャレンジ校であったこと、過去問の出来が悪かったこと等から、それ自体はショックでもない様子。受験時の感触の良さと、アントレの友人が桐朋を志望していたことから、試験後に突然桐朋への本人の志望度がUP。広尾の可能性の薄さに心が折れてすぐ流される、小学生の判断の甘さを痛感。

「もし桐朋に合格してたら、○○君や○○君と一緒に、俺桐朋に行きたいわ!」

3日(都立大泉)★午後、魔物降臨

3日は晴れ。都立対策は手薄ですが、本人の適正はあったため「いつも通りで」と送り出し。帰り際、アントレのお友だちにも会えて楽しい帰り道でした。この時が本人の笑顔が見れた最後でした。

帰宅後、PM2時に前日の桐朋の合格発表。「合格」を微塵も疑っていなかった本人の前にはグレーの表示。「合格」のピンクは見慣れています、「不合格」の画面を初めて※見て、あまりのショックと連戦の疲れで、本人も私も即、寝込んでしまいました(※広尾は受験番号羅列型で「不合格」表示なしの学校です)。

起きたらすでに夜。アントレへの桐朋不合格の報告を、本人がどうしても自分でしたくないと言います。部屋で一人で泣いていたようでした。また、自分で調べたのか突然、6日以降に受験可能な中学校を受けたいとここに来て突然の提案がありました。自分でタブレットで検索したのでしょう。

「このままじゃ2月全落ちする。アントレの受験体験記の『合格中学校名』に1月校しか書けなかったら、『あ〜コイツ1月に受かってなめ腐って失敗したしょーもないヤツなんだなあ』って思われる」

私からアントレに電話してタケノコに事情を話すと、今日今すぐ、あるいは翌日、一緒に問題解いたり話したりできるので、本人が来れるようなら向かわせて欲しいと言われました。突如、6日に（今まで見たこともない）広尾学園小石川を受けたいと本人が言い出したことを受け、「本人が納得行くまで、受けていいと思います」とのコメント。説明会にも行ったことない、模試の合否判定に書いたこともない、過去問を見たこともない学校。噂には聞いていたが、まさかよりによって、我が家に魔物が訪れるとは。

広尾学園小石川の過去問を急遽ダウンロードしようと、四谷大塚HPにアクセスするも、同じような人がいるのか、受かって喜んで今更「偏差値表」でも見て悦に入ろうとしている人がいるのか分かりませんが※サイトが固まって前に進めない状況。こんなご家庭が結構な確率であるんで、2月の勝者以外、誰も教えてくれなかったじゃん。これが「ゆる受験」を標榜した私への天罰かと。
(※この瞬間の私のダークな気持ちを再現していますので、実態は違うと思いますw)

4日（受験なし）

朝、自宅には無かった広尾学園小石川の過去問（声教）を夫が吉祥寺のジュンク堂書店まで行って購入してきたと言います。「2月全落ちでも自己責任」と言っていた時からには想像もつかない慌てぶりです。

計算が難しく、まったく歯が立たないどころか、簡単な問題すら次々にミスを連発。和室に敷いた布団の上でカバーを握りしめながら声をあげて号泣する本人を見て、急に幼い頃の我が子が彷彿とされ、保育園の年長さんから公文やって、表彰ももらって、計算コンクールも満点で、小さなときから賢くて自慢の息子だったあの頃が走馬灯のように脳裏を駆け巡り母の感傷度は1万ボルテージを突破しました。「こんなところでつまずくような育て方してきてないよ私は！あんたは誰よりもできる子なんだから！」本人を奮い立たせ、タケノコとの約束の時間にアントレへの送り込みはなんとか完了。そこでも同じように簡単な計算ミスを連発したようで、「こんな音羽は見たことない」と言われたそうです。

「一生懸命やってるんだ。自分でも、どうしてこうなったのか全然わからないんだよ・・・なんでこんな簡単なことができないんだろう。努力しなかったから・・・ごめんなさい」

広尾が第一志望の理由は、プールが無いことだとずっと言っていました。深い意味はないよ、とか。この日の夜、初めて本当の志望理由を本人がぼつぼつと話し出しました。自分の好きな社会の分野で、ディベートがやってみたいこと。ディベート部があったり、模擬国連への参加がある学校に行きたかった。

どうして今更そんな重要なこと言うんだよ！と思いましたが、男の子というのはそういうものかもしれません。本当に大切なことは恥ずかしくて人には話せないものなのかもしれないです。

受験が終わったら瀧本哲史のディベート戦略の本を読むといいよと薦め、明日に向けて早め就寝。

5日（広尾学園リベンジ）

ドラマチックに朝から雪でした。試験が終わると晴れ晴れとした表情で出てきて「できた」という意味のことを会場でコソコソと言いました。二人になると、お昼ご飯を食べながらどんな問題が出てどう解いたか、つぶさに全教科分を嬉々としながら延々と話す口ぶりはいつもの雰囲気です。「広尾の入試問題は、面白いんだよなあ」。

翌日の広尾小石川の受験については「もう今日の試験で十分やりきったから、2月全落ちでもいいわ」と本人から撤回希望があったため出願は見送り。小石川の乱と心の中で名付けそつと幕を引きました。

そんなに本人が行きたいものなら行かせてあげたいと思った広尾学園ですが、翌日開示の結果は不合格。今まで偏差値も判定も過去問も届いてないので、当たり前前の結果です。ただ、当たり前なのに、ここ数日の情緒の起伏が激しすぎて、心に深くトゲが刺さったような感覚でした。

6～8日（受験終了後）

子は小学校に復帰し、親は普通に仕事です。日常を取り戻しましたが、まだ都立の合否が出ていません。あれだけ無根拠に「優吾は適正（検査）は大丈夫」と言い張っていたのに、親の私がなぜか都立不合格の夢を見てはうなされました。夫は栄東進学のために転居先の住居を探していました。

9日（都立合格発表日）

朝9時、合格。手続きのため即大泉学園に向かいましたが、その日の詳細な記憶はありません。

(アントレのX カッシーからのコメント)

2月校にずっと合格がなくて、今日発表の都立で合格…泣けます。
この数日間辛かったと思うけど本当に良かった。
おめでとう！🌸

後日談

ひばりヶ丘のココ老番屋でカレーを食べながら「ほんとと受かってよかったね」と話していたときのこと。「大泉でもディベート同好会作ったり、模擬国連の参加とかあって、自分でやったらできるんじゃないかなと思って。他校(桐朋)に友だちいるから模擬国連のこととか、話、聞きに行けるしね」。
国語と社会しか教えられないけど、個別の先生に空きがあったらなりたいたいとも話していました。
アントレでユニークな先生方や、たくさんのお友だちに会えたことが、彼の一番の財産です。
アントレの皆様、こんな我が家にお付き合いいただきまして、ありがとうございました。

★父記事ページ★

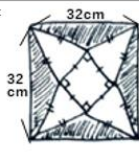
算数担当の父です。妻に苦手な算数克服を命ぜられてから、試行錯誤しながら伴走しました。一方的に教えるのではなく、本人の理解度をしっかり把握したうえでそれに合ったアドバイスを心掛けました。アントレの白板は自分の考えを書かせるので、どこまで理解しているかがよく分かります。「答えが合っていればよい、早く解いて勉強を終えたい」と考えていた彼に「自分の考えを書かせる」という強敵が現れましたが、ゲーム感覚で授業する楽しさに救われました。一方、家庭での復習は難航しました。塾で解けた問題も家では解けません。「なぜか?」そう、根本から理解できていなかったのです。塾でヒントをもらって解けたもの、授業で解説を書き写しただけで理解に至っていないもの、色々ありました。

算数は入試本番では同じ問題は出ません。初見の問題を解けるようになるために、まず基礎を定着させ、そして問題に合った解法を自分の頭の引き出しから呼び出して使えることを重視して、克服プランを考えました。

Step1: 白板復習の徹底

6年夏までは基礎の定着に向け白板を徹底的に復習しました。我が家では、自作の白板プリントで解きなおしを行い、本人に自分の解き方を説明させることを繰り返しました。説明させれば、どこで躓いているか、どこまで理解しているかが見えます。先生の説明をくり返すだけではただの暗記です。「なぜそうなるの?」に答えられればOK。なぜ?なぜ?の繰り返しは本人には苦痛ですが、根本から理解するために重要なプロセスです。本人の理解度を見ながらできない問題の管理・潰し込みをしていきました。

<白板プリント>

授業日	単元	No	問題	回答
2023/8/5	立体図形	1	斜線を切り取った残りで四角すいを作った 四角すいの表面積は元の正方形の1/2 (1) 四角すいの底面積 = □cm ² (2) 四角すいの体積 = □cm ³	

<白板管理表>

授業日	単元	No	問題	復習①	正解	復習②	正解	復習③	正解	復習④	正解
2022/9/19	平面図形と比-辺の比と面積比-	3	全体 = 9 0 cm斜線 = □cm ²	2022/10/24	×	2022/10/26	○	2022/12/25	×	2023/8/14	○
2022/9/19	平面図形と比-辺の比と面積比-	4	台形全体 = 1 8 0 cm斜線 = □cm ²	2022/10/24	○			2022/12/25	○		
2022/9/19	平面図形と比-辺の比と面積比-	5	7:1:4:1:2:3:5 X = □cm Y = □cm	2022/10/24	○			2022/12/25	○		
2022/9/19	平面図形と比-辺の比と面積比-	7	X = □cm Y = □cm	2022/10/24	○			2022/12/25	○		
2022/9/19	平面図形と比-辺の比と面積比-	8	平行四辺形 X = □cm	2022/10/24	○			2022/12/25	○		
2022/9/23	平面図形と比-辺の比と面積比-	1	△ABCの面積 = 1 8 0 cm斜線 = □cm ²	2022/10/24	×	2022/10/26	○	2022/12/25	×	2023/8/14	○
2022/9/23	平面図形と比-辺の比と面積比-	2	台形 A B C D = 1 8 0 cm斜線 = □cm ²	2022/10/24	○			2022/12/25	×	2023/8/14	○
2022/9/23	平面図形と比-辺の比と面積比-	3	△DECは△ABCの2/5面積 E C = □cm	2022/10/24	○			2022/12/25	×	2023/8/14	×
2022/9/23	平面図形と比-辺の比と面積比-	4	台形 A I A I の面積は等しい X = □cm	2022/10/24	×	2022/10/26	×	2022/12/25	×	2023/8/14	○
2022/9/23	平面図形と比-辺の比と面積比-	5	X = □cm Y = □cm	2022/10/24	○			2022/12/25	○		
2022/9/23	平面図形と比-辺の比と面積比-	6	斜線 = 7 cm全体 = □cm ²	2022/10/24	×	2022/10/26	×	2022/12/25	×	2023/8/14	○

Step2: 志望校対策

6年夏以降は過去問を通じて入試問題に対応できる力をつけました。子どもが過去問を解く際に、私も解いてみて、問題ごとに難易度をつけ、これだけ解ければ合格ラインに到達する「問題の取捨選択」をしました。捨て問は解説しても身につかないと思い、教えませんでした。本人が解けるレベルの問題で確実に得点を積み上げる作戦です。本人も「A校は大問3以降の(1)(2)を確実にとる、(3)は解ければラッキー」

と割り切って臨むことで、難問に時間をかけずに効率よく得点を積み上げる方法を徐々に身につけていったように思います。

一方で、過去問の得点は最後まで伸びませんでした。1回目に解けた問題が2回目になぜか解けない…。効率的な勉強を追求したあまり、演習量が足りず、応用力を自分のモノにするところまでいかなかったのかなと思います。それでも本番では、過去問で一度も受験者平均点に届かなかった栄東A日程で受験者平均点に達し、合格を勝ち取れたことに成長を感じました。(受験者平均点が著しく低かったラッキーパンチはありますが…)

算数に限らず、志望校対策は合格への近道です。栄東や開智のように出題範囲を詳しく教えてくれる学校もあれば、出題範囲に全単元が列挙されている悩ませ学校(第一志望校)もあります。そんな学校でも、説明会で取り上げた問題などから対策のヒントを得られます。広尾学園の場合は、理科の実験問題が多く、難しく長いリード文が出てきます。「リード文をきちんと理解すること」が正答率を高めるポイントだと考え、「文章をよく読むこと(条件の読み落としをしないこと)、問題が何を聞いているかをしっかり捉え、答えを導き出す練習」を積み重ねました。結果は残念ながら合格点に届きませんでした。志望校対策をしっかりすることは、本番で緊張する子どものお守りになりますので、積極的に取り組むことの一つだと思います。

私は受験を通じて、「自分で考えること・努力することを習慣づけて欲しい」と考えていました。我が家はいわゆる「ゆる受験」でしたが、本人も「暗記・知識だけでは通用しない世界があり、考えた先にのみ答えがある。成功には努力が必要である」ことを痛感したのではないかと思います。今は自分の頭を使って新しいものを生み出していく時代です。自ら周囲の物事に興味を持ち、学びや経験を積んで引き出しを増やし、それらを活用し社会に還元できるよう成長して欲しいと願っています。

アントレの先生方、子どもの成長を支えて下さり本当にありがとうございました。

片岡優翔くんのお父様、お母様

■はじめ

3年間の受験期間を振り返るとあつという間でしたが、受験勉強をしている間は長くて先の見えないトンネルを進んでいるようでした。時には楽しく、もどかしく辛くもあった我が家の受験体験について綴ります。これから受験を迎えるご両親様・お子様において何かしらの一助になれば幸いです。

■入塾きっかけ

マイペースで大人しめな息子、公立中で内申点を気にしながら過ごすより、中高一貫校でのびのび学生生活を謳歌してほしいとの親の願いもあり、3年生終わりに中学受験を意識し始めました。進学塾を検討している際、近所に住む知人のお子様がアントレに通っており『アントレでの勉強が楽しい！』という情報を聞きつけました。中学受験の経験がない私にとっては途轍もなく大変でしかないと思っている（そう聞いている）受験勉強が楽しい！？と半信半疑でしたが、実際に経験しているお子様がいるのであれば『これは行くしかない！』と思い、体験授業に参加しました。参加してみると息子から『楽しかった！』という言葉があったことと、合格実績や体験記を拝見し、アントレならしっかりと子供を見ていただける、そして子供も最後まで走り抜けることができるに違いないと思い、入塾を決めました。

■入塾後

親主導で始めた受験だったので、最初は自ら机には向かえずリズムをつけるまでは大変でした。なるべく自走できるよう1週間のスケジュールを表にしたり、やるべき事をリストに書き出したりしました。
・算数…5年生に入るとリズムはついてきたものの勉強量が一気に増え、内容も難しくなり白板の○がだんだん少なくなっていきました。ちょうど反抗期とも重なり親子でぶつかる事が増えてきたので、5年後期から算数の個別にお世話になりました。分からない問題が解決でき、自宅でやるより効率よく進められるので帰ってくると生き生きしていました。楽しく有意義な時間だったようです。
・国語…過去問をやり始め頃、あらためて理社より算国の配点が大きいという事が身に染みて分かりました。どうにかしたいと息子の希望もあり、直前期ではありましたが6年後期から国語も個別を取りました。過去問の復習、記述の添削をお願いしました。あまり好きな教科ではなかったのですが、習ったことで正答率が少しずつ上がるのを感じられたようで、自信をもって試験に臨めていました。
・理社…知識は隙間時間に覚えられるよう単語帳を作ってみたり、単元を変えながらラミネートしたものをお風呂に貼ったりしました。時事問題に少しでも触れられるように小学生新聞を読んだり、ニュースを見ました。あとは遊びの中でも覚えられるよう、歴史人物かるた・日本の歴史まんがを使いました。色々試しましたが、最後まで足を引っ張った教科でした。

■志望校選び

子供と親の基準がそれぞれあり、また一長一短がありますので、簡単には決められませんが、最終的には子供の意見を尊重し、6年間通いたい、そして親としても通わせたいと思えるところを選びました。
<我が家における志望校の選定基準>

- ① 施設の充実さ（グラウンドの広さ、設備の綺麗さなど）
- ② 学校・生徒の雰囲気（学園祭、説明会、授業、部活体験、学校での生徒からの挨拶など）
- ③ 学校までの近さ（路線の乗り換え、バス利用・混雑時の通学時間）
- ④ 学校の教育方針・環境（説明会、学校HP、学校資料など）
- ⑤ 中学・高校の偏差値（中学だけでなく高校まで含めた偏差値の推移）
- ⑥ 大学の合格・進学実績（数年間の傾向）

<選定基準に沿った志望校・理由>

- ① 日本大学第二中学：施設が充実（グラウンドが広い）。西武池袋線沿線からバス通学であるため時間はかかるものの、自宅からの距離を考えると近い。何かあった際に車でいける範囲。文化祭では生徒同士が仲良く行事を運営しており、挨拶もできていて好感触。大学付属であるため、親として安心できる要素がある。第1希望校（チャレンジ校）。
- ② 西武学園文理中学：都内ではないため、グラウンド等の施設が充実（複数）。教育方針は今回対象とした学校の中では最も共感。特に校長先生の方針・考えには魅了され、子供にも深く印象が残った。自宅からは若干遠いが許容範囲（通学片道1時間以内）。第2希望校（適正校）。

- ③ 淑徳巣鴨中学：通学しやすい。先生・生徒による迎え入れや待合室での気遣いなどホスピタリティが高いと感じた。都内の学校であるため子供としては設備（グラウンドなど）へ満足度が他の学校と比べ低い。第3希望校（ややチャレンジ校）。
- ④ 城西川越中学：直前期に学校説明会に足を運び、教育内容が良いと感じた。1月受験でどうしても合格がほしかったらと勧められ受験。（安全校）

■受験について

1/10AM 西武文理（グローバル選抜）○

1/11AM 城西川越（特待）× 一般スライド○ PM 城西川越（一般）○

2/1 AM 日大二中× PM 淑徳巣鴨（スカラシップ4科）×

2/2 AM 淑徳巣鴨（算数1科）× PM 淑徳巣鴨（スカラシップ4科）×

2/3 AM 日大二中× PM 淑徳巣鴨（スカラシップ4科）×

2/4 AM 淑徳巣鴨（一般2科）×

1月の埼玉受験で第2希望の西武学園文理中学から合格を頂いていたので、2月の都内受験の第1希望校はチャレンジ校の日本大学第二中学を受験することにしました。第3希望校については幾つか候補の学校がありましたが、我が家の選定基準と子供の学力を踏まえ、淑徳巣鴨中学にしました。

2/1の第1希望校の日本大学第二中学の受験結果が不合格であった為、第3希望校の淑徳巣鴨中学を変更し、より適正校に近い学校にするか悩みましたが、第2希望校の西武学園文理中学に合格していたこともあり、変更せずに受験しました。ただ過去問を何度も解きましたが、合格最低点に近づきはしたものの超えていない状況での受験でした。

第3希望校の淑徳巣鴨中学は学力的にはチャレンジ校と適正校の中間的な位置づけにあり、今回5回受験するため（4科×3回、算数1科×1回、2科×1回）、どこかでは合格を頂けるだろうという思いがありました。ただ淑徳巣鴨中学は各回の定員が少ないため（10数名程度）、倍率が高くなり（5～10倍程度）、非常に難しい試験となりました。単なる偏差値や合格可能性だけでは測れないので注意が必要です。

結果、2月に受験した学校からは合格を頂けず、ご縁が無かったことになりました。2/1～2/4で合計7回受験をし、最後まで諦めることなく走り抜けた子供に対し、合格を導いてやれなかったのは私の責任です。非常に悔しくもありますが、一番大変な思いをし辛い思いをしたのは息子になります。振り返ると、もっとこうしていれば・・・など止め処なくでてくるものです。

■終わりに

いつになったらエンジンがかかるのだろうと待ち続け3年。最後まで淡々とマイペースではありましたが、通常では考えられない時間を受験勉強に費やし、風邪以外は一度もアントレを休むことなく走り抜けた息子を本当に誇りに思います。不合格が続いた時もプレッシャーの中最後まで諦めることなく必死に頑張りメンタルが相当強くなりました。一緒に悩み、時に言い争いをし、時に楽しみながら共に駆け抜け、子供だけでなく親にとっても貴重な経験でした。親子で歩んだこの経験がこの先2度ないと思うと少し寂しくもあります。今は採寸も終わり、パンフレットを見ながらどの部活に入ろうかなと入学を待ち遠しくしております。中学受験で得た経験を糧とし、かけがえのない学生生活をエンジョイして欲しいと思います。

最後に、ご指導いただいたアントレの先生方、個別指導の先生方、本当にありがとうございました。

ここまで来られたのは皆さま方のお力添えのお陰です。感謝しかありません。

萱沼寛大くん、侑大くんのお母様

【入試結果】

寛大

- 1月10日 (AM) 開智／開智所沢 → 合格○
- 1月10日 (PM) 城北埼玉 → 特待合格○
- 1月12日 (AM) 開智／開智所沢 → A 特待合格○
- 1月12日 (PM) 開智／開智所沢→算数特待不合格×
- 2月01日 (AM) 城北 → 不合格×
- 2月01日 (PM) 国学院久我山 ST → 不合格×
- 2月02日 (AM) 国学院久我山一般 → 合格○
- 2月03日 (AM) 都立三鷹 → 合格○
- 2月03日 (PM) 国学院久我山 ST → 一般スライド○
- 2月04日 (AM) 城北 → 合格○

侑大

- 1月10日 (AM) 栄東 → 合格○
- 1月11日 (AM) 開智／開智所沢 → S 特待合格○
- 1月12日 (AM) 開智／開智所沢 → A 特待合格○

- 2月01日 (AM) 武蔵 → 合格○
- 2月01日 (PM) 国学院久我山 ST → 合格○
- 2月02日 (AM) 城北 → 合格○
- 2月03日 (AM) 都立三鷹 → 合格○

【所属クラス】

- 寛大：A（新3年）→A（新4年）→A（新5年）→A（新6年）※国語は新5年Sクラス→Aクラス
※算理社は最後までAクラス
- 侑大：A（新3年）→A（新4年）→S（新5年）→S（新6年）※国語は新6年からSクラス
※理社は最後までAクラス

【入塾まで】

- ・幼稚園年長から3年生までは通信教育（ピグマ）
- ・幼稚園から英語をスタート。体を動かすことが大好きなため、体操、スイミング、サッカー中心の生活を送る。体操はバク転、スイミングは4泳法までマスターし、4年からはサッカーと英語のみに。

【入塾のきっかけ】

- ・双子同じ塾に入れることが大前提であり、新3年生になるタイミングで、二人にあった塾選びをスタート。幼稚園の1個上のお友達がアントレに多く通っていることを聞き、興味を抱いた。
- ・3年生で体験授業に参加。とても楽しく、「入塾したい！」と熱望。自宅から通いやすいことを重視。また、勉強を楽しんでもらいたいため、成績によって席順やクラスが頻繁に変わらない点が親の理想にマッチ。一度決めたら途中で転塾は避けたいので、口コミも調べてここのら子供たちの性格に合いそうだ判断。

【5年】

- ・朝のルーチンワークは計算シリーズと漢字を中心に。1時間半の朝学習は入試前日まで続いた。
- ・土日はサッカーの遠征や合宿が急に入ることがあり予定が読めず。加えて土日夜はサッカースクールに通っていて、まとまった勉強時間を確保できず。まとめテストの時期から逆算し早めに予習を計画。塾の休みに予習シリーズを常に5回分先に進め、その回の週には常に2回目の復習と宿題プリントをこなした。
- ・まとめテストの週でも少年サッカーは休みたくなかったとのことで、祝日に雪の中で試合をした帰りにアントレに行き、まとめテストを受けた記憶あり。

寛大

- 新5年に上がる際Sクラスに上がれず、がっかりした様子。国語はSクラスに上がったものの、途中でAクラスへ戻り、最後まで4科すべてAクラスに在籍
- 「算数まとめテスト40点未満ならBクラス」という回にまさかの40点未満。かなりショックを受ける。タケノコに相談しAクラス継続となったが、このまま受験すべきか親子共に追い込まれた記憶有。

侑大

- 4年から開始したまとめテストで、初回に算数満点を取ったことを受験の最後まで自慢していたが、その後卒業まで満点をとることはなかった。
- 算数はSクラス。国語や理社もSクラスに昇格すべく本人なりに努力をしたが、理科が取れたら社会を落とすなど、安定して点数がとれず、Aクラスで5年は終了。
- 算数の授業では、解けない問題も解説を聞いたら理解できた様子で安心していましたが、まとめテストでなかなか点数が上がらず、しっかり理解できたか怪しい時期に突入。「40点未満ならAクラス移動」と言われた回に死に物狂いで60点取りなんとか残留。「がんばったね」とのカッシーのコメントに大喜び。

【6年前期】

寛大

- 学校見学で好印象だった都立三鷹受験を視野に入れ、Z会作文コースを半年間受講。父親との二人三脚で、あくまで私立受験の併願と位置づけ、アントレと並行で進めた。Z会で父親が作文のコツをなんとなく掴んだことが、結果的に後期の過去問作文に取り組んだ時の直しに役立った。適性検査Ⅱは子供に解かせて採点し、間違っただ箇所を侑大も含め理解できるまで父親が粘り強く教え込んでいた。
- 平日のサッカー練習は継続。土日もサッカー優先で、公式戦もレギュラーで出場することができた。コーチからもサッカーをいつまで継続できるか再三確認されたが、何事も器用にこなすタイプでないこともあり、両立は困難と判断。夏に入る直前にサッカーは休会することを選択した。

侑大

- 5年の2月から武蔵算数開始。サッカーは強豪チームで平日練習（火曜、水曜）への出席は不可欠。すでに水曜はアントレで欠席し火曜のみ通っていたが、武蔵算数が火曜だったためどちらを選択するか本人に確認。即答で「武蔵算数を受けたい!」。結果、平日練習はすべて休み、土日のみサッカーに。
- 武蔵算数についていけるか?という親の心配をよそに、本人毎回興奮して帰宅。花丸もらった! オレ結構解けるほうだと思おう!と意気軒高。友達との通塾時間も楽しかったようで、「1週間のアントレの時間で、武蔵算数が一番楽しい!」と口にする。
- 6年から国語がSクラス昇格、自信を持つようになる。卒業までの1年間、最後までSクラスに在籍。
- 6年最後のサッカーの夏合宿。参加すれば夏期講習を1クール欠席することになるがどうする?と問うと、本人は夏期講習を選択。この時期からサッカーは休会に入っていた。

【6年後期】

寛大

- 入試演習コースは難関上位クラス。今年から難関上位クラスのレベルを上げたこともあり、なかなか合格を取れず。同じ志望校を目指す子や上の偏差値レベル志望の子に刺激を受け、最後まで受講。
- 過去問を開始したタイミングで国語の個別を開始。都立作文の添削依頼先をアントレから紹介してもらい過去問10年分提出。国語の個別では、志望校の過去問の添削結果と作文の添削結果を一緒に復習する予定だったが、途中から理科の補強を優先。最後まで理科中心に見てもらうことになった。
- 夏期講習で算数の各単元の総復習を行う際に、4,5,6年で関連する回の白板をまとめてファイリング。直前時にまとめる時間はないため、夏の時期にまとめておいたものを直前期に活用した。
- 過去問で間違えた理科の問題をまとめたファイルを作成。個別で解説してもらい、直前期まで活用。

侑大

- 入試演習コースは武蔵を選択。合判では武蔵は常に20%、学校別オープンでは40%。漠然と武蔵を志望校に進めていたが、入試演習クラスでは一度も合格を取れず、親子ともにひそかにあせり始める。
- Sクラスでは春の白板正答率を集計し、夏の白板正答率でどこまで目標に向かって上げていくか、と個人面談で説明を受けた。侑大は平面図形に苦手意識があり、正答率を大幅に落としていた。カッシーとの面談を経て、平面図形対策に算数の個別を開始。担当の長澤先生には平面図形、速さ、前期の武蔵算数の解き直しを見て頂くことで、自信を取り戻していった。
- 夏期講習の総復習の際に、寛大と同様に直前時に見せるよう白板のファイリングを行った。
- 入試演習がいよいよ後半に差し掛かるタイミングでカッシーと面談。「武蔵の過去問では点数が取れているが、土曜演習で合格がない。乖離が見られるため対策が必要」と指摘。11月後半から12月いっぱい、2回目の武蔵過去問解き直しのタイミングで算数以外の3教科オンライン添削開始。武蔵で配る過去問解説「講評」で何を求められているか理解するよう指導され、ひたすら添削結果と講評を読み漁る日々。「土曜演習の合格率と受験の合格率は相関がある。前期でとれていなくても後期でとるのが大事。終盤で取れてきて合格した、と後輩に勇気を与えて欲しい。」とカッシーから励ましがあつた模様。

【志望校選び】

共通条件： 充実したサッカー生活が送れる。自宅から1時間以内。

中学はジュニアユースに所属したいため、志望校と平行してチーム選び。一番初めに受けた地元の強豪ジュニアユースのセレクションに二人そろって合格。セレクションへ費やす時間を極力少なくしたく、早々に入団を決定。自宅、ジュニアユース、志望校がトライアングルになるという条件も加え、志望校選びを進めた。

寛大

<城北>

合判の会場はほぼ城北で何度も足を運んでいたため、充実した6年間をイメージできた。広大なグラウンドの人工芝化も好印象。過去問開始当初は国語で苦戦するも、やがて取れるように。相性よく第二志望校に。

<国学院久我山一般>

・偏差値的には問題なかったが、理社の問題との相性がよくなかった。算数は9割取れるものの、あとの教科が安定してとれず、絶対的な安全校とは最後までならず第四志望校に。

<国学院久我山ST>

・算国2教科試験であり、四谷合判でも80%を取れたものの国語の成績が安定せず。2/1午後入試ということでハイレベルな戦いになると予想。算数も120/150点過去問で取れていたものの、国語の問題次第で合格が読めず、「押さえ校」にはならず。本人はサッカー強豪校ということもあり城北と並んで第二志望校に。

<都立三鷹>

・充実したサッカー生活を送れる、という条件の中で、学校説明会や文化祭で共学特有の華やかさや活気ある雰囲気にかかれ、都立校で家に近い大泉ではなく三鷹を選択。タケノコとの面談で三鷹より大泉のほうがワンチャンスあるかもしれないと助言頂いたが、大泉はサッカーがあまり盛んでないと在校生から聞いたこともあり最後まで全く眼中になし。過去問では、適性検査Iは取れるときは80点、とれない時は40点台と安定せず。適性検査IIも安定して取れず。11、12月のena学校別合判2回とも判定が悪く希望が持てず、本心では第一志望校ではあるものの公言しなくなった。

<開智所沢>

・2024年開校の新設校。自宅から近いこともあり、2月どこも受からなかった場合、通ってもよいと思える学校。特待A入試の算数はレベルが高いと判断し、A日程入試と特待B入試、算数特待入試を選択。

侑大

<武蔵>

・アントレに入った当初から頭にあった。武蔵の説明会に参加したところ、各教科の担任から武蔵での学校生活の紹介があり、楽しそう！と本人大満足。ただし、四谷大塚合判では最後まで不動の20%

<城北>

合判で足しげく通い好印象。過去問との相性もよく、合格最低点が安定してとれたことも自信に繋がった。

<国学院久我山ST>

・第一志望の武蔵の合格発表が2/3ということもあり、2/1午後受験校として選択。合判すべて80%、過去問もすべて合格最低点をとれて、相性の良さを再認識。2月受験校の中のお守りとしての安全校。

<都立三鷹>

・寛大と同じ理由で三鷹を選択。学校説明会や文化祭で共学特有の華やかさや活気ある雰囲気に、武蔵がダメだったら三鷹に行きたい、と第二志望校に。

<栄東>

・1月前受けとして、合格をとって自信をつけたい学校。

<開智所沢>

・2024年開校の新設校。特待A入試は開智中の偏差値62レベルのため、栄東とともに前受校に決定。

【志望校対策】

寛大

<城北> **過去問1回目2回目ともに、6年分2回ずつ**

合格最低点マイナス50点ほどからスタート。何回か解くうちに、算国で取りきれれば合格最低点を超える手応え。ただし理科は実験中心の問題が多く、苦手で落とした分を残り教科でカバーできるかが鍵となった。

<国学院久我山ST> **過去問8回分、2回**

算数は120点ほどとれていたが、国語が安定せず、個別でも数回解説してもらったものの、最後まで相性がよいとは言えず不安な状態で入試本番を迎えた。

<都立三鷹> **過去問10年分、1回、スケルトン作文添削10回**

私立中心の受験対策であったため直前は都立対策をほとんどできず過去問中心に間違った箇所を見直す程度。やれた範囲で合格できたらラッキーとのスタンス。作文はアントレから紹介いただいたスケルトン添削を利用。先に述べた通り模試の結果が不振で、本人自信をなくす。「都立受かる気がしない」と最後は半ばあきらめていたが、12月と1月も隙間時間に添削結果や過去問の見直しだけは父親と共に行った。

<開智所沢特待B、A日程、算数選抜>

前受校にあまり時間をかける予定はなく、3年分程度とあらかじめ計画。どちらも合格最低点を上回り問題傾向の把握程度で本番に臨んだ。算数選抜は1年のみ。

侑大

<武蔵> 過去問 10 年分、2 回

前期の武蔵算数、後期からは武蔵入試演習クラスを選択。10 月から個別にて武蔵対策用の平面図形、速さを中心に補強。11 月後半から 12 月にかけてオンライン添削を開始、過去問 2 回目に突入。添削結果と武蔵発行之過去問講評を読み漁る。1 月の自宅での直前対策は、夏期講習の白板の総復習→平面図形対策プリント・速さ対策プリントの復習→武蔵対策プリントの復習を、オンライン添削結果の最終確認と並行して進めた。S クラスで配布する社会記述プリントは武蔵対策として活用、文章で答えられるようひたすら暗記した。

<城北> 過去問 (2 回目の回) を 6 年分×2 回、1 月に 1 回目を 6 年分×1 回

武蔵中心の過去問対策だったが、独特な問題であることからこれだけでは他校は厳しいことはわかっていた。算国以外の理社は冬期講習などの復習を中心に対策。社会は早稲田中の過去問を隙間時間に利用。

<国学院久我山 ST> 過去問 8 回分、1 回

アントレ通常授業で過去問はすべて合格最低点をクリアできていたため、隙間時間に数年分を解くのみ。

<都立三鷹> 過去問 10 年分、1 回、スケルトン作文添削 10 回

寛大と同様、過去問中心に見直し、作文はスケルトン添削。三鷹模試は ena の合判 2 回と早稲田進学会 2 回を受講。どちらも 1 回ずつ A 判定と D 判定。問題の傾向で取れる場合と取れない場合があることが判明。これはもう運だね、と親子で納得。最後の ena 合判で 300 人中 2 番、男子 1 番だったことは本人かなりの自信になった様子。内申と作文が頼りにならない中、適性検査Ⅱでいかに点をとるかが鍵を握っていた。

<栄東、開智所沢特待 A> それぞれ過去問 3 年分 1 回

栄東、開智所沢特待 A とともに、すべての回で合格最低点±1。当日どうであるかは運もあった。

【出願から入試→結果】

寛大

<1 月 10 日午前 開智所沢 A 日程>

- ・近場の所沢さくらタウンがとれず、さいたま市のマークグランドホテルが受験会場となった。遠方での受験スタートとなったが、本人手応えあり合格。

<1 月 10 日午後 城北埼玉特待>

当初予定していなかったが、マークグランドホテルと城北埼玉会場のさいたまスーパーアリーナが徒歩圏内であり、確実に合格校を押さえてく算理 2 教科試験を午後受験。本人簡単だったと手応えあり合格。

<1 月 12 日午前 開智所沢特待 B、午後 算数選抜>

- ・10 日の A 日程より若干難易度アップ。4 科ともに A 日程よりも手応えあり。算数は特に 98 点/120 点とれており、S 特待にはとどかなかったが A 特待確保。

<2 月 1 日午前 城北>

- ・本命校のため緊張するかと思いきや、通常運転で会場入り。終わった感想は「理科で苦手な化学がでなかった、算国も手応え有り」。ところが合格発表を見たら、まさかの不合格。ショックで言葉を発さず。寛大からタケノコへ電話。「ST の結果を見て明日を考えよう」とのことだったが話しながら詳細は不明。

<2 月 1 日午後 久我山 ST>

- ・午前の城北のいい流れのまま午後に突入。算数はいつもどおりできた。国語も知識も書けたし大丈夫だと思うとの感想。合格発表が 23 時ということもあり、城北不合格のショックを引きずる寛大をなだめて寝させた。本人からは 23 時に起こしてと頼まれていたが先に夫婦で確認し、不合格が判明。母親からタケノコへ電話。①2/2 午前の受験を悩んでいること、②本人に不合格を伝えるために起こすべきか、その 2 点を相談。タケノコからは「①→2/2 午前の城北は、2/1 の武蔵などの受験者層が流れ込んでハイレベルな戦いになる、問題との相性が不安でも偏差値で問題のない久我山でまず合格をもらうことが、2/3 以降の戦いに影響する。」「②→午前・午後と試験して体力的に相当疲れているはず。今起こして午前 2 時まで寝れない場合、精神的にも肉体的にもボロボロになる、2/2 朝に伝えた方が良い」とアドバイスを頂く。

<2 月 2 日午前 国学院久我山一般>

- ・朝起きて、2/1 久我山 ST 不合格を知る。本人泣き崩れたが、「まだ泣くのは早いし 1 日しか受験をしていない。あと 4 日も受験できる日があるから、まずは今日合格をとっていこう」と声をかけた。12 歳が泣き崩れる姿を見るのはさすがに堪えたが、寛大には「母はまだ泣かないよ。泣くのは全部終わってから」と声をかけるのが精いっぱいだった。前日のタケノコアドバイスを伝え、本人も久我山受験を納得。受験会場へは父親が同行。私は侑大へ同行したが、久我山が気になってしょうがなかった。試験会場に入るまで沈黙だったが、終わった後は「出来た、今度こそ大丈夫」との弁。合格発表は家族みんなで見守り、合格を確認。振り返って思うがすべての受験において一番家族が大喜びした日であることは間違いない。

<2 月 3 日午前 都立三鷹>

- ・過去問と作文添削しか対策をしていない受験校。問題との相性もあるので、親子ともに期待せず。8 時半

集合で11時には終了。「適性検査Ⅰでいつもの詩がでなかったからラッキー、適性検査Ⅱの算数は全部いけたし、理社も記述できたから7割は取れた」と自信満々。主人と共に少し期待。2/2久我山一般の合格をもたらした安心感から、不合格でも落ち込まないだろうと思ったら、合格。かなり驚いた。

<2月3日午後 国学院久我山ST>

・2/1のリベンジマッチ。相変わらず算数はとれた様子だったが、結果は一般へのスライド合格。「2回もいらないよね」と本人。初日ほどの落ち込みはなく、翌日の城北へ気持ちはすぐに切り替えられていた。

<2月4日城北>

当初、2/4以降には持ち込まずに終わらせるつもりが、魔の2/4に突入。ここからは体力的にも精神的にもきつい戦いだという親の心配をよそに、初日の2連敗以降、寛大は落ち着いて受験を続けていた。期限ぎりぎりに出願。当日は自分の周りの席がびっしり埋まっていた様子。終わった感想は「4科ともに初日より手応えあり」。募集人数もかなり少なく期待できなかったが、夕方合格を確認。家族みなでお祭り騒ぎ。

◆初日2連敗からの逆転合格した経験はこれからの人生に大きく影響を与えてくるのではないかと考えています。よく最後まで踏ん張ったね、寛大合格おめでとう！

侑大

<1月10日午前 栄東A日程>

・下見に行ったことがなく「これが栄東か」というのが当日の印象。5000人が列をなす景色は圧巻で、受験が始まったという緊張感を感じた。本人の感触は「全体的にできた。算数は過去問より少し落としかも」。本人の感触通り、今年は算数突破型が少なく4科のバランスが求められた様子。ギリギリで合格。

<1月11日午前 開智所沢特待A>

・校舎建築中で会場は所沢さくらタウン。本人感触は「過去問より算数ができた」。得点開示で算数がかなりとれていて合格。カッシーに「アントレ生の中で算数が一番取れていたよ、おめでとう」と言って頂けた。

<1月12日午前 開智所沢特待B、午後 算数選抜>

・1月校の中で押さえとして特待Bを選択。試験終了時に前日のS特待合格がわかり、午後は受けずに終了。

<2月1日午前 武蔵>

・本命校のため緊張すると思いきや、ズーム応援でカッシー、ダンディ、マッファーと話せて通常運転で会場入り。特にダンディだけスーツで背景に「武蔵」と書いてあったのが面白く、緊張が解けた様子。終わった感想は「算数がめっちゃできた、理科はいつもどおり、社会は土曜演習や過去問より解きやすかった、国語は知識を直前に相当詰め込んだから、いつも以上の80点取れてたらうれしい」。侑大は算数突破型のため、算数ができて、あとは落とさなければ合格可能性が出てくる、と親子ともひそかに期待。

<2月1日午後 久我山ST>

・武蔵からの移動で時間も限られた中、お昼も摂らないといけない。寛大と練馬で合流し、明日へ疲れをなるべく残さないためタクシーで久我山へ。風邪をひかずに受験会場まで辿り着ければそれでよし！ 終わった感想は「いつもの過去問と同じじゃないかな」。その日の23時に合格。遅い時間だったため、主人と2人で安堵。まずは1校、はじめてピンク色の合格通知を見て喜びをかみしめました。

<2月2日午前 城北>

・侑大の第3志望校。合判でも城北2回目入試は80%取れていたもので不安はあまり感じず。ただ、2/1に超難関校を受けた層もたくさんいるため気は抜けず。会場へ向かう途中でアントレのお友達2人と合流し、和気あいあいと会場へ。話が盛り上がりすぎてズーム応援を忘れており、慌てて侑大を呼び戻すことに。終わった感想は「算理はいつもどおりできた。社会で山手線が出たんだよ、わかんねー」でした。その日の発表は夕方だったため、本人がピンク色の合格通知を確認し、家族みんな喜びを分かち合いました。

<2月3日都立三鷹>

・朝9時に武蔵の合格発表があるため、侑大はそちらの方が気がかり。武蔵の結果は先に主人と確認していたが、本人に確認をさせ、家族みんな合格を喜びました。ただ、「オレ三鷹受かっても武蔵に行くから！」と宣言されましたが、その三鷹は2/9に合格を確認。

◆終わってみたら6戦6勝。合格発表サイトをひと通り見た侑大が「桜しか見えない」とつぶやいていましたが、本人が色々我慢もし、努力した結果です。侑大、おめでとう！！

【最後に】

・入塾した当初は面談で足しげく通うイメージでしたが、噂に聞くような面談ラッシュはなく、要所要所のアドバイスを頂いたくらいに思います。ただ、そのアドバイスが的確で、ぐさりとささる内容でした。

・寛大は3年生から最後まで担任はタケノコ。2/1に城北とSTを二つ落とした時は本当にどうなるかと思いました。念のために2/2に2つ出願していた城北2回目と久我山一般2回目の、どちらを選ぶか。「問題との相性や偏差値も大事だが、どの受験者層と戦うのか、戦う相手を見極める必要がある。城北2回目は武

- 蔵などの受験者層が流れてくるので、まずは確実に1校合格を。その上で2/4の城北に再チャレンジするのはありだと思います。」とのタケノコアドバイスに、わかってはいたものの夫婦そろって目が覚めました。
- ・侑大は最初から最後までSクラスで、担任はカッシー。まとめテストで名前が載るわけでもなく、他の天才たちに圧倒されるばかりでした。あきらめかけていた武蔵ですが、「彼には向いていますよ。大丈夫だと思います」とのカッシーの太鼓判が、最後まで「俺は行ける！」というゆるぎない武蔵志望の拠り所となりました。武蔵算数授業の様子など親が知るはずもなく、「楽しそうだな」くらいでしたが、そこで武蔵への適性も見てくれていたと思います。「スポーツをしていた子は最後にぐんと伸びる傾向がありますよ」と言って頂きましたが、まさに11月末~2月入試直前の武蔵合格への集中力はすごかったです。併願校対策がこの時期にあらかた終わっていたことも、第一志望校に全集中できた要因の一つだと思います。
 - ・都立入試について：寛大も侑大も内申点が特別良いわけでも、読書が好きなわけでもありません。体を動かすことが好きでサッカーに明け暮れていました。結果として今思うことは、アントレで日々鍛えられた国語の記述、武蔵対策での記述対策(侑大)に加え、勉強だけではないスポーツを通じた経験が効いた(適性検査Iは問題の主旨を読み取り自分の体験に置き換えてまとめる必要があるため)と思います。ただし、作文はやはり練習しないと厳しいため、アントレから紹介された添削先で書き方・まとめ方を教えて頂きました。都立は合格最低点の開示など無いため、添削で示された配点の目安や、ena模試の配点が参考になりました。同じ都立でも学校毎に傾向が異なり、三鷹は算数の大問独自問題の配点が40点あるため、私立向けの対策で対応し、最後まであきらめなかったことで道が開けたのだと思います。
 - ・過去問を解くにあたり重宝したのが、A3プリンター。9月に購入してからフル回転。算数は見開きで右側が計算スペースになるように製本、武蔵の過去問は本番同様にB4で印刷、といった工夫を加え、直前までの学習を支えてくれました。2月受験直前の1/30、無理がたたって壊れてしまいましたが。
 - ・最後に、アントレの先生方、一緒に通ってくれた小学校のお友達、クラスメイトの皆さん。最後まで楽しんでアントレに通えたのは皆さんのおかげです。同じ中学に進学する予定のお友達、今後ともよろしくお願いたします。本当にありがとうございました。

菅野由真さんのお母様

ホワホワ飄々、我が家の第一子長女由真の受験が終わりました。第一志望の立教女学院にご縁を頂き、最後まで通塾を嫌がることなく、厳しいはずの受験を楽しく乗り切れたのは、アントレの先生方と仲間達のおかげです。アントレへの感謝の気持ちを込めて体験記を書いています。ご参考になる部分がありましたら、嬉しく思います。

▶ アントレに決めた理由

- 1) 学ぶことの面白さを教えてくれ、共に学ぶ仲間が出来る ハンコ、早押し、チーム制
ここでの出会いは一生の友になるかも。塾が大好き。楽しい所に身を置けば伸びる。
- 2) 先生方の異動や退職が少なく、どのクラスでもベテラン社員の指導が受けられる
成長を数年かけて見て頂ける。卒業後に遊びに行け、心の拠り所(帰る場所)になる。反抗期を迎える娘にとって、親以外の大人や仲間達との繋がりが大切な時期。
- 3) 入塾テストがない 毎週のテストやクラス昇降が頻繁になく、土日は好きなことをギリギリまで出来る。
- 4) 小規模で地域密着型 卒業生の進路や体験記の併願先が大変参考になる。先生方が周辺校の動向や校風、実際に通っている卒業生の様子(←ここが重要)、出題傾向を熟知されていてアドバイスが適格。
- 5) 予習シリーズ準拠で予習型 この三年間で身につける勉強のやり方や苦手科目との向き合い方や乗り越え方は、今後の自学自習の財産になると考えました。
- 6) 算数特化 既に文系の香りがしたので、算数(苦手分野)を伸ばしたいと思いました。
共働きで学童クラブに代わる、学校と家庭以外のサードプレイスとして、3年生冬期講習から入塾。以前よりカッシーのブログを拝見し、通わせるならこと考えており、本人が体験に伺い入塾を決めました。2月後半生まれの第一子でマイペースな性格。4年生はお試しで通い、嫌がれば辞めて高校受験へ、本人が続けたがればそのまま続投と考えておりました。電話は少ししにくいですが、Google クラクルームや電話で何かあれば、都度連絡し問題は解消しました。自習室は空き時間が短いですが、娘がほとんど利用せず、個別前の空き時間に週1回30分利用する程度で我が家にはちょうど良かったです。

▶ クラス 4年生 A 5・6年生算数A、国理社はSでした。

▶ 親が関与・工夫したこと 間違えた問題(お宝)の管理

丸付けと間違えた問題や箇所は付箋を横に貼り蛍光ペンで判りやすくし、教科ごとにボックスにセットして渡す(上からやる順に並べて渡す)。解き直しをした日付と○×を書き、もうやらなくて良い問題は付箋を縦にしていく。2回目に間違えた場合は、異なる色の蛍光ペンで印を付ける。(黄色→ピンク→緑等薄い色から順に)最終的に色とりどりになった問題のみをやり続ける。基本的に親は教えない(私の話は頭に残らない性質有)。知識があやふやな箇所(間違った所)はテキストの該当箇所に付箋を開いて渡したり、NHKの該当動画を見せたりし、学習のセットアップはし(環境は与え)ますが性格上、この時期の強制や見ていない時の管理は難しいと考えていました。

▶ 4年生

- 1) 予習→復習→まとめテストの学習サイクルを確立する時期。
- 2) 教科ごとのボックスを作り、手に取りやすくすぐに調べられる環境整備。
- 3) 白板の日付、タイトル管理。
- 4) 土曜日の予習シリーズ解説を受講(4年生秋より)。
- 5) 保護者会で出た連絡事項の共有と何をするかの声がけと指示出し。

ピーチャンとのチーム制の早押しが楽しく、国社が得意。算数は解法暗記の癖がありました。理科のまとめテストが時間内に終わらず、時間配分の重要性をピーチャンから教わりました。国語はラクダの夏のおすすめ文庫リストを活用し多読。国語は全ての科目のベースになるので、この時期に読書で読むスピードを上げておくと良いと思います。「君たちはどう生きるか」は映画化する前からの愛読書。毎年の読書感想文に利用。その後も「ロウソクの科学」等、ラクダ推薦の図書を好んで読んでいました(心のバイブル)。低学年時はお金のかからないフィールドワークで星座早見盤を持って外に出たり、ベランダに鳥のえさ場を設置して色々な種類の鳥を呼んだり、鳥の羽や木の実を拾ったり、近所の季節の草花や虫の卵・成長の様子を写真で撮影し、図鑑で確認する調べ学習をしていました。地学は天体の動きや南中高度(影の様子)を実際に観察し理解が増したようでした。調べるコンクール表彰式で、富士見生の受賞作品を拝見する機会に恵まれたのもこの頃です。

➤ 補助教材

NHKオンデマンドは良質な教材でした。社会の見えるぞ日本、歴史にドキリ、理科の実験や天体の動画、公民等は6年前半まで活用。Youtubeのかんなみまどかさんの歌や歴史ソングは6年生になっても食事中に流しました。

➤ 5年生

1) 個別を受講。強力なサポーターかつメンターの鹿山先生との出会い。

2) まとめテストとの向き合い方。復習に淡々と向き合う。

3) 教科バランスと時間コントロール。

算数重視で白板は間違えた問題を3回解き直し授業に臨み、授業で7割丸をもらうことを目標に。5年生から最後まで算数5:国語1:理科2:社会2の割合で、予習<復習で取り組みました。予習は保護者会でご指示のあった最低限を行い、6年生夏までは15分しか集中力が持たない傾向があったので、15分の刻み学習が主。算数で長くても30分・45分・60分とし、徐々に延長しながら教科を区切りました。

4) 塾を信じて突き進む。

予習シリーズ解説オプションは、習い事とバッティングし受講出来なくなり、算数が苦手になりつつあり授業についていけないと不憫かと思ひ、算数の個別を受講することにしました。加えて反抗期で親の言うことを聞かない娘の良きメンターかつサポーター鹿山先生に、算数は全て丸投げすることに。指導が適格で悪い解き癖を指摘頂き、解法をひとつひとつ丁寧に確認頂きました。結果、算数だけでなく学習全般に前向きになれたと思います。算数の予習を中心にまとめテスト対策や弱点単元の補強、間違えた白板、過去問のやり直しをお願いしました(個別の連絡ノートは宝物に。面接対策も)。まとめテストのランキングによく名前は載りましたが、毎回得意な科目が変わる乱高下ぶり。単元の得手不得手が出やすい時期なので、順位にとらわれず復習の材料として活用しました。まとめテストの丁寧な復習は、6年時のベースアップに繋がります。先生方がセレクトした良問なので、季節講習前の予習でよく復習材料として活用しました。この時期は伸びているのか何なのか、正直分からなくなりますが、中学受験は成果主義ではありません。目の前の小さなハードル(白板、課題、まとめテスト)を飛び越えることに集中し、自分の中の理解を第一優先にしていました。

➤ 6年生

1) 入試演習は女子上位校クラスを選択。最初は吉祥女子と鷗友の難問に苦戦するも、7割の正答、合格ラインを全回で維持し合格達成。初見の問題への対応力が付き、周囲のメンバーが良い刺激に。

2) 後期個別について 4科のまとめを土日に自分で予習として行い、最難関問題集(下)を個別で予習として行う。最難関問題集(上)は購入せず。

3) 算数の夏期白板とまとめテストは2~3回繰り返し、場合の数等の苦手単元は3回以上取り組む。

4) 合不合は復習材料として活用。偏差値にとらわれず参考に。特に国語は得点の入り方が娘と合わず、志望校の過去問と相性が合えば良いと考えていました。志望校の会場校で受けると親向けの説明会が付いています。

5) 直前期(12~1月)の授業で扱う白板や理社のプリント、漢字知識は頻出の良問が多く、日々の授業の復習は第一優先で行っていました。最後は基礎が重要になります。

6) 第一・第二志望までの算数、社会は間違いノートを作成し、1月に2~3回解き直しました。(立女・明明) あっという間の6年生。時間が常に足りず。初めての全国模試合不合が始まり、土曜日の空手3時間半のお稽古との両立が厳しく、9月半ばの合宿まで続けました。保護者会で言われたことをこなすのに精いっぱい。初回合不合では4科偏差値61.9、2回目は59.0でした。そのタイミングで、第一希望の立教女学院は危ないと考え、7月くらいに併願校として、(算数の大問1の構成が同じ)明大明治を追加しました。まだ時間はあるし難しい問題に慣れることで一段階引き上げたいと考えたからです。夏期講習では、いつも通り全教科単元予習(まとめテストや白板で間違えた問題を解き直し)してから臨み、途中コロナで1週間お休みしましたが、夏期総合5期はAクラス4科総合319.3点(連続・全体1位)という最高得点で終了しました。それでも、らっきよや私は、毎回「1位だからって調子に乗るな!」「それは採点ミスかも知れないね?」「由真くん、カンニングしないでよ?カンニングしたらミッション系は受けさせないよ」と鼓舞(揶揄?)し本人は「カンニングなんかしてないし(笑)」「まったく、1位でも全然褒められない上に、点数が悪いとやっぱりねとか、ざまあみるとか嫌味を言われるし、らっきよとママは性格が似ている、らっきよは毒素がないけどね」とケラケラ笑っていました。それが毎回のコントで常に懐疑的な中での成長でした(笑)。仕上がってきたと感じたのは、夏明けの10月第5回合不合で3教科63.8、4教科61.9、特に算数と理科は全回通して安定感があり、最後の第6回偏差値は3教科67.9、4教科65.3で終了(鞭のようにしごかれる指導がイイ!デカッチョ師匠と分かりやすいというポッキーの理科が先に仕上がりがり得点源となり、秋には全体が縮まってきました。自称バランス型で練馬Aの上位に君臨)。夏から各校の過去問に取り組み、夏期講習後には

どことも安定して得点出来るようになり冬期講習後も着実に伸び、徐々にどこにでも対応出来るかも知れないと感じました。理想の得点の取り方は、算理で合格者平均+10~+5点、国語は大きなミスをせず時間配分に気を付け合格者~受験者平均ゾーンに在ること、苦手な社会は受験者平均点ゾーン前後に収めるというスタイルでした。苦手の社会は無理に追わず、苦手科目の復習はコアプラスと間違えた問題を中心としました。1月に学校を休みにし、過去問と社会の詰め込みに終わりが見えました。年末にインフルエンザで冬期講習を2日休み、復調するのに2週間程度かかり、埼玉受験前日は食べすぎによる嘔吐で体調不良の恐ろしさを経験しました。共働きの1月の日中はフリーで過ごし、お目付け役不在。アントレのZoom自習室に参加するも周囲の真剣さに圧倒され、たった1日で卒業したいとの申し出あり。「(娘)なんか誰かに監視されている!？」と大騒ぎし「(私)誰も監視してないでしょ」の押し問答(笑)。自由を愛する娘に、今の段階で競争の雰囲気は難しいと感じる一件でした。

➤ 志望校選定と学校説明会への参加

通学可能な学校の説明会に4年生の頃から参加し、親が見て良さそうであれば本人を連れて見学に行きました。親としては当初附属(系属)校ではない進学校を考えておりましたが、本人が気に入るのが西東京の広い敷地でアットホームかつ自由な校風の学校でした。土曜日授業がなく私服の立教女学院が大好きで何度も通いました。その他は浦和明けの星、中大附属、富士見がお気に入り。親が併願校として挙げた明大明治、恵泉、2月5日以降は和洋九段に出願予定でした。この他には白百合、学習院、明治学院、日大二、光塩、渋渋には何度か伺い、豊島岡、吉祥、鷗友、聖学院、宝仙、大妻中野、三輪田、都立にも参加しました。成蹊、香蘭、普連土、頌栄、青学には参加出来ず。良いと思った学校の中で迷ったときは、モモから伺った「国語が合うか」と過去の受験体験記から「算数の大問1が一行問題(立教女学院と同じ出題傾向)か」で決めていました。漠然と娘のキャラやまとめテストの出来からトップ層への受験はないと考えておりました。しかし、最後まで伸びることを考えますと、時間に余裕のある4・5年生の時期に幅広く多くの学校の説明会に参加しておくことをお勧めします。

➤ 本番

- ① 1月11日 栄東A 東大クラススライド合格 220点(1年特待まで8点) 過去問2回分 大宮に前泊
 - ・1回分の検定料で2日受験可能。得点开示有。上履き不要。軽食持ち込みOK。
 - ・9時集合。午後入試組から退場可、その後は早めの受験番号の退場が早い。オペレーションが◎。
 - ・手続きまでが長く◎。大変な混雑、前泊する場合には早めにホテルの準備を。
- ② 1月14日 浦和明けの星 合格 過去問は5回分(国語は7回分) 赤羽に前泊
 - ・8時半集合。2千人を3つに分け退場。12:40に引き渡し。上履き不要。お手洗いが少な目。軽食持ち込みOK。手続き2月3日まで長く◎。合格を取れば2月日程に余裕が出来ます。ただし問題が格段に難しく高得点勝負。国語の時間配分が課題で、過去問はムーミンからのアドバイスで25分ずつ2セットを行う。
 - ・1回目不合格であれば、2回目に再チャレンジすると繰り上げ候補に。毎年30~40人が繰り上がります。
- ③ 2月1日 立教女学院 合格 11年分 算社は間違いを2周(明けの星不合格の場合PM恵泉)
- ④ 2月2日 渋渋 不合格 立女不合格の場合は明大明治(全て不合格の場合PM富士見算数一教科)
- ⑤ 2月3日 明大明治 不合格 4年8回分(お茶の水出願のみ)(全て不合格の場合PM恵泉)
- ⑥ 2月5日 渋渋 不合格 3年6回分(全て不合格の場合4日中大附属か明けの星、5日以降に和洋九段)

浦和明けの星は本人の第二志望だったため、合格後、2月1日に立教女学院に合格を頂けた場合、セカンドステージとして2日以降はチャレンジ校に武者修行をしに行くよう話しました。また、合格可能性80%の学校のみを受け系属校に進学しようとする娘に、今後個別の先生としてアントレに戻るならここで終わりにせず、トップレベルの会場の空気を吸い、受験の厳しさを知り、他者に寄り添う気持ちを持つ経験も必要になると伝えました。娘は直前期もかなり小学生らしい生活を続けており、今後の過ごし方を多少なりとも改めさせたい思いがありました。後半は厳しい結果の連続に、3日の夜にさすがの私も「もう辞める?」と尋ねると「あのお、立教女学院に受かっている人の心を甘く見ないでもらえる? 渋渋には一瞬でも夢を見させてもらったことに感謝しているし、後悔の念はない。5日も受けることに変わりはないし、私は立教女学院で指定校推薦を取れるくらい勉強を頑張って、上位に入ることに変わりはないからね?」ときっぱり。「由真くん、その心意気を誇りに思うよ。いつの間にかメンタル国士無双になっていたのだね?」と一言。娘曰く、「なんだか2日の渋渋の子達は努力をしているのだろうけど休憩中に勉強している素振りもないし、休憩時間の会話が『今回の理科はつまらなかったけど、国語は面白かったな~!』等で問題そのものを面白がって楽しんで解いている子が多い。本当に博士ちゃん系だねえ」とのこと。「それは良い経験をしたね。渋渋の子達は確かにすごいけれども、人生どこでどう繋がるかは誰にもわからない、今回見聞きしたことはよく覚えておくのだよ」と話しました。1月の日中はフリーでZoom自習室にも参加しなく、行動を制限する目的もあ

りましたが、この時期の新規での志望校の追加はメンタルにも影響し兼ねないので慎重な判断が必要です。アントレの先生に相談されてからの追加をお薦めします。(渋渋対策で外来語と最強の理科・最強の社会を追加。過去問の出来は手が出ない訳ではありませんが、トップクラスの問題でAクラスには一問一問が重いです。明大明治は過去問の相性が最高で、毎回最低点の+40点前後取れておりましたが、不合格。算数の採点が甘かったのかも知れませんが、倍率も高めの人気校で2回受ければ繰り上げ候補となり、ボーダー上+3点の加点があります。明明を第一志望にされるのであれば、過去問の算数の途中式の得点の入り方は、アントレの先生方に事前に確認されることをお奨めします。社会は地理が特に難しく、日本のすがたが頭に入っているかを問う問題で合格者平均点が高いことが特徴です。全体的に記述が多いですが、アントレの日々の記述対策で対応は可能だと思います。)

➤ 立教女学院について

「どうしよう、立教女学院以外はじっくり来ない!」「それなら勉強しようね?」のやり取りを延々と繰り返しました。豊かな自然と、歴史を感じさせつつも潇洒で存在感のある建物を備え、穏やかな中に凛とした品格を醸しており、ここでの学びの機会が充実したものになるであろうことを期待させてくれます。10年先、娘が直面する社会、世界は国際化や情報化が更に進み、変化が激しく予測不能な時代となるのは想像に難しくなく、キリスト教という世界で広範に受け容れられている宗教を学ぶ機会は大義での他者理解に繋がり国際感覚を身に着けられると思いました。娘には自らの頭で考え行動できる自立した人間になって欲しく、競争にさらされない穏やかな時間と多感な時期の情操教育は特に重要と考えました。娘は初めて伺った時から一貫して立教女学院が大好き過ぎて、絶対に合格したいという強い気持ちを持っており、合格者の番号を見付けたときには正直ホッとしました。系属校ですが進路は自由。希望すれば全員立教大学に進学出来ます。親は当初、進学校で検討しておりましたが、一度訪れてファンになりました。系属校であることや理系が少ない点は、大学受験という観点では不利な要素かも知れませんが、大学入試は個人戦で不可能の要因ではありません。礼拝のため登校時間が早くAREという深い調べ学習がありイベントが多く、一見、効率的ではない学びや経験がむしろ学校らしく人生の豊かさに繋がると考えました。校長先生は「大切なお嬢様を是非本校にお預けください」と常々仰っており、女子教育への自信と覚悟を感じます。もうすぐ150周年を迎える伝統校でもあり、一度足をお運び頂けたら嬉しく思います。(入金が早く、6年生1・2学期の通知表と手書き志望動機の事前送付があり、事前に可否に関係のない面接があり、色々な意味で第一志望の方向けの学校です。)過去問にクセがあるので、沢山取り組まれると良いと思います。

➤ 生活面

- 1) 低学年の頃より、学校(の宿題)と家の仕事は最優先事項。タスクが出来ない人は塾(アントレは嗜好品扱い)に行く資格はないとし、受験期も変わらずに家の仕事(ペットボルの洗浄、分別、ゴミ捨て)を行いました。我が家にはお小遣い制の習慣がなく仕事に対する報酬制で、時にブラック企業と言われることも(その代わり?子供の代わりに米国株式を購入し、ドルを円に換え配当を渡しています)。
- 2) 22時就寝、6時半(休日は8時)起床。復習が終わらなければ翌日に回し、寝ることを最優先。試験3日前からは20時就寝6時起床お昼寝付きにし、徐々に起床時間を早めました。(ロングスリーパーで睡眠時間は死守)携帯は30分しか使えない設定で結果、必要ときに連絡が取れないことが多かったです(笑)。

➤ 受験との向き合い方と挑戦の先にあるもの

フンちゃんの仰っていた「ただか中学受験」が心に沁みます。合不合の会場を母のPTAバレーボールの試合会場に近いかで決め、ユニフォーム姿で送迎(ポッキー先生、毎回会場変更してご迷惑をお掛けしました!)し、立教女学院の面接後に急いで試合に向かったり1月に資格試験を受けたり、試験会場からそのまま仕事に向かう私を見て、娘は笑いながら「ママは私の受験に対して軽い、他の家と絶対に違うよ」とか「ママみたいなガチャガチャした変人は立教女学院にいない(失礼だな!)」と常々話しており、「でもママはテストで何点以上じゃないとダメだとか、この学校、この偏差値以上じゃないとダメとも言わない。私はそういう家で良かったよ」と言われたことが何度かありました。そんなときは決まって「うん、当たり前だよ。だって、由真くんの人生だし。悪いけど、私は子供の進学先はもちろん目先のテストの点や偏差値にそこまで興味がない。それに今、勉強が出来るかは重要そうに見えるけれども、実は人生でそこまで重要じゃない。大人になっても学びはずっと続く。学ばなければ得意先に迷惑をかけるし、自営なら仕事が無くなる。だから学ぶことを嫌いにならず、そこそこ真面目な環境に身を置いて、楽しくコツコツやれることの方がこれから先の人生、よっぽど重要になる。それに、我が家の周りには良い学校ばかりで超ラッキーだし、オール公立にも本物の天才達が沢山居て遅い。はっきり言って伸びる時期はひとそれぞれだし、受験は体調を含めて運もある。受験は結果論ではない」と繰り返して言っていました。学びや過程を楽しむことが重要で、折に触れ「挑戦の先にあるものは成功か学びであり、失敗ではない(なにもしないことが失敗かも知れない)」「周りと違うことや他人の評価を恐れない、その選択は将来的には誇るべきことかも知れない(エジソンも初めは馬鹿にされていた、杉原千蔵さん等世界の偉人の話を多用)」「自分が楽しいか、面白いかどうか、志や高い

倫理観があるか、自分の頭で考えられるかが重要になる」「どこに身を置いても、毎日コツコツやっていたら、いつかとんでもないところに行けるかも知れない」「勉強が受験目的だけになったら途端につまらなくなる」「選択肢があるだけラッキー」「偏差値は上位層であれば1上げるのも大変、キープするのも大変なこと。数値に振り回されるな」と話しました。また、合不合テストや試験本番はイベントとして位置付けし、毎回ランチ女子会を楽しみました。後から知りましたが、立教女学院の都市伝説・・・試験後にパフェを食べて帰ると合格するとか？(知らずにスタバでフラペチーノを飲んで帰り合格！(笑))それほど適当？でも、あまりに小学生らしく自由奔放な娘に堪忍袋の緒が切れることも。そんなときは、らっきょやモモに度々通報し、その度に娘に合ったお声がけやアドバイスを頂きました。先ほど、4年の頃のまとめテストを引っ張り出したところ、成績は2科D・4科B判定の連続。5年もAを取れば次はCかDの乱高下。6年生スタート時は偏差値60を維持できるか微妙だった娘が、後半は抜群の安定感で正直ここまで仕上がると思っておりませんでしたし、随分と高いところまで引き上げて頂いたなあと感慨深いです。アントレから言われたことを丁寧に、時には寄り道をしながらも、ひたすら自分の道を愚直にマイペースに進んだ結果だと思えます。

➤ 家族構成

父 ショッピングが趣味で日々のお買い物と作り置きおかず作りを担当。城北出身で最高の時間を過ごしたため、山崎学園系列の手厚さをよく知る。説明会は立教女学院の1回のみしか参加せず、志望校HPやパンフレットをチラリと確認する程度。保健室の先生のような性格で娘の遊び相手かつ良きパートナー。平日は朝早く深夜の帰宅。文系で小論文が得意。面接担当。

妹(小1) アニメの話題が合い、娘の頼もしい味方。ピリピリムードを和やかにしてくれる。野草(雑草)の種を拾って育てるのが趣味。最近、アントレのらっきょ大学に行くよと言いつつ、周囲に心配されている。

母 生活全般を担当。大手塾創業期に4年から楽しく通塾、経済的事情で6年時に卒塾。公立中進学後は予習シリーズで身につけた予習型で徒歩圏の私服で自由な全科目履修・教養主義の都立高へ。高校時代は大学入試直前期までバイトで家計を助けつつ、国立理系を目指すも最終的にはご縁のあった徒歩圏私大に現役合格。大昔にアルバイトで塾の講師を経験、先生は超大変なことを知る。小学生時代の塾友とは毎日ラインをするほど今も大の仲良しで、塾友のお薦め予備校や参考書情報を頼りに大学受験を乗り切り、卒業後も地域校友会や体育会の縦横の繋がりが楽しく、最近はPTAバレーボールで第二の青春を謳歌している。

➤ 最後に

中学受験はメンタルコンディションが特に重要で、試験当日に身心共に元気に会場に行けただけでもラッキーでした。毎日娘と小競り合いをしながらも、最後の最後まで小学生らしく遊び心を忘れずに走り抜くことが出来たのは、アントレのおかげです。娘の個性を尊重しじっくりと丁寧に時には刺激を与え、学びの「根」を大切に育てて頂き、本当にありがとうございました。反抗期の娘は、家庭よりもアントレにいるときの方が自分らしくいられたのではないかと思うくらい、充実した三年間を過ごしたと思えます。そして、切磋琢磨し合い楽しい時を一緒に過ごして下さった娘のお仲間とご家族の皆様、2024合格バッチを頂きましたこと、ラインで励まし合い支えて頂きましたママ友Tさんには重ねて感謝申し上げます。

これから受験を迎えられる皆様、どうか体調を万全にお子様達が本番で本来の力を出し切れますように。アントレを信じて強い気持ちで最後まで突き進んでください。そして今現在、塾をご検討中の皆様、大切なお子様の多感な時期の居場所として、アントレをご検討頂けましたら幸いです。中学受験は大変ですが、アントレは間違いなく楽しく賢くなれます。

アントレ、最高！！本当にありがとうございました！！
由真くん、合格おめでとう！最高の居場所アントレで、最高の景色は見えたいかい？

黒田颯希さんのお母様

【受験のスタート】

3年生の時に周りの子の影響もあり、中学受験を考え始めました。まずは入塾してどこまでやれるかやってみようと、自宅から徒歩で通える大手塾に入塾しました。授業をしっかりと飲み込めぬまま宿題をひたすらこなす日々母子共に疲弊していたときに、アントレを知りました。

4年の冬にアントレの体験授業を受け、今までの張り詰めた空気の授業とは違い、楽しい！！と感動し、アントレに転塾しました。

Cクラスからスタートし、算数は主人と、国理社は私と、と分担して一緒に予習や復習をしました。

5年夏にBクラスに上がるころ、ずっと続けていたダンスが盛んな富士見中学に行きたい！と、志望校が定まってきました。

算数が1番好きで難しい問題もなんとか解いてやろうという挑戦心をもっていましたが、国語に苦手意識があり、長い文章というだけで気持ち負けしてしまうところがありました。国語はできるところからやってみよう！と漢字、知識を毎日コツコツとやりました。

しかし、合格したい！という思いとは裏腹に、負荷がかかりすぎると、そのコツコツ続けたい部分が疎かになってしまうところもありました。そういうときは時間をかけて、どう進めていきたいのかを(あれやった？これやった？休憩長いんじゃない？とか言って欲しいのか、など)話し合いました。

【6年になって】

大好きなダンスを一旦お休みして、勉強一色となりましたが、まだ親だけが焦っていて受験へのモチベーションをどう上げていったらいいのかわからず私の焦燥感ばかりが募っていきました。

ですが、4月から受け始めた合判模試で、思うような結果が出ず、だんだんと復習に身が入るようになっていきました。

また夏休みの週間テストでの順位発表に対しても危機感を抱き、勉強への集中力があがっていったように思います。

【志望校選定】

5年の時からダンスが盛んな富士見中学を第一志望として考えていましたが、6年夏にやっぱり共学も気になる！と言い出し、そこから慌てて調べました。それまでは、志望校がぶれずに定まっていたこともあり、また万が一の時は公立も視野に入れていたので、あまり多くの学校を見ていませんでした。そこで夏休み以降見学や説明会に行けるところに親子で行き、良し悪しをたくさん話し合いました。

6年秋の文化祭時期に、もう富士見の良さは充分わかっていたので、私は富士見の文化祭に行く時間は勉強にあてた方がいいのではと思ったのですが、本人の強い希望で最後に見に行くことにしました。結局そこで、やはりここに通いたい！という思いを再認識し、最終的な第一志望に決定しました。

その後、埼玉受験の日程が近づき、出願をする直前、私が2月受験の練習に考えていた埼玉受験が、本人の中では埼玉校も合格をもらえたら通う！公立は考えていない！という強い思いがあると知りました。

だったら、埼玉の本命校、滑り止め校があった方がいいのではとやみくもに調べ、過去問を買って取り組んでみたものの、偏差値だけでは測れない過去問との相性の良し悪しがありました。

結局決めきれなくなってしまう、すであれこれ出願した後でしたが、ふんちゃん先生に電話で相談し、やはり星野学園にしぼって取り組むという形に定めることが出来ました。また過去問をやっている相性の良かった西武文理も受験することに決めました。

2月に向けては、1月に右往左往したことによる学びもあり、ぶれることなく富士見第一で進めることが出来ました。

【受験期1月】

娘は学校が大好きで以前から、冬休み明けも学校は行きたいと話していたのに、いざそのときになると余裕がなくなり、学校は行かない！勉強する！と頑なになってしまいました。このままでは張り詰めた糸が切れてしまうのではと心配で、登校を何度か促しましたが、答えは一つ、行かない！でした。学校の担任の先生に相談をしたら定期的にお手紙をくれるようになり、それにお返事を書いたりして、気持ちに勉強以外の隙間を作ることができ、メンタルを保つことができたのかなと思います。

それでも星野学園受験前日は、塾で食べるお弁当をほとんど食べられず、夜もなかなか寝付けず、このままでは本領発揮出来ないのでは、ととても心配でした。当日、顔面蒼白な娘でしたが、少しでもリラックス出来るようにと会場に入る前に好きなYouTubeを少しだけ見せてあげたら、ほんの少し生気を取り戻したよう

に思います。午前、午後と星野学園を受験し、終わった後は出来たような気がするけどわからない…と不安でいっぱいな顔をしていましたが、午前午後ともに進学クラスで合格をいただけました。

2日後西武文理受験日は、星野よりも緊張する！と言っていました、1回目よりは気持ちが前向きに見えました。結果は合格。両校に合格をいただけ、あとはひたすら第一志望の富士見と、2/1 午後に併願受験する大妻中野のことを考えて進めました。

【受験期2月】

富士見は4科3回、算数1科1回と4回チャンスがあります。

娘(と主人も)は1番得意だった算数での勝負を最後まで視野に入れ、過去問に取り組んでいました。算数1科の問題は難しくも面白いようでわからない問題は個別でお世話になっている新本先生に聞いたりしていました。

そんな矢先、1/30に家族が新型コロナウイルスに感染してしまいました。娘は部屋に籠りきりでほとんど接触はしていなかったものの、万が一感染で受験できないということはどうしても避けたかったので、近所に住む祖父母の家に避難しました。

そのときはもはや最後の追い込みどころではなく、元気に受験会場に行ければ！！と、それだけを願っていました。

そんな中迎えた2/1は、待ちに待った決戦の日！というように今までで1番明るく前向きな状態に見えました。でもテスト後は、理科で出た電気回路の出来が不安なこと、苦手な国語の中で満点をとっておきたい漢字にいくつか失点がわかったことで、少し気持ちが沈んでいましたが、合間の時間にソフトクリームを食べ、笑顔を取り戻し、なんとか気持ちを切り替え大妻中野に向かいました。

結果は、富士見は不合格、大妻中野は合格でした。悔しさを滲ませていましたが、ここは前に進みたいところ、ふんちゃん先生に報告すると同時に勇気ももらって、気持ちを切り替え早く寝ました。

2日目は、富士見の午前4科、午後1科です。午後の算数を終えた後、出来た気がする！！と手応えを感じており、会った瞬間の顔つきが違いました。結果は算数1科で合格！家族で抱き合って喜びました！

【最後に】

アントレでの2年と数ヶ月で、本当に大きく大きく成長したと思います。目標を考え決定し、そこに向かって長きにわたって続けた努力、ときにいくつかの犠牲を払いつつも進み続けたことは、間違いなく今後の糧になったと感じています。一緒に切磋琢磨した友達と出会えたことも大きな宝物になったと思います。

ここは中学受験のゴールとともに新たなスタート地点、次のステップでは陰ながら支えていきたいと思っています。

アントレの諸先生方、本当にありがとうございました。

小林拓登くんのお母様

我が家は新5年生になるタイミングで転塾しアントレという素敵な塾にご縁があり、無事に中学受験を乗り越えることができました。
受験勉強をしていく中で親として試行錯誤してきた経緯がどなたかのお役にたてばと思い、体験記を書かせて頂きます。

(低学年～新5年生)

息子は3年生より大手塾で学んでいました。低学年の頃から算数がとても好きで、国語はあまり興味が無いという様子でした。

大手塾では毎週、週テストが実施され5週に1度の組分けテストがあり、そのために学習しているのかなと思うほどテストにおわれている感覚がありました。

1年程、塾生活をしていく中で、このままだと親子共々、最後までたないのでは？と思うようになっていきました。

また、厳しい指導がされていた教科もあったのか息子は通塾を嫌がるようになったため、これは…と思い、転塾を考え、アントレの門をたたきました。

早速フンちゃんに面談をして頂き息子の現状をお伝えしました。

フンちゃんは全て受け入れて下さるような器の大きい方なので安心感を抱いたことを鮮明に覚えています。体験授業を受けて、息子は楽しかったと意見したため、アントレに入塾させて頂くことになりました。

Sクラスからスタートで、カッシーの授業を初めて受けた日、「白板が書けないところがあった」と息子が言いました。親は(どうやって復習したらいいのだろう?)と戸惑いました。

次の週にはコロナが流行していた時期にあったためZoom授業になりました。カッシーの授業を私も少し拝見したところ、(1.5倍速かしら?)と思うようなスピードで驚いた記憶があります。白板レベルも高く、慣れるまで1か月程かかったように思います。

少しずつアントレに慣れてからは、息子は受験が終わるまで本当に楽しく通わせて頂いたようです。

振り返ってみると、長いようであるという間の受験生活だった気がします。5年生の頃は、算数が重要単元が盛りだくさんで他教科も同様ですが、予習をこなすのに一生懸命でした。算数は父親と予習、他教科は私とやったり、一人でやったりという進め方でしたが、算数で5時間程時間がかかることもあり、他教科はおろそかになりがちでした。算数は好きで、理解が早かったと思いますが、他教科で特に理科は予習シリーズの解説が子供に難しいと感じていました。各教科、毎週新しい単元が目白押しで、中学受験を経験していない私は驚くことが多かったです。5年生のカリキュラムの流れにただのせていく事だけのフォローになっていたかと思います。

(6年生前半～夏休み)

いよいよ6年生になると、合不合の模試がスタートしました。算数は好調でしたが、他教科は歯が立たず…理科と社会は、すっかりこれまで学習した内容を忘れてしまっていたようです。復習をしていなかったため、忘れてしまっていたのは当たり前だと反省しました。

受験生と言われる学年になったので、さすがにそろそろスイッチが入るか…と思いきや春から夏まではまだ遊びたい気持ちが強く、真剣にやったりやらなかったりとムラがありました。

そんな息子の様子に悩んでいた頃、私の父が地方からこちらに引っ越して来ることになりました。父に相談したところ、週に2回我が家で勉強会のようなものを行うことになりました。結局、勉強会は4月～7月まで続けていました。息子は1人で勉強するより、皆で競って進めることを好んだため、祖父、母、息子3人で理科、社会の学習を楽しく進め、復習に力を入れ始めました。息子はクイズやゲームが好きなので、ポイント制を取り入れ、表を作り、計画したことが実行できたらポイントをゲット！3000ポイント貯まるとゲームカードと交換できるという仕組みをつくりました。この頃からは、ゲームとテレビを封印し出来るだけ学習に集中できる環境をつくるように心がけました。

また、新6年生になった時、カッシーから「これから受験までに算数は3000問くらい問題を解くといいね!」と言われたようで、こちらも、1日何問解いたか数え、表をつくり、やる気につながっていました。受験前日まで続けましたが

1年間で5284問の問題を解いたようです。

改めて中学受験の学習の分量の多さに驚きました。

6年の夏期講習は、1日中勉強する環境だったと思いますが、息子はずっと勉強し続けることが難しかったため講習の合間にはバッティングセンターに行ったり、家族で外食したり息抜きも大切にしました。また、1泊2日で埼玉旅行に行きました。旅行とは言っても旅先で第1志望校の過去問を解いたり、半分、勉強合宿も兼ねたような感じになってしまいました。ホテルで子供と一緒に過去問を解くことなど今後はないかも知れないと思い、良い思い出になりました。

ホテルではプールにも入り、本当に楽しかったようで「もう帰るの？」と涙ぐんでいた様子を忘れられません。

小学生でここまで学習量を強いること、親として葛藤した事は1度や2度ではありませんでした。

(6年後半)

しかし、9月頃から入試演習が始まり息子が少しずつ変わったように思います。自宅でも、過去問を解くという実践的な学習にシフトしたからかも知れませんが、目的意識が芽生えたように思いました。特に11月のカッシーとの生徒面談で、第1志望校の合格可能性が充分、姿勢が素晴らしいとほめて頂き、カッシー直筆のメモを頂いてから息子は自信に繋がったようです。また、金曜日の算数プリントで全て○になった時は、先生にジュースをおごって頂けるというご褒美があったので、息子は張り切っていました。

タケノコにジュースを買って頂けるなんて…何度かジュースをゲットし、息子は大変喜んでいました。

(志望校について)

志望校は①通学しやすい学校 ②息子が6年間楽しんで通える明るい雰囲気のある学校 ③まわりに影響を受けやすい性格なので、ある程度の学習を管理して頂ける学校

を中心に考えていました。15から20校ほど説明会に参加しましたが、我が家は息子に合いそうな開智所沢、本郷2校にしぼって対策を進めていきました。

息子は5年生の頃、本郷を気に入った様子でした。お兄さん達が部活を楽しんでいること、ニコニコしていること、生徒だけで行う説明会でとても親切に対応して頂いたことから、本郷中学を第1志望にしたいと思うようになっていきました。

(6年後半～直前期)

夏休みに第1志望校の過去問を解くように指示があるため、そこから過去問を解く日々が始まります。最初は、50分×2教科、集中して解くことで疲れることもあり、4教科がなかなか出来ないこともありました。また、直しも1教科に40分～1時間程かかることもあり、過去問1年分を仕上げることはなかなか時間がかかると実感することになります。が、3回ほど解くと少しずつ慣れていったように思います。

息子は一緒に競って解くことを好むため、算数以外の教科は私も一緒に「よーいドン！」で解くようにしていました。もちろん、親の方が分からない問題も出てくるのですが…交換採点をしたり、お互いに改善した方が良い点を話し合ったり、一緒に資料を調べてみたりと時間はかかりましたが、とても楽しい時間を共有できたように思います。

また、小学生がいかに難しい問題にチャレンジしているかということを日々痛感していました。

冬休みが終わり、1月に入るといよいよ直前期になります。ここから息子はとても集中して問題を解いていたように思います。

私の父も過去問で何が出题されたかを分析し一覧表にしてくれたり、本郷の社会の予想問題を作ってくれていました。母親も心配事が増える時期だったため、父と連絡を取り合うことは心のゆとりになっていたように思います。

直前期は弱点補強、基本の確認、志望校で頻出の単元を中心になるべく1教科のみに偏りがないよう時間配分していました。

過去問は本郷18回～20回分、開智は7回分取り組みました。

開智は算数特待の過去問が問題集になかったため説明会で購入しました。

(埼玉受験)

1/10 午前 開智所沢 (1回目) →合格

1/12 午前 開智所沢 (特待B) →A特待合格 午後 開智所沢 (算数特待) →A特待合格

(東京受験)

2/1 午前 本郷 (1回目) →不合格

2/2 午前 本郷 (2回目) →不合格

本郷は2/5もチャンスはありましたし、出願はしていたのですが、1回目、2回目と受験をし、息子の中で気持ちが切り替わったようです。父親とお風呂に入っている時に、息子が「本郷は憧れの学校だったけ

ど、試験を受けてみて分かった！俺は開智が合っている。問題を解いていて楽しかったんだ。だから、5日は受けない」と言ったようです。

開智（岩槻・本学）の文化祭に行った時の雰囲気、入試本番の先生方や生徒さんの親切な様子から家族で開智中学をととても気に入っていたので、所沢なら通いやすいし第1志望でもいいねと話をしていたことから「それなら、開智所沢に進学を決めようか」と家族で話をしました。

翌日、家族3人でアントレに向かい、カッシーにそのことをお話させて頂きました。

「5日の本郷を受けないと決めることは、難しい判断だったと思います。開智所沢は第1期生になるし、力を入れてくれると思うからきっと良い学校だと思うし、拓登は少し不器用なところがあるけれど、伸びていくと思います。」と背中を押して下さいました。

我が家は、カッシー、タケノコ、ラクダ、ダンディーに面談をして頂いたことがあります。アントレの先生方は皆、家庭の意見を尊重して下さい、生徒の特徴をよく見て下さっていると感じていました。大変有難かったです。

そして、個別の長澤先生、小川先生に本当にお世話になりました。心配性の母は、個別の前後にご相談させて頂く機会が多かったのですが冷静で、適切なアドバイスをいつも頂戴し、励まして下さいました。

大学生のお兄さん、お姉さんと接する機会は普通の小学生ですとなかなかないことですので、息子はきっと学ぶことが多かったのではないのでしょうか。

受験から、1週間程経って落ち着いた頃、

「3、4年生に戻れるとしたら、中学受験はする？」と息子に聞いてみました。

「するに決まってるじゃん！家族でもめたこともあったけど、一緒にあれこれ考えて勉強するのが楽しかった！

アントレも楽しかった！」と言いました。

その言葉で、（あ～本当にアントレで良かった!!）と思いました。

アントレの先生方、個別の先生方、アントレのお友達がいて下さり、サポートして頂ける環境があることに大変感謝しております。

本当にありがとうございました。

佐伯尚真くんのお母様

3年生の春。

早大のグラウンド横を散歩していた時でした。「ここに行きたい。」という一言から受験が始まりました。

1. 結果

1月25日	立教新座	×不合格
2月1日	本郷	○合格 ※進学
2月2日	城北 第2回	出願せず

2. アントレ

長男（現高1）の受験の塾探しの際に評判を聞き、説明会に参加して即決。長男が5年生の夏休みまで通いましたが、サッカーで生きていく！と決めた長男は退塾しました。すごくいい塾だったため次男の尚真も迷わず通いました。

長男が通っていたため、わかってはいましたが、しんどかったです。

↓ 予習型であり親のサポートが必須です。

↓ かつて私自身の受験の時は、復習型の「行かせておけばいい」塾に通っていたため、勝手がわからず、

↓ 家族総出でがんばった受験でした。

しかし、です。

アントレの先生方のサポートは完璧です。

- ・定期的に保護者説明会があり、そこで家庭学習方法を確り指導してもらえます。目的と手段、心構えを明確にしてくれます。不明点や不安点は随時の個人面談で気軽に相談でき一掃できます。
- ・テスト結果は単元別に分析した資料を配布してもえるので、弱点がわかります。
- ・受験初体験の親でもまずはそれに従って始めて、そこからアレンジしながら勉強を進められます。
- ・何よりも息子が楽しく通っていました。帰宅後は塾での話を楽しそうにたくさんしてくれました。だからがんばれたのだと思います。本当に感謝しかありません。ありがとうございました。

3. 志望校決定まで。

尚真も長男と同様にサッカーをしていましたが、6年生になってすぐに休部して受験に専念しました。

息子はSクラスでしたが、中の下の位置でした。

正直伸び悩んでいました。まとめテストも合否判定もよくもなく悪くもなく。

(1) 当初、第一志望は、【早大院】 →断念

先生の「10月末まで過去問の結果で検討しましょう。」とのアドバイスでがんばりましたが、過去問の結果が思うほど伸びず、再度面談で相談しました。「まったく届かないレベルではない。せっかくSクラスで頑張っているのだから挑戦してほしい。」とアドバイスをもらいました。本人に相談したところ、本人の中で本郷の存在が大きくなっていったこと。Sクラスの中での自身の位置から早大院のレベルには達していない。との判断があり断念しました。何が何でも早大院という強い気持ちがなかったのかもしれません。

過去問結果	2023	2022	2021	2020	2019	2018	2017	2016	2015
1回	落	落	合	落	落	合	落	落	合

(2) 当初、第二志望は、【明大明治】 →回避

過去問の結果は、得意の「よくもなく悪くもなく。」でした。合格しても合格最低点の点数上。

特に国語が長文で苦手（時間配分も難しく）でした。危険水域でした。

息子が魅力を感じず「行きたい。」とは言わず、これではがんばれないと思い10月末に断念しました。

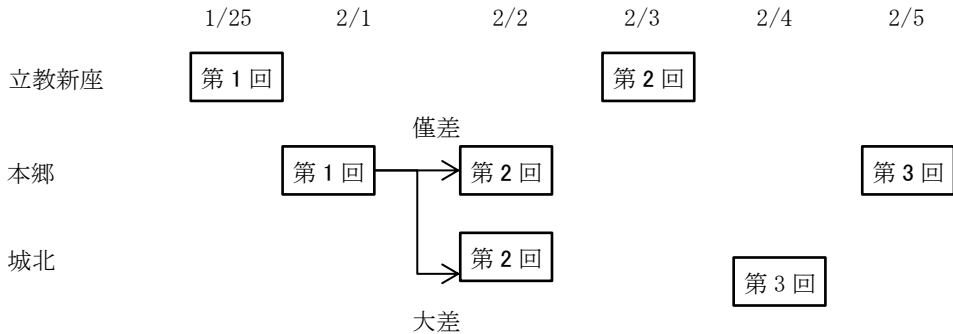
（通学時間が長く、しかもバス通学であることも理由です。）

過去問結果	2023	2022	2021	2020	2019
1回	落	落	合	合	合
1回(二巡目)	合	合			

(3) 志望校決定

いま思い返すと、息子には申し訳ない危険な方針でした。反省です。

偏差値が近似な3校となり、本郷第1回の結果（合格最低点との差）により、本郷第2回か、城北第2回を選定する方針としました。



①第一志望は、【 本郷 】

学校説明会後に、息子が「ここ行きたい！僕に合っている！」とキラキラ言ったから。それが理由です。正門を入るとすぐに人工芝が広がり、ここでのサッカーを思い描けたからだと思います。

後は邁進のみです。

基本問題がベースで平均点が高いため、取りこぼしできず、ひたすら基本をがんばりました。

算数は苦手な図形（平面、立体）、規則性・場合は、別参考書を購入して3巡しました。だったらついでにと、文章題（特殊算）も別参考書でひたすら基本特訓しました。

②第二志望は、【 立教新座 】

中学でサッカーを続けたい、グラウンドも広くすばらしい、附属であればある程度のびのび学校生活を送れることから、本郷直前の試し受験もできるため、第二志望としました。

③第三志望は、【 城北 】

ここも学校説明会後に、息子が「行きたい。」と言った学校でした。

しかし本郷ほどキラキラしておらず、第三志望としました。

問題傾向も本郷と似ていると判断し、本郷の勉強の延長を対策としました。本郷に全力投球したため、過去問も第2回のみにと絞り、実施回数も不足している状況でした。

4. 入試結果

(1) 1月25日 立教新座 ×不合格

正直、落ちるとは思いませんでした。息子も試験後に「受かった！」とテンションマックスでした。お昼に食べたラーメンは近年で一番美味しかったのに。

過去問の成績はよかったです。

過去問結果	2023	2022	2021	2020	2019	2018	2017	2016
1回	落	合	合	合	合	合	合	合
1回(二巡)	合	合	合	合	合			
1回(三巡)	合	合	合	合				

過去問の傾向分析、結果分析をまったくしておらず、私の責任を痛感し申し訳ない気持ちです。

先生の言う通り、上記分析をして間違った問題に関しては、その周辺の勉強を確り復習していれば違った結果が出たと思います。

息子もショックのようでしたが、結果を先生に電話報告したところ「残念だったけど本番は2/1だから、切り替えて！」と言ってもらえ、単純な息子は、すぐに気持ちが切り替わり、勉強をはじめました。

先生、偉大です。

(2) 2月1日 本郷 ○合格

立教新座の不合格から1週間は、朝5:30~20:30(21:00就寝)までの勉強で最後の踏ん張りを見せてくれました。本郷1本に絞っていたため、ここで合格しなければという焦りも与えてしまいましたが、よく冷静に受験してくれたと感心しています。

過去問の結果もよく、自信がついたことが大きかったのではないかと思います。

過去問結果	2023	2022	2021	2020	2019	2018	2017	2016	2015	2014	2013
1回	合	落	合	合	合	合	合	合	合	落	合
1回(二巡)	合	合	落	合	合	合	合	合	合	合	/
1回(三巡)	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	/
1回(四巡)	合	合	/	/	/	/	/	/	/	/	/
2回	落	落	/	/	/	/	/	/	/	/	/

苦勞した点

早めに、字を丁寧に書かせるよう取り組んだ方がいいです。

社会は漢字指定、「とめ・はね・はらい」を厳密に採点する本郷(明大明治も。)では苦勞しました。

親が厳しく採点(老眼なのに。)して、繰り返し指摘して、ようやく間に合いました。

5. 最後に

受験スタートからの約3年間あつという間だったような長かったようなそんな気持ちです。最初の2年間はサッカーとの同時進行だったため大変だったと思いますが、アントレの授業がとても楽しかったようで一度も弱音を吐くことなく頑張ることが出来ました。

先生との面談では、現状の確認と今後の方針をしっかりと伝えていただけたため、親としてもぶれずに受験にのぞむことが出来ました。ありがとうございました。

この3年間は尚真にとっても私たち親にとっても振り返った時にあの時頑張れたのだから今回も大丈夫と思えるような、今後の糧になる大切な3年間となりました。

本当にありがとうございました。

佐藤万哩くんのお母様

【入塾まで】

アントレには新4年生からお世話になりました。

万哩は、地元の公立の小学校に合わず、小学校1年生の時に転校しました。通学時間は1時間ほどでした。中学校がない私立小学校の為、中学受験が普通の環境だったこと、公立の中学校には行きたくない、という本人の意思で始めました。

塾選びも大手の塾は合わないだろう、地元の子達が通う塾は難しいだろう、と思っていました。そんな時、知り合いのお母さまより、甥・姪が以前に通っていた塾で、その子たちが中学受験をもう一回してもよいと言うような、いい塾があると聞き、体験授業を受けさせていただき、万哩も気に入って入塾しました。

【性格】

- ・好き嫌いがはっきりしている。
- ・先入観で色々なことを判断しやすい。
- ・集中力はあるが、持続しない。
- ・面倒くさがり屋で、努力は最小限にしたい。
- ・興味がある事には熱中する。

【習い事】

- ・スイミング→小1～小3 週1回
- ・テニス→ 3歳～小6の9月まで（小2～小5 冬まで週5回の選手コース）
万哩にとっては運動がよいストレス発散になりました。

【小4】

- ・Sクラスで、国・算のみ、理社は季節講習のみでした。
夏期講習で、やはり理社も少しやっておいた方がよいと感じ、後期は受講しました。
- ・初めてのことが得意でないタイプなので、シリーズ解説に通っていました。
→小5の5月まで。やり方がわかったのか、その後は自分でやっていました。
- ・4年生前期の算数は、平均点を大きく下回っていました。
夏休みに、今までやった白板+宿プリを3周しました。
→後期から、平均点はとれるようになってきました。少し自信がついたようです。

【小5】

- ・Sクラスで国・算・理・社を受講。理社は、時々、Aクラスになることもありました。
- ・お楽しみ（ゲームでもテレビでも、好きなこと）は1週間に1時間、やることをやったら・・・という約束でやっていました。
- ・土曜日にその週の復習（宿プリ）+算数の予習
日曜日に算数の予習（最難関）、理社予習
- ・夏休み、春休みには、4年生からの白板+宿プリを周回しました。

【小6】

- ・6年生になり、計算ミスが多い、理社の知識が弱いという本人の課題がよく見えるようになりました。
計算ミス→対処方法はわからずに終わってしまいましたが、テストの緊張感からか、年末頃から少し減りました。
理社の知識→学校にもコアプラスを持って行って、空き時間にもやっていました。
3周には満たなかったようです。
- ・1月は登校予定でしたが、過去問が終わらず、また、理社の知識が足りなかった為、全部休みました。
大体、1日目は 午前中 過去問 / 午後 解きなおし
2日目は、足りない理社や算数の演習等をする
を繰り返していました。
夜に家族で30分程、ランニング（ウォーキング？）しました。
休憩時間は主に、読書していました。（妹の「かいけつゾロリ」まで読んでいました（笑））
- ・勉強量はあまり変わらないのですが、ゲームをやりすぎ、自分に甘くなるとテストの結果が悪くなる傾向がありました。

→ゲームをやめてみると成績が上がり、調子に乗ってゲームをすると成績が下がるという事を繰り返して、自分で気づいて、6月よりゲームを断ちました。
1月3日からはTVを断ちました。

【受験スケジュール】

全日程を通して、見送りをして、迎えは来なくてよいとの事で、私は、昼食がとれる近くの繁華街で待っていました。

1/10 栄東中学 A日程 →東大クラス合格

1月に入って、過去問2年分→合格点(2回)

当日は緊張した様子もなく向かいました。

私は、一旦、大宮駅に向かいましたが、埼玉校の初日ということで、大宮駅のありとあらゆる喫茶店、漫画喫茶等は満席でしたので、もし大宮駅で...とお考えでしたら、予約をされることをおすすめします。

1/12 栄東中学 東大特待 → 1年特待合格

1月に入って、過去問1年分→合格点

こちらも緊張はなかったようです。

1/22 渋谷教育学園幕張中学校 → 合格

12月~1月に、過去問3年分→合格点(3回)

集合時間が早かったので、前泊しました。

7時過ぎまでゆっくりできて、とてもよかったです。

当日の試験終了後より、胃腸炎(ノロウイルス?)にかかりました。

ギリギリ間に合って(?)よかったです。

2/1 武蔵中学 → 合格

武蔵算数、武蔵演習を受講

過去問は1回しか解けませんでした。

8月に解き、合格点にとどきませんでした。(-15点)

武蔵演習では、1回不合格点でしたが、その他は合格点でした。

2/2 聖光学院 → 不合格

過去問を10回分→1月の最後の最後にやっと合格点にとどきました。(1回)

1問1問の配点が高く、国語の知識が苦手な万理は、そこで20点落としたり、理社の知識部分も足をひっぱり、積み重ねの勉強の大事さに気付いたようです。

2/3 筑波大学附属駒場中学 → 不合格

過去問10年分+2周目 3回

自信をつけるため、初めは内申点を100点としました。

6回目頃から、内申点80点で計算し、合格点も何度かとれました。

過去問では、毎回、詩が出題されていたので、詩集に目をおしたり、灘の詩の問題を解いたりしましたが、今年はお題されませんでした。

2/4 聖光学院 2回目 → 不合格

手ごたえはあったようですが、ご縁はいただけませんでした。

【健康管理について】

- ・12月頃から、朝食のお茶や、水筒の中身は緑茶にしました。
- ・インフルエンザの予防として、予防接種、漢方の「板藍根(ばんらんこん)」（健康食品）を飲んでいました。
- ・1月の最終週くらいから
マヌカハニーの飴を1日1粒(ハニードロップレット マヌカハニーUMF15+)と、葛根湯を飲んでいました。
- ・睡眠時間は、本人が1日9時間死守と言って、早寝していました。

【最後に】

受験を通して、自分の弱さに気づけたこと、それに向き合えたことで、本当に成長できたと思います。チャレンジして叶わなかった学校にも挑戦したことで、たくさんの事を得ることができました。全て、アントレがあっこそ、と大変感謝しています。アントレの先生方、個別の先生方、塾と一緒に戦い抜いたお友達、本当にありがとうございました。また、これから中学受験される皆さま、心より応援しております！

篠田愉滉くんのお母様

<アントレ入塾>

息子より1学年上のお母様に紹介されたのがきっかけで、入塾しました。息子も楽しく通塾し、何より私がふんちゃんのお話を伺いたくて、保護者会を楽しみにしていました。予習どころか、勉強の習慣もなかった息子は、最初のうちは戸惑っていた様子でした。白板は、週末主人がみていましたが、あまりの集中力のなさに、5年の途中からシリーズ予習のクラスをとることにしました。

白板の文字もかなり雑で汚く、親が読めないのはもちろんのこと、書いた本人も読めない文字もありました。答えができればOK!っという、先生方に一番嫌われるようなノートを取り、文字も汚い、昨日解けたはずの問題が今日は解けない。なぜ???っということがたびたび重なり、受験を諦めたほうがいいのではないかとすることもありました。

受験やめないでっと思いながらも、「もう受検やめたら?」と恐る恐る聞いたこともありましたが、「受験はしたい」と答える息子を信じて、3年間お世話になりました。

<学校選び>

息子は、6年生の夏の大会まで、サッカーを続けていました。親としては、中学・高校6年間大好きなサッカーを続けられる、環境の整った男子校がいいと考えていました。地元の公立中学校にはサッカー部がなく、サッカー部に入りたかった息子は、中学受験はあっさり受け入れたものの、肝心の勉強は嫌がるばかりで、志望校が決められずに苦労しました。

親子ともに、成城中学校を目指しましたが、過去問を2年分やったところで、「国語が全然できない、読めない」と訴える息子。国語だけではなく、それ以外の教科も息子には厳しいように感じたので、ここで無理に頑張らせるよりは、力量にあった学校を選ぼうと、「私立中学校 人工芝」でのリサーチが始まりました。

サッカーの強豪校は、部員数も多く、高校からのスポーツ推薦枠があり、レギュラーになれる確率も少ないため、楽しくサッカーを考えると息子には向いていない気がしました。息子に、男子校とグラウンド、優先順位をつけるとしたら?と聞いてみると「グラウンド」と迷わず答えたので、男子校は諦めて、第一志望日本大学第二中学校に決めました。

<自宅学習>

自分から進んで勉強する様子はほとんどなかったです。ただ、9月からは6時起床を心掛け、朝のうちに1行問題と、漢字知識を毎日続けました。集中力を高めるために、「100円チャレンジ」と名付けて、全問正解できたら100円もらえるシステムも導入してみました。とにかく、式を丁寧に書くことを徹底させたかったのですが、結局最後の最後まで難しかったです。

ゲームはしばらく我慢していたのですが、ストレスも増え、過去問の成績もなかなか上がらなかったため、土用演習で合格に名前がでたらゲームが30分できるご褒美を与えました。コツコツ点数をとることの重要性がようやくわかったのか、計算ミスが少しずつ減ってきて、合格に名前も載りはじめました。

<塾のクラス>

息子は、Bクラスで勉強していましたが、後期に入り、クラスの算数の復習に手が回らず、授業中も理解に苦労する場面が多かったようで、水曜日だけクラスの授業はやめて、個別で2コマお願いしました。過去問のわからない問題、物理や化学の計算問題など、質問をまとめておいて、先生にみていただきました。国語も細かく記述のポイントを習って、的外れな解答が減ってきました。

大学生の先生に、大学の話を聞いたり、受験体験談を聞いたり、息子にとってはよい機会だったと思います。緊張もなく、甘えてしまっていた面もあったかと思いますが、メリハリがついたように感じます。

<いよいよ受験>

1月からの埼玉受験に備えて、3学期は始業式1/9と、1/10の受験日は小学校をお休みしました。埼玉の学校は、自宅から通いづらかったため、取り急ぎ受験に慣れておくこと、試験会場が大宮の駿台予備校ということで、城西川越中学校を受験しました。自信もあったようですが、合格いただいて、安心したのを覚えています。

2月からの受験に備えて、1/22から受験が終わるまで、小学校はお休みしました。この10日間で一番勉強したと息子は話していました。過去問の傾向から、単元を絞って4まを繰り返し解き、問題傾向が似ている、明大中野の国語の過去問に取り組みました。

- 1日 AM 日大二中 4科 朝 zoom 応援 不合格
- 1日 PM 東京電機大中学校 1科受検(算数) 不合格

- 2日 PM 京華中学校 一貫4科 特別選抜で合格
- 3日 AM 日大二中 4科 朝 zoom 応援 合格

1 回目の日大二中、自信ある！と、本当に余裕たっぷりの表情で試験会場から出てきました。これを真に受けていいのか、親としては考えるところでした。発表を楽しみに待っていた息子は、不合格の画面に相当沈み、明日の受験も心配になるほどの落ち込みようでした。すぐにアントレに電話して、先生方に励ましていただき、2日 AM は、東京電機大中学校受験予定でしたが、本人の希望で、午前の受験はやめて、午後の京華中学校に専念することにしました。午前中は昨日の日大二中の算数を解き直して、過去問を解きました。

京華中学校で特選合格いただけただけなので、気持ちが楽になったようでした。緊張もしていたようですが、2回目の日大二中で合格いただき、息子の中学校受験は終了しました。

<最後に>

先生方には、大変お世話になりました。3年間嫌がることなく、アントレに通えたのは、先生方のサポートのおかげだと思っています。3日の合格発表の後、息子が「中学受験してよかった」と言ってくれました。サッカーと勉強、楽しい仲間と中学校生活を思いっきり楽しんでほしいと思っています。

島田咲良さんのお母様

【2月校全部落ちた・・・】

●1月10日 開智所沢 <第3希望>

出願開始後すぐに所沢、川口、大宮の会場はすぐに埋まった模様。完全にタイミングを逃した娘の受験会場は岩槻本校となった。朝5時半、日が昇らない早朝出発。埼京線の車窓から朝陽を拝む。終了後、「落ちたと思う。」という娘。手ごたえはなかった様子。複数回受験を覚悟し、スケジュールを調整した。

●1月11日 星野学園 理数選抜 <第4希望>

昨日に続き埼京線で大宮へ。娘と笑顔で別れ、10時に開智所沢の発表を待つべく、大宮駅近隣で待機。そして10時・・・。サイトは案の定、アクセス中・・・。すると主人から先に「**咲良！開智合格おめでとう！**」の家族グループLINEが光った。開智所沢合格！

合格最低点167点、娘の得点は176点。午後の星野学園の進学クラスは受験せずに元気に帰路へ。

「理科の計算が全部できた。」という娘。そして19時・・・。合格発表サイトをクリック。「**理数選抜クラス 合格おめでとうございます。**」の文字。星野学園 理数選抜 合格！

——こうして1月の受験は終了、いざ2月の攻めの受験へ。

●2月1日 富士見中学校 <第2希望>

第2希望とはいえ、受験勉強を始めた頃からたくさん足を運び、目標としていた富士見。幸先よく、合格を手に入れたところだ。ここ近年はどの教科もリード文のボリュームが増し、考えさせる探究型の出題傾向になっていることは知っていた。難易度も上がっている。合格者最低点を上回ったのはたったの3回。1月に-40点も叩き出している。不安感は拭えないまま、当日を迎えた。娘は「楽しみ。」とのこと。1月は学校を休み、体力的にも精神的にも受験勉強の疲れが限界にきていた。終了後、「多分落ちた」と娘。そして19時。娘の受験番号・・・なし。富士見1日目不合格。

●2月2日 富士見中学校 <第2希望>

「また昨日と同じで問題が解けなかったらどうしよう・・・」と娘。「昨日はたまたま問題の相性が合わなかっただけだよ。」と声をかける。正直不安は残る。終了後、言葉数が明らかに少ない娘。どうやら、今日も手ごたえがなかったらしい。19時までの時間が果てしなく長く感じる。もし不合格だったら、明日の富士見の受験を辞め、第一希望の大妻に切り替えるべきか、大妻の方がもしかしたら今年の問題の相性が良いのではないか。夫婦で相談が始まった。娘はすでにすっかり自信を無くしてしまっている。そして、迎えた19時。娘の受験番号・・・なし。富士見2日目不合格。

明日の出願をしなければならぬ。富士見は複数回受験の優遇もある。どうしよう。これまで、“富士見の合格がもらえたら大妻を受けよう”と親子で約束してきた。初心に戻り、富士見へ出願手続きをした。

●2月3日 富士見中学校 <第2希望>

不合格の連続は、私たち親子に予想以上のダメージを与えた。想定していなかったわけではない。だが、心のどこかで、“富士見の合格を手にし、大妻の受験に向かっている”朝を想像していたのかもしれない。保護者会でフンちゃんがおっしゃっていた「合格・不合格、半々くらいがよい」という言葉を思い出す。そうだ、不合格は娘にとって貴重な経験になっているのである。アントレのzoom応援は入試に向かう娘を勇気づけてくれた。画面には万遍の笑みのフンちゃん。「落ち着いてね、大丈夫、大丈夫。」の温かい言葉に親子で救われた。終了後、1・2日目に比べ、やり切った表情の娘。そして19時。3日目は募集人数が少ないことは承知の上だ。「ママ見て。」と娘。合格発表のサイトをクリックする手が震える。娘の番号・・・なし。富士見3日目不合格。シクシク泣く娘を3日連続で見ることほど辛いことはない。

●2月4日 フンちゃんの特別講義 <受験校なし>

不合格3連続。ついに娘に口内炎ができた。フンちゃんのご厚意により、明日の大妻対策をしていただくことになった。「アントレまで一緒に行って」と娘。これまで一人で電車に乗り、アントレまで通った2年間。たくましい娘だった。娘と一緒にひばりが丘に向かう。考えてみれば、「もう受験なんて辞める。どうせ受からないもん。」と投げ出してもおかしくない状況である。しかし、娘は果敢にチャレンジしようとしている。明日の大妻合格をいただけるかと信じて・・・。

●2月5日 大妻中学校 <第一希望>

長かった5日間。もう、後がない。やれることはやった。近所の神社にも何度もお参りに行ったし、湯島天神で絵馬も書いた。だが、神様よりもご利益があったのは5日のzoom応援かもしれない。アントレの先生方(フンちゃん、カッシー、ダンディ、タケノコ、プーさん、ピーちゃん)が勢ぞろいというなんと大変豪華なシチュエーションであった。先生方のパワーをもらい、大妻中学へ。帰り道、冷たい雨が雪に変わった。もう娘からの言葉はない。19時。娘の番号・・・なし。大妻不合格。

——娘の挑戦は幕を閉じた。

ここからはスマホとの睨めっことなる。開智の受験料の支払いは10日12時である。確実に入金しなければいけない。まだ頼みの綱はある。繰り上げ合格だ。1回目のターニングポイントは6日の富士見の入金締め切りである。2回目のターニングポイントは都立大泉の合格発表後であろうか。期待とは相反し、待てど暮らせど電話は鳴らない。10日朝、もうここまでくるとスマホに着信を知らせる気配すら感じなくなったようにも感じる。主人と11時に入金の最終確認をした。11時半、開智への入学金を振り込む。

「娘の入学校が決まった」

これから6年間、開智でお世話になるのだ。1期生として、部活を立ち上げるのはどうか。生徒会で新しい取り組みもできそうである。校舎も奇麗だし、制服もイマドキのデザインだ。

開智への入金10分後の11時40分。富士見中学からの着信が来ている。震える手が止まらない。電話の向こうからは、聞き馴染みのある入試広報部の先生の声が聞こえる。

「咲良さんの、富士見中学の入試についてのご連絡です。3日目繰り上げ合格です。」

最後になりますが、アントレに2年間楽しく通わせていただき、本当にありがとうございました。不合格という大変貴重な経験ができました。1日1日を大切に、毎日の生活を噛みしめながら富士見中学校に通ってもらいたいと思っています。

慈道彩海さんのお母様

『お姫様学校行きたい！』

この一言が娘のスタートでした。中高一貫校卒だった私の学生生活を祖母から聞き、バブル期全盛当時に私立の学校に通う私たちの様子を「みんなお嬢さんだったのよ」と紹介したことから、「私もお姫様学校（←お嬢様学校のいい間違え）に行きたい！」と憧れを持ちました。本当にお嬢さんだったかは、ともあれ、六年間を伸び伸びと好きなことに取り組み、生涯の友達に恵まれた経験から、「娘にも同じような学生生活を送って欲しい」そんな私の思いもありました。

『アントレでよかった！』

アントレを選んだのは、友達からの勧めがありました。「うちの子、塾に行きたくないっていったことなかったのよ」との話や、コロナ禍でオンライン授業が続く中でも、先生方が工夫を凝らし、子どもたちが飽きずにオンライン授業に取り組めるよう工夫されていた話を聞き、楽しそうな塾であることが伝わってきました。そして私自身がそうだったように『楽しく通って、楽しく学ぶ』これを叶えてもらえそうなアントレに入塾を決めました。

アントレでの様子は娘の話から楽しいことが日々伝わってきました。ユニークな先生方の授業、友達との雑談、学年を追うごとにアントレにハマっていく娘の様子から、アントレが娘に合っていると実感しました。通塾最終日、娘は「勉強が大変な時期もあったけど、3年間すごく楽しかった！本当にアントレでよかった！！」とちょっぴり名残惜しそうに話していました。

『親の覚悟、子知らず』

中学受験をするにあたり、親としての覚悟と不安がありました。

不安①「フルタイム就業をしながら、中学受験に寄り添えるのだろうか？」

『中学受験は親子の戦い』こんなことがいわれる中、予習型のアントレで果たして毎日子どもの勉強に寄り添っていけるのだろうか？塾弁作りはどうしたらいいのだろうか？フルタイム勤務の私には不安が募りました。実際に終えてみると、『ケセラセラ（なるようになるさ）』でした。

毎日子どもの勉強している傍らにいてあげることはできませんでした。でも勉強のスケジュール管理をしたり、休みの日に予習や復習に付き合ったりは、時間の許す範囲でやりました。お弁当は朝の出勤前に作り、毎回持たせました。どちらも完璧ではなく、特に前者は全く満ち足りていなかったと思います。この点では、真面目で言われたことはこなす娘の性格に助けられていたと思います。

不安②「子どもとの関係がギクシャクしてしまったらどうしようか？」

『受験で子どもとの関係が崩れた』こんな話も本やSNSの情報から耳にしました。娘は三人兄妹の末っ子。甘えん坊でママが大好き。素直で従順。（ちょっと褒めすぎかも?!）良好に保っている親子関係を受験で壊したくないなあ・・・という思いは切実でした。テストの点で叱る、受験の過程の中で喧嘩は絶対にするまい！心に決意表明をしたものの、やはり、やる気のない態度や伸び悩みには言葉をあげずにはいられませんでした。「言いすぎた・・・」「意味ないことした・・・」とその度に自己嫌悪になることもありました。ただ、喧嘩をしても次の日にはお互いケロリとしながらも、言ったこと言われたことを反省し、穴を埋めあおうとする似たもの親子の私たちは、険悪な状態にはならず済みました。

不安③「受験直前から受験日終了まで仕事の調整をつけられるのか？」

受験直前に娘はどんな精神状態でのいるのだろうか？学校は休むのかな？親としてそばにいてあげたほうがいいのかな？受験日前から受験にかけて仕事を調整することができるのだろうか？考えても、何年も先のことは結論がでなかったの、見切り発車してしまった次第です。

『4年生は勉強の習慣づけ』

3年の冬季講習から入塾したのですが、それまで勉強系の習い事は一切していなかったため、まず割り算の壁にぶつかりました。今解いている算数の問題にくらべたら、そこ？と笑いがでてしまいそうです。私も娘のかわいい疑問をどう教えてあげたらいいのか？と、ネットや参考書で調べたりしながら、一緒に勉強して、勉強のペースを作ることを意識していきました。

一週間のスケジュールを考え、仕事に行っている間は、『今日の勉強はこれね』と課題を明確にしました。一年が終わる頃には、家庭学習と塾のペースをなんとか作ることができていたと思います。

『受験校選び』

4年の終わりから数ある学校の中から、どうやって選べばいいのかよくわからないまま、まずは親の目で候補を絞ってみようと、通学1時間圏内の学校の説明会や見学会に娘を連れずに参加してみました。いくつか参加するうちに、娘に合いそうな学校、絶対違うと思う学校の種別分けができはじめます。気になった学校には娘を連れて参加してみると、親目線でいいかも？と思う学校でも、気に入る学校とそうでない学校があり、娘の気持ちを一番に学校を絞りました。娘の希望は「セーラー服の学校」「魅力的な部活がある学校」でした。中でも私の母校には親近感をもったようで、早い段階で「ママの学校に行く！」という目標ができました。

『親の目が離れてしまった5年生』

どの教科もボリューム満点。復習と予習をこなすのがとにかく大変でした。通塾の回数や時間も伸び、家庭学習の量は増えるのに、それに裂ける時間は減る。こんな状態が一年続きました。娘は二人の兄の影響で、一年生から少年野球チームに所属。練習は土日祝、そして、練習後に野球仲間との遊びの時間を欲し、ただでさえない時間に拍車をかけました。

また、勉強のペースが掴めていたことに甘んじ、予習も復習も娘任せにしてしまうことが多くなりました。さらに、兄二人が高校受験と大学受験生という親にとっては気持ちの休まらない一年間。振り返ればそれを理由に娘のために時間を割くことからやや逃げていたのかもしれない。

勉強してないわけではないのに、娘の勉強は定着することが減り、まとめテストも授業の振り返りも伸び悩んでいました。やる気があるのかないのかもどかしい一年、出した課題以上にはやらない、量をこなすことでやった気になっている、いつになったら自分のための勉強、積極的な態度に切り替わるのどう？と、私自身の問題点は棚にあげ、娘のことを責めるようになっていた時期です。

「やる気がないなら、塾も受験もやめていいよ。」「次のテストで〇〇だったらもう塾はやめよう」こんなプレッシャーを娘にかけたこともあり、多分、受験生活の中で娘が泣いたのは、その時限りだったと思います。叱られるのが嫌だったのか、勉強が重荷だったのかわかりませんが、安全圏の学校の名前を第一志望校にあげ出したのはこの頃です。自信喪失の逃げ腰になっていたのでしょうか。

『目覚めた！6年生』

☆☆習い事との決別とやる気スイッチON☆☆

泣いても笑っても残り1年。この頃、我が家に兄の大学、高校の合格朗報が入ってきました。兄の合格を自分のことのように喜んだ娘、1年後の自分の姿を重ねたのか、頑張れば願いが叶うよい見本を目の前にして、やる気スイッチがONになったのかもしれない。

私が5年生の1年間、勉強の内容を流し見している間に、内容は格段に難しく複雑になり、6年生から算数のみ個別にお世話になることにしました。個別の先生に授業の白板やまとめテスト、合不合格判定テストでわからないところを教わるようになり、少しずつ曖昧な部分の穴埋めができるようになりました。

また、兄たちの進学先がきまり、我が家もひと段落、私の気持ちも時間も娘一点になれたことが風向きの変わるきっかけになったと思います。

少年野球の春の大会が終わるころ、野球と習い続けてきた体操に一旦区切りをつけました。名残惜しそうな姿もありつつ、自分が今やるべきことに向かう決意をしたようでした。

☆☆親子で本気の夏期講習へ☆☆

夏期講習が始まります。とにかく、勉強の管理だけではなく、予習や復習に徹底的に付き合いました。算数は四科のまとめを完璧に仕上げることを目標に、基本的な内容から見直していきました。忘れてしまったのか、わかっていなかったのか、とにかくどの教科も埋める穴が多すぎ。でもわからなかったことがわかるようになる楽しさが、娘の勉強への姿勢を明らかに変えていきました。

☆☆成果現れた！2学期☆☆

9月からは苦手意識のある理科も個別でお世話になりました。理科を理解するために、予習シリーズ以外に利用した唯一の参考書を紹介しておきます。

【実務教育出版 合格する理科の授業（地学・科学編、生物・物理編）】

たまたま書店の店頭で並んでいた本でしたが、私が読んで子どもに基本を教えるのに役に立ちました。とても分かりやすく書いてあり、本来は子どもが読む参考書なので、娘自身も疑問が浮かんだ時の補助教材程度に使っていました。

その他に「中学受験 ○○（単元の名前）」で検索すると各教科山のように現れる動画解説も折にふれて参考にしました。

娘の夏の頑張りや、合不合判定テスト、受験校レベル別の演習テスト、白板の○の数、過去問の点数など、結果として見事に現れました。結果がついてきた娘は、明らかな手ごたえを感じ、自信を土台にやる気に満ちていきました。これこそが、私の求めていた姿、頼もしくも逞しくもある娘に変身していったのです。

一方で、二学期になり、授業の復習に加え、過去問の取り組み、土曜の演習クラスの通塾、毎月の合不合判定テストと、野球にかけてきた時間を勉強にあてても時間が足りず、いままでより睡眠時間を削らざるを得なくなりました。学校も行事が続く充実期を迎え、毎日の疲れが出てきてそうだなあと見守っていました。初めてのコロナにも感染し、親としては娘の心と体のバランスを心配しました。ただ、疲れを感じながらもこの時期を乗り越えられてきたのは、野球や体操で培った体力と明らかに手応えを感じ始めたアントレでの学びがあったからでしょう。

☆☆ラストスパートと1月受験☆☆

冬季講習、入試までの1月中は基礎の復習、苦手分野の理解に焦点をあて、チャレンジ校の過去問なども取り入れました。娘の意思を尊重して、冬休み明けからは学校には通わず、家庭学習、個別、アントレの通塾に専念しました。ここにきて前から心配していた受験をするにあたっての不安③が現実化します。コロナ禍から在宅勤務が日常となった父は家の中にいましたが、直前期に娘をおいて仕事に行くことはやはり不安でした。でも、心配をよそに、娘は心のバランスを崩すことなく、本人はいたってやるべきことをこなし、時に読書をして、シンプルに過ごしていました。この時期の親子関係も娘の心もすごく穏やかで和やかな毎日を過ごすことができていました。

1月の埼玉入試は、午前、午後の入試を経験させてみるため、星野学園の進学クラスと理数選抜を掛け持ちしました。思った以上に丸一日の入試は親子共々体力勝負！ということを感じました。『合格』の知らせは、娘の感情を舞い上げさせ、いつも以上にはしゃいで合格を喜んでいる姿を見て、2月の本番もこの感情を経験させてあげたい気持ちがより強くなりました。

☆☆いよいよ本番、決戦の時☆☆

「気を抜かず走り抜けよう！」と、気合を入れなおし、入試当日まで中だるみもなく過ごしました。ただ、通塾最終日に帰宅してから数日間、なんだか娘の様子がおかしい・・・、ラストの演習テストの結果が思わしくなかったこと、塾の友達と会えなくなってしまうこと、いよいよ迫った本番に「不安」で押しつぶされそうになるのをなんとかごまかそうとしているように見えました。気分転換をさせようと、直前にも関わらずショッピングに誘ってみました。また、「緊張は受験生全員がするもの、努力してきた人ほど絶対受かりたいと思うもの、今までの力試しだと思って楽しめばいいんだよ」と、前向きになれるよう気持ちを盛り立てましたが、言っている私も「このままネガティブに当日を迎えてしまったらどうしよう」と、娘に気づかれぬように、内心はヒヤヒヤしていました。

入試前日は急遽仕事を休み、いつでも不安を受けとめてあげられるようにしましたが、前日の娘は、戦う覚悟を決めたようで「あ～、なんか楽しみ♪」とすっかり気持ちを立て直し、晴れ晴れしい顔に戻っていました。自分で自分の不安を克服した娘に、この3年間で培った逞しさを感じました。きっとこれで大丈夫！！明日は万事うまくいく！！娘の表情から、親の私が励まされたのでした。

2月1日の初戦は熱望校。ZOOM応援を心に留め、心地よい緊張の中迎えた会場での別れ際、「じゃ、ママ楽しんでくるね！」と発した娘の背中を見送りました。楽しんだ受験の結果は見事「合格」。ようやく本当の笑顔が見られた瞬間でした。ただ、まさかの安全校撃沈を経験し、受験は何があるか予想できないことも身をもって知りました。1日に合格を頂けたので、チャレンジ校も受験し、やり残した気持ちは一切なし！3年間学んできたこと、そして今の力を思う存分ぶつけて受験にピリオドをうちました。

そして、4月から憧れのセーラー服を身にまとい、兼ねてから熱望していた大妻中学校に入学します。

『中学受験を終えて』

娘は受験を通して、本当に逞しくなりました。塾で戦いを共にした多くの友達と出会い、楽しくも頼りになる先生方と出会い、3年前とは考えられないくらい成長しました。何よりも本を読むことが好きになったことは今後の糧になっていくと感じます。（受験期にたくさんの本を読みましたが、何よりも数年分の「受験体験記」は愛読書になっていました。）

私は娘の受験に伴走して、自分の受験体験や当時勉強したことを懐かしく思い出し、振り返れば、私自身が楽しめた受験経験でもありました。「ママ、いままでありがとう」と合格を手にした娘が感謝を言葉で伝えてくれました。「こちらこそありがとう」そんな気持ちでいっぱいになりました。私の母校に娘が通うなんともいえない幸せ、娘のおかげでもう一度青春時代の楽しい思い出を思い出せるような気がしています。そして、親子で同じ目標に向かって一緒に走り続ける経験はこの先あるのだろうか？と考えると今までの3年間はとても貴重な経験をさせてもらったのではないのでしょうか。

『ありがとう！アントレ』

アントレの先生方、本当にありがとうございました。中学受験のノウハウが全くなかったため、隔月の保護者会や個人面談は、日頃の勉強の進め方や管理の仕方、受験校の選び方など大変参考になりました。いろいろな情報を得やすい今日ではありますが、私にはアントレから得る情報が程よく、わかりやすく、信頼できるものでした。そして、個別の先生、いつもホットな談話で娘を楽しませて下さりながら、ポイントを得た補習で、娘も力をつけていくことができました。同年代の兄がいる娘には、兄のように親しみをもちながら学ぶことができたと思います。当時の塾友達が講師として集まり再会する個別教室、そんなところにもアントレの魅力を感じました。

娘同様、アントレで本当によかったと心から思っています。数年後、娘が個別の講師として26期生と再会することに期待しつつ、その時まで真髓変わらぬ『進学教室アントレ』でいてくださることを祈っております。

関谷真登くんのお父様

アントレとの相性

我が家とアントレとの出会いは7年前の娘の塾選びまでさかのぼる。妻がネットの情報や口コミなどで隣駅のアントレを発見する。授業が楽しそうで、武蔵の合格者が多い点が印象的で、高い思考能力を求められる問題に対応させることができる塾であればどんな中学でも大丈夫だろうと感じた記憶がある。

アントレは予習型の塾である。授業までに予習シリーズを読み込み基本チェックまでは予め学習することが前提だが、親も一緒に読まない子供だけでは到底対応できない。娘にとっては自分でテキスト（特に理社の未知の分野）を読むことは苦行であり、読んでも全く頭に入らなかったようである。当初は得意だった算数も難易度が高くなってくると、白板問題をきちんとノートに写しきれず、まとめテストで衝撃的な低い点数を連発した5年生の終わり頃に復習型の塾に転塾させた。（結局、第一志望に無事合格することができたので我が家では転塾が英断だったことになっている。アントレさんすみません。）

今回の主役、真登の話に戻すと、小さい頃から読書は好きで興味のある本や図鑑は信じられない集中力で読み続けることができていた。2年生3月の体験でアントレを気に入ったようで、きっと予習シリーズもある程度は読めるだろうと思い、「その節はお世話になりました。」と恐縮してカッシーに挨拶したところ、快く受け入れて下さりホッとした。学習内容をより深く理解するために（親と一緒にテキストを読む負担を軽減させるために？）小学1年生から続けていた四谷大塚の通信講座も5年まで継続した。読書が好きだったからか国語の成績は悪くなかったので、算数を得意科目にできれば無敵になると期待していたのだが。

算数への取り組み

算数は白板問題の復習が最重要である。これは間違いないのだが、5年生まではサッカー少年を兼務していたからか、復習がどうしても雑になっていた。一度、自分で復習させ、どうしてもわからないものは一緒に解き直していたが、問題が難しくなるとともにノートの写しが雑になり、問題も解答も解読できない時も多々あり、成績も下降した。親のノートチェックは非常に重要であると認識していたが怠ってしまうこともあり私も反省。6年生になってから面談で相談し1カ月ほど先生にノートチェックをしてもらった。本来ならば6年生がやることではないのだが、ちなみにサッカーは5年生の2月から1年間休会した。

模試や過去問の間違いを分析すると、ほとんどが問題の読み間違い、違うものを求めて答えてしまう、計算間違いもあるがその要因は自分の字が汚くて数字を読み間違えることが多かった。再三、問題をしっかりと読み、ポイントには下線を引き、計算は丁寧に記載し見直しをすること！と受験本番直前まで言い続けた。本人がその重大さに本当に気付いたのは本番数週間前だったと思われる。

志望校選び

比較的通いやすく第一志望にしたい中学は進学校なら武蔵、付属校なら早高院だと思い説明会に参加した。コロナの影響で各学校の公開行事に制限があり5年生の頃まではオンライン説明会が多かったが、少しずつ対面説明会や文化祭への参加も再開されていた。最初に武蔵の説明会へ行ったら、広い人工芝グラウンドでサッカーをしたい！とその気になったようだったが、「自ら調べ、自ら考える」に適應できるかは大いに不安であり、大学受験に苦労した私の実体験より付属校も有りだと思った。早高院の説明会では現役中学3年生のプレゼンテーションがあり、その内容と出来栄に感動さえ覚え好感度が高まった。大学への進学には心配ないが、高校からの入学者数が多すぎるのが気になった。早実は校内を案内してもらえらる機会があり本人と妻は気に入ったようだったが、西武池袋線からの通学は大変そうなので、当初は現実的ではないと私は思っていた。その他は海城や城北の資料を取り寄せた。城北は四谷大塚の合不合格判定試験会場となった際に説明会に参加し比較的好印象だったためすべり止めとし、もし城北が不合格であれば高校受験で頑張ろうと判断した。海城は昔（私の実体験上30年以上前）より偏差値も問題の難易度も大幅に上がっていることに驚くばかりだったが、考えて答えさせる問題傾向を本人が気に入り2月3日は海城に決まった。

2月1日は未定のまま2日城北、3日海城のみが早々に決まったと記憶している。また1日試験校と海城が不合格だった場合、5日の本郷も候補に挙がっていた。

過去問との相性

算数の問題において問題文の深読み（素直に読もうよ!）、重要なポイントの読み飛ばし（気づいてよ!）、(1)の問題が(2)の誘導になっていることに気づかず時間をかけすぎること多かつた。これに計算ミスが加わると点数は伸びない。本人曰く、四谷大塚の合不合格判定テストはどうしても相性が合わず、これらのミスが重なり、150点満点で100点前後が多く、復習すると120点までは伸び代は有りそうだった。

9月末頃から早高院、海城、城北の過去問を入手し少しずつ着手。城北は合格最低点を上回るも他は10〜20点の開きがあった。特に早高院の過去問を解いた時に「手も足も出ない」と感じたようで、その日のうち

に早実の過去問を注文した。早実の過去問を解くと 10 月の時点であと一歩のところまで得点できていた。算数のケアレミス減らし、理社を追い込めば合格圏内に入り込めると親子ともに手ごたえを感じていた。理社はマニアックな知識を問われるものもあるが、問題文を熟読すればヒントも隠されており解くのが楽しかったようである。この頃から第一志望は早実に絞り込まれていた。また、西武池袋線ではなく新宿線を使えば意外と近いことに気付き、私の唯一の不安もなくなった。

11 月にカッシーの面談を受けると「まとめテストや普段の白板問題の正答率と比較すると過去問の得点が高すぎる。解答を見てしまうなどのズルは本当に無いか？」と指摘を受ける。志望校選びを間違え全滅を避けるための助言だとは理解しているが、手ごたえを感じ始めていただけにショッキングだった。他塾の早実模試で結果を残してズルしてないことを証明しよう！と親子共に気合が入ったことは事実である。そこまで見越したアドバイスだったのならばカッシーは超天才である。何はともあれ過去問との相性は志望校選びの大きなポイントであり、合不合格判定テストの偏差値だけで絞り込んではいけないと思う。

早実対策

第一志望が決まり、その対策として他塾の公開模試の受験を勧められる。志望校別 SAPIX オープンを 1 回（合格 70%）、早稲アカデミー NN 志望校別オープン模試を 3 回（合格 60%, 80%, 70%）受験し、さらに自信がついた。結果をカッシーに報告すると「この調子で頑張ってください。」と返信があり、とても喜んだ。四谷大塚の合不合格判定では常に合格 30%だったので本当に相性が良かったと証明できた。

早稲アカでは模試の結果が良かったため NN 入塾資格（特待 B）を得て 12 月と 1 月に行われた NN 早実講座と NN 早実そっくり模試（5 回）を受講した。早稲アカの講義を受けて「算数に関してはアントレの普段の問題の方が難しい解説もわかりやすい」とアントレの算数の質の高さ実感したようだが、理社に関しては早実に特化した授業で得るものが多かったようだ。自宅で悶々と過去問を解くよりも有意義だったと思う。平日・土曜のアントレと日曜の早稲アカというハードな 2 カ月であったが良く乗り越えたと思う。インフルエンザとコロナの予防接種をどのタイミング受けるかも重要である。余談だが、国分寺の早稲アカ講義後に私と 2 人で美味しいラーメン屋を開拓してすることが密かな楽しみであった。

試験当日

まずは 1 月の埼玉県校で腕試し。快勝して気分よく 2 月に挑みたかったのでリスクの高い栄東は避けて、新設校の開智所沢を 1 月 10 日に受験した。開智所沢の出願日初日に web 申請を行ったのだが証明写真を撮り忘れていたことに気づき、学校から帰宅後にスマホで顔写真を撮り申請。出願の時間に遅れを取り、若干遠い、さいたま新都心のホテルでの受験となった。試験会場の環境は良かったようでひと安心だが、web 申請の練習、試験前の先生との Zoom 応援コメントの接続練習にもなったので私にとっても有意義だった。

本番の 2 月 1 日、早実。Zoom での応援コメントはスムーズに接続。普段はあまり褒められないのに「君には爆発力もあり自信をもって受ければ大丈夫！」というようなことを言われて心強く、嬉しかったようだ。なかなか良いシステムなので継続して頂きたい。試験直後、「たぶん大丈夫。220 点は獲れた。どんなに悪くても 200 点は絶対に超えるから。」と言い放った。本人には内緒で解答速報を見て答え合わせをしようかと頭をよぎったが、もし予想通りでなかった場合に親の顔や態度に不安を煽るようなものが出てしまうリスクがあると判断し行わないと決めた。そんな私の考えを伝える前に妻が算数の解答速報を見出したときは私と娘で必死に止めた。案の定？絶対に正解しているはずと言っていた小問題を 1 問落としていることに気づいてしまったので、最悪のケースを想定して秘密裏に 5 日の本郷の過去問を何年分か印刷する準備をした。

2 月 2 日の城北は相性の悪い問題だったが大丈夫だろうとのこと。

2 月 3 日の海城はミスなく終われば可能性はあったが、手ごたえは悪かったようだ。

海城の試験が終わり 13 時。海城の隣にある戸山公園にて早実の結果をスマートフォンで確認。本人が先に見て「え〜っ！」とフェイクで発狂するも、どうだ！と言わんばかりに私と妻に画面を差出し“合格”を確認。海城のことなど即座に忘れ、美味しいランチを堪能して我が家の中学受験が終了した。

結果まとめ

1 月 10 日	開智所沢	合格	
2 月 1 日	早稲田実業	合格	→ 進学先
2 月 2 日	城北	合格	
2 月 3 日	海城	不合格	

先生の皆様、長い間大変お世話になりました。ありがとうございました。

高野純希くんのお母様

はじめに

「お願い、受験させて。自分の力を試したい」。純希が新4年生になる春休み、塾の情報交換をする母たちの会話を耳にし、自分もやってみたくて思ったのが我が家の受験勉強の始まりでした。私たち夫婦は中学受験に興味はあったものの踏み込めないうえに、純希の強い気持ちを聞き「地元の名門、武蔵を目指すならいいよ」という条件を出しました。純希も武蔵に対して強くあこがれを持っていたことから、志望校はすぐに決まりました。こうして周囲より3カ月遅れて、最寄りのW塾にて受験勉強がスタートしたのでした。

当然、我が家は入塾説明会にも出席しておらず、中学受験とはどのようなものか全体像が見えないままの見切り発車でした。『受験リテラシー』がなかったがために、子どもに余計な負荷をかけ、結果的に遠回りをしてしまいました。何とか志望校である武蔵中学への手ごたえが見えたのが、6年生の10月。中学受験には親のサポートが不可欠だと後に分かった私ですが、常に本人の成長と体調を気遣いながらの山あり谷ありの道のりでした。この間、私も親として成長させてもらった気がします。武蔵中学、城北中学、芝中学、1月の城北埼玉、栄東、受験したすべての中学で合格をいただきましたが、ここに至るまでの過程は順調ではありませんでした。

受験結果

1/10	城北埼玉	特待合格
1/11	栄東A	東大スライド合格
2/1	武蔵	合格
2/2	城北2	合格
2/3	成城2	出願したが受験せず
2/4	芝2	合格

1. W塾時代（純希4年生から5年生GWまで）

受験勉強を始めるまでの純希は、本の虫で無類のゲーム好き。時間を忘れて夢中で読書をし、ゲームの終わる時間をめぐって毎回親とバトルする子どもでした。物心ついたときから、年に100冊以上本を読み、小3～4では、ファンタジー小説から歴史小説へ、ゲームもいつしか「フォートナイト」から「信長の野望」へ移行していました。また、5歳から始めたピアノも、発表会とコンクールで年に2回ステージに立つ以外、普段はまったく練習せず、本番1カ月前に本気になる男でした。

案の定、自分から受験勉強をしたいといった割には、まったく勉強せず、理科と算数のみテスト前に勉強する程度でした。私も勉強にはノータッチでしたが、W塾では様々な理由で伴走がしにくく、友人に紹介された「武蔵に強い」アントレにいつしか転塾したいという思いが膨らみました。そして、下の子が就学した5年生のGWに、満を持してアントレの門を叩いたのでした。

2. 5年生GWから6年生GW（アントレAクラス時代）

Sクラスを打診されましたが、算数が不十分だとしてAクラスに在籍。アントレに転塾しても勉強しないのは相変わらずでした。私は転塾してまで武蔵を目指すのだから、最低でもSクラスへ、と夏期講習を前に子どもの勉強にハッパをかけました。この時の私は、中学受験について勉強不足で、算数の1000本ノックをしてしまったのです。本人には、無意味な勉強と映ったようでした。また、ピアノのコンクールに出た後で、精魂尽き果てていたことや、学校のクラスで問題を抱えていたことも事態を悪化させました。夏期講習へ向かうある日、道中でふらつき、発熱してしばらく寝込んでしまいました。その後、勉強をしようとするとう頭痛がするといって、しばらく勉強を休まざるを得なくなりました。この時、小児科医に言われた言葉が忘れられません。「勉強するタイミングは子どもによって違う。この子にとって、それは中学受験でないのかもしれない」と。私が武蔵と言いつぎたのかもしれない。この子に合う学校に入れればいい。純希の体調が戻るのを祈るように待つ日々でした。

結局、5年生の夏期講習は最初の3分の1のみ出席し、3分の2は全て欠席。9月以降も週に一度社会のみ出席し、だんだんと出席日を増やしていき、すべて出席できるようになったのは10月下旬でした。白板や宿題プリントなど毎週クラスルームで送っていただき、井手先生を初めAクラスの先生には大変ご迷惑をおかけしました。休み期間中は、とにかくゲームや読書など好きなことをたくさんさせて、充電することだけを考えました。そして、マンガを借りて親子でたくさん読みました。

5年生後期の算数は「比の利用」や「平面図形」など大事な単元から始まります。完全復活した冬休みに、後れを取り戻すために親子で机を並べて一緒に勉強しました。この時、予シリの他に使用したのが『中学受験『算数』教え方のコツ』（安浪京子・富田左織著）¹。中学受験コンサルタントの安浪京子先生の著書には、

たくさん救われました。例えば「…わが子に必要な情報を客観的に入手する『受験リテラシー』を高めてきていただきたい」（『中学受験 6年生の親がすべきこと』）ⁱⁱ、『やる気にあふれた子』は、実在しない幻想」 「…大抵の場合は、11月下旬～12月中旬あたりからエンジンがかかり始め、親御さんのイメージする『理想的な受験生像』に近づくのが最後の1カ月。」子どもの半年先は大人の2年先に相当するなど、子どもの時間の感覚の違いについても言及されています（『中学受験 6年生からの大逆転メソッド』）ⁱⁱⁱ。また、佐藤ママとの共著『親がやるべき受験サポート』^{iv}を読み、中学受験の親のサポートはここまでするのか！と目から鱗が落ちる思いでした。こういったことを最初から知っていれば、純希が体調を崩すこともなかったかもしれません。ともかく、白板問題をコピーしてノートに1枚ずつ貼る、などできることからマネをして、本人が勉強しやすい環境を整えることに徹しました。同時に、純希がまた体調を崩すのではないかと、私は勉強のやらせすぎを過度に恐れるようにもなりました。

3. 6年生GWから夏期講習（アントレスクラス時代）

進級しても相変わらずAクラスでしたが、新6年生から始まる「武蔵算数」のクラスへ参加しました。ついていけるか不安でしたが、3割くらい得点しており、クラスも6年生のGW後から、Sクラスへ移籍できることになりました。しかし、まだまだエンジンはかからず、日々の勉強は算数のみで、白板と宿題はコピーをとってノートに貼ってやらせていました。分からなければ基礎に戻って勉強するなど、私にできるサポートは続けていました。私も多忙でフル伴走は9月からと決めていました。夏期講習も帰宅後にあまり勉強せず、ゆるく過ごしましたが、算数の予習として行う全単元の復習、理科と社会のコアプラスをコピーして全頁やらせるなど、分からない単元の穴がないように努めました。理科の「てこ」「電流」「光の反射」などの物理が苦手だったので、YouTubeで解説動画を探して、理解させるようにしました。

4. 6年生9月から11月まで

アントレでは6年生の4月から合不合テストを受けることとなります。1回目がとにかく大事で、「最初に受けた偏差値は今後それ程変わらない」、「4月の偏差値+10くらいまでの学校しか受験できない」、と3月の保護者会でフンちゃんに説明されました。武蔵を第一志望から外すことも考えていましたが、まだ諦めきれず、とにかくお尻を叩いたことを覚えています。皮肉なことに、4月の偏差値が一番いい結果となりました。武蔵の学校別判定テストは9月は四谷大塚、11月はサピックスを受けました。

合不合判定テスト成績

		4教科偏差値	算数偏差値
1回	4/9	65.1	64.6
2回	7/9	62.6	62.4
3回	9/10	62.1	56.5
4回	10/8	64.1	56.3
5回	11/5	56.8	47.4
6回	12/10	体調不良で 受けず	

学校別判定テスト 武蔵

		4教科偏差値	算数偏差値	合格可能性
四谷大塚	9/18	58.3	53.3	-
サピックス	11/23	60.3	54.7	80%

夏までは順調だった合不合も9月の結果があまりにも悪く、また9月から始まったアントレの武蔵入試演習のクラスも、1回目が不合格、2回目も補欠でした。この結果を見て、「このまま武蔵をあきらめていいのか」とスイッチが入ったのは私の方が先だったかもしれません。とにかく、受験勉強にフルコミットした私は、算数がどうすればできるようになるのか、伴走を本格化させました。

アントレの夏期講習のカリキュラムは素晴らしく、1週間ごとに各単元を扱い、毎回テストを行うことで、苦手単元があぶり出される仕組みになっています。1週目が「特殊算」、2週目が「場合の数」、3週目が「数の性質」、4週目が「平面図形」と「立体図形」、5週目が「速さ」と「水量」となっています。純希のテスト結果を見ると、圧倒的に「数の性質（規則性）」と「立体図形」が苦手でした。さらに詳しく見てみると、予シリや典型問題は分かるが、Sレベルの解法が分からないことで躓いておりました。勉強というのは、分からないところを見つけ、分かるようにする地道な作業ですが、わが子にはこうした仕分け作業が無理だったので、親がやるしかありませんでした。様々な参考書を取り寄せましたが、問題のレベルが低すぎたり、解

説を読んでも分からなかったり、素人にはお手上げでした。そこで、算数の遅れを取り戻すためには、家庭教師を雇うしかない、という結論に至りました。しかし、純希は「アントレだけでやりたい。先生を裏切るようで嫌だ」というので、武蔵演習の柏原先生に電話で状況を説明し相談しました。「アントレと異なる解法で本人が混乱しないなら」と家庭教師を快諾してくださり、また「演習量が足りないのかもしれないね」と、純希がAクラス時代に行われた5年と6年のSクラスの白板をすべてギガファイルで送ってくださいました。もっと早く白板の入手を依頼すべきでしたが、家庭教師には問い合わせた後でしたので、武蔵の範囲ではない「立体図形」「規則性」「水量変化」など、第2、3志望学校対策として、理解の穴埋めをお願いすることにしました。11月に家庭教師をスポットで全4回、オンラインでお願いしました。この時、私は心労をすべて手放せたので、正直、家庭教師費用を惜しいと思いませんでした。

また同時に11月に武蔵の国語対策で、アントレの個別を3回お願いしました。また、アントレのオンライン添削も11月から直前期まで、理科は永田先生に2回、社会は荒武先生に4回、国語も天野先生に2回、お願いしました。

こうした努力が実り、武蔵入試演習では、3回目以降から5位以内の成績を取ることが多くなりました。成績の内訳は、不合格が2回、補欠が2回、合格が10回、体調不良で欠席が1回という結果でした。

5. 6年生11月から冬期講習、そして入試へ

土曜日の武蔵入試演習では成績が安定するものの、合不合格テストでは算数が低迷しました。寝不足だったとはいえ、11月の偏差値は56.8（算数47.4）。12月は体調不良で受けられませんでした。決して算数は好調ではありませんでした。やはり、Sクラスレベルの難問に弱いという課題は続きました。

冬期講習では、武蔵の出題範囲の単元も苦手だったことが判明し、塾が終わった夜、頂いたSクラス白板の「平面図形」と「場合の数」を自ら解き続けていました。本番1か月前に入試が自分ごとになるというのは本当でした。「速さ」と「水量」が得意だったことは救いでした。

冬期講習が終わるとすぐに1月入試が始まります。城北埼玉、栄東の入試でも合格をいただきましたが、「平面図形」「場合の数」がやはりネックであることが浮き彫りになり、これも自ら夏期講習の2回目を解き直していました。

こうして11月は家庭教師や個別をお願いし、冬休みから1月は算数の穴埋めをしていたために、過去問が思ったよりも進んでおらず、武蔵の過去問11年分、城北の5年分、芝の3年分をすべて終えたのは、1月3週目でした。

武蔵プリントも「平面図形」「速さ」は順調に進んでいましたが、「条件整理」の量をこなすことに疲れてなかなか進まず、こちらも全て終わるのが1月3週目でした。

こうした中、焦りと疲れがピークになり、1月27日の第15回入試演習は、2度目の不合格でした（第1回目以来でした）。あと4日で入試だというのに、どうメンタルを建て直せばよいかと焦りました。

幸いその日の夜に柏原先生と電話がつながり、今後のことを整理していただきました。「とるべきところで落としていたのは全て条件の読み間違えです。明日はゆっくり休んであと3日頑張ってください。『本番じゃなくてよかったねー』と伝えてください」と冷静なお言葉を聞き、まずは私が落ち着くことにしました。そしてすべきことは：

- 夏期講習白板3回目よりは、冬期講習白板2回目
- 過去問3回目よりは、入試演習の2回目
- 武蔵プリントは、「8割理解してあと2割」というものをピックアップしてよい

と整理していたでき、焦りもなくなりました。入試4日前はおうちカラオケでストレスを発散し、夜に少し勉強。残り3日で上記の課題を終わらせることができました。武蔵プリントは「平面図形」「速さ」2回目×だったもの、「条件整理」の1回目×だったもの計30枚のうちから10枚ほどピックアップして、理解が盤石になるように努めました。

全てやり切ってから入試に臨むべき、とっていましたが、取捨選択することの大切さを知りました。

また2/1にピークに持ってくるために、どうしたらいいのか、私も必死に考えました。本来はやらなくて済ませようと思っていた武蔵の過去問2013年の算数を、入試2日前にやり直すことにしました。この年は難しい年で合格者平均点が46.3。純希が夏に解いたときは34点でした。この日の自己採点の結果は68点で、純希の顔を見て「やっとメンタルが戻った、これで大丈夫だ…」と私も胸をなでおろすことができました。最後の2日間は、歌を歌いながら勉強をするという純希のスタイルが戻り、「ワタシは落ちる気がしない」という前向きな言葉も出ました。

6. 中受沼から積極的に集めた情報

10月ころから受験情報を積極的に集め、特に役立つものです。

■ 『南極流勉強法』^{v vi}

南極老人という方が大学受験の極意を『南極流勉強法』と名付け、多くの受験生を指導したそうです。数々の弟子たちが YouTuber として活躍し、私も最初は YouTube から知りました。大学受験向けではありますが、中学受験にも役立つところがたくさんありました。

➤ 「完璧にできる教材」を作り、反復する。

→ 6年後期の理科知識テスト(解答)、社会チェックプリント(問題にオレンジペンで解答書く)、国語知識のまとめテスト(解答)を、縮小コピーしてA4ノート一冊に貼り、さらにテストで間違えた番号に印をつけ、「理社国の知識はこれだけ見れば大丈夫」というものを作りました。「コアプラスではなく、このテストを見返すだけで大丈夫！」と最後の保護者会でモモタロウ先生におっしゃっていただいたのも大きかったです。漢字はテストで間違えたものを、1枚の紙にやり直しノートに貼りました。漢字もこれだけでした。1月の埼玉入試の前も、このノートが大いに役立ちました。

→ 算数の武蔵プリントも何度も反復してほしかったので、縮小コピー、切り貼りして、問題と答えを算数用のノートにはりました(条件整理は、答えのみ)。平面図形は100均のはがきの表裏に、問題と答えを貼って、リング形式にしました。

➤ 社会は流れを録音して覚える

→ アントレの記述対策のプリントを、私が読み、純希が答え、間違えを訂正する様子をタブレットのアプリで録音、保存しました。記述対策のみならず、知識も補強できるので、2月の入試前にすべてを1.5倍速で聞き直しました。理科も手元にあった参考書の記述対策の一問一答を同じように録音し、耳からも覚えるようにしました。

➤ 俯瞰ノートをつくる

→入試直前は、新しい知識を入れるのではなく、今までの知識をいかに思い出すかが勝負。抽象度を一つ上げて、なぜ間違えたか?をメモするだけで、得点がずいぶん変わる、とのことでした。そこで、過去問、入試演習でなぜ間違えたのか、一文でもノートにメモすることにしました。

このノートに、アントレの受験の心得や、武蔵入試演習で最初の授業で配られた、算数、社会、理科、国語の記述対策のプリントを貼り、入試前に声に出して読み合わせし、見返しました。

■ 栄東は、学校説明会へ申し込みすると、出題範囲を教えてください。満席のため私は出席できなかったのですが、資料を送ってくれました。理科、社会の出題範囲が分かるだけで、時間の節約になり、かつ高得点が狙えました。

■ 12月は風邪ばかりひいていましたが、子どもでも飲めるサプリ『ワタナベオイスター』(牡蠣のエキス)をとるようになってから、風邪知らずになりました(単に学校を休んでいただけかもしれませんが)。

■ ネット診断で薬が処方されるクリニックフォアというサイトで、インフルエンザの予防薬イナビルを純希と私の二人分を入手し、2/1の10日前に服薬しました。

■ 予習シリーズ計算 6年下: 6年下巻の計算では、計算と一行問題が半数ずつ占められており、学校を休んでいる1月中にやりました。難易度も易しすぎず、計算だけの上巻よりも好んで解いておりました。

終わりと反省

恥ずかしながら親子そろってコツコツできないタイプで、9月からの追い上げで何とか間に合ったということが、体験記を書いてよくわかりました。そして、無理してでも転塾後すぐにアントレの土曜日の算数教室へ行かせていけば、体調も崩さず、算数の抜けを埋めるのに最後まで大変な思いをしないで、直前期にあれほど慌てなくても良かったかもしれません。

今思うと、入試5日前の入試演習テストで不合格をもらったこともよかったのかもしれませんが。入試1日前に純希は俯瞰ノートに「条件の読み間違えをしない。見返しは、間違いがあるという前提で行う」と書きました。この気づきのおかげか、当日、算数問1の見返して間違いに気づき、大きな失点をまぬがれたということです。入試直前まで実力は伸びる、というのはこういうことなのかと思いました。

武蔵本番の ZOOM 応援でも、木津先生から「つまらないミスをしなれば合格できる」と励ましていただ

いたことも救いになりました。終わった後の出来をきいたら「ウム。普通だ」といったので、親は安心していましたが、本人は半分ダメだと思っていたようです。

武蔵の入試が終わった後、不思議なことが起きました。リュックに着けていた、石田三成のキーホルダーが外れて、駅の階段に音を立てて落ちたのです。夫はとっさに「純希の身代わりになってくれたんだね」と言いました。軍師としてとても尊敬していますが、関ヶ原の戦いで敗れた武将です。それを聞いたとき、武蔵の入試が、純希の中でどれほど熾烈な戦いであったのかが想像できました。

2/4の芝を最後に受けたのは、大きく失点した11月の合不合の会場であったことも大きかったようです。武蔵合格を知った後でしたが、成長した証をもう一つ残したかった気持ちも分かります。武蔵の次に、長らく志望校であった思い入れの強い学校でもありました。最後までドタバタでしたが、悔いなくやり切って終わることができ、よかったと思います。

私も密度の濃い時間を子どもと共に過ごすことができ、親として幸せでした。

最後に、アントレの素晴らしい先生方、素晴らしい授業とフォローをしてくださいまして、誠にありがとうございました。また、端正な字で綴られたSクラス白板ノートを提供してくださった生徒さま、この場を借りてお礼を申し上げます。本当に救われました。ありがとうございました。

この長文がお役に立てたらうれしいですが、お子さんは一人一人違いますので、どうぞ親子独自の二人三脚の旅を楽しんでください。

<参考図書>

- i 安浪京子・富田左織 2021『中学受験『算数』教え方のコツ』PHP エディターズ・グループ
- ii 安浪京子 2018『中学受験 6年生の親がすべきこと』朝日学生新聞社
- iii 安浪京子 2019『中学受験 6年生からの大逆転メソッド』文藝春秋
- iv 佐藤亮子・安浪京子 2021『親がやるべき受験サポート』朝日新聞出版
- v 柏村真至・武田康・村田明彦 2022『南極流勉強法』KADOKAWA
- vi YouTube よなたんチャンネル【ゴールを決めろ!】@dokugakulabo

高橋躍太くんのお母様

あつという間の受験期間。そのために費やしてきた2年間半の日々。頑張ってきたことだから恥を忍んで綴ります。おそらくどのご家庭よりもひどい進捗で受験生活を送っていたことに驚かれることと思いますが…

- | | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 早起きが苦手 | <input type="checkbox"/> うっかりミスや読み間違いが多い |
| <input type="checkbox"/> 細かな作業が嫌いではないが雑 | <input type="checkbox"/> 興味のあることないことの温度差 |
| <input type="checkbox"/> 調子乗り | <input type="checkbox"/> 自然に全く興味なし |
| <input type="checkbox"/> 面倒なことは極力避けたい | |
| <input type="checkbox"/> 整理下手（それでも6年からアントレのプリントだけはしっかりファイリングするように） | |

上記のように躍太に直してほしいところは未だ山ほど。このタイプは本人が自覚してくれないと劇的な変化は期待できないでしょう。だから中学に進学しても、私は悩みが減ることはないと今から覚悟しています。ただ、受験期というあの魔の期間だけは確実に『頑張れる男』に変化していました。（毎日の早起きはかなりきつそうで、機嫌も悪かったです。）

家庭科（裁縫）、音楽、副教科とよばれる類があまり得意ではない躍太は、友達の兄弟が通う公立中に強い恐怖感を抱いていて（どこで耳にしたのでしょうか、いわゆる内申点）、4年になる頃中学受験したいと申し出てきました。ノーとはね退けてもしぶとく塾塾言うので、ようやく夏休みからアントレに入塾。まだコロナ禍で学校の夏プールの実施もなかったあの頃、毎日家に居られて妹とケンカも困る。どうせコロナが明ければまたサッカー三昧だろう。下手に塾の噂が広まってもと学校の友達に通っていない塾を見つけたのがアントレとの出会いです。そしてこの出会いは初めの予想に反し、どっぷりアントレにはまっていくことになります。

すまし顔で体験授業に参加した割に、興奮状態で帰ってきたあの時のギャップ。どの方もおっしゃいますが、体験授業だけでも楽しいって思わせるアントレの魅力がすごいです。10才の少年が知らないお友達の中で数時間勉強し、楽しさから興奮が止まらないなんてどうして？もはや通えない年齢の私。体験授業の帰りの車、授業内容を抽象的にしか報告できない躍太に必要な以上に聞き出して泣かせたあの夜を思い出します。ごめんね。

5年

まあまあの成績で算国A理社S。とは言っても算数と社会が好きだけで、国語の記述は一体何を書いているのか理解できないレベル。はっきり言って理科に続く苦手科目です。選択問題もまさか勘では？

理科は興味がなさ過ぎて思考回路を定期的に停止させる技を用い、予習に5~6時間。タイムパフォーマンスの悪さつたらない。

すべての教科において5年は量も難度もぐんとアップし、読解力の乏しい躍太は好きな算数の文章問題にも苦しみます。白板では取れるけどテストじゃ点が取れない。定期テストが取れてきたと思って…今度は夏期のまとめですっかり頭の中がリセットされている問題が勃発。清水先生も面談でおっしゃっていましたが、白板の解法に従わずに自分のやり方でやってしまったことが大きな原因です。慌ててすべて見直し、今後は白板のやり方で解くよう口酸っぱく言っていました。

6年

初めての合不合テストは撃沈。そこから這い上がったリまた沈んだり。面談では過去の躍太と同じくらいの成績の子の偏差値の推移などを教えていただきました。そしてとにかく4まとを夏までにしっかりこなしていないと大変だということも。

合不合で小間を取りこぼす躍太に小言を言いながらも、GW明けから声変わりが始まって反抗期に入ったことに気がきます。あまり逆なでしないようにと思い、自分で学習させてみましたがやはり危険な行為でした。もちろん発覚するのはいつだって夏期講習。

5年の夏再来。またリセットされているなんて…さすがにショック。白板も取れない！各テストで下位が多くなってる！得意としてきた社会が得意じゃなくなってきた現実！事のやばさに早く手を打たなければと焦ります。本人も自ら「やばい。ママ、やらないとダメだ！」。

お盆休みはみっちりやり直し。一緒に学習していて思ったのが、特に立体については実は理解が曖昧だったこと。場合の数も時にこじつけて覚えていたことをこの時知りました。ごめん、躍太。

夏期終了後、清水先生に面談でとにかく夏期の白板をしっかりと復習したことの報告（私も頑張っていることを聞いてほしかった）、またこんなにひどくて志望校変更をしなくていいのかなど、モヤモヤした心の内を受け止めていただきました。

よし、夏期分はもう復習した。そう送り出した後期、そしていよいよ始まった入試演習クラス。はじめこそ好調でしたが10月末くらいからはかげりもチラホラ、また清水先生の元へ駆け込みます。

『算数のムラが入試演習でもでてますね。あとできなきやいけない問題を取りこぼすから点数に結びつかないんです。』 たしかに。

他にも解いたことのある問題にはまだ対応できても、初見の問題に弱すぎるという欠点も悩みの種でした。いつも点数を競っていたという友達グループの中でも俄然下位になることが多く、本人も焦ってはもがく週末。けれどもやはりムラがあるせいで、お友達と同じように毎回算数を取りに行くことができない。得意の歴史やたまに国語がミラクルを起こして上位にとどいたりの状態。これじゃダメだ。

躍太の志望校の問題傾向などから、今後する復習の要不要を清水先生に細かくご指導いただきました。

『国語が足を引っ張ってはいることはない。ただこの状態から大幅にアップすることももうないので漢字と知識は確実に。社会はキープ。算数の絶対とれる問題を取りこぼさない。理科の知識や計算が今までダメだったところが取れるようになったら配点アップが望めるはず。』

加えて後期からは個別で理科と算数を長澤先生に教わりました。手も足もでない状態の躍太を引き受けてくださってありがとうございます。長澤先生のおかげで理科の復習を自発的に行うようになり、各単元の計算も少しはできるように。苦痛な教科の存在から一歩抜け出したように私は感じました。

志望校

そもそも親としての受験動機は、中高生の多感な時期を勉強も青春も全力で楽しんで欲しいことだったと何度も自分に言い聞かせました。

前期までは明明、桐朋を視野にいれていましたが、これは夏で諦めることに。しぶとくついでいけば過去問で初見の難問ももう少し苦労少なく解けた可能性もあったかもしれませんが、躍太の夏期での成績を鑑み、中学進学後のことを考えてみた時に違ふと判断しました。もちろん最後は本人が決めたこと。ただ本人はもうアントレナイズしていたので男子校に行く気満々。それならば第一志望に決めた明中に合格してみても背中を押しました。

受験結果

★1月

【城北埼玉】合格（特待）

開智所沢を先生から薦められていたのに、躍太がどうしてもこちらを受験。

久しぶりの母子での電車旅にリラックスしていました。これくらいの気分の方がいいのかもしれませんが。

【栄東A】不合格

5点足りなかったの悔しいでしょ？と清水先生に言われるも全く実感なし。

1月の結果は2月と違うのでポジティブに受け止めるべきなのだと聞きかじりを主張するが、2月校の複数回受験に備えるためにもう一度と説得。

【栄東B】不合格

説得の末なんとか受験。試験終わりに「売買の大問の(1)で計算間違えたから、そこ全部落とすわー」とヘラヘラする躍太に埼玉の地でキレル私。7点足りず。

2月の受験まであとここから2週間強。明中の過去問を中心にずっと算数を解く毎日。

またパッとその場は覚えられてもきれいに2日経つと忘れる理科の知識と漢字には毎回苦労続きでしたが、さすがに受験前は観念したのか理科のコアブラの追い込みは凄まじかったです。

覚えた勢いで過去問を解かせると「すごい。点数あがった！」と感激する躍太。大きな自信になりました。当たり前なのですが、やはり実感するって大きいです。とても遅いですけど。

そんなこんなで準備を整えてきた最終日、なんと 1/31 に私がインフルエンザに罹患するという大失態。ああ、どうか躍太にはうつっていないようにと祈ることしかできないこの歯がゆさ。またここまで一緒に頑張ってきたのに、起こすことも励ますこともハグすることも手を握ることもご飯をつくってあげることもできないという絶望感。この季節、2 コ下の妹をもっと早く学校を休ませるべきでした。唯一の救いは夫が在宅で家に居てくれたこと。手遅れかとは思いつつ予防用にリレンザを処方してもらい、躍太に。

★2月

【法政中学】合格 : 過去問 5 年分を 2 回

「ママ受かった♪」2 階のリビングから嬉々とした声が聞こえてきてほっとしました。全教科平均点が高いので躍太がポカミスをしなにかの勝負。彼の性格から安心はしていませんでした。

【明治学院中学】合格

お守り校として受験。

【明治大学付属中野中学】不合格 : 過去問 5 年分を 3~4 回

あまりできなかつたと肩を落として帰宅。そしてその数時間後無念にも発熱。

予想通り結果も不合格でした。

翌日はお休みだったので、寝室でゆっくり寝ていましたが、気になるのか明中の算数を解き直したり、漢字と理科のコアプラをベッドに持ち込んで学習していました。

また電話で清水先生と長澤先生に結果を報告し、フラットに 2 回目の受験を受けられるようにパワーを注入していただきました。

【明治大学付属中野中学 : 2 回目】不合格

インフルのため別室受験。ネット上で探した電話は前日通じず、当日係りの方に誘導していただく。

テストの手応えはあった様子でしたが、結果は不合格。

解き直したところ取れてもよさそうな内容の問題。悔しいけれどもこれが実力。

躍太も平然を装っていましたが、10 日経過した辺りで悔し泣きしていました。

受験を終えて

丸 2 日寝室で躍太と私は軟禁状態だったこともあり、受験までの過程をふたりで思い返し語らうという穏やかな時間を過ごしました。

「今思えば反抗し過ぎた気がする。ママともいっぱいケンカしたね。ごめんなさい。受験は大変だったけど楽しかったよ。いい経験をさせてくれてありがとう。アントレに通えてよかった。」ここには書けない珍事件もいっぱい。この時すべての疲れが吹き飛んだように感じました。

さて、冒頭から躍太のことを散々に書いてきましたが、本来はやさしく友達思いでみんなを笑わせることが好き。でも照れ屋、そして努力型の真面目な男子です。丸々 1 か月小学校をお休みした分、2 月に復帰した際にはみんなが待ち望んでいてくれたとか。毎日躍太フィーバーが止まらないんです。と担任の先生から嬉しいメッセージももらいました。そんな何よりも大切な学校の仲間との遊びに大きな休止符を打ってでもアントレに首ったけになって受験勉強に集中できたのは、紛れもなくアントレの先生方と仲間のおかげです。心から感謝します。

最後に私が悔いるべきことは、ほかのお母さま方より覚悟が遅く、自分の息子に対する信用また自信が足りなかったところです。本当に志望する学校に合格できるのか、興味が他にうつらず最後までやり抜くことができるのか？ 私も中学受験経験者。嫌で仕方なかった受験勉強への思い、躍太も勝手に同じと判断していましたが、子どもは親と同じじゃないです。

カッシーが以前父母会でおっしゃってた「子供の方が意外とタフで、大人の方が早くギブアップしがち」という言葉を思い出しては今も「まさに」と頷いています。

とてもとても厳しく大きなこの経験は、躍太をはじめ私たち家族を大きくたくましく成長させてくれました。自信を持って次のフェーズに踏み出していきたいと思います。

本当にどうもありがとうございました。

立花希海さんのお母様

この度、何度も参考にしたアントレの受験体験記を書くことになるとは、感無量です。我が家は、地方の県立高校出身の父、埼玉県の私立女子高校出身の母、二人とも中学受験未経験で右も左も分からない初心者でした。最後まで波乱万丈だった我が家の受験体験記。少しでもお役に立てれば幸いです。

◆中学受験のきっかけ

中学受験を考えたきっかけは、小学校入学時からでした。それから低学年の間、中学受験の情報収集はしておりましたが、娘の学力面に関しては公文をしていたくらいで特になにもしていませんでした。

公文も1学年先に行くので精一杯で4年の2月くらいに1学年上の計算まで行って卒業しました。しかし暗算や計算が早くできるようになったので、無駄ではなかったと今では思っています。

◆塾選び

我が家は、娘に集団塾が合うかわからなかったのも、まずは個別で様子見をしていました。個別では算数1教科のみを週1でやっており、そこで娘が近所に富士見中学という素敵な中高一貫の女子校があるという情報を得て中学受験を身近に感じたことをきっかけに、満を持してアントレの体験授業を受けました。娘は体験授業のあと、「授業が面白かった。ここに通いたい。」と言ってくれたので即入塾を決めました。

◆入塾時

4年の12月にアントレに入塾。体験授業の時に算数の担当をしてくださったファンちゃんからお電話で、「娘さん、どこか塾に行っていましたか？ヒント与えると答えられるのですがね、少し集中力もないようですし、Cクラスならば今8名なので、しっかり指導できると思います。いかがでしょうか。でも彼女はきっと伸びると思いますよ。」と言っていました。今はこのお言葉を支えに最後まで走りぬけることができたと思っています。

しかし、予習⇒授業⇒復習のサイクルに慣れるまで時間がかかりました。算数は苦手分野だったので授業に手ごたえを感じるようになるまでには5年の秋ごろを待たねばなりません。

5年夏期講習が日程的にもかなりのボリュームでしたので、それを頑張ってこなせたこと、算数に関しては白板に〇が多くつくようになったことが、自信につながったと思います。

◆6年生

新6年生になり、冬期講習はCクラスで、春期講習よりBクラスに上がれました。これで志望校にも手が届くかもしれないと我が家は沸きました。

クラス昇降に関しては先生がよく見てくださっているなというのを本当に肌で感じました。Bクラスに行っても、算数に関してはとにかく白板を解き、解説を聞き、家で再度解きなおしをする。やることは変わりません。それプラス、我が家では時間があるときに、白板の問題の解法を自分の中に落とし込むため、娘が父にどうやって解いたか、を解説するという作業も始めました。

◆6年夏期講習

夏期講習前までに、算数の基礎をきちんと固めておきたかったのですが、なかなか難しく、夏期講習で基礎を固めるという状況になった我が家は、総合的に考えた結果、秋から始まる土曜入試演習は申し込まないことを決めました。その代わりに5月から始めたアントレの算数個別を2コマに増やし、土曜日にも勉強習慣を維持するという方針を娘と話し合って決めました。

◆6年後期

夏期講習が終わり、夏期まとめテストでも総合でBクラス3位。総合点数も娘の志望校を受かった去年の生徒さんがとった総合点の上を行き、これなら戦えるかもと思いましたが、理社が穴だらけと判明。

過去問も始めましたが、第一志望校は1回のみしか合格最低点を越えられず、それ以外は11月になっても-20点などなど。2巡目は、さすがに合格平均点は超えましたが、完全にチャレンジ校なので不安でした。

入試演習を取っていない娘には、まずは授業の達成感を第一に考えるよう家庭学習で心がけました。

★小テスト系は必ず合格点を取る。そのためにはきちんと対策をするなどです。

テストで1番になる。合格点を取る。⇒これが授業の達成感+本人の自信につながると信じて。

◆模試について

アントレでは、自分の立ち位置（偏差値）がわかるのは6年4月の模試が初めてになります。それを承知で入塾したにも関わらず、自前で何か受けておけばよかったかと内心ハラハラしておりました。

娘の最初の偏差値は想定内、結局我が家は四谷大塚場合不合のみを全6回受けて、その平均は4教科総合でY偏差値45くらいでした。算国はY偏差値50以上取れていましたが、理社が足を引っ張っていました。

◆志望校選び

我が家は目安としてY偏差値40~50くらいの学校を目指していました。

また、娘は読書が好きでしたので、図書室も学校選びのポイントにしていました。

【富士見】⇒過去問は3回ほどやったが、結局出願もせず。

初めて娘が中学受験に興味を持ったきっかけの学校でした。近いし中学から自転車で行けて、施設もきれいです。先生方も一生懸命生徒を育てようという気概を感じる学校です。

【共立女子】⇒進学先

最終的に第一志望となった学校です。過去問はなかなか取れませんでした。

生徒さんたちの雰囲気、先生の楽しいお話、娘が食い入るようにその世界観に夢中になっており、びっくり。説明会だと集中力が続かず、すぐ飽きてしまう娘には珍しいことでした。また校長先生の雰囲気も上品で温かく好感を持ちました。文化祭も含め、計3回ほど訪問いたしました。

【十文字中学】⇒過去問は4回ほど解きました。9月に解いたときから合格最低点を大幅に超えていました。

もう一つの第一志望の学校です。(娘にとって大好きなお守り校)

伝統のある女子校で制服もかわいい。娘はすぐに気に入りました。まずはパンフレットから入ったのですが授業内容や高校に入ってからコースのことまで詳しく読み込んでいました。カフェテリアもお気に入りでした。また説明会では、質疑応答などくださり、誠意のある学校との印象を受けました。

他にも10校くらい見学に行きました。

◆1月埼玉校（前受け校）

担任の井手先生に相談したとき、合格をとって安心したいですか？それとも合格をとって勢いをつけたいですか？と聞かれました。娘の性格から考えると心配性ではあるけど、安心校より少し攻めた適正校の方がいいかもと考え、星野学園を受けることにしました。娘も星野学園なら遠くても通っても構わないとはっきり言うておりましたので、迷わず受けました。

1月11日 AM星野学園理数選抜4教科 PM星野学園進学クラス2教科

結果⇒理数選抜は× 進学クラスにスライド合格でした。

午前、午後続けて受けさせたのは、2月の受験のシミュレーションをかねてでした。疲れた様子でしたが、元気そうに出てきたので、2月も戦えそうと確信しました。

◆直前期

冬休み明け、コロナも5類になり、いろんな行事も復活。学校休ませるか、我が家も悩みました。本当は始業式出たら休むつもりでしたが、娘が少しは学校に行きたいと。結局2週間前まで三日間くらい登校しましたが、なんと！！休みに入る最後の日に、体育の授業で娘が右手の小指を突き指してしまいました！！最初学校から一報が来たときはこれで受験が終わったと絶望の2文字が頭をよぎりましたが、なんとか字は書けると。ホッと、理社の穴を埋めることに注力しました。コアプラの第一志望の必須単元を何度もやらせました。あと社会の夏期テキストの地理、歴史、公民単元の練習問題をやりました。

◆2月本番

しかしまたしても我が家に試験が。本番5日前・・・なんと私が体調不良でダウン。父、弟も次々に・・・娘に接触する前に3人一部屋に隔離。娘は本番前の4日間一人でリビング生活になりました。私はといえば、娘が元気に受験できることを泣きながら祈りつつ、万が一発症したときのための予防処置を一生懸命考えていました。出願している学校は別室受験などの救済処置が注意事項などに書いておりませんでした。なので、振替受験を実施している学校を急遽調べ、すぐ出願できるように準備していました。本番直前4日間で娘がやる課題は、リビングの電話に携帯から電話をかけて指示。メモってやっていたようです。

そして、2月1日本番がついにやってきました。朝早くおきて計算問題を少し解いた娘は非常に落ち着いた様子で元気に出かけていきました。頼もしかったです。(元気に行って本当に良かった)

★2月1日 AM 共立女子 ○

★2月1日 PM 十文字 ○

大変な状況であったにも関わらず、夢みたいな結果で本当にびっくりしました。共立女子は算数が時間配分間違えたと言っていたので、2日目もチャレンジする気満々でしたが、嬉しい結果に。

これで終了のはずでしたが、娘が山脇学園を挑戦してみたい言いだし、急遽2日午後山脇学園B入試に追加出願しました。結果は×でしたが、娘は挑戦できてすっきりした様子でした。

共立女子の合格でも大喜びでしたし、受験してよかった。先生や応援してくれたみんなに感謝している。「パパ、ママ受験させてくれてありがとう」と、嬉しい言葉をくれました。

◆裏話

1月の星野学園進学クラス スライド合格の時、娘は合格したことに安心した様子でした。しかし、そのあと理数選抜で合格できなかったことに不安になり、泣きながら2月受けても受からない、2月受けないと言い始めました。これはさすがにマズイのではと思い、急いで担任の先生にヘルプのメールをし、本人が可否を連絡したとき、効果的なお声がけをしていただきました。このことがなければ2月の合格はなかったかもしれません。子供に異変が起きたら迷わず塾に連絡をしてください。

また、5年でなかなか成績もクラスも上がらないとき、プラスαで家庭教師も頼んだ方がいいのではないかと悩みましたが、アントレの授業も教材も素晴らしいものですし、時事問題のプリントなどは、かなり良くできていて、これだけはやるようにと、娘には厳しく言い含めたほどです。新しい参考書や問題集などに手を出さず、授業と配布された教材をしっかり復習し、自分のものにすることが合格への近道と思います。

◆最後に

なかなか本気になれない、ならない娘にイライラし、何度も泣かせました。未熟な母親でした。でも、この2年間で私なんか遠く及ばないくらい娘はすごく成長しました。そんな娘を誇りに思います。

先生にも直前までなかなか集中できない、脳内お花畑ちゃんなので、学力的にはなく、性格的なところで難しい受験だったと思うと言われました。それでもここまで諦めずにやってこられたのは、そんな娘を温かく導いてくださったアントレの先生方のおかげです。個別の先生やなかなか集中力が続かない娘を叱咤激励してくれた塾のお友達にも大変感謝しております。

災害が多い日本です。12年前東日本大震災が起きました。帰宅難民になった保護者の方も多くいることと思います。我が家もその記憶もあり最初は家から近い、通いやすい学校を念頭に置いて探しておりました。

しかしある時、「かわいい子には旅をさせよ」という言葉を聞き、そうだな今がその時なのかもしれないと感じました。これからは徐々に子離れしつつ、まだまだ成長しつづける娘を見守っていこうと思います。

田中丈路くんのお母様

中学受験に縁もゆかりもない両親の元で「東大王にオレはなる!!」と意気込むハッピーボーイと、公立校で手を打ってはくれないかと最後のほうまで願ったポンコツ親の体験記です。

【進学先】開智所沢中等教育学校

第一期生として学校作りに携われる事に非常に興味を持ったようです。息子が大好きな伊沢拓司さんと共に、高校生クイズに出場・優勝した経験を持つ方が先生であると知った事が決定打でした。

また、息子は隙あらば手を抜くタイプな上に、両親共に勉強管理が出来ないため、校内で大学受験対策までしてもらえる学校が良いと判断しました。特待制度があること・給食があること・自転車でも通える距離であることも大きな決め手となりました。

【受験校】

開智所沢合格後家族会議の結果、開智所沢への進学で意見が一致したため1月の時点で受験終了を考えたが、「もうひと頑張りしたほうが良い」とのアドバイスを頂き、通塾の集大成として武蔵受験を決意!!

学校名	試験日・種別		合格	受験当日の様子
開智所沢	1/10	第一回入試	合格(一般)	近場の会場が満席のため、岩槻の兄弟校に3日間通う。早起きが続いたが車内でぐっすり眠り体調◎。 Zoom 応援で先生方とお話することで良いマインドで出陣できた様子。 教室内は定期的に換気され寒かったそうで、ホッカイロが重宝。合間にラムネやグミ補食。帰宅後は外遊びやゲームで気分転換後、コアプラスと白板問題を解き早めの就寝で翌日に備えた。
	1/11	特待A	合格(S特待)	
	1/12	特待B	合格(S特待)	
	1/12	算数特待	昼休憩時に前日の「特待A」合格を確認。試験受けずに帰宅。	
武蔵	2/1		不合格	開智合格後すっかり勉強熱も冷めお世辞でも頑張っているとは言えない3週間を過ごして参戦。本人気楽なものだろうと思っていたが、武蔵のほうが緊張したそう。 「賢そうな子がたくさんいた!!」と初参戦の父親がとても楽しそうだった。 慢心・過信・怠慢の3点セットで見事不合格。合格よりも大切な事を学んでくれたはず。

【見学校】

親子共に志望校がない所からスタート。息子のレベルを面談で確認し、受験体験記冒頭「合格実績」に記載があり、通学1時間程度であることを条件に見学に行きました。どこも素敵でした！

学校名	イベント	印象と決め手
桐朋	学園祭	穏やかで面倒見の良い生徒が多く、母は桐朋生ファンになる。向かいの高校に通学していた義弟の桐朋生に対する評価も高く、未だ母は少しだけ未練あり。「自由」を与えるにはまだ早いと思ひ断念。
巣鴨	説明会と学園祭	平成レトロなスポ根な両親なので◎。剣道の寒稽古や山登りに対しマイナスイメージだった息子も学園祭を満喫しその気に。しばらく第一希望校としており過去問にも取り組んでいたが、開智所沢合格のため受験を選択せず。
城北	説明会	近くで見学していた卒業生であろうお父さんが発する言葉から母校愛を感じられ、好印象。しかし猛暑日に小竹向原駅から徒歩で往復したためか、とにかく暑かったという印象が一番大きく残ってしまった。
栄東	説明会	クイ研に興味を持ち、また直近の高校生クイズ大会で準優勝していたことも相まって息子の評価はとて高く、「ここが良い！」とハッキリ言った学校は唯一かも。面倒見も良いと伺っていたため本気で検討したが、説明会の往復でゲッソリ。通学に無理があると判断し断念。
筑波大付属	学習発表会	高校のクイ研が活発と知り興味を持つ。息子には「試験スタイルが向いていないし難しい」とアドバイスを頂いていたため受験する可能性は低かったが、スイッチが入るきっかけになれば儲けものという気持ちで参加。巣鴨の学園祭をイメージしていたためか、息子の心には残らず。

【3年間を振り返って】

両親共に家を空ける日や、兄の遠征に付き合っ外出する事も多かったため、家庭学習量はとて少なかったと思います。塾で進捗確認しない課題＝やらなくて良い課題 と変換されていると知ったときは笑いました。12月頭に3者面談をして頂いたことで課題のすり合わせができ、ようやく親子共にスイッチ ON。どう考えても遅いのですが、正直その1ヶ月で限界だったと思います…

もう少し我々夫婦が受験に興味を持ち、家庭での学習管理が出来ていればまた別の選択肢もあったのだろうなあと親としては反省するばかりですが、言い出しっぺの息子が満足したようなので良かったです。合格出来たのは、アントレの先生方&一緒に勉強してくれた子たちのおかげです。ありがとうございました!!!

田中信ノ介くんのお母様

受験が終わって、息子から一言。「なんで、中学受験しようと思ったんだっけ？」
「中学受験」という4文字には、家庭によって、様々な思いが込められていることと思います。我が家の場合は、“公立中学でやっていけるだろうか・・・”という心配が、「中学受験」への一步を踏み出した大きな理由の一つでした。その後、私立中学フェアや学校見学に行く中で、それぞれの学校が教育理念に基づいて、教育内容や施設などに工夫を凝らしていることを知り、保護者としては、東京に住んでいることの贅沢さと特殊性（選択肢がある！）に、嬉しさと戸惑いを感じながら、「中学受験」への道を歩み続けました。「中学受験」ができる環境じゃなかったらこんな思いをしなくてもよかったのに、と思ったことも、何度もありました。

アントレには、5年生の6月からお世話になりました。アントレに通わせたいと思った理由の一つは、中学受験を目指した進学教室だけれども、子どもの概念の育ち（“分かった！”）を大切にしようという方針に共感したからでした。しかし、実際には、板書を全部書き写すことも、“分かった！”という感覚を得ることも、予習・復習への意欲も持つこともできない日々が、長く長く続きました。恐らく、アントレが求める学習への理解が、本人の概念理解レベルを、大きく超えていたからだだと思います。これについては、本人の習熟（成長）を信じて待つしかないと分かってはいるものの、学習時間や学習量が増えたら“分かる”ようになるのではないかと、との思いから、学習に向かう意欲を見せようとしないう息子に、焦り・イライラ・あきらめ・怒り・信じよう・・・という様々な感情が渦巻く日々でした。4科目の受講は負荷がかかりすぎていたため、5年の秋からは、好きな社会と算数のみアントレで受講を続け、理科と国語は家庭で学習することにしました。理科はメモリーチェック、国語はZ会や市販のドリルを用いました。6年生の夏季講習は、4科を受講しました。

6年生の夏になり、家に置いてあった5年生の時の算数の白板ノートを、見返しました。すると、当時は手も足も出なかった問題が、日本語のことばとして頭の中に入ってきたような感覚を得たようでした。もちろん、できない問題も多くありましたが、少なくとも、アントレに通い始めた頃よりは、“分かった”と思えることが増えてきたようでした。この頃から息子はよく「アントレに通い始めた頃は、本当に分からなかった。あの頃に比べると、分かるようになった。」と、言うようになりました。6年生の夏を超えた頃からやっと、中学受験が求めるレベルの末席に立てるぐらいには成長したことが感じられるようになりました。そこで、9月末から算数だけ個別をお願いすることにしました。もう少し早くお願いしていたら良かったかな、と思うこともありましたが、“きっと分かるだろう”という自分への期待のような感覚を持たないまま個別に通っていても、“学習の時間をこなすだけ”になっていたかもしれませんので、個別を始めるタイミングとしてはちょうど良かったのかも知れません。“あと半年頑張ればよい”と、終わりが見えていたのも、がんばれた理由のような気がします。個別に通うようになってからは、“分かったという手ごたえ”を、ささやかながら抱いて学習に取り組むようになりました。とても遅かったですが、10月以降の頑張りや、“がんばれば、分かるようになる”という確信を持たせてくれたように感じています。「くやしい」という気持ちが学習へのモチベーションになりにくい息子にとって、この確信を抱けたことは、一生の財産になるだろうと信じています。

受験校については、進学したいと強く願う学校に出会ったものの、それ以外の第二志望の学校には出会うことができずに、6年生の12月を迎えました。息子にとっては、“肌感覚”のような言葉では表せない感覚が、学校選びのポイントになっている様子でした。1月の埼玉受験の際に初めて訪れた学校に、「試験を受けていて雰囲気合うかもと思った。」と言い、この学校が気に入った学校の一つになりました。結果的には、熱望していた学校に合格は頂けず、この埼玉で出会った学校に進学を決めました。とはいえ、両親も本人も学校説明会等に行ったことがなかったため、合格を頂いた直後の週末に、学校をお願いして、保護者のみで見学をさせて貰いました。とても丁寧に対応して頂き、両親も気に入った学校となりました。2月の東京受験の結果が出た後、この埼玉の学校と東京で合格を貰った学校のどちらも気に入った息子は「どちらもいい。選べない・・・」となりました。入学金を振り込む期限がありましたので、とりあえず、気持ちが少し傾いていた埼玉の学校に入学金を振り込みました。しかし、両親としては、“自分が納得して行くと決めた学校だからこそ、頑張れるだろう”と考え、もう一度、埼玉の学校と東京の学校に、見学をさせてほしいとお願いしました。すると、どちらの学校も、快く応じてくれました。東京の学校に伺った際、校門の外に立っていると白髪の老人が声を掛けてきました。「学校が決められず見学にきました」と告げると、「ぼくは、この学校の理事長です。合格おめでとう。どうぞどうぞ、見ていってください。」と、握手を求められました。そして、この学校が大切にしている教育理念などを息子に説明して下さいました。息子は、2つの学校で、生徒さんが学習している様子を見たり、説明を聞いたり、学校の雰囲気を感じたりして、自分で「埼玉の学校に行く。」と決めました。

社会が好きな息子は、社会で受験できる4科で受験をしてきましたが、国語と理科については、自宅学習しかできませんでした。国語は、問題集を何冊かしましたが、理科については、およそ受験できるようなレベルではなかったと思います。あれもこれもと要領よく学ぶことが苦手な息子ですが、がんばりを認め受け入れてくださった学校があったという結果に、親としては感謝しかありません。

「中学受験」をめざす進学教室で、規格外れの道を歩んできた息子です。そんな息子が書いた体験記には、彼なりに感じたり学んだりしたことが記されていました。その体験記を読んだら、両親が抱いてきた様々な葛藤や感情が、全部吹き飛びました。

「がんばったら、きっと分かるようになる。」

この確信を忘れずに、この先の長い人生を歩んで行ってほしいと、心から願っています。

追伸：叱咤激励にピクリとも反応しないであろうマイペースな息子を、穏やかに見守ってくださったアントレの先生方に、心から感謝いたします。ありがとうございました。

谷川雄真くんのお母様

1年という短い間で先生方には大変お世話になりました。息子にとってアントレは楽しく通える塾であり、周りの友達からもたくさんの刺激を受けたことと思います。次は負けず嫌いの妹が控えております。引き続き私たち親子にご指導、ご鞭撻の程よろしくお願ひいたします。

*皆様にわかりやすいように先生方のお名前はあだ名で書かせていただいております。敬称を付けるとなんだかおかしいことになるので(例:フンちゃんさん)、こどもと同じように敬称略となっております。すみません。

アントレに入塾

学校の友達の影響からか4年生頃に何となく中学受験を意識したようですが、当時はまだサッカー少年で地域のサッカーチームの他にスクールにも通っていたため入塾を拒否。しばらく通信で様子を見ることにしました。

とは言え、やはり受験をしたいのなら入塾は必須だと思ったため、4年の後半に近隣の塾を調べ、他塾も含め体験授業に参加しました。私としては当時からアントレを気に入っていたため、フンちゃんに面談をしていただき入塾させる気満々でした。それなのに体験授業に参加した息子曰はく、「夜間の帰り道が怖い。」「あと、なんか意地悪な子がいて悪口を言われた。」と言ってまさかの入塾拒否。(悪口の件はいかにも嘘っぽい。自分の思い通りにするためには手段を選ばない。)当然ですがこれは息子の後悔に繋がります。

空白の、文字通り空白の1年を過ごすことになりました。

そして6年直前の5年の11月。それまでも幾度となく入塾を伝えてきましたが、あらゆる意味で限界を感じ、気乗りしない息子を再度アントレの体験授業に送りこみました。

そうしましたらですね、

「おかーさん！友達がたくさんできたよ！！来週も来てねって言われちゃった♡」ご満悦の様子。

それまでのじりじりした期間は何だったのか、と。中学受験における一般的な入塾時期よりも2年も遅れ、息子のアントレ生活が始まりました。私は肩の荷が下りてほっとしました。

志望校について

何が何でも男子校。曰はく「男子校の『ウェーイ』っていうの、あれがいいんだよね。」

つまりノリ。わかります、わかります。別学特有のアレですよ。ワルノリ。

男子校の数が少ないので通学時間が1時間以内の学校は、「控えおろー。」と言われそうな難関校も含めて色々見ました。殆ど社会科見学でした。

幾つかの男子校の中で息子がこれと思った学校は桐朋でした。中庭で日向ぼっこをする息子の横顔は何とも言えずとにかく快適そうでした。

この表情、2歳の頃にお散歩中、突然歩道にしゃがみ小石を数え始めるや何故かそのまま脚を投げ出して座ったままぼうとしてしばらく動かなかったことがありました。あのときの、口元にちょっと笑みを浮かべた横顔でした。

しかし誠に残念なことに憧れの桐朋は、ちゃらんぼらん息子には向かないとフンちゃんより。(学力的にも向かない。むしろこっち。)アントレは受験後の伸びも目指す塾でした。そうでしたよね？

(この体験記、締切日の20時から書きはじめまして、既に締切時間過ぎていきますので、アントレの指導方針をネットで確認できないのです。色々ごめんさい。)

というわけで、自由でありながらも面倒見も良いという成城を第一志望に据えることになりました。

成績について

息子は算数が苦手でした。6年の最初の模試では確か・・・。偏差値30？苦手ではありましたが個別でも見ていただき、平均して49か50くらいになりました。

秋の模試からは第一志望校の合格率は8割くらいになりました。そうなってくるとザ・小学生男子。余裕ぶって毎日校庭開放で遊ぶようになってしまいました。

入試演習も始まり、最初は男女中堅クラスでしたが成績が安定していたため中堅上位に移動しました。

相変わらず算数の弱さは目が飛び出るほどでしたが、国語と社会はできていたので合計点では取れていまし

た。
過去問も9月頃はあまりできませんでしたが後半は合格点を取っていました。
この順調さが仇となりました。

埼玉受験

埼玉受験は城北埼玉を受験するつもりが、過去問が合わないと言うのでポッキーに勧められたという西武文理に出願しました。

入試の帰り道、父親には「満点かも。」と自信満々でしたが違いました。

合格はいただいたものの、思いのほか得点できていない算数に、これは成城は黄色信号では？と不安が頭をもたげました。当の本人はというと相変わらず能天気です。

東京受験

我が家は2/1に成城を受験し、当日の午後に第二志望の獨協を受験することとし、1日の成城から合格をいただければ2日は城北にチャレンジ、というスケジュールでした。従って、1日に合格をいただけない場合は、合格するまで執拗に成城と獨協を受け続けるという攻めなのか守りなのかかわからない受験でした。

2/1 午前：成城×、午後獨協×

成城は無謀な受験ではなかったはずですが。しかしまさかの不合格。

息子は入試後は自信満々で受かる気満々。

【残念ながら不合格になりました】

この地味なグレーな印象の1行を見たときは家族全員固まりました。(むかつくのであまり見ていない。)

息子：「え？なんで？」

その他：「・・・・・・・・」

10秒後、妹：「ふーん。不合格ってこんな感じなんだ。」

母：「アントレに電話して、寝よ。」

ベッドの中で少し泣いて、「ぼく、獨協の問題、合わなくてできないのに。」と言いながら過去問を抱いたまま眠ってしまった姿は切なかったです。これで睡眠学習でもしてくれれば良いのにと本気で思いました。

2/2 獨協×

2/3 成城×

こんなに落ちるなら最初から浮かれてないで複数回受験で受験料払うのだった！！！！

さすがに3日間落ち続けると件のグレーにも慣れてきました。人間、絶望にも慣れるものです。

息子はというと、3日目の成城不合格を見た後は「全落ちするかも。」と呟いていました。そしてコナンの動画を2時間程度観ていました。この親子どうなのだろうね。

2/4 獨協◎ハナマル

4日は息子には内緒で帰りの電車の中、白目で高校受験に向けた塾の資料請求を行おうとしていました。

獨協は予定よりも早く合否を出していたので18時過ぎからそわそわして何度もメールをチェックしていたところ、やはり予定よりも1時間程度早く発表されました。

【合格おめでとうございます】

左にかわいらしい控えめな桜が描かれたピンクの背景。ばんざーい。

2/5 成城×

またあのグレーで我が家の受験が終わりました。

進路

獨協から合格をいただけたので入学手続きをと思っていると、息子から進学先を考えたいと申し出がありました。高校受験でがんばりたいと言うので、まずはアントレに電話して先生の意見を聞くように言いました。らっきょと話しをし、一晩考えた結果、獨協への進学を決めました。

雑感

とにかく勉強しない息子でした。管理されるのを嫌がり、スケジュールを作っても、タスクを渡しても、計

算すら毎日しない。受験やめればいいのに・・・と思ってもやめない！の一点張り。ぶちぶちにプチ切れても冷静に話し合っても本当にやらない。

「馬を水辺につれて行けても水を飲ませることはできない。」

「かずまを勉強机につれて行けても勉強をさせることはできない。」

私はというと面談をしていただいたり、「～って先生が言っていたよ。」と最善策を伝えるだけでした。

上手く伴走できなかったのは、息子本人の受験という意識が強かったのと、やはり入塾が遅かったからだと思います。

息子は最後まで所謂「受験生」にはなれませんでした。男の子は最後の1か月で火がついて、などと言う人もいましたが、どう目をこらしても火などついているようには見えませんでした。それを息子の幼さ故と認めていたのですが、受験が終わり日が経つと、私自身が受験生の親になれていなかったのだということに気がきました。

入塾に適した時期に入塾し、本来であれば親子で時間をかけ受験生とその親になっていくのではないかと思います。息子の弱さや忍耐力のなさ、集中力のなさ、その他もろもろはそのまま自分のできなさでもありました。今更自分のことを真正面から見つめ直すようなことはやりたくないことですがやらないといけないことでした。

3日間不合格が続いた息子は、落ち込むのかと思いきや、「昨日の結果は昨日の結果、今日は今日の受験だから。」と言って毎日「普通に」挑みました。不合格が続いた4日目の午後に呑気に高校受験の塾をネット検索できたのも多分、息子のこのポジティブさにのまれていたからだだと思います。

私は合格して初めて獨協のHPの色々なページを見ました。(この母にしてこの子あり。)

何となく第一志望に未練があるように見える息子に、「さすが獨協のHPは内容が深い！知的な感じ！！」と言ってみたり、「体験授業に行ったときに温かい学校だと思ったのよね！」などと言っては盛り上げています。*言い方は大袈裟ですが正直な感想です。

ちゃらんぼらんでいい加減で自信満々な息子ですが、私の見ていないところではがんばっていたはずです。そのがんばりを合格と言う形で認めてくださった学校で6年間を楽しく過ごしてほしいと思います。

中曽瑠香さんのお母様

2月4日、結構できたよ！ぱっちりだと思っ！そういっていい顔をして楽しそうに受験校からでてきた時の娘の顔を、私は忘れないと思います。壮大なチャレンジを12歳で体験できてよかったし、あれだけの勉強をしたことは、これからの財産になるのは間違いないと思います。

【アントレとの出会い】

アントレに入ったのは5年の11月。冬期講習の前からでした。それまでは習い事中心の生活をしていたので塾には通っていませんでした。4年生は予習シリーズを自宅で、5年生は四谷大塚の通信（進学くらぶ）を利用していました。5年までに夏季や冬期講習などで他塾も体験しましたが、ビビッとくるところがなく、いよいよ6年になる直前に友人の紹介もあって体験授業を受けました。授業後には、もう娘自身が通う事前提としていて、今まで自宅学習していたことがなかったかのようにアントレ生になっていました。

【志望校選び】

アントレに入る時のフンちゃんとの面談時に志望校を聞かれ、豊島岡と答えました。「じゃ、やっぱり算数ですね。」と言われきょんとした事を覚えています。娘は豊島岡の校長先生に憧れていて、「私はコツコツやる子だから豊島に行きたい」と最初から目標がブレませんでした。ただ、現実が見えてくると憧れる事と手が届く事は違うのでは、と親は不安でした。

その他に、吉祥女子、晃華学園も素晴らしい学校で、志望校候補にしましたが娘は全く興味を示しませんでした。どちらも比較的通いやすく実家も近い。距離も大事な志望理由でした。学芸大付属小金井も親は志望していましたが最後まで本人は受けたくないといっていました。豊島岡一択の受験だっただけに、本当に不安で眠れない日々もありましたが、子供が興味をもてないとモチベーションにならないこともよくわかりました。

【勉強に関して】～もう1度中受をやるなら～

クラスはAで6年前半は、国語と理社をSにあげてもらいました。

でも自宅学習で4年5年とやってきた算数は、アントレでは全然通用しませんでした。スピード感、考え方、解きすすめ方、どれをとってもまったく力及ばずで娘は苦勞したと思います。算数得意だったはずなのに…と私も焦り、予習シリーズ演習問題集や難関問題集をやれやれ言いました。余計なアドバイスをしたなど反省です。今なら言えます。

<白板もっと徹底的にやろう！>

<先生の用意してくれたプリント類、コツコツがっちりしっかりやろう（理社も）>

予習シリーズや演習問題集にずいぶん時間をかけ、アントレのペースをつかみきれず、流れを乗りこなすにはもう少し時間がほしかった…あつという間に6年後期になってしまいました。だから、もう一度やるなら、もっと早くアントレ生にさせてあげたいな。（笑）

【直前期に関して】

アントレのプログラムに素直に乗れるようになったころには、もう入試演習やら過去問やら…

先生の指示や保護者会のお話をじっくり聞いて、素直に従うそれがベストだと思います。

志望校に関しては、アントレの先生に相談すれば、いろいろなプリントを瞬時に用意してくださいました。志望校対策プリントをどっさり用意して下さり、最後は毎日毎日それをやり続けました。社会の記述プリントも、夕飯の時にしゃべりながら毎日行いました。夕飯時に時事の話をする事はすでに習慣になり、受験がおわった今でも話題が時事出る事は続いています。

【試験飯】

試験の時の食事など考えもしなかったのですが、1月2月の2回4日分 同じメニューにしました。

基本は、朝ラク・白米を食べる・4日分まとめて買って日持ちする・昼の親の食事になる・喉にものが通らない状況でも比較的流し込めるような食事・全体的にはやさしく薄味にしました。

自分も緊張し食事どころではなくなってしまうたり、なにも手につかない事も多々あります。

前もって考えておくことをおすすめします。我が家のメインメニューは下記の通りでした

前日夜 カレー

1日目 朝 カレー 夜 ラクダ飯（ラクダママ飯）

2日目 朝 ラクダ飯 夜 親子丼&豚汁

3日目 朝 豚汁&ごはん 夜 ハッシュドビーフ

4日目 朝 ハッシュドビーフ 夜・希望はお疲れさま会だといいですね！

※ラクダ飯は ラクダ先生がその時期にきっと話してくれると思います。

※副菜はどうぞお子様のお好きなものを

【子供との関係】～怒って起こすこと～

計算と漢字をやるためには朝しか時間がない！ということで、朝の 30 分の時間をつくるために朝起こすのが大変でした。時間ない、やらせたい、なかなか起きない！で何度怒ったことか。私自身は起こす事がストレス、トラウマになっていて今でも嫌な気持ちになります。でも今の娘は「毎日起こしてくれてありがとね～」と平気です。結構痛かったはずだし、起こされることも嫌だったはずなのに忘れてしまったようです。(中学はもう起こしません！)だから、今起こす事に嫌な気持ちになっているお母様がいらしたら、がんばって続けて大丈夫そうです。

【先生への相談】

6年の12月1月は、呪文のように「悩んだらすぐ連絡」と自分に言い聞かせました。不安なことも心配な事もみんな丁寧に聞いてくださり、応えていただきました。最初の頃は連絡できずにおりましたが、小さなトラブルも大きな悩みも、百戦錬磨の先生にご相談が一番です。Google クラスルームでも電話でも、悩んだらすぐ連絡です。6年の後半は、合不合のあとに面談と決めて、定期的にお世話になりました。

【その他の工夫】～書いておきたい事だけ～

未来コンパスで予約とる→早めにサイトに入り時報とともにクリック。慌てて何度もリロードしない事。

プリント整理→おおきなクリップ(100円で8個入り)で 週・教科・テストごとに整理、

背に円形シールで見出しタイトル作成

受験票→厚紙に印刷。はがせる弱粘着ノリで付箋状にして落ちないように。切り取り線があるときは切り取って。切り取り線がない学校もありました。

【先生の最後のアドバイス】

タケノコ先生の最後のアドバイスは **選択肢を増やしておきましょう** でした。

1月の合格で思っていた以上に満足してしまい、2月は1校以外 午後も含めてどこも受けなくていいと親も子も本気で思っていました。こんなに長く勉強してきたのに、嬉しさも相まって突然フワフワと気がぬけてしまうものなのですね。最後は先生のアドバイスを聞いて準備していた学校に出願しました。今は、選択肢を増やしておくことが大切というのがよくわかります。可能なら最後まで受験しきるのがいいと感じました。受けなければ結果もでません。そのために、受験したいお気に入り校を増やし、選択肢を増やしておくことが怒涛の日々の中でお守りになると思いました。合格をくれた学校に感謝もできます。

【最後に】

アントレに1年しかお世話になれませんでした。それでも娘にとって自分が所属した大事な場所になりました。先生方、個別の先生方、そして関わりをもってくださった保護者の方にも心から感謝しております。ありがとうございました。

今は親子とも1月にご縁をいただいた学校での新たなチャレンジに心を弾ませています♪

根本皓太郎くんのお母様

アントレには4年生からお世話になりました。

3年間本当にお世話になりました。4年生の時は、受験まで長く感じましたが、最後はあっという間で、私の方が寂しく感じています。時々この3年間を振り返ってみて、ああすればよかった、こうすればよかったかなと考えたりしましたが、最後はやはりベストを尽くしたと思います。

合格体験記には、子供の勉強方法で行き詰った時に読ませていただき、何度も助けて頂いたので、私の体験も何かのお役に立てればと思い、思い出しながら書いています。

<習い事>

習い事は、ロボット教室、習字、英語、スイミングと楽しく通っていましたが、アントレに入塾するにあたり、英語とロボット教室はやめました。スイミングは続けていたのですが、アントレを始めてみて、本人が続けるのがしんどいと言ったので、4種目泳げるようになったこともあり、5年生でやめました。ただ、運動はしたいということで、テニスを主人と習い始めて、6年生の夏休み前まで、習字とテニスは続けていました。

<子供について>

小学校に入学するときに、西東京市に引っ越ししてきましたが、小学校は2クラス、男子は1クラス16人の少人数の学年で、友達作になかなか苦労していました。性格の面では、視覚、聴覚で刺激を受けやすく、その分言葉の表現が苦手というもあってコミュニケーション力を向上させるため、2年生から4年生の時まで通学学級で学んでいました。

子供の性格は、好きなことに関してはかなり没頭してしまい、工作やロボットづくりなど、暇さえあればいつも何か作っていました。そんな子供を見ていて、公立ではなく、私立で自分の好きなことを伸ばしてあげたいという気持ちもあり、私立に行ってみてたくさんのお友達も作ってみたらと話してみたことがきっかけです。

本人も受験してみたいと言ったので、同僚から、アントレの話聞いて、さっそく体験授業を受けて、算数が楽しかったと即入塾を決めました！

<4年生の時>

Aクラスでスタートしたのですが、3年間振り返ってみて、親子ともに一番しんどかったのがこの時期だったと思います。

予習や復習で分からなかったところは、主人が教えたりしていましたが、反発したりしてけんかになったり、嫌いな国語は、予習でなかなか机に向かえなかったため大変でした。私も主人も中学受験を経験したことがなかったので、保護者会で頂いた、勉強スケジュールの例を参考にやってみようと思いましたが、うまくいかず焦っていた気もします。とにかく大変だった記憶があります。

<5年生>

5年生に上がる個人面談で、柏原先生と相談して、Aクラスになりました。Aクラスになったおかげで、算数に少し余裕ができて、他の教科にもしっかり向き合えるようになって安定してきました。個人面談で、志望校の相談をさせて頂いたのもこの時期だったと思います。子供の性格から、ある程度自由でゆったりとした校風の学校を教えて頂いて、桐朋・城北・成城中学校の学校見学や文化祭に参加して、親子ともに桐朋中学校がいいのではという方向に固まっていきました。

5年生の夏以降、算数が難しくなると保護者で聞いて、勉強は自分でやるから誰にも頼らないと言っていたので、個別の先生をお願いしました。

<6年生>

Aクラスのままスタートしました。私から見て、少し余裕が出てきたとは思っていたのですが、本人がGW前に突然、Sクラスにあがりたいと話しまして、個人面談で清水先生に相談しました。後から聞くと、個別の先生には、桐朋と武蔵の併願はできますかと聞いていたりしてみたいで、本人の中に、武蔵中学も受けたいという気持ちが湧いていたみたいです。

ただ、主人と私は本当にびっくりしました。4年生の時に算数についていくのに大変だったので、本当に大丈夫なのかと心配で、清水先生に何度か相談した記憶があります。それで、清水先生からとりあえずSクラス見習いでスタートしてみましようとお話をしていただき、GW明けからSクラスにあがりました。1か月、毎回の授業で白板の3分の1の○をもらうこと、月例テストで50点以上取ること。そして授業の様子を見

て、柏原先生が判断してくださるとのこと、本人も張り切っていました。国語は苦手だったので、Aクラスで受講しました。受講してからは、本人が自分でSクラスに上がりたいと言ったのでついでにと頑張っていました。結果的に、他の教科も伸びてきて、少し余裕があるよりも、必死で取り組んでいた方が頑張るタイプなのかと主人とよく話していました。

夏期講習も、Sクラスでやってみようということになり、本人も気合十分、私から見て、この夏休みが一番頑張っていた気がします。ずっとAクラスだったので、5年生から6年生の4月までのSクラスの白板ノートを頂いて、予習して夏期講習に臨みました。1クール後には、個別の授業を入れて、分からなかったところを残さないように取り組んでいました。

私も主人も共働きだったので、朝みんなで家を出て、こうたろうはひばりが丘のマックで勉強→図書館が開いたら図書館に移動→アントレに向かう毎日でした。本当によく頑張っていたと思います。

相変わらず、国語の苦手意識があり、本人もやらなくてはと思いつつも、なかなか向き合えない日が続いて、私も何度か天野先生にも相談しました。ちょうど反抗期もあり、私も主人も関わらないで、自分でやると言いつつもできてなかったように感じます。

<入試演習クラス>

夏休みから少しずつ過去問に取り組むことが始まりましたが、桐朋への気持ちも残っていて、最初は桐朋の過去問を解いていました。ただ、9月から始まる入試演習クラスは、本人が武蔵クラスを受講したい旨を柏原先生にお伝えして、1か月はしてみようということになりました。その間に、武蔵中学の説明会へ足を運び、本人も武蔵を受験したいという気持ちが固まってきたので、柏原先生にお伝えして最後まで武蔵クラスで受講しました。結果的には、半分の確率で合格・補欠だったと思います。

国語・算数ともにムラがあり、なかなか安定した合格点を取れなかったです。

武蔵の過去問も、なかなか合格平均点に届かず、本人よりも私の方が不安になってしまい、何度か柏原先生にも相談しました。特に最初のころは、理科・社会の過去問になかなか向き合えず、私もみていて歯がゆい気持ちでした。

最後は、親が子供を信じなくてほしい、絶対大丈夫と心の中で繰り返し、子供を励ましていました。特に国語に関しては、何度か天野先生に相談させていただき、励ましの言葉を頂いて感謝の気持ちでいっぱいです。

決して記述の力がない訳ではなく、満点を取れる問題もありますと教えて頂いて、私も子供に伝え、制限時間内で解く力をつけるために、一緒に取り組んでみました。ただ、やはり苦手な意識は最後まで持っていました。

<1月>

年明けから、学校の方はお休みして、自宅で過ごしました。主人が時々在宅で勤務しましたが、こうたろう一人で過ごすことも多かったので、アントレのズーム自習に参加してみたらと初日に設定してみました。本人は、プレッシャーになるから自分はやらないと言って、そのあとは一度も参加しませんでした。

柏原先生から算数メインは変わらず勉強してみてくださいとのことだったので、過去問のほかに夏期白板・武蔵対策プリント・武蔵クラスのプリントを復習していました。まとまった時間が取れたこの時期は、社会にも少しずつ復習していました。

本人なりに、頑張っていた様子ですが、午後は工作など遊ぶこともあったようです。

本人は算数大好きでしたが、やはり理科・社会へは向き合う時間は足りなかったように感じました。

桐朋の過去問と相性があまりよくなかったこともあり、第2志望は城北中学に決めて、過去問は5年分解いてみましたが、国語だけが、その年によって点数に波があったのが気になりました。論説より小説が苦手でした。

何とか、1月後半に入り、合格平均点が取れるようになってきましたが、1月下旬に鼻風邪を引いてしまい、最後のアントレの授業も休んでしまい、そこで少し緊張の糸が切れてしまったようで、受験前日まで、なかなか勉強に集中できませんでした。

私も焦ってしまいましたが、ここはもう割り切って、子供には大丈夫だよと励まして、早く寝かせて体調を優先することだけに集中しようと話しました。

2月1日

武蔵受験。朝3人で学校まで送っていき、主人が最後まで付き添ってくれました。主人曰く、晴れ晴れとした顔で出てきたよとのことでしたが、後から聞くと、算数以外は難しかったようです。

2月2日

城北受験。やるだけのことはやったと話していましたが、夜に不合格の結果を聞き、私と主人はどうしようかと心の中で不安でいっぱいでした。本人も落ち込んでいました。

2月3日

成城受験。この日のズーム応援では、目に涙を浮かべて話しているこうたろうの姿を見て、私も胸がいっぱいになりました。

待ち時間の間に、武蔵不合格と分かり、私も主人も全部だめなのではと思い、重苦しい空気が流れていました。

こうたろうは、全部やりきったと話して出てきましたが、武蔵不合格と聞き、ショックで、もうどうでもいいと自暴自棄の様子だったので、とにかく柏原先生に報告してみようと話し、アントレに電話をしてアントレに向かいました。

そこで、算数、理科、国語と最後の城北の試験の対策をして頂き、力をもらったみたいで元気に帰ってきました。帰ってから社会も勉強し、今から思うと、やっと本気になったかなと私は感じました。

2月4日

城北受験。本人にとっても最後の受験です。かなり緊張していた様子でしたが、ズーム応援で少し顔の表情が柔らかくなっていました。最後は、すっきりとした顔で出てきて、算数はできたと言っていたので、私も主人も、結果がどうあれやりきったことを頑張ったねと伝えました。結果は合格でした。本当にうれしそうで、すぐに柏原先生に報告。やっと家族全員ほっとしました。

<最後に>

結果的に、第1志望の武蔵は不合格でしたが、今思えば、どちらかという、精神的にまだまだ未熟な子供にとって、城北が一番子供に向いているのではと私も主人も思っています。(本人はまだ少し落ち込んでいますが・・・)

城北で、自立と自律に向けて、心身ともに成長してくれればと願っています。

Aクラスでのびのびと過ごしていた子供が、突然上を目指したいと言ったときは本当にびっくりし、9月に武蔵を受験したいということで、過去問対策が少し遅かったかなと私は反省していますが、その時の本人の状況を見ていると、勉強に向き合うことを含めて本人の実力だったのではと思います。

ただ、武蔵を受験したいということで、そこから本当によく頑張っていました

苦手な記述問題も、武蔵を受験することがなかったら向き合わなかったと思います。算数も、何度も勉強しながら楽しいと言っていましたし、本人の自信にもなったと思います。

アントレの先生方には本当にお世話になりました。ありがとうございました。

個別の古内先生、長澤先生ありがとうございました。

長澤先生は、4日間のズーム応援でも最後まで応援してくださり、子供にとって本当に励ましになったと思います。

力はありますと言ってくださった言葉は私の励ましにもなりました。

苦手だった学校も、最後は大好きになり、アントレを通して、本当に成長を感じることができた3年間でした。

私も、中学受験を通じて、いろいろ勉強させて頂きました。子供と喧嘩もしましたし、勉強方法について何度も話し合い、試行錯誤しながらきました。結果、子供がどういう考えをもっているかなど早くに知ることが出来たのでよかったです。

本当にありがとうございました！

野口めぐみさんのお父様、お母様

1. はじめに

まず、この場をお借りし、娘の中学受験をサポートいただいたアントレの先生方に、厚く御礼申し上げます。後述のとおり、娘の第一志望である吉祥女子中学校への合格は、アントレなしにはあり得ませんでした。

以下で述べさせていただくのは、「順風満帆な受験体験記」でなく、「終始家族全員で苦勞し通しの受験体験記」となります。決して、格好の良い内容ではありません。一方で、最初から最後まで、「家族として団結してトライできた」と誇りをもってお伝えすることができる内容です。拙稿が、これから中学受験に臨むご家族の一助となれば幸いです。

2. 中学受験を志した理由

我が家は両親ともに中学受験組だったため、自然と娘に中学受験を勧める流れとなりました。

その代わり、中学受験のメリット・デメリットは娘に繰り返し伝えることを徹底しました。加えて、本人に途中でやめる選択肢が与えられていることを伝えることも心掛けました。結果的には、これが最後まで娘が意志をもって中学受験に取り組むことができた要因と考えています。これから、中学受験を志すご家庭には、折に触れて、中学受験のメリット・デメリットをご本人と可能な限り共有されることをお勧めします。

3. 「アントレ」を選んだ理由

余談ですが、当方（父）は、30年前、埼玉を中心とする某武闘派学習塾（志賀高原で夏合宿を敢行する塾です。ご存じの方もいらっしゃるかと。）に所属し、中学受験に臨みました。この経験から、「中学受験は休日もないほど勉強するもの」と穿った考えを持っていましたが、娘の塾選びにあたり、アントレの塾説明を伺ったところ、「5年生まで土日のテストを実施せず、また、平日も過度な無理をさせず、この時間を自主学習に充てることで知識の定着を図る」とする学習方針に共感し、アントレに娘をお願いすることとしました。

後述のとおり、知識の消化に時間のかかる娘にとっては、この方針が適切だったと考えています。

4. 受験までの経緯（勉強方法・苦勞・工夫）

○ 3年生 ～放置期～

娘は、Aクラスで学習をスタートしました。実は、この時期から、我が家は「失敗」していました。アントレから「中学受験は、親と子供の二人三脚」と事前に指導があったにもかかわらず、この時期はすべてを娘に任せ、たまに口頭で「できてる？」と聞くだけで、進捗にコミットしていませんでした。

○ 4年生 ～低迷期～

4年生に入り、月次のテストで次第に芳しい点数が取れなくなる過程で、初めて我が家として状況を認識し、ここから付きっきりで勉強を教えることとなりましたが、基礎の欠落を補うことができず、学力向上に繋げることが叶いませんでした。また、4年生になって始まった理科・社会も学習容量が多く、弱点の算数に時間を割くことができませんでした。家庭で「先んじた家庭学習」を積極的に進める必要がありました。

○ 5年生 ～超・低迷期～

状況はさらに悪化（お時間があれば、娘の受験体験記もご参照ください。娘がアントレのまとめテスト（算数）でとった衝撃的な点数が記載されています。）し、娘のモチベーションも低下していきました。

しかし、問題を少しでもひねられると解けない、という課題を改善するための試行錯誤をする中で、「丁寧に復習を繰り返す」ことで、消化の遅い娘の学力にも徐々に改善がみられてきました。思えば、ここで初めて「コツコツと積み上げることができる」という娘の持つ特性に気づくことができました。

○ 6年生 ～覚醒～

カッシー先生のアドバイスで、夏期講習まではSクラスに所属し、難問に慣れる選択をしました。さらに、夏期講習後は、娘の実力と第一志望である吉祥女子をふまえ、Aクラスを選択しました。積み上げた力は、最終的に算数が最も安定的に点数を稼げる教科とするまでに至り、算数を柱とするアントレの学習方針に、やっと我が家も追いつくことができました。

11月からは、いわゆる「自走」が始まりました。長く続いた二人三脚が終わり、娘の成長を誇らしく感じると同時に、少し寂しさも感じました。

5. 受験校選定

我が家では、「規律と自由のバランス」が取れた学校を柱とし、娘がチャレンジできる学校を探すなかで、吉祥女子中学校に出会いました。学校説明会等に参加する中で、娘もよいフィーリングを感じ、なにより「制服がかわいい！」ことが本人の決め手となったようです。

最終の受験校決定の際には、タケノコ先生から「現在の学力であれば、吉祥女子は2/1と2/2の両日チャレンジしたほうがよい」との示唆をいただきました。2/2の2回目のチャレンジで合格を勝ち取ったのは、先生のアドバイスのお陰と感謝しています。

6. 「中学受験生」の親として

娘の努力とアントレのご尽力があって、今回、娘の第一志望にご縁をいただくことができましたが、未だに、娘を中学受験の世界に引き込んだ選択が正解であったのかは分かりません。受験が終わった後、友人との遊びや趣味のレジン作成に没頭する娘を見ると、何が正解だったのか、不安になることもあります。

一方で、この経験を通して、目標に向かって必死に進む娘の姿を見ることができました。初めて、娘を一人の人間として敬愛することができたと感じています。中学受験で得た経験を、後の人生に活かして欲しいと、心から願っています。

7. 最後に

改めて、娘のチャレンジを全力で応援していただいたアントレの先生方に御礼申し上げます。アントレは、受験生とその家族にしっかりと寄り添っていただける頼りがいのある塾です。3歳下の息子の受験でも、迷わずアントレの門を叩かせていただきました。これからも、どうぞよろしく願いいたします。

本田澄海くんのお母様

『受験を終えて』

アントレに入塾して過ごした3年間は息子にとってかけがえのない日々になったと思います。素晴らしい先生方に関わって頂き、お友達と過ごし、こうして卒業まで迎えられたことに心から感謝しています。

何度も受験を諦めようと話し合い

(受験したい気持ちがありながらゲームをやめられない…笑) その度にアントレが好きだからやめたくない、息子。←コントのように同じ事を何度も繰り返しその当時は命懸けでバトルしているわけです、今思えば笑えるんだから不思議です。

〈子供達に愛される塾〉

そんな言葉がびったりな塾で、息子は4人兄弟3番目、長男からお世話になっているアントレにはみんなが口を揃えて授業が楽しかったと言います。(訳あって次男は途中脱線しましたが…笑 それでも記憶に残る塾でした。)

3人の受験を通して…

希望する学校を目標に頑張るわけですが、それと同じくらい、もしくはそれ以上に学ぶ事の楽しさをこの時期に知る事ができるのは素晴らしい事だと思います。

中学、高校では更にテストで測られる場面が多くなりアントレでの学びのスタンスは進学した先でも根っこの部分を支えてくれています。

1月10日城北埼玉→進学

11日、12日も受験をする予定で申し込みをしてありました。とゆうのも、過去問が全く取れず苦しんだことと四谷の合判でも20%良い時でも35%だった事からです。この学校が好きだと思う反面、算数の問題が本人に合わず(難しく)苦しみました。

解く→解けない→解きたくない、勉強したくない→ゲームに逃げる、母エアメガフォンでがんばれ〜とあの手この手でエールを送る→俺やっぱり逃げないことにする!…を何度繰り返したでしょう。またここでもやはり当時は笑えないのに、今は書きながら笑ってしまいます。

1月城北埼玉だけの受験では危険なのではと先生に相談させてもらったところ、複数回受験で優遇の方向での方が良いとアドバイスをいただきその様に受験しました。難しいようであれば、城西川越(5回合判80%)に切り替えようとも思っていました。

★12月最後の模試は本人の気持ちをグッと上げる為にも首都模試に切り替えました

偏差値も大きく上がる為自信がつかしました。

そんな中本人のモチベーションは城北埼玉の空の広さ、広大な敷地でした。

(因みに余談ですが…城北埼玉には兄も通っています。只今高校1年生、校長先生は少しユニークではあるのですが…笑 先生方も素晴らしく、人間味ある情熱的な先生が多いイメージです。様々な場面で男子のプロだなあと感じます。女親にはこの視点がとても心強いんです、思春期ピークの男子心は難しい!面倒見とゆう視点でも息子サイドからも親サイドからも学習のサポート体制にも満足しています。大学受験へ向けての情報共有も細やかです。長男の時、こんな事言われたことを思い出しています。2月校がメインだと思っていた母は三回とも同じ学校を不合格になった時にそれはそれは落ち込んだんです、サポートが足りなかったと日々自分を責めました。それを見て長男が俺は受けた学校全てが第一希望だったんだ、ママはそれに納得できないの?と…ハッとさせられた瞬間です。そこから気持ちを切り替え前を向くことができたんです、合格をいただいた学校がその子のご縁なんだと改めて感じた時でした。今では家族で大好きな学校になりました。)

城北埼玉

1月10日の1回目で合格いただいたのですがここからの2月へ気持ちを乗せていくのが大変でした。もう受験は終わったかの様になってしまったのです。ここでだらけさせてはこの3年間の締めくくりが台無しになると、やりきらせるためにも兄達も参加してくれて家族総出で早押し大会、息子本人に白板で理科、社会の授業を試みたり、やる気を取り戻しラスト一週間やり切るムード全開で挑みました。

(1月で合格がなかった場合2月は武蔵野大学中学校を(80%)受験を予定していました。)

日大豊山

2月1日 不合格

2月2日 不合格

算数の時間配分や思うようにできず学校から出てくるなり涙目。家で荒れる。

当初2日間チャレンジできたなら十分と考えていたのですが、本人が最後まで一度受けたいと言い出し、急遽出願し納得いくためにも最後まで受けることにしました。2月3日 不合格

最終日、『やり切れた…ママ3年間ありがとう。受験させてくれてありがとうございますございました』涙を溜めた目を見て、思っていた以上に小さな心で乗り越えてきてたんだなと、エスカレートしていく自分のメガフォンの大きさに反省した瞬間でもありました。

沢山の不合格の数を家族で乗り越えてきました。きっとこれからも息子達それぞれ様々な事を乗り越えていけると信じています。

やりきれた自分を誇りに思い、足りなかった努力からは目を背けず春から頑張ってもらいたいと思います。本当に本当にお世話になりました。みなさんが出会いに恵まれ素晴らしい学生生活を送れます様に。ありがとうございました。

本間ほのかさんのお父様

受験勉強、お疲れ様でした。そして、合格、おめでとう！
アントレの先生方、最後まで応援していただき、本当に、ありがとうございました。

私は娘のことが大好きで、愛情をもって、育てています。これは勉強だけではなく、娘が「やりたい！好き！やってみたい！」ということは親として、サポートし、娘の失敗も成功も見届けてきました。一転、中学受験を決めてから、いつの日か、娘にとって、厳しい父親になってしまいました。これは本当に反省すべきことで、後悔もしています。なぜ、寄り添ってあげられないのか、娘の気持ちを理解してあげられないのか。頭では「初めての問題だし、難しい問題だね。」と分かっている、焦りやできないことへの不安・心配により、厳しい言葉になってしまいました。一緒に伴奏するはずが、どこかで、強制している自分がいました。親子で、苦しい、苦しい受験勉強になりました。

娘は「合格」を勝ち取りました。私にとって、誇らしい娘です。私の娘とは思えないくらい真面目に勉強し、予習も復習も取り組みました。そして、最後まで、「疲れた。」「休みたい。」「やめたい。」「眠い。」と口にすることはありませんでした。アントレが本当に大好きで、授業を楽しみ、テスト結果も受け入れ、勉強をしました。その努力が「合格」に繋がったと思います。

娘にとって、大きな分岐点が2回、ありました。それは、過去問で合格点を超えた時。そして、埼玉受験で合格をいただいた時です。自己肯定感が高まった瞬間です！「努力が自信に繋がった瞬間」です。私はこの時、「これが子育ての原点だな」と再確認しました。私が親として、成長した瞬間でもありました。

娘はアントレの先生や個別の先生のおかげで、勉強を続けられましたし、合格まで辿りつきました。先生にサポートしていただき、苦手な問題も自力で解けるようになりました。休むことなく、アントレに通うことができた要因は先生や友達存在です。この人と人の繋がりが、娘の原動力になり、勉強への推進力になりました。多くの人に支えられました。本当にありがとうございました。

これからも勉強は続きます。中学受験の勉強が終わりではなく、ここから新たなスタートです。新しい仲間と楽しい学校生活を送って欲しいです。努力すれば、成長できる。それを教えてくれたのが中学受験です。

もし、再チャレンジするとしたら・・・(アドバイスです)

1. まず、アントレの門を叩く。
2. 子どものできないことも見届ける勇気をもって、
3. テストの結果に一喜一憂せずに、
4. 先生に相談し、取り組むことを絞り込み、伴走する。

中学受験の記録

1月10日(水) 午前	4科目受験 合格
1月10日(水) 午後	4科目受験(特待) 不合格
2月1日(木) 午前	4科目受験 不合格
2月1日(木) 午後	2科目 不合格
2月2日(金) 午前	4科目 補欠合格
2月2日(金) 午後	算数1科目 合格
2月3日(土) 午前	4科目 不合格
2月4日(日)	受験回避・休息
2月5日(月)	4科目受験 補欠合格
2月6日(火)	受験回避・小学校に行く
2月7日(水)	4科目 合格

※補欠合格が2回となり、2月7日まで受験を続け、最後に合格をいただきました。

最後まで、受験を続ける娘の意地(意思)を見ることができました。

最後まで、アントレの先生が試験当日の朝、ZOOM応援をしてくださいました。

最後まで、娘は緊張せずに、試験に臨みました。

プーさんへ

毎月、面談の時間をいただき、ありがとうございました。
私が一方的に話し続ける面談でしたが、いつも笑顔で話を聞いてくださり、ありがとうございました。
また、2月7日（水）の朝まで、受験応援していただき、ありがとうございました。
娘が最後まで、算数に取り組めたのはプーさんのおかげです。感謝、感謝です。

カッシーへ

夜遅くでも、Twitter（X）でDMを送り、相談にのっていただき、ありがとうございました。
私の不安の気持ちをくみ取っていただき、ありがとうございました。
今思えば、入塾時に相談してから、ずっと、相談にのっていただきましたね。

ピーちゃんへ

国語が苦手で、長文読解も漢字も言葉・知識も本当に苦労しました。
それでも、授業で、褒めてもらった時やテストの点数が良い時、娘はニコニコで帰宅しました。
娘の成長を認めていただき、ありがとうございました。

ダンディーへ

「社会は苦手！歴史は嫌い！」と公言する娘を見守っていただき、ありがとうございました。
暗記に苦戦していましたが、ダンディーのアドバイスをもとに、娘は最後まで頑張りました。
結果的に、受験しませんでした。面接の練習をしていただき、ありがとうございました。
面接はアントレのテストで、最後にとった満点でした！

個別/新本先生へ

算数のサポート、ありがとうございました。
先生の予習・復習のサポートがなかったら、私は娘との喧嘩を最後まで続けていたかもしれません。
先生との勉強が楽しくて、メンタルも落ち着き、算数も成長しました。
試験の朝、ZOOM応援も嬉しかったです。

個別/武井先生へ

夏休みを中心に、勉強のサポート、ありがとうございました。
推し活の話で盛り上がり、娘の気持ちが爆上がりでした！
先生のおかげで、歴史にも取り組むようになりました。

フンちゃんへ

合格報告の際、「最後まで、一番チャレンジしたね！」と声をかけてくださり、ありがとうございました。
「良い学校に決まったね。フンちゃんの好きな学校だよ。」この言葉も嬉しかったです。
娘をアントレに通わせて、本当に良かったと思う瞬間でした。

クラスみんなへ

受験勉強、お疲れ様でした。
一緒に勉強をしてくれて、ありがとうございました。
みんながいたから、娘は楽しく、勉強ができました。
それぞれの学校に通うと思いますが、中学に行っても、遊んでくださいね。

妻へ

毎週、私と娘が喧嘩をしても、見守ってくれて、ありがとう。
中学受験に反対だったけど、見守ってくれて、ありがとう。
頑張る娘を見守ってくれて、ありがとう。
娘は合格したよ！これからも見守ってあげてね。

眞部千咲さんのお母様

親バカではありますが娘は明るくまっすぐな性格をしており、その長所をそのまま大事にしてくれるような学校で6年間を過ごしてほしいと思い中学受験をすることにいたしました。

娘は幼いころから読書が好きで必然的に国語が得意、算数は数字を見るのもイヤという子でした。教科によって違うレベルのクラスに所属できるということが決め手となり、4年生よりアントレの通塾を決めました。

4年生ではBクラスに所属、5年生で一度Aクラスに上がりました。ですが全くAの算数についていけず、次第に娘はふてくされたような態度をとるようになっていきました。文章題だけでなく計算問題すらもちらっとただけで答えを見るようになり「どうせ私にはわからない」「私なんかじゃ解けるわけない」と娘らしからぬ後ろ向きな発言が増えました。これは困った…というところでアントレより連絡があり、できた！という自信をつけるためにBに戻りましょうとのご提案。それ以降、卒業まで算数はBクラスで落ち着きました。6年生では国語S、算数B、理社Aという見事娘の能力らしいクラスでした。

学校選びに関しては進学率をアピールする学校よりも「こんな女の子を育てます」「こんな人間を目指します」とうたった学校に親子とも魅力を感じ、必然的にキリスト教の学校が中心となっていきました。コロナ禍での学校探しでしたので人数制限により必ず希望の説明会に参加できるとはかぎりませんでした。合同説明会に参加→惹かれた学校の個別説明会に参加をくりかえし、4年生のうちから行けるときに幅広く見学に行きました。小心者の母なので、入学後ついていけなかった場合にケアが手厚そうな東洋英和女学院・女子聖学院、授業以外の講座がたくさんある共立女子が次第に候補となりました。

そんな夢を抱いても一向に上がらない算数の成績。何度も合否以前にこのままじゃ2/1を捨てることになるから東洋英和は受けさせてあげられないよと伝えましたが、娘の勉強に向かう姿勢は変わらず。国語と算数の偏差値は常に20ほど離れていました。その間も学校見学を続け、パレエを習っていた娘とフォークダンスがかわいいと一目惚れした普連土学園も候補に入ってきました。

6年生の夏、らっきょ先生に面談をお願いした際に「非常に言葉を選んで、優しい言い方をしても東洋英和はかなり厳しい」と言われ、そこまではっきり言ってくださればすっぱりあきらめもつくわいと東洋英和を候補から外しました。このまま志望校確定するか…その前に4年生から何度も合同説明会で母娘そろってここ素敵！！でも遠いよね…と個別見学に行っていなかった恵泉女学園最後見学に行ってみよう。それでも惹かれなければ共立を第1志望にしようと話をしました。

恵泉女学園は個別見学に応じてくれる学校でしたので、即連絡をし2日後に学校訪問。当日は1人の先生が私たち母娘につきっきりで90分かけて校内を案内してくださいました。その間に楽しそうに夏休みの部活をする学生さんたちに会い、普段通りの生活風景を見ることができました。見学後一步校舎を出たところで「私、ここに通いたい」「ちーがここにいる幻が見えた」と同時に切り出して大笑い。同偏差値帯の共立は候補から外し、その日から娘の第1志望が恵泉女学園、第2志望普連土学園、第3志望女子聖学院となりました。

東洋英和と違い手の届きそうな志望校ができたことで娘の勉強意欲は目に見えて変わりました。また同時に9月から算数の個別指導をお願いし、どこが苦手なのか洗い出しそれを補強していくということを過去問添削と同時にしていただきました。何が苦手なのか、何を理解していないのかも分かっている状態からのスタート。個別の西殿先生には本当に辛抱強くおしえていただきました。また単元が分かる・分からない以前に大問1の計算問題を落とすことも多かったため、ドリル算数というオンラインの丸付けも利用開始。これにより計算ミスが大幅に減り、スピードアップが図れました。月水金の通常授業日以外も自習室に通い、ついに娘の口から「今、算数がすごく楽しい」という言葉を聞くことができました。

国語に強い娘。それは言葉による力が良くも悪くも影響します。とにかく後ろ向きにならないよう褒めて褒めて褒めまくって勉強に向かわせていたところ、ついに調子に乗りました。「こんなに頑張ったんだから、今なら東洋英和も目指せるんじゃないかな」11月の合不合の前日のことです。対策をたくさんしたから恵泉の過去問点数が安定したんだよとか、母の脳内はぐるぐる…試しに翌日の合不合に東洋英和を入れてみたところ判定は20%。2/1は恵泉、普連土を受けて合格したら2/3に東洋英和にチャレンジしよう

となんとか娘と約束をしました。

ですがその後も娘の口からは東洋英和を受けたい欲がちらちらと漏れ続けます。そのころには恵泉・普連土は安定して判定 80%、過去問でも合格最低点を必ず超えるようになっていました。母の確実に志望校に行ってほしいという安心感のために娘の夢を摘んでいるのではないのでしょうか。でも、全落ちを避けるプランを想定するのも親の役目…と悩み続けた受験直前期。東洋英和の過去問を解かせてみると 2/1 はわずかながらも合格最低点を上回り、2/3 は一度も超えることはありませんでした。2/1 を受けなければ娘が受験に後悔を残すかもしれない。迷いをそのまま GC で送ったところ翌日すぐらっきよ先生よりお電話をいただきました。過去問などの状況から娘の挑戦はダメ元玉砕覚悟ではないか。第 1 志望を大きく上げたことで恵泉・普連土をあきらめ、もう少し下の偏差値の学校を第 2・3 に変更しなくてはいけないのではないかと。母の不安をそのまま聞いていただきました。結果、娘の後半の頑張りにより東洋英和はチャレンジ圏内にはいること、恵泉・普連土もそのまま 2/2 に受けても合格の可能性は高いと言っていました。不安材料は対策期間が短いこと。実に 1/22 の話です。娘の 3 年間の憧れの力にかけて、そこから最後の 10 日間はひらすらに東洋英和の過去問に取り組みました。

2/1 午前 東洋英和

学校から出てきた娘は「国語は自信ある。けど、算数の一行問題が減って難しくなった。最後まで解ききれなかった」と悔しそうな顔。22:00 に発表予定でしたが東洋英和は例年発表時間が早まるため 21:15 に確認。不合格でした。大きく落ち込むこともなく、明日も早いからとすぐに眠りにつきました。

2/2 午前 恵泉女学園・午後 普連土学園

恵泉から出てきた時、娘は私と会う前から泣いており「どうしよう全然できなかった。もうどこにも合格できない。こわい」と歩くこともままならないほどでした。不合格の場合は 2/3 にも恵泉受験の予定だったので、すぐにアントレに連絡をして午後受験終了後、恵泉の分からなかった問題を見ていただくようお願いしました。2 日午後の普連土は算数が他の日より難度が上がっています。この状態で受けに行けるのか…と思っていたら移動の電車で寝てしまった娘。目をさますと少し平常心を取り戻していました。恵泉は毎回手ごたえが薄いまま合格点を超えているから、きっと今日も大丈夫。安心して普連土を受けておいでと午後受験に送り出しました。普連土からは「これは絶対合格してる！恵泉だめでも普連土大好きだから大丈夫」とにこにこ出てきました。普連土の試験終了後アントレに伺うと個別の西殿先生がいてくださいました。恵泉の分からなかったところだけでなく、午前午後すべての問題を一緒に見直して下さったそうです。先生が答えをかけた問題はほとんど合っていたから恵泉大丈夫じゃないかなって言ってくれた。でも国語も自信ないし…と不安そうな娘。アントレを出て夕飯を済ますともう恵泉の合否発表時間でした。いやだこわい見たくないと言いながらスマホをかまえる娘。ふるえながらタッチをすると目に飛び込んできた桜色の画面。文字を読む前に二人で泣き出していました。幼稚園のころでも見たことないほど手放して泣く娘と抱き合い、おめでとう本当によくがんばったと何度も伝えました。午後普連土の合否は深夜 2:00 だったので、恵泉不合格の場合は深夜に確認し翌 3 日の午前の受験校を変更しなければいけませんでしたが無事合格。普連土の確認は翌朝にまわし眠りにつきました。3 日朝普連土の合否を確認したところこちらも無事合格。気持ちよく東洋英和に向かうことができました。(普連土は 2:00 の予定でしたが朝確認したところ 23:30 に早まっていました)

2/3 午前 東洋英和

最後の挑戦になった東洋英和。とにかく全力をぶつけるだけでした。本人は 2/1 より自信があったとのことでしたが、結果は残念。最後まで目標を高く持ち、努力を続けた娘を誇りに思います。

新入生説明会の終わった今、娘はちよっぴり未練を残しながらも未来に希望を抱いています。これからの 6 年が楽しいものであることを心から願っています。

練馬校の先生方、親子の意見が合わずに何度もご迷惑をおかけいたしました。苦しい時のアドバイスに救われました。

本当にありがとうございました。

丸山晴くんのお母様

息子の晴は、フンチャンがよくおっしやっていたような、高性能エンジンを積んだスーパーカーでは全くありません。馬でいえば競走馬ではなく、幼いポニー、でしょうか。甘えん坊で、寝ぼすけで、いつも「さぼって楽しいことしたいな。いやなことは後にしよう・・・」と考えています。喘息持ちで、ちょっと無理をさせるとすぐに寝込みます。

そんな晴が受験を自分ごとにしたのは一体いつなのか。3つのポイントがあり、はじめは6年生の7月に、算数でSクラスに定着できず、ひと月でAクラスに出戻って、くさりかけたことがきっかけだと思います(遅)。次は、秋からの武蔵演習ではじめて合格点が取れて、順位表に名前が載った9月末。周りが鋭く解ける子ばかりの中で、「自分もやれるかも?」と感じられた瞬間です。

そして最大のポイントが、最初に受験した栄東の不合格がわかった1月12日だと思います。合格点まであと1点でした。自分がいつも軽々と失って特に気にせずいた1点で本当に落ちて、こんなにもつらいのだということを思い知って、ぐっしょぐしょに泣いて、そこから、たった20日足らずの本気の本気が、晴を武蔵の合格にぎりぎり紙一重で間に合わせたと、私は感じています。

最後の保護者会で、カッシーが「1月は、出た結果が最善だと受け止めてください」とおっしやいましたが、その通りでした。あの時仮に合格していたら、「なんだかんだうまくいくじゃん!」と慢心して後悔していたに違いありません。

武蔵に憧れ続けてきた晴は、合格に必要なと言われていた算数Sクラスには本合流できないまま、Aクラスから前例のないらしい武蔵合格を目指すことにしました。「現実を見たほうがよくないだろうか」と何度も悩みましたが、本人の意志はそこだけやたら強固でした。その思いをサポートし続けてくださったタケノコをはじめとする先生方のおかげで、華奢なポニーは最後の直線でたくましい走りを見せ、親でも信じられなかった合格をつかむことができました。ただただ、感謝の気持ちでいっぱいです。

これまで何冊かいただいた受験体験記には、先輩たちの苦労が綴られたページにたくさんの付箋を貼り付け、励まされてきた私です。Sクラスでなくても、スーパーカーでなくても、地力をつけていけば目標にたどり着けるという身近な例として、息子の歩みがどなたかのご参考になれば幸いです。

◆家族について

父(中高一貫の男子校出身 / 予習担当のはずが5年時から単身赴任生活へ)、母(中学受験はしておらず、つつい方程式で解きたい)、弟(4学年下の小2 / わかってはいるけれど兄と遊びたい)の4人家族です。

◆アントレに入るまで

2年生の冬にコロナ禍が始まり、学校の教育活動がほぼ止まってしまったことから、私立の環境に関心を深め、中学受験について考えるようになりました。それまでは、公文や勉強系の習い事はせず、小学校の勉強のみでのんびり過ごしていました。

アントレを選んだのは、カッシーのブログからにじむどころか噴き出していたユーモアと生徒たちへの愛情ゆえ、です。「体験授業がおもしろかった!」と本人も気に入り、ひばりが丘教室に通うことを決めました。

◆算数の壁に気づいた4年生 クラス: 4B (担任フンチャン)

新4年生でアントレに入り、4Bの4科からスタートしました。

フンチャンによる息子評は、「国語はよくできるので、算数をもっと粘って伸ばしましょう」。あるあるですが、学校では100点が取れるのに、塾ではいまいちパツとしないオレ、という壁にぶつかっていました。

確か4年生の早い時期に、武蔵の散策会に参加したりパンフレットを読んだりして、武蔵に憧れるようになったと思います(理由は「やぎ、川・・・」程度のふわふわしたもの)。

◆Aクラスでもがいた5年生 クラス: 5A (担任タケノコ)

新5年生になるタイミングで、BからAクラスになりました。算数の実力的にはBでしたが、国語の評価が引っ張り上げてくれたのでA合流だったと記憶しています。

5Aの算数では、つまずきの連続でした。扱う白板問題のレベルが上がっている上に、5年生のカリキュラムが晴には重かったからです。予習がうまく回らず、白板の○はさっぱりもらえず、Aに合流したばかりの頃は新しいお友だちもまだいない・・・という苦しい時期がしばらく続きました。よくわからない理由をつけてはアントレに行き渋り、ここには書ききれないほどのため息案件がたくさんありました。

そんな中、5Aになってからはじめての面談に何うと、タケノコが「面談に来てくださって、晴くんのことを知れて本当によかったです」と言ってくださいました。開けた性格ではなく、捉えどころのない晴のこ

とを、勉強面だけではなくしっかり見ようとしてくださっているのを感じて、とてもほっとしたのを覚えています。

そこからは、毎週親子でバチバチやりながら家庭学習をなんとか回して、まとめテストのサイクルを過ごしていきました。国語だけは読書好きの貯金があったのか結果が出ており、5年生の早い時期にSに上がりましたが、算数はBに戻る気配こそすれ、上がる気配は全くありませんでした。タケノコからは、焦らず、まずはAの真ん中を目指そうという声かけをしていただいていたと思います。

5 Aにお友だちが増え、機嫌よくアントレに行ってくれるだけでもよしとしよう！という感じで、いよいよ新6年生の1年が始まりました。

◆個別で光が見えた6年生前期 クラス：6 A（担任タケノコ）＋「武蔵算数」を受講

新6年生になっても、武蔵志望はゆるがない晴。夫も、「武蔵に行きたくて勉強を続けているようなものなのだから、とにかく挑戦すればいいんだよ」という考えでした。

相変わらず苦労していたのは算数の予習で、子の力を伸ばそうという本来の目的もさることながら、毎週繰り返される親子のギスギスをどうにかしたいという思いもあり、4月から個別をお願いすることにしました。タケノコから「彼じゃなかったら誰でもだめです」という古内先生を紹介していただきましたが、我が家にとってまさに救世主でした。憧れの学校出身の優しい先輩で、晴の性格でもわからないことを聞きやすく、はじめての個別を終えて「すごくよかった！早く個別を取ればよかった！」と声をはずませて帰ってきた時のことをよく覚えています。家では牛歩のようにしか進まず積み残すこともあった予習が、個別ではスイスイと魔法のように終わっていて（理解もしている）、先生に言われたことをあの晴がなんと帰ってすぐにやり出す、翌週の白板の〇の数も増えていく、家庭も穏やかで母の時間と心にも余裕がある・・・思い切って個別をお願いしたことが、今思えば合格に向けて好転する一番のきっかけだったかもしれません。古内先生には、本当に感謝しています。

◆まぼろしのSクラス合流

個別効果で、6年生の6月のまとめテストの結果が上向き、算数もSクラスに合流することになりました。ただし、それはお試し移籍で、次のまとめテストまでにカッシーの求める条件（白板の正答率や、まとめテストの点数など）をクリアしなければならぬというものでした。喜び勇んでSに行ったものの、白板にはまるで歯が立たず、復習にも時間がかかってしまい、他の教科が回らなくなっていることが一目瞭然でした。武蔵を目指すためにSに行ったのに、本人の中で上がれたことがゴールという気持ちになってしまったところもあるのでしょうか。〇がもらえないことも頑張るためのバネにはならず、ただ、茫然としてエンジンがかからないまま1か月が過ぎました。

結局、次のまとめテストを経て、カッシーの条件をひとつもクリアできないまま、晴はAクラスに出戻ることになりました。そしてその後は、算理社はAクラス、国語のみSクラスで入試本番まで学んでいくこととなります（算数でクラスが決まる季節講習は、全教科Aで受けていました）。

◆タケノコの金言

思い続けてきたSクラスに跳ね返され、晴はわかりやすくふてくされていました。私も、これで武蔵への挑戦は厳しくなってしまったのかな、どうしたらいいのかなという迷いの中にいました。

その迷いを面談でタケノコにぶつけたところ、「Aクラス初の武蔵合格を目指しましょう！」という、思いがけない言葉が返ってきました。プライドの高いところがある晴の性格を見抜いた上で、気持ちに響く言葉を投げかけてくださったのです。入試演習クラスは武蔵クラスを選び、現実的には9月いっぱいくらいにそこでの結果が上向かないと合格は見えてこないというお話もありましたが、タケノコの言葉を本人に伝え、奮起を待つことにしました。科目ごとの勉強の割り振りは、晴の場合は入試直前まで最大限算数に振り切つてよし！とアドバイスをいただきました。

入試演習では、始めのころは散々な点数（算数10点台もあったような・・・）で最下位付近をさまよっていました。9月の末にはじめて、合格で順位表に名前が載り、首の皮一枚。それからはたまに合格や補欠をもらって帰ってくる、不合格でも復習がスムーズになるなどの変化がありました。やっていたことは変わらず、「四まと」のテスト範囲の予習、Aクラスの白板、夏期白板と土曜の入試演習の復習です。

模試は、前期からの合不合に加えて、サピックスの武蔵オープンや、enaの大泉対策模試を受けていました。武蔵については、20%～最高40%の判定しか出ていません（涙）。

◆算数にはほぼ全振りの6年生後期

11月に入ると合格が増えていき、そうでない時にも、算数の得点の「底」が上がってきたことを感じました（とはいえ12月に20点を取っていましたが！）。大問をまるまる落とすことが少しずつ減って、(1)だけとか(2)までを取れるようになった感じです。算数に力をつっ込みすぎて、「あれ？国語が失速してい

るぞ」と気づき始めたのもこの頃ですが、そこはもう、気づいていても見ないふりをしていました。

家庭学習のバランスとしては、算数>>>>理社(予復習を少しと週末の過去問、たまにコアプラス早押し)>>>国語(過去問のみ、あとはアントレの授業頼み)というスタイルを入試まで貫きました。

結果が出たから偉そうに言えることなのかもしれませんが、Aクラスで再出発してから、そのレベル感の中で白板の正答率アップを目指して準備をし、復習できちんと定着させていくことで、武蔵の入試で高得点を取るには及ばなくても、合格に必要な力を養うことは十分にできたようです。

あのままSクラスに無理をして残していただいても、晴にとっては手につかない問題に疲弊するだけで、授業での達成度も得られなくなり、基礎までぼろぼろになっていたかもしれません。

後期は、平日の通常授業では白板で○をもらえる達成感を感じながら基礎の底上げをはかり、土曜の入試演習でハイレベルな仲間たちに刺激をもらう、そして日曜の個別では両方のフォローを(夏期白板の復習と武蔵対策プリントを中心に)していただく、というように、晴に合ったバランスで力を積み上げていくことができてよかったと思います。

◆年が明け、入試本番へ

【受験校】

とにかく近さを最重要視しました。朝に弱く、体も強くないため、校風が魅力的でも遠い学校は選択肢に入れず、乗り換えなしで自転車でも通える距離の城北(2日、4日)と都立大泉(3日)に絞り、午後受験はなしとしました。この2校には本人もたびたび訪れて気に入っており、通うイメージも持っていたと思います。5日には成城を考えていましたが、願掛けとケチ根性の半々で、前もっての出願はしませんでした。

1月校については、日程と得点開示がされることから、栄東を受けることにしました。

【栄東】A日程(1月10日)× / B日程(1月16日)○

とにかく遠くて、本人は着いた時から疲れ切っていました。過去問は安定して合格点を取れており、本人の手ごたえや表情は両日とも同じような感じに見えたのですが、結果はこのようになりました。

不合格を知った時には泣きじゃくって落ち込んでいましたが、ちょうどアントレの授業がある日だったので、何とか送り出しました。タケノコが声をかけてくださったおかげで切り替えることができましたようです。

B日程では、複数回受験者への点数加算があったため、国語が100点超えの点数になったのを見て本人は大喜び、2月への自信になりました。

◆不合格から武蔵入試までの20日間

栄東Aの不合格がピリッとさせてくれた我が家。最後の保護者会でのタケノコの一言、「あとはビジョンとパッションです!」・・・冷静で理知的ないつものタケノコのギャップが印象的だった言葉を道しるべに、2月1日までのおよそ20日間でやれるだけのことをやろうと話しました。とは言え、もうビジョンどころではないので、パッションのみで突っ走るしかなく、リビングで晴の好きな曲をかけながら、とにかくがむしゃらに、「武蔵対策プリント」に取り組み続けました。

引っかけが少しでもあった問題には付箋をしつこく付けます。丸覚えしてしまうとよくないので、前期の「武蔵算数」から同じ単元の問題をピックアップしたものを挟み込みながら、するつと解けるようになって付箋を外せるようになるまで、粘っこく繰り返しました。

合間に、コアプラスで早押しをして、理社の悪あがきもしていました。国語は1月30日に最後の過去問をやって、調子がよかったのでさらっと確認のみとしました。

ここまでやって、見た瞬間固まるような問題が出てしまったらもう仕方ない。武蔵にご縁があるのならば、きっと彼に解ける問題が出るはずだ、そう思えるようになって、1月31日を終えました。

◆2月入試へ

【1日:武蔵】○

目を覚まさせるために、母の自転車の後ろに乗せて江古田に向かいました(痩せの小柄です)。zoom応援でタケノコから「Aクラス初の武蔵生になろう!」と声をかけられると表情を引き締め、校舎に入ってきました。

試験が終わって出て来ると、なにやらモヤモヤした顔で、「算数の大問1の(1)、見直しの時にあれ??」と思って慌てて答えを変えちゃって、変える前がやっぱり合っていた気がして。それを社理の間も引きずって・・・国語の漢字もいくつか間違えた・・・。

悪い予感当たるもので、夜カッシーの解答速報を見ると、見直し前の答えが正解、「大問1を完答できないようでは、合格するのは厳しい」という講評、他にもできたと思っていた問題が合っていない、みるみる目に浮かぶ涙。私がざっと計算して、「今でも6割くらいは取れていそうだし、部分点もきつともらえるよ」となだめて、城北の過去問を少し触ってから、ピリリとした雰囲気のまま休ませました。

【2日：城北】 ×

朝のタケノコとダンディーの応援に力をいただき、試験を終えて出てきた時には、すごく自信のある様子でした。てっきり受かったものだと家族全員思い込み、早々と浮かれムードに。翌日の都立対策をして、城北の合格をささっと確認してから大好物のいくら丼を食べようとしたところ、「えっ、不合格・・・」。

いくら粒のような涙がぼろぼろ、親たちも予測していなかった事態におろおろ、とりあえずアントレに報告の電話をさせて、「さあ、とりあえずごはん食べよ！」と切り替えようとしたところ、晴の目の色がさっと暗く変わり、その日の城北の入試問題を取り出してやろうとし始めました。顔をゆがめて涙をこぼしながら、もちろん全く手についていません。

こんな時は「たすけてタケノコ！」と、渋る本人にふたたびアントレに電話をさせ、次の日の大泉受検が終わった後に伺ってよいか尋ねました。「何時ごろアントレに来られそう？待ってるから」と、いつものように話してくださったことが、崩れてしまいそうだった晴を支えてくれました。

「あのさ、よく考えたら、まだ2月ひとつしか落ちてない。なぜか武蔵も一緒にだめだったような気がしてた（笑）それに、今日落ちてよかったかもよ？」

「・・・どうしてそう思うの？」

「だって、これまで（1月の栄東Aから）×○と来て今日×だったから、この調子だと明日武蔵○かもしれないよ！」と。

いつの間にか、たくましくなったなと思いました。そうだね受かる受かると声をかけましたが、眠れない母の心には、このまま全部だめだったらどうしようという弱気の虫が顔を出したり引っ込めたりしていました。

【3日：都立大泉】 ×

朝、「俺が終わるまで、絶対に武蔵の結果を見ないでね」と念押しして大泉に向かいました。

昼過ぎに校舎から出てきた晴は気もそぞろ、車に乗り込んでアントレに向かいながら、後部座席でひとり、スマホ画面に番号を入力して、祈るような時間が過ぎ、

「・・・受かってる、受かったよ！！」興奮した様子で、何度も番号を入力し直しては、本当か確かめていました。

運転席の夫は、あまり驚いていませんでした。私が武蔵の算数の得点をざっと6割以上と出した時に、これまでの入試演習の結果と照らし合わせて、「いけるんじゃないか？」と密かに思っていたのだそうです。自分の経験から、「じっくり基礎力をつけていけば、必ず花が咲く」「今の晴には、Sの問題は難しすぎて、かえって溺れるだけになってしまう。タケノコについていて、しっかりやればチャンスがある」と言い続けていた夫です。なんだかんだ言って、晴のことを一番信じていたのかもしれませんが。

その後、タケノコに合格の報告と、「(翌日の城北再挑戦は)スタミナがありません」という最後まで情けない呟きをして、晴の中学受験は終わりました。

◆さいごに

2月校で合格をいただけたのは、武蔵1校のみです。今でも信じられないような、ありがたい結果です。

伴走が上手な母ではなく、誇れることと言えばアントレを見つけたこととA3プリンターを購入したことくらいですが、すばらしい先生方とお友だちのおかげで、2月1日にたどり着くことができました。心から、お礼を申し上げます。

「武蔵は怖い学校ですよ、怖い自由ですよ」とフンチャンがおっしゃっていたことを、このあいだ晴と話しました。アントレで教えていただいたこと、受け身ではない学びをしていくことを、これからの広くて深い自由の森の中でも大切にしてほしいと願っています。お菓子を持ってアントレに遊びに行こうと張り切っておりますので、これからもどうぞよろしく願いいたします。

向笠舜貴くんのお父様

- ・2/3の試験後、武蔵の合格を確認し我が家の中学受験は無事に終了した。
- ・息子は当初より武蔵を熱望していたが、成績の伸びはゆっくり。
- ・4年後期に入塾、最初はBクラス@練馬→5年前期にA→6年前期でやっとS。
- ・6年の武蔵対策（算数、演習）は最強。
先生方、ありがとうございます！

<入試結果>

1 / 1 1	栄東 A	合格 (東大クラス)
1 / 1 2	栄東 東大特待	合格 (特待1年)
2 / 1 午前	武蔵	合格
	午後 巣鴨 (算数)	合格
2 / 2	城北	合格
2 / 3	海城	不合格

<家族>

父：塾&中学受験経験あり、主に算数、理科、社会を担当

母：中学受験経験なし、スケジュール管理、国語を担当

本人：のんびり、マイペースで優しい性格、こつこつと粘り強いが俊敏ではない。大器晩成型と本人&両親は信じている

<アントレに至るまで>

- ・近所の仲のいいお兄ちゃん達が続々と中学受験をしていたため、息子もなんとなく受験を意識。
- ・そのお兄ちゃん達から聞いたのか、4年生の時「武蔵という自由な学校があるらしい、そこに行きたい！」と息子が言い出す。
- ・父は中学受験を経験、大変さも身に染みていたため、その大変な経験を息子にさせるべきかかなり逡巡。母は目的を持つことで成長できるはず、挑戦すべきと前向き。
- ・塾選び：のんびり屋の息子には某大手Sは向いてなさそう。知人から授業が楽しいというアントレのことを聞く。小規模で武蔵の合格実績が多い、まさにぴったり、と思い4年生の9月に面談と体験授業申し込み。
- ・面談いただいたフンちゃんの教育に対する信念と優しい雰囲気共感し、迷いなく入塾を決める。

<4年後期>

- ・まずは塾に慣れることを第一優先にしていた。Bクラスからスタート。
- ・算数は時間をかけて一問一問じっくりと解いていた。問題を解くこと自体は好きな様子であった。
- ・しかし、毎年の武蔵合格者は10名強、息子の上にはAクラスの面々、道のりは遠い。早くAクラスに上れるようはっぱをかける日々。

<5年>

- ・4年Aクラスの生徒は一部Sクラスに上がったため、一応Aクラスに上がったものの、成績はブレブレ。なかなか安定せず。その後Sクラスにいつ上がれるのかと焦りもあったが、先生の判断を信じて目の前をこなす日々。
- ・のんびり屋で、先生の板書をノートへ書き写すことが間に合わない。字も汚いので、家に帰って見直しても何を書いてあるかわからないことも。
- ・算数はやはり大好きな様子。自分で問題を作って親に解かせようとすることも。難しい問題も絶対に答えを見ずに時間をかけて自力で解こうとしていた。
- ・それだけ好きなのに算数の点数自体はそこまで高くないのが謎であったが、どうやらのんびりしていて時間が足りていないようだった。

<6年>

- ・念願のSクラスに上がる。
- ・前期の武蔵算数の難しさに衝撃を受けていたが、問題自体は楽しんで解いていた様子。

- ・依然、字が汚く自分の字を読み間違えることも多々。計算間違い、問題文読み間違い、とケアレスミスでの失点が多く、対応に苦しむ。
- ・塾では誰とも話していないことも判明。小学校では友達と明るく話しているのだが。陰キャ設定してしまい今更キャラ変無理、このまま行くと。。
- ・日々の授業と、特に後期の武蔵演習で武蔵特有の記述型の問題にも慣れる。国語は特に好きなわけではなかったが、相応に点が取れていた。
- ・算数は依然として点数が伸び悩む。解くスピードの遅さとケアレスミスの多さが課題。タイマーで時間を計って解くように声かけするもなかなか定着しない。
- ・過去問は6年後期から武蔵を10年分、他併願校は2、3年分を解いた。理科のお土産問題も大変ではあったが何とか自作して解かせた。
- ・四谷大塚の合不合格判定はブレがあるも全体的に振るわず。
- ・一方、武蔵演習では15回中11回が合格。秋の武蔵サピックスオープンでも合格率70%であった。
- ・合不合格は多くの標準的問題を速く解く必要があり、解くスピードが遅い息子は合不合格との相性が悪かったと思われる。
- ・武蔵演習で不合格を取った際も、依然としてマイペースな印象。もっと悔しがったり、「本気モード」に変わることを期待したが、結局最後まで傍から見てわかるような「本気モード」にはならず。

<志望校選び>

- ・第1志望の武蔵は説明会や文化祭に複数回参加、家中に武蔵グッズが転がり、もし落ちたら目も当てられない状態に。高さ634mのスカイツリーにも上り祈願。
- ・併願校は、自宅から距離の近い学校の説明会や文化祭に行き雰囲気を確認。親は巣鴨、海城に好感を持つ。本郷は漢字のトメハネも厳しく採点するというスタンスがのんびり適当な息子の性格とは合わないかもと判断。一方、武蔵は説明会で、どんな字でも頑張れば読める、読めない字はこれまで無かったと言っていた。こういう点でも武蔵は息子とは相性が合うと感じた。
- ・息子本人は「他には行かない」と武蔵熱望、どんなに成績が落ち込んだ時でも最後まで揺らぐことは一度もなかった。
- ・前受け校は1月末だと受験時に風邪をもらった場合に2月校受験に影響が出ると考え、1月上旬の栄東を選択。
- ・2月1〜5日は合格発表時間と結果でどう行動すべきか全パターンをシュミレーション表にした。

<12月〜冬休み〜1月>

- ・12月中旬にインフルエンザ罹患。2月ではなくむしろここで罹っておいてよかったと前向きに解釈。
- ・最後の冬期講習はあつという間。黙々とこなす。
- ・1月は算数は6年夏期冬期講習の白板ノート、4科のまとめ、武蔵演習プリントを解きまくる、国語は漢字を授業プリントで復習、理科・社会はコアプラスと過去問で対応。
- ・よく1月に伸びると聞いてはいたものの半信半疑だったが、本当に1月に一皮むけた印象。算数の武蔵過去問も1月末に解いた際は満点近く取れるようになっていた。また、字も綺麗になっていた。
- ・小学校は1月始業式後から本番までは感染対策として欠席した。その間、朝のラジオ体操と昼の散歩でリズムを作った。

<本番時期>

- ・1/11 栄東：本人としては模試のような感覚だった様子。手ごたえはあまりなかったようだが、合格最低点で東大クラスも合格。車で送迎したため、帰り道に栄東の近くの温泉に連れていき、緊張した体をほぐす。
- ・1/12 栄東（東大特待）：算数ができ手応えあった様子→合格。
- ・本番数日前1/29頃から家族全員が喉や鼻が痛くなり、花粉症のような風邪のような症状に。かなり焦ったが、息子は持ち直して元気になりホッとする。
- ・この体調面のトラブルもあったため、睡眠確保による体調回復を優先させ、起床時間は本番3日前まで7時台、本番2日前によく6時起きに。
- ・本番前日1/31に九州の祖父に手伝いに来てもらう。試験期間中3つ下の妹の相手をしてもらうことで、両親とも息子の受験に専念できた。

2/1 午前 武蔵

朝のコンディションは万全。武蔵校内で列に並んでいる際に半袖半ズボンの受験生が数名いて驚く。さすが武蔵、受験生も個性強め。一旦家に戻り待機、ハラハラしながら終わるのを待つ。迎えに行くと、手応えはあまりないと。→2/3 海城の試験後に確認、合格

2/1 午後 巣鴨（算数）

午前の疲れはそれほどない様子。手応えはあったと。驚いたのは会場に時計がなく腕時計も忘れてしまい、残り時間が判らないまま試験に臨んでいたこと。武蔵が時計持ち込み禁止だったため忘れていたらしい。夜本人が寝たのちに両親で結果確認→合格

2/2 城北

巣鴨の合格を貰えたので落ち着いて受験できていた様子。手応えはまずまず。夜に本人が結果を確認→合格

2/3 海城

巣鴨、城北と合格を貰えたこともあり、本人も調子が上がってきたと言いながら会場へ。手応えは普通とのこと→翌2/4 確認：不合格

<振り返り>

- ・親も自分達ではそれなりに頑張ったつもりだが、おそらく他の保護者の方々ほどきめ細かな伴走はできていなかったと思う。日々の予習復習の内容や時間管理は本人任せであったため、子供のペースでゆっくり勉強していた様子。
- ・結果論ではあるが、いつも自分のペースでできたためか、途中で勉強嫌いになったり精神的に追いつめられることもなく、良かったのかもしれない。
- ・ただし、6年後半の武蔵演習と過去問は間違い箇所を中心に親も解き直し、なぜ間違ったか、解き方が適切か、を分析し本人と復習した。
- ・また、武蔵の記述で必要となる「仮説を構築する思考力」を伸ばすため、塾の送迎の雑談の中で、本人が知らない様々な物理現象や社会の事柄について「なぜだと思う？」と問いかけ、ゼロから思考をする練習を心掛けた。
- ・本人のメンタルが最後まで安定していたことに感謝。親が声を荒げたことも多々あったが、息子はいつも至って冷静であった。

<最後に>

- ・アントレの雰囲気、カリキュラム、授業、指導力どれも素晴らしかったため、なんとか合格を掴むことができたと思います。アントレの先生方、本当にありがとうございました。

山岸暖くんのお母様

アントレの先生方、個別の百瀬先生、新本先生、高山先生（スケルトン）、息子を暖かくサポートいただき本当にありがとうございました。そして先輩・同級生ママ、祖父母、叔母、中受経験者の友人や同僚など、多くの人に助けられ、応援され、親子共々本当に幸せなことだと実感しています。切磋琢磨できる友人にも出会ったことにも感謝です。それだけで十分中学受験をした意味があったと思います。

■塾選び

西東京市に引っ越してから近くに良い都立一貫校（大泉）があることを知り、都立受検対策で他塾に通う予定でした。一方で目立たず消極的なタイプ（いつも遠足の写真はその他大勢、見切れるタイプ）なので大手塾だと埋もれてしまうのでは、という懸念もありました。たまたま同時期にアントレの体験会があり、お友達からも評判を聞いていたので、参加してみることに。アットホームな雰囲気でお友達が気に入って「楽しい！ここにいきたい！」と・・・流れて新4年生から私立受験の世界に足を踏み入れました。

■勉強について

両親共働き、共に残業多めでしたので、サポートはスケジュール管理と週末に算数を見る、理社予習の丸付けを中心行いました。（算：Aクラス、国：Sクラス、理社：S→Aクラス）

・算数

入塾する前は、平日は学童に習い事（サッカー、アクロバット、ロボット教室）、休日は旅行にスキーと家で勉強することがなく、土日に勉強習慣をつけることが本当に難しかったです。かなりバトルも経験しました。私が教えていたのですが、5年生になると本当に難しくなり唯一見えていた算数を教えられなくなりました。そこからは4科ともに完全自走となりました。深くまで理解していない&質問ができないタイプだったこともあり、深海魚でした。たまに得意な図形単元だと水面に上ってきましたが、本人の“押し”がリュウグウノツカイ（深海魚）のせいか、気にすることなくのびのび深海を泳いでいました。私も塾に行っているからそのうち成績も上がるだろう、とそこまで気に留めていませんでした。が、そんなことで成績が上がるわけもなく。。結局できないまま5年が過ぎてしまい、6年から個別をお願いすることにしました。百瀬先生の授業がとても分かりやすく、なんでも聞けたのでやっと深い理解ができるようになったと思います。算数の他、理科の苦手単元も教えていただきました。5年生から個別をやればよかったと、少し後悔です。

・国語

小さい頃から読書好きなこともあり得意科目でした。父親が漫画でもなんでも活字を読むことは良いことだと考えており、よく大泉学園の大きな本屋さんまで子どもたちを連れていき、図鑑、漫画、小説など色んなジャンルの本を買っていました。そのため活字に対する苦手意識がなく、速読しながら内容をきちんと理解できていたので、それが文章題を解くのに活かされていたのかもしれませんが。また授業や模試で「今日の文章面白かった！続きが読みたい！」と言うことが多く、私も一緒に読み感想を伝えるようにしていました。

・理科

生き物が大好きで、ありとあらゆる図鑑を読み漁っていたこともあり、生物は得意科目でした。小さい頃は1時間ずーっとアリの話をし続けたり、水族館や動物園にいくと解説委員のように詳しく説明をしてくれ、それがとっても面白くて（親バカ）。そんなこともあり、「色々マニアックな話ができる友達を作りたい」と思ったのが中学受験をするきっかけでもありました。一方で、算数と比例するように物理など計算単元がまるっきりダメで、得意な知識系で点数を稼ぎなんとか平均点を死守するイメージでした。

・社会

ダンディのおかげで大好きな科目になりました。「ダンディの授業は面白い！いつも時間なくなっちゃうんだけど、もっと話を聞いていたいんだよねー」が口癖でした。物事の背景まで詳しく教えてくれるのがとても楽しかったようです。PASMOの残額で「1990（円）だから、〇〇があった頃だな」と自然とダンディの歴史語呂合わせも身につけていました。あまりに面白いと言うので、母親も授業を受けてみたくなり「お弁当届けるふりして一緒に聞いちゃうのもありかな」と親子で授業の潜入方法を考えていたのも良い思い出です。

■志望校について

都立を考えていたことや、親子ともに共学希望だったので、当初は私立共学を中心に学校見学していました。男子校は考えていなかったのですが、友達から「桐朋の説明会良かったよ」と聞き、行ってみることに。そしたら生徒の自主性を尊重した学校生活に息子はすっかり魅了され、「僕ここ行きたい！」と私立第1希望となりました。私も男子校も意外と良いかも！と思うきっかけになりました。それからは共学、男子校色々見学に行き、実際に足を運ぶことで「良い学校だが息子が通うイメージがわからない」「校長先生の話がイマイチしっくりこない」「想像より学校環境が充実している」など色々気づきが多かったです。

■転換期

我が家の転換期は6年の夏期講習にやってきました。週テストで2回も算数最下位を取ったこと。1回目は「最下位なんて激レアだね。」と呑気に言っていたのですが、さすがに2回目の時は、「算数中心に力を入れているのになんで！」と落ち込むと同時に怒りがこみ上げ母発狂！NGワードを散々言ったと思います。。そしてその姿を見た父親が、これはひょっとしてまずいのでは。。。と思ったのか、勉強を見ることに（それまでは成績表すら見てなかったです）。間違っただけの問題の傾向（計算ミス、それとも解き方の方針が分からなかったのか、方針が分かったけど間違えたのか）を掘り下げ、原因を一緒に考えていました。父親が「こんなに難しい算数を解いてるんだ。すごいね！」から入ったこともあり、算数と理科を中心に2人で楽しそうに勉強していました。我が家的には、父親の関わりはこのタイミングで良かったと思っています。余談ですが、後日落ち着いて週テストの結果を見たら、お友達もみんな乱高下していて、安心した覚えがあります。夏期総合結果も真ん中位だったので、言いすぎた。。。と猛省。受験生の親のメンタル本を買い、そこに書かれている「母親の笑顔が一番」という言葉を胸に、怒らないように心がけました（できないことも多いですが）。これをきっかけに親子のスイッチが切り替わったので、今思えばよい転機だったと思います。

■入試演習

転換期をきっかけに、算数に取り組む姿勢が変わり、ぐーんと成績が伸びました。男子上位校クラスで、14回中10回合格、1回補欠。そのうち2回2位を取り、あの深海を泳いでいた息子が水面を飛び越え陸地まで上がってくる勢いでした。これまでは算数は平均点にいかず、国語でマイナス分をカバーし、理社は平均点で納めるパターンでしたが、タケノコから「白板の丸が増えてきましたね、算数は嫌いではないと思いますよ。どちらかというところ好きそうですね。」と言われるようになり、本人も自信が出てきた様子でした。

■受験について

1月10日：開智所沢・開智（W出願）	○
1月11日：栄東 A日程	×
1月25日：立教新座	○
2月1日 AM：桐朋1回目	×
2月1日 PM：東京農大1中	○
2月2日：桐朋2回目	×→繰り上げ合格○
2月3日：都立大泉	○ ★進学先

・栄東：点数を開示してくれるので、立ち位置が分かり受けてよかったです。国・理・社が平均点を超えていましたが、算数の点が取れずに不合格。受験は甘くない、と感じる良いきっかけになりました。

・立教新座：先輩ママから1月校で合格もらえると2月は強気に行ける、とアドバイスがあったのと、息子の国語がめちゃくちゃ難しいけど文章が面白いから受けてみたい、とちょっと変わった理由で受験。過去問を2回解き4科の得点バランスを考えると、チャンスがあるのではと思いました。結果、合格。この合格が力になり、2月は安全校を考えず突っ走ることにしました。

・桐朋：息子の私立第1志望でした。過去問5年分（1回・2回）を1周、算・理・社は2週目も実施。分からない箇所は個別で質問+父親が教える。直前期は算数大門1~4（1回・2回）を9年分（古い過去問はメルカリで購入）、理科も苦手問題を中心に数年分。さらに解き直しノートと、かなり解きました。合不合テストでは毎回国語で他教科をカバーする形でしたが、合格可能性は80%でした。過去問とも相性が良く、合格最低点を超えることも多かったです。息子は両回ともに自信がある！と言っていたのですが、1回2回ともにまさかの不合格。かなりショックでした。農大に入学金を支払い気持ち切り替えたのですが、2月5日に

繰り上げ合格の電話が！想定外の嬉しい出来事でした。Zoom 応援の「他の人より何倍も過去問をやってきたのだから絶対大丈夫！自信持って行ってこい！」というタケノコの言葉がきくとパワーになったと思います。

・東京農大一中：母の私立第1志望でした。体験学習や隣接する大学の施設を使用して実験など本物に触れる授業が多いこと、文化祭で積極的に小学生を楽しませようとしてくれる学生の姿に、息子を通わせたい、とすっかり魅了されてしまいました。長い通学時間も有効活用できるかな、と思って前向きにとらえていました。算国2科目受験にし、過去問5年分と解きなおしノートで算数補強。設問数が多いのに試験時間が各40分しかなく、正確性とスピードが求められ、かつ国語の選択肢も難問ばかりで、なかなか点が取れず一番苦戦しました。本番も「国語が難しすぎて9割カンで解いた！」と言うので正直ダメかと思いましたが、合格をいただきびっくりしました。カンを働かせられたのもアントレの国語授業の賜物ですね。本人はそこまで熱望していませんでしたが、親孝行息子、きつと母のために受けてくれたのだと思います。ありがとう。

・都立大泉：親子の第1志望でした。息子は最後まで気持ちは揺るぎませんでした。しかし過去問対策の時間が全然取れず、大門1~2問ずつ平日の朝にやり、土曜に作文を行うなど小分けにし、1週間かけて1年分を解きました（後期から始めたのですがこの方法で10年分位解けました）。都立対策として新本先生に個別&スケルトンに作文添削（郵送で送付し赤入れしていただく）をお願いしました。添削は分かりやすく、本当は家で直しをして、過去問不明点を新本先生にお願いしたかったのですが、反抗期につき母親の言うことを一切聞かず、結局添削直しは新本先生にお任せしました。結果、とても丁寧に教えていただき、作文が徐々に書けるようになりました。自分の体験を文章にすることが苦手で苦勞していたので、対策して正解でした。また試験慣れのため、早稲田そっくり模試3回（2回は自宅受験）、ENA志望校別模試を2回受けました。ENA模試は1回目に総合7位（適正Ⅲは2位）と好成绩でしたが、2回目はC判定と問題内容により振り幅が大きく、内心はカケになるなど思っていました。9日の結果までやきもきしましたが、無事合格し、初志貫徹、息子の進学先になりました。私立と都立の勉強は全然違うイメージですが、作文や適正Ⅱ・Ⅲの長文を読み解く力や、計算も私立の勉強を応用して解けたり（その方が早く解ける）と、理社の内容も含めアントレの勉強のベースがなければ今回の合格は勝ち取れなかったと思います。

■買ったもの&やったこと

- ・A3 コピー機：過去問印刷にA3コピー機は、もうこれは神レベルに大活躍です。
- ・宿題スキャナー：テキストに色々書き込んだ筆跡だけ消せるアプリです。有料ですがこれも便利！
- ・トイレやお風呂に貼れる勉強資料やSNS：市販で購入し貼っていました。またSNSで暗記系や過去問解説などを投稿している人をフォロー、良さそうな単元は画面キャプチャし、模試の行き帰りに見せていました。暗記というより、初出の問題で慌てないように色々な問題に触れさせたいという意味合いが強いです。
- ・ドラえもんの勉強漫画シリーズ：4年生はバトルの日々だったので、「そんなにやりたくないなら、やらなくてよい！」と一度予習をせずにアントレに行かせたことがあります。全然解けなくて泣いて帰ってくるだろう、と楽しみにしていたのですが、「ドラえもんの漫画で読んだやつだったから解けたよー」とニコニコ、母がっかり・・・。フィナボッチ数列も漫画に出てきたり、理科もここに書いてあった！ということが多かったのも、とても役立ったと思います。あと父親曰く「ねこねこ日本史」も良いと言っていました。
- ・タケノコ面談：主に算数の相談をしていました。色々アドバイスいただいたのに、実行できないことも多く。。。ごめんなさい。いつもポジティブなことを言うので完全に母親の精神安定剤でした。また目立たないタイプの息子ですが、タケノコがきちんと息子の性格を理解して声かけしてくださっていて、母は密かに感動していました。
- ・お弁当作り：平日は私に全然余裕がなくサポート不十分な分、お弁当だけは作る！と心に決めていました。入社&在宅のハイブリット勤務のおかげで乗り切れたと思います。出社時は朝手紙を添えて冷蔵庫に。ダジャレ好きな息子に、母力作ダジャレを書いただけですが。アントレ最後のお弁当は「西郷暖盛がサイゴ（ウ）のアントレ弁当を食べる。（隆→子どもの名前）」。母史上最高傑作ができ優秀の美を飾ることができました。

その他、時事問題対策で朝日小学生新聞の購読、学校情報入手のため「スクマ」の登録（メールの回数が多くしつこい面もありますが、抜け漏れが多い母には受験直前はとても役立ちました）などもやりました。

■終わりに

息子は字が汚い（何百回も言いましたが結局直らず）、適当にちゃちゃっと終わらせる、毎日プリや宿プリを何か月もやってなかったり（面談で言われて初めて知るとい）、すぐ遊びに行っちゃったり・・・キー！となることも多かったですが、最後の1か月は集中力を切らさず本当によく頑張りました。1月は学校を休ませたため、Zoom自習室もほぼ皆勤賞だったと思います。

息子は「運が良い」と思うことが多く（思い込みも大事です）、どの学校に行っても楽しめるだろうと思っていました。息子に「あなたは運が良いから絶対大丈夫。でも運は頑張った人にとこにしかやっこないからね」と常日頃言っていたせいか、「僕は運が良い！天才だ！」と自己肯定感が強い男子に育ちました。受験期も心配で胃がキリキリし続けていた母は、何度となく彼の前向きさに助けられました。

この3年間で、足のサイズは母より大きくなり、背も追いつかれ、声変わりも始まり、母親の言うことは絶対に聞きたくないという強靱なメンタル（反抗期）が形成され、本当に成長しました。成長著しい3年間、説明会や文化祭、模試に行ったり、帰りに美味しいランチを食べたりと楽しい経験を一緒に味あわせてくれて本当にありがとう。私立と都立対策本当によく頑張ったね。諦めない心を息子から教わりました。

入学金を2回も払ったのに都立に行くといふ。。どこかのネットニュースで見たことのあるマックスプランになった我が家ですが、息子が青春をめいっぱい謳歌する形でPayしてもらおうと思います。

山下幸太朗くんのお母様

自宅から通える範囲内で息子に算数を教えてくれる場所はないか？出来れば難易度の高い問題を楽しく。ん？カッシーブログ？わーこの先生面白そう、！
早速体験授業に参加してみると思った通りここに通いたい！と即答。
新4年生からお世話になる事にしました。

《入塾前》

子供達には何か一つでも好きなもの得意なものを見つけて、それを思い切りやって欲しい。サッカーでも水泳でもピアノでもなんでもいいから、何か熱中出来るものが見つかるればいいなあと思っていたのですが、息子にとってはそれが算数でした。幼稚園に入る前から文字や数字に興味を持ち始め、本を読んだりパズルをするのが好きでした。入学時には市販のテキストで6年生の問題を解いていました。小学校に入学してやっと算数の授業が始まったのですが、予想していた通り全部分かっているから面白くないと。もっと難しい問題を解きたい。息子の欲求に応えるべく算数塾のようなものを探したのですがなかなか見つからず、冒頭の経緯を経てアントレに出会う事になります。

我が家の場合は中学受験を見据えての入塾ではなく、学校では教えて貰えない算数をカッシーという面白そうな先生に教わりたいという理由での入塾でした。学校とはまた違った仲間に出会える事も良い刺激になるのではとも思っていました。結果、本当に楽しく3年間通うことが出来ました。息子の口から辞めたいという言葉を書くことは一度もなく、白板やチーム戦、早押しやよいどんなど、毎回授業の様子を楽しそうに教えてくれました。入塾して本当に良かったと日々思っていました。

《4年～5年》

4年生は算国の2科目でスタートしました。中学受験は私も主人も経験がなく、特に主人が乗り気ではなかったため考えていませんでした。週一でしたので習い事の一つという感覚でした。予習も特に問題なくやっていたと思います。まとめテストでは算数は毎回満点を取る事を目標にしてやっていました。

5年生になり、今後息子が受験したいと言いついた時の事を考え4教科受講することにしました。週3になり理社の勉強もプラスされやる事が一気に増えました。でも算数は相変わらず好きだったので、予シリだけでは持て余す時がありカッシーに教えていただいた下剋上算数（青）をやっていました。季節講習を受けていなかったのもあり、夏から始めて6年に上がる前までに3周して終わらせました。内容的にもボリューム的にもちょうど良かったと思います。他には中学への算数や図形の必勝手筋もやっていました。息子が一番好きな単元は平面図形だったようです。国語は語彙力系のテキストをプラスしてやっていました。下に弟が2人いてリビングで学習するのも難しくなり、5年になるタイミングで自室を作りました。保護者会で説明があった1週間の学習スケジュールを机に貼り、息子のペースで予習復習していました。私はプリントの整理と丸つけをやっていました。何か勉強を教えるということはなく、分からない問題があると解説をしっかり読みなさいと言っていました。小中学生用の電子辞書を購入し、予習をしている時に分からない語句が出てきたらすぐに調べる癖をつけました。4科目全てで使っていた様です。ちょっとしたクイズなんかの機能も入っていて楽しかったようでよく辞書に触っていました。

《6年生前期》

6年に上がる時に息子と受験をするのかしないのか一度しっかりと話をしました。息子が受験したいと言ったので、ここから本格的に受験をする方向で志望校選びや学校見学など始めました。かなり遅い方だと思いますが、息子の偏差値もよく分からないし、関西出身で関東の学校も正直ほとんど知らない状況でしたので何をどう決めていったらいいのか、という感じでした。面談でカッシーにアドバイスを貰い、私と主人の希望で都立も視野に入れて（学費面&共学）何校か見学に行きました。息子の口から開成の名前が出たのは合不合格判定テストの1回目の申込みの時でした。志望校をいくつか入力しなければいけなかったのも、どこにする？と聞いた時に開成にしようかなと言われました。正直武蔵と答えると思っていたのでびっくりしました。武蔵だけはSクラスの男の子が結構受験されてる事もあり、5年の時に文化祭へ行き見学ツアーにも参加していただきました。開成は関東の学校に疎い私でも知っている難関校で、志望校にして良いものか分からなかったのですが、とりあえず開成と都立小石川を志望校にして初めての模試を受けました。結果4科目偏差値が69.5で開成の合格判定は70%でした。この結果を受けて目標はひとまず開成に決め、過去問を購入しGW中に1回解いてみました。季節講習も6年からは全て受講し、前期の武蔵算数も楽しく通っていました。6月には最初で最後の算数オリンピックにも参加しました。テストというよりお祭り気分楽しんで挑戦し、ファイナリストに選ばれて息子も嬉しそうでした。いい経験になりました。

夏期講習での目標はとにかく体調を崩さず全日程受け切ることと、白板正答率を80%以上とる事にしました。自宅学習では算数の苦手単元は無いと息子が言い切ったのでそれを信じる事にし、算数は必要最低限で理社に全振りしました。知識抜けが沢山あったので、コアプラスを中心に夏期講習のスケジュールに沿いながら復習を進めていきました。カッシーから開成を受けるなら4科目満遍なく出来ないといけない。特に社会は細かい知識が問われる。国語の記述も大事になってくる。と言われたので今までしっかりやれていなかった事もあり、夏休みは理社に時間を使いました。全日程休まず受講でき、白板正答率も80%以上取ることができ目標は達成出来ました。夏期講習が終わって新学期まで少し時間があつたので、近場で1泊家族旅行に行きました。

《6年生後期》

授業では新しく習う単元はほとんど無くなり演習問題ばかりになりました。模試は合不合ではなくサピックスオープンを受ける事にし学校別の模試も受けてみました。土曜日にある入試演習クラスには開成クラスが無いので、他塾のものを受けるか個別で対応していただくかという事になり、息子と相談して個別をお願いする事にしました。国語が1番の苦手科目だったので開成の過去問の記述をみていただきました。週末は過去問をやったり模試を受けに行ったり、学校見学や文化祭に行ったりしていました。開成と渋渋の説明会が同日の午前と午後であり、息子と一緒に行くのを楽しみにしていたのですが、前日に息子が体調を崩してしまい結局私一人で行くことに、残念でした。開成の文化祭には主人と行って、学校の雰囲気は見る事が出来ていました。小石川、本郷、巣鴨と一緒に見学に行けました。

都立対策として作文添削を高山先生にお願いしていました。9月に一度見てもらい2回目もお願いしていたのですがなかなか書く時間が取れず、息子自身も昔から作文がかなり苦手だったので2行ほど書いてそこから全く筆が進まず数時間、みたいになってしまい添削に出せていませんでした。入塾してから勉強で躓くということがほとんど無かった息子が作文に関しては、出来ない、難しい、何をどう書けば良いか分からないと完全にお手上げ状態でした。私としては作文なんて答えは無いんだからテーマに沿って適当に書いちゃえばいいのに、と思っていましたが、真剣に悩んでいる息子にそんなことも言えず、なかなか練習出来ずにいました。早稲アカの2回目の小石川オープン模試の適性検査Iで100点満点中16点を叩き出し志望校を変更する決断をします。11月の終わり頃でした。

カッシーと面談をし3日校をどうするかの話をしました。筑駒は私だけで説明会に参加していて、その時に生徒の男の子が筑駒の数学の授業は本当に面白いと言っていたのが印象に残っていました。息子に合うのではと思い過去問を勢いで購入してしまったことをカッシーに伝えました。カッシーからはどうしても都立を受けたいという事でなければ筑駒を推しますよ！と言っていたので3日は筑駒を受験することにしました。小石川ではなく筑駒に変えようかと息子に提案した時、もう作文の練習をしなくて良いんだとホッとした顔をしていました。12月からは筑駒の過去問をやるだけやることにし、個別では筑駒の記述もみていただくことにしました。急遽申し込んだ学校別の筑駒サピックスオープンでは合格率20%と厳しい結果に。冬季講習前に三者面談をしていただき、模試の結果より過去問をどれだけやり込めるかだと教えてもらったので筑駒算数25年分の過去問も購入しました。

1月は始業式だけ出席し後は全て欠席することに決め、志望校の過去問と理社の総復習を中心に自宅学習をして過ごしました。国語は塾技と言うテキストを購入し、毎日少しずつ進め1月中旬に終わらせました。過去問は開成を10年分計12回、渋渋を3年分計6回、筑駒を10年分算数は25年分やり切ることが出来ました。筑駒と渋渋は息子が一度も学校を見ていなかったもので、12月の週末に見に行きました。もちろん中には入れませんでしたが、自分が受ける学校を実際に見て実感が湧いていたように思います。

《1月入試》

・1月12日 栄東（算数選抜）

→不合格

1月入試をするか迷っていたのですが、練習と言う意味でも受けた方がいいと薦めていただき受験しました。得意の算数のみの1教科入試、アントレで過去問をお借りして2年分やった時も8割~9割取れていたので大丈夫だろうと思っていました。2点足らずに不合格。息子は最初こそ悔しがっていましたがケアレミスをした自覚があったようで、2月はこうならない様にすると言い全く引きずる事もなく早々に普段通りに。私はそんなにすぐに気持ちを切り替える事なんて出来ず、頭の中を「全落ち」と言う言葉が駆け巡り、発表の日はなかなか眠れませんでした。

そしてこの日を境に受験生の母としてのスイッチがやっつと入りました。残り半月ちょっと、後悔のない様に私も息子もやり切ったと思える受験にしよう。毎日早寝早起きを徹底し、今までやった事の無かった朝勉も

取り入れました。何か私に出来ることはないかと常に考えていました。面談で自宅学習の時間が少ないといつも言われていましたが、最後の2週間は本当によく勉強していました。息子自身も最後の追い込みだねと言っていました。

ゲームやYoutubeに関しては最後まで特に制限はかけませんでした。息抜きは絶対に必要だと思っていたし、息子の中で時間を決めて切り替えてやっていたので私からは何も言いませんでした。

《2月入試》

・2月1日 開成

→合格

・2月2日 渋谷教育学園渋谷

→不合格

・2月3日 筑波大附属駒場

→不合格

最後のサピックスオープンでの合格率は、開成70%渋谷80%筑駒50%でした。3日間とも今持っている力を全部出し切ろう、後悔のない様にしよう、大丈夫！と声をかけました。体調万全で試験日を迎えられ、笑顔で行ってきますと会場に入っていく息子を見て、ここまで来られた事に安堵しました。もう半分は合格したようなもの、あとはとにかく悔いなくやり切って欲しい、それだけでした。栄東の時に行きで電車を間違えたり、z o o m応援も上手く接続出来なかったりと色々反省点があったので、2月入試の時はしっかり下調べをしました。結果3日間ともカッシーや他の先生から有難いz o o m応援をしていただき、余裕をもって試験会場に着くことが出来ました。やはり色んな意味で1月の栄東の入試は受けて良かったと思っています。

どの試験も自己採点はしていないので、どのくらい点が取れていたのかは分かりません。息子は出来たとも出来なかったとも言わず、悪くはないと思うと言っていました。やれることはやったと言っていたので私もそれ以上は聞きませんでした。筑駒はてこと電流の問題が毎年必ず出ると息子から聞き、その単元の問題だけ過去問から抜き出し集め10年分を2週して筑駒対策していたのですが、今回開成でも似た様な電流の問題が出たので全部出来たと言っていました。社会ではまさかの西東京市に関する問題が出てラッキーだったとも言っていました。

5日に筑駒の不合格という結果を受けて、我が家の受験は終わりました。

振り返ってみると、息子はアントレに通った3年間でもとても貴重な経験をしたと思います。それは私にとっても同じで、節目節目で息子と通塾を続けるのか辞めるのかを確認し合いながら、一緒に手探りの中進んできました。お弁当作りも車でのお迎えも模試の付き添いも、正直面倒だなと思う時もありました。でも息子が絶対続けるという強い意志を持っていて、なにより楽しそうに通っているのを見て、私も出来る限りのサポートをしようとやってきました。

私をもっとしっかりした親だったら、もっと早く色々動いていたら、と思う事もありましたが、アントレの指導に沿って時には面談でアドバイスをもらいながら息子も頑張り、最終的に息子が最初に口にした志望校に合格をいただけました。中学受験と言えば親子で喧嘩をしたり家庭がギスギスしたりと少し怖いイメージもありましたが、我が家の場合は主人が最後まで受験にノータッチで、息子がどんな塾でどんな勉強をしているのか、どこに出願したのかさえよく知らないままでした。小2と年長の弟2人も受験なんてもちろん分からず、良いのか悪いのか最後まで普段通りの我が家でした。プレッシャーなど皆無でした。マイペースな息子なので中学へ進んでも自分のペースでやっていくんじゃないかと思います。

今、3年前のアントレに入塾した時と同じ気持ちでいます。好きな算数(数学)をこれからも思い切りやって欲しい、沢山の仲間から刺激を受けて楽しい学校生活を送って欲しい。開成は校舎が新しくなり設備も素晴らしく楽しい行事が盛りだくさんで、この環境の中で6年間を過ごせる息子が羨ましいです。きっと充実した学校生活を送ってくれると思います。

アットホームなアントレが私も息子も大好きでした。今は完全にアントレロスです。

息子の学びたいと言う気持ちに答えてくれた先生方には感謝しかありません。

本当にありがとうございました。

山野雅夏さんのお母様

小学2年生の終わりから4年間お世話になりました。こうして受験が無事に終わったのも感謝しかありません。

小学3年

3学年上の長女がアントレに通っていたので、当たり前のように次女の雅夏も小学2年の2月から入塾しました。

勉強習慣を身につけて欲しかったのですが、気合いだけがあった為、ホームワークを一週間で仕上げるといった雑な勉強方法でした。塾というより習い事に通っている感覚でした。(声が高いので、恐らく当時はうるさかったと思います)

小学4年 (Aクラス)

小学4年に上がったばかりの頃は小学3年の貯金がありましたが、しばらくすると算数の予習に苦戦するようになりました。算数の予習を一人で進める事はできず、私が横についていましたがうまく教える事ができず、娘のやる気もなくなっていきました。後期になると算数の点数が取れなくなりました。

小学5年(前期Aクラス、後期Sクラス)

Aクラスでスタートした事が良かったのか、4年の時と比べて勉強量は増え、自力で予習する力が身に着きました。算数の予習は、類題・例題を理解してから、基本問題を解き、練習問題を2回解いて、白板の本番に挑んでいました。復習は苦手だったようです。白板は○が取れていたのですが、白板の理解が浅く、まとめテストの点数は低かったです。清水先生に相談を繰り返す事で、本人も復習の理解度をあげようと意識して頑張り、後期からSクラスに上がりました。この時期から個別指導を開始しました。

Sクラスに上がり、難易度が上がったので、もちろん白板の○も減り、宿プリも難しくて解けなかった為に泣きながら頑張っていたのを今でも鮮明に覚えています。

小学6年 (Sクラス)

志望校について、クラスが上がった為志望校選びを仕切り直し、ようやく秋頃に第一志望を雙葉中学に決めました。

武蔵算数について、本人の意向により武蔵算数を受講しましたが、理社のバランスを取るのが難しく、確認テストの準備が不十分でした。受験を終えた今でも、武蔵算数を受けた方が良かったのか、理社を優先させた方が良かったのか、どちらが正解だったのか分かりません。

自習室について、積極的に利用していました。本人が自宅より自習室の方が集中できると言い、時間があれば自習室に通い、自宅より自習室にいた時間の方が長かったと思います。

過去問対策

雙葉中学：1回目10年分+2回目6年分+3回目1年分

白百合学園：5年分

栄東：2年分

浦和明けの星：7年分

淑徳与野：5年分

受験しなかった学校（豊島岡：約10年分、吉祥女子：2年分、学習院女子：1年分）

模擬試験を四谷大塚の合判に加えて、豊島岡と雙葉中学のサピックススオープン志望別を受けたので、過去問対策のスケジュール立てが難しかったです。その日の体力が影響するので、余裕を持ったスケジュール管理をお勧めします。

1月入試本番

1/10 栄東 不合格

緊張で手が動かなくなったと聞いています。国語が40点代で合格最低点に7点足りませんでした。過去問では東大コースの合格最低点を超えていたので、ショックは大きかったです。

1/11 淑徳与野（医進コース） 不合格

緊張を和らげる為に長女も付き添い受験会場に向かいましたが、合格最低点に1点足りず不合格（長女は大宮で牛タンを食べるのが目的で付き添ってくれました）

1/12 一番つらい1日でした。緊張から平常心を失い、まとも受験できずに、栄東と淑徳与野（医進コース）の不合格が確定した時、全落ちを覚悟しました。
泣き崩れる12歳の娘を見て、かける言葉が思いつかず、ただただ娘を抱きしめて、私も泣き崩れるしかなかったです。頑張った4年間が一瞬にして消えてしまったと思い、涙が止まりませんでした。
その日はアントレの通常授業日で、行くか休むか悩みましたが、辛いはずの娘は、「アントレに行く。友達に落ちたって言う。」と泣きながら、一人で歩いてアントレに向かいました。アントレに行って、柏原先生やお友達に励ましてもらったそうです。

1/13 淑徳与野（特進コース） 合格
緊張を和らげる為、父親がさいたま新都心まで車で送迎してくれました。

1/14 浦和明けの星 不合格
本人によると、時間配分ができなかったそうです。

埼玉入試の結果が出揃った頃

淑徳与野（特進コース）の合格は手にしたけれど、気持ちの切り替えができず、前向きになったと思えば、逆に「もう受験辞める。淑徳与野に進学する」と泣きわめいて自暴自棄になり、その繰り返しでした。

1/17 柏原先生との面談

1月受験の結果の受け止め方、2月の受験校、今後の勉強方法を相談しました。浦和明けの星が合格している場合は豊島岡を受ける予定でしたが不合格だったので、2月の受験校は娘が自信を持って受けられる学校に見直ししました。その際に、柏原先生が「1月受験の結果を分析して2月に備えましょう。」と言って下さったおかげで冷静になり諦めずに2月受験も頑張ろうと思いました。

2月入試前まで

柏原先生との相談により、後悔したくないと思うようになり、個別指導を増やしました。
また、本人の自信を損なわないように、始めて解く過去問の量を以前より減らし、過去問の復習に力を入れるようにしました。併せて、白板の復習にも力をいれるようにしました。

2月入試本番

2/1 雙葉中学 不合格

朝はとても緊張していました。

1月入試で唯一合格した淑徳与野の時と同様に、学校まで父親に車で送ってもらいました。

ZOOMで個別指導の上原先生と話せたので、落ち着いてして受験できました。

受験後メンタル維持のためアントレに寄りました。

2/2 白百合学園 合格

雙葉の合格発表の時間を1時間遅く伝え、白百合学園の受験に影響が出ないようにしました。

ZOOMで個別指導の上原先生と新本先生と話せたので、落ち着いてして受験できました。

そのおかげか入試に集中できたようで合格を頂く事ができました。

2/1と同様に、受験後メンタル維持のためアントレに寄りました。

2/3 学習院女子 未受験

白百合学園が合格した為、2/4の浦和明けの星の対策を優先させました。

2/4 浦和明けの星 不合格

白百合学園に進学する事を決め、入学手続きをしていたけれど、1月で不合格だったのが悔しかったらしく、リベンジとして受験しました。

受験を終えて

4年間ありがとうございました。長かったようであつという間の4年間でした。

中学受験は大変だった事が語り尽くせないほどありますが、得たものが多かったと思います。アントレで学び、中学受験をして良かったと思っています。

アントレには、長女の受験から6年間お世話になりました。アントレの先生方、個別指導の上原先生、新本先生、クラスの仲間たちには感謝しかありません。本当にありがとうございました。

山本健太郎くんのお母様

●入塾動機

息子は3年生の9月から5年生の夏期講習時期までは地元の大手の塾に通っていましたが最初こそは上のクラスにいたのですが段々と授業についていけなくなり宿題も多く、こなせなくなりクラスも落ちてきて自分が受験をしたいと言ってきたのに精神的に追い詰められ、5年生の夏終わりに初めて受験をやめると言ってきました。本当に辛そうだったので了承したのですが同じ塾に通っていて同じように行き詰っていたお友達のお母さんからアントレに体験に行ってみませんかと誘っていただき、体験に行くと今までにないくらい楽しかったようで5年生の9月から入塾させていただきました。

●志望校動機

両親とも地方の田舎の出身のため中学受験は経験しておらず中学受験は全くの無知だったため担任の先生の進めて下さった学校などを含めて学校の説明会や体験授業などは全部で12校くらい行きました。

・第一志望 芝浦工業大学付属中学 2/1→不合格 2/2→不合格

担任の先生に進めていただき説明会や体験に行ったところブロックやプログラミングなどが大好きな息子がとても気に入って第一志望は初めて学校に行った時から一切揺るぎませんでした。何度も足を運びました。

・第二志望 成城中学 2/3→不合格 2/5→合格(進学先)

担任の先生に進めていただき説明会や文化祭に行き、とても気に入ったので第二志望にしました。

・第三志望 開智所沢中学 1/10~1/13→全日程合格(S特待合格、併願の開智中学準特待含む)

自宅から近いことと、新設校というところに惹かれ第三志望にしました。

●普段の勉強

私は勉強を教える事が出来ないので勉強の計画票を作ったりプリントの整理をしたりといったサポートをやっていました。本人は塾の予習・復習に時間を割いていました。しかし、時間が足りず、ほとんど予習の時間がなかったような気がします。毎日、時間に追われるような感じでした。そんな時でも、塾が楽しくて、毎日塾に行くのが楽しみでしょうがない様子でした。楽しく行っている割には、テストの結果もあまり変わりませんでした。それに家ではあまり勉強に集中してやる感じではありませんでした。このままではダメだと思い、何か変化が必要だと思い、週末に図書館に行ったりしましたが、あまり変わりませんでした。最後の3ヶ月は、本人が危機感を感じたのか、始めて自分から勉強するようになりました。

●ラスト3ヶ月の勉強

普段父親が海外にいますので10月から4か月間の休暇で帰国したこともあり、主人に勉強のサポートをお願いしました。毎日、塾の復習に追われて、その日が終わる感じでした。土曜日・日曜日は、復習と過去問を徹底的にやりました。この時期に新しい事を覚えたり、やっていないところをやるより、今までやった事を完璧にする、あやふやにしていたところをきちんと整理する事に時間をかけました。それと最後の3ヶ月は、毎日、最後に漢字のテストをして終わるようにしました。テストで必ず出る漢字は、極力間違いがないように、最後は、1点2点の差で合否が決まると思います、どんなに遅くならうが、寝る前の15分間は、必ず漢字テストをして終わるようにしました。

1番苦手な社会は、歴史の暗記が嫌でほとんどやっていませんでした。それですます苦手意識があり、他の教科に比べて、勉強時間はかなり少なかったため、まず苦手意識をとる事を目指しました。毎日、父親と一緒に時代の確認とその時代の代表的な出来事を繰り返し覚えて、歴史全体の流れを覚えていきました。時代の流れがわかると、テストでいい加減に選んでいた選択肢も理解して選ぶ事が出来るようになり、少しずつ点数も取れるようになり、最後は、苦手意識なく本番に臨めるようになりました。毎日、必ずその日に、父親と何をやるのか一緒に確認しながら、勉強をしました。

ONとOFFも大事で、ずっと受験勉強だけでは、息が詰まります。唯一、ロボット教室の習い事は、本人の希望でずっとやり続けました。週一回の習い事が本人には、すごい息抜きになったようです。

●受験本番

1月の埼玉の受験は、合格を頂き、2月の受験に向けていいスタートを切れましたが、少し気持ちに余裕が出てしまったのか、2月の受験は、1日2日の第一志望は不合格で、3日の第二志望も不合格で本人は、かなりショックで落ち込んでしまい、本当に辛そうで、5日の第二志望3回目試験もその時点で倍率が20倍を超えていたためもう辞めようとなりました。主人は納得がいかない様子でしたが母である私はこれ以上息子に辛い思いをさせたくないと思い、主人と言い合いになりました。どうするかは翌日(4日)に本人が最終的に決める形を取りました。4日の朝になり本人も、もう辞めて埼玉の学校に行くと決めてもう完全に受験終

了モードでしたがお昼過ぎに村上先生（フンちゃん）に合否の電話を私からいれたところ、
「お母さん最後まで諦めたらダメです。箸にも棒にも掛からぬ子ではありませんから最後までやり切りましよう。」

と言われ息子に電話をかわり、息子がフンちゃんと話した後に、自分から明日も受験すると言ったのですが願書を出しました。その時私は正直言うと倍率が 20 倍なんてこれまでの試験で一番過酷でまた辛い思いさせるのかと思いましたが息子に明日は厳しい試験になるけど最後までやり切って埼玉の学校に行ったほうが悔いなしだねと話しました。その日の午後はフンちゃんに言われた通り、ゴロゴロしながらコアプラスを読んで休息にあてました。主人が帰宅してからは少しだけ過去問をして早めに休みました。試験を終え、どうだったか聞くと良いとも悪いとも言いませんでした。おそらく前は自信があったのに不合格だったので言うのが怖かったのだと思います。ただやり切ったのでとてもいい顔をしていて最後の試験受けてよかったと言っていました。20 時の合否の発表時間、私は出掛けていて大雪のせいか電波が悪く結果を見ることが出来ず、ふと LINE をみると主人から合格！の文字が見えたのですぐに主人から塾に電話を入れてもらいました。

実質倍率は 9.3 倍でした。本当に驚きました。第一志望ではありませんでしたが、本人が最後まで諦めず、全力で臨んだ結果、最高の形で受験を終わる事が出来ました。最後まで諦めずに頑張った息子を褒めたいと思うと同時に、フンちゃんのあの言葉がなかったら最後の試験は受けていなかったのも感謝できません。

●中学受験を終えて

保護者会の時にカッシー先生が「同じ試験をもう一度行くと、合格者と不合格者が全て入れ替わる事もあるかもしれません。それが中学受験です。」と仰っていた言葉を今も思い出します本当に何が起こるかわからないと思いました。

息子とは何度も喧嘩をして時間をかけて作った学習計画表を私がビリビリに破いた事もしょっちゅうでした。最後は感動をくれた息子に感謝です。ただここからがスタートなのでの中学に行っても楽しみつつ頑張ってほしいです。

最後まで指導して頂いたアントレの先生方に心から感謝したいと思います。以前息子の通っていた大手塾に通っているお友達のお母さんからもアントレすごいねと言っていました。

吉田絆里くんのお父様

【はじめに】

「最高の結果」であったが我が家の受験は最後の最後までドラマがあった。経験を振り返るとともに、サポート頂いた全ての関係者へ感謝をお伝えしたい。また、中学受験を検討しているご家族にとって何か少しでも参考になれば幸いです。

【受験結果】

第一志望：武蔵中学校（合格）→4月より進学予定
受験校：栄東中学校（不合格）、立教新座中学校（合格）
城北中学校（合格）、巣鴨中学校（算数）（不合格）

【我が家がアントレ入塾・中学受験に取り組むまで】

我家の家族構成は妻・息子・私の3人家族。妻は中学受験の経験は無い一方、私は中学受験を経験、おまけにフンちゃんの教え子であった。

我が家は私の仕事の都合で2016年（当時息子4歳）より家族3人で海外駐在をしていた。息子はインター校に通い、国際派に！と思っていたが、2020年3月26日駐在先の国での新型コロナウイルス蔓延により妻と息子は急遽日本へ退避することになり、当初は数か月程度の一時退避となると思っていた。せっかくの機会なので日本の雰囲気を感じるとともに学習の補助となればと近所で塾を探すなか、たまたまフンちゃんのアントレという塾が、しかも徒歩圏内にあることを知ったことがアントレ入塾のきっかけであった。

アントレの勉強の進捗に合わせてハンコを獲得し、景品に交換できる「ハンコシステム」は実にうまい。3年生の息子はハンコを集めることに夢中になり、「自分の力」で獲得した景品を妻・祖父母へプレゼントしていたことは微笑ましい。

時は過ぎ、息子5年生、妻とは再度駐在帯同も考え始めていたが、息子一蹴。

「ここまで勉強して受験しなきゃ損でしょ」我が家の挑戦が始まった。

【志望校選定】

武蔵は私の母校。中学受験をするのが「良いか」などわからないが、①刺激しあえる友人・良い先生と出会う確率が上がる ②良い設備・環境で学べる ③進路の自由度が高まると思う。そのうえで武蔵は自信を持って薦められる。息子に話をしたり、家族で散歩にいたり、合同説明会へいく中で志望校は自然と決まっていた。

とはいえ独特な試験問題への対応は勉強マニアか天才でない限り、併願校を決めるのがとても難しい。

「武蔵がダメならこっちに戻ってくればいいじゃん」と繰り返す私。息子の努力を結果に繋げてあげたい妻。我が家では6年生になってから数校の過去問を試し、息子が相性が良いと勝手に感じる問題を出す学校を中心に選定した。相性は得意科目と各科目の点数配分や過去問を解いた際の感覚で判断した。

（本郷中学も候補に入れたかったが相性から併願校から外した）

【中学受験勉強戦略】

受験はその年の受験生との相対評価。また、試験本番で出題される問題は勉強したことの1割にも満たないだろう。そのことを踏まえると限られた時間で合格を勝ち取るには、「全教科の全範囲を超勉強する」か「山を張る」ことがあるが、遊び盛りの小学生にとって前者は難しく、後者は自分だけではリスクが高い。息子をアントレにお願いしたのは本当に良い選択であった。

- ・少数精鋭の良い競争環境がある。（悔しさと時々の喜びが良い刺激となった）
- ・楽しい勉強環境。（苦しむこともあったが、塾に行きたくないということは一度もなかった）
- ・4・5年生の間の積み上げで基礎の足腰が整う。（にも関わらず学費が安い）
- ・先生方の情報収集に基づく戦略に沿って勉強を行う。（おせじ抜きで戦略が本当にすごい感じている）

合格を勝ち取るうえで他に大切なことは、本人の「自信」「執念」あとは「運」だと思う。

マインドセットとメンタルを鍛えるということだ。息子は「アントレプライド・自信」を持っているようで模試・受験本番でも常に胸にはアントレバッジを掲げていた。また先生に買って頂いたジュースのペットボトルを洗ってお守りとして部屋に飾っている。

【時期別取り組み状況】

単身赴任の私は週末にオンラインで息子を褒める係であったが、ここでは息子と泣き・笑い、奮闘した妻からのヒアリングに基づき時期別の出来事と様子を振り返りたい。

■3年生～5年生 反抗期

全教科一緒に教科書を予習し、問題をよーいどんで解いていくスタイルで予習勉強を継続。しかし5年生になるとこのスタイルに限界を感じる。息子は何か理由を見つけては席を立ちあがり、勉強よりも喧嘩の時間が増える。それでもアントレには絶対に行くと言いつつ塾は好きな息子。算数の難易度も上がってきたこともあり、5年生の夏休み明けから個別指導を加え、助けてもらう。

■6年生前期、停滞期

6年生になり、初の四谷大塚 合不合格判定テストを受けるが、結果は散々たるもので合格率は全校20%。(20%以下は出ないのではないかと)、他塾を含めた受験生の中での自分の立ち位置を知る。この時期に私とのオンライン勉強を主用途としてIPADを新調する。勉強は全範囲を終え、塾の前の予習がなくなっていたがその空いた時間にIPADの野球ゲームを始めてしまう。

私も野球が大好きでついつい一緒にハマり、妻は激怒。

そして夏休み前、妻の焦りが限界に達しそうな中、親子で仲良く初めてのコロナ感染。幸いコロナは1週間程度で快方に向かうも塾以外の時間に全く勉強に身が入らなくなる。昔から習い事などでもコツコツする性格であったが、全く何もしないというのは初めての状況であった。妻は本気で武蔵を諦め、アントレに「もうだめなんじゃないか」と相談する。先生から後期にまず武蔵クラスに入ってみてそれでもだめならクラス替えを考えようとアドレスを頂く。

息子にも勉強しないなら、武蔵は諦め、別の学校を目指すよう話すも息子断固拒否、妻は疲れてこのままの状態では武蔵は無理と断固拒否の一触即発の状態。

■6年生夏休み前～、転機

追い詰められた妻は週末に予定されていた早●田アカデミーの「武蔵中オープン模試」を申し込む。息子には他塾の模試とだけ告げ、結果が不合格なら後期のアントレ武蔵クラスには行かせないと最後通牒を突きつけ、強引に会場に連れて行く。不機嫌で会場入りした数時間後、試験を終えて出てきた息子は何か笑顔で、「楽しかった」と言った。(模試結果は合格率55%)。

■6年生夏休み～受験直前期

そして夏休みが始まる。振り返るとこの模試を機に本当の意味で武蔵を目指し始めたと言えるかもしれない。一念発起後の夏期講習期間の頑張りや凄く、受験直前期を含めても一番勉強をした。これまで塾から帰ってきてすぐに復習をしたことはほぼなかったが、夏休みは予習と復習をとにかくきっちりした。今更ながら復習するとレベルアップに繋がることに気づき、その後は受験本番まで塾から帰ってきたら必ずできる限り白板復習に努めるようになった。わからないところはまとめて週末私とオンラインで解くこともあったが、むしろ私は解けず、息子が解説してくれることも増えていった。算数を重点的に取り組んでいたが、加えてこれまで後回しにしてきた理科・社会の苦手分野の勉強にも必死に取り組んだ。

自宅では夏休みから武蔵の過去問を開始する。結果過去問は12年分を1周、算数は2周。

まとまった時間が取れる休日に過去問、授業がある日の空き時間は白板と武蔵プリントに取り組んだ。

アントレの武蔵演習が始まり、毎週の合否判定が出されることで落ち込むこともあったがひばり校のメンバーからの刺激もエネルギーとなっていた。

(参考) 武蔵演習の戦績 合格：7回 不合格：6回 補欠：1回 欠席：1回

【最終決戦(本番)】

■1月受験(栄東・立教新座)

栄東は取り組んだ過去問全て合格点超えであったこともあり、本番当日も大きな緊張は見られず、試験後も自信満々であったが、結果は不合格。

立教新座は栄東の結果が影響したのか本番はかなり緊張している様子であったが慎重に取り組み、無事合格。これには妻と私も安堵。私も日本へ一時帰国した。

■2月受験(武蔵・巣鴨算数・城北)

2月1日いよいよ本命武蔵。体調を崩すことなくこの日を迎えられ、まずは一安心。武蔵の門の前で先生方とZOOMを繋ぎ、その後も周りの受験生をみる余裕をもったまま会場へ落ち着いた様子で入っていった。試験を終え、出てきた息子の表情は明るく、多くは語らないが面白かったという様子であった。しかし、徐々に雲行きが怪しくなる。午後の巣鴨算数へ向かう途中、どんどんと口数が減り、ため息が増える。自分の間違えたのではないかと不安に襲われていたのだ。親も不安になるが、終わったことを考えても仕方がないという声かけに不安が募る息子。更に追い打ちをかけるように、昼食で私が注文した寿司に食べられないワサビが入ってしまい、機嫌最悪のまま受験。(結果は巣鴨不合格)

巢鴨の受験後の帰り道も不機嫌は続く。

・・・・・・・・（無言が続く）

しかし、最寄りの駅に着いたとき立ち上がった息子が「引きずってもしょうがないね。明日頑張る」この時、大きな成長を感じた。帰宅後は翌日に控える城北の過去問を少し眺め、早めに就寝。

2月2日 城北受験日。朝から落ち着いており試験会場へも落ち着いて入っていった。結果合格。

【武蔵の結果】

30年前合格発表は旧視聴覚室の前の掲示板に合格番号が張り出されていた。今はクリック、合格・不合格が表示される。合格発表日、ありがたいことに前日に城北の合格を頂いていたこともあり、明るい雰囲気です。発表時間を待つ吉田家一同。結果はどちらにせよ息子は試験直後はやり切った表情で出てきたこともあり、ダメであればそれも御縁。「本当よくここまで頑張った。補欠とかだけはやめてね！」と言いながら発表時間。

やや躊躇する妻と私を横目に息子は淡々と入力していく。そして ポチッ

?????画面の色は明るい
が、合否の記載がない??????

記載されている文章を読む。
「補員 繰り上げの場合は2月20日15時までに電話連絡」

ここから息子・妻・私 各々が色々と考える時間となった。
後日、別の学校の入学手続きも終え、宿題にも取り組んでいた2月20日、繰り上げ連絡を頂いた。

【受験を終えて】

武蔵からの合格連絡に対する喜びは言葉にすることが難しいです。しかし、この結果が「一番良い結果」であったかどうかは、息子の今後の成長が答えを出すと思います。息子が目標に向かって、私と同じく謎の自信と執念を持って努力し、成長したことには本当に感動しました。今後も好奇心を絶やさず、好きなことを追求してほしいと思います。また、試行錯誤を繰り返しながらも息子を支え続けた妻には、心からありがとう。そして息子と一緒に学び、切磋琢磨した友達の更なる成長も心から祈念しています。

最後に、アントレの先生方、息子の成長を導いてくださり深く感謝しております。本当にありがとうございました。

A・Tくんのお母様

この度は第一志望校の難しいと思っていたアドバンスクラスに合格することができ、親子ともどもホッとしております。勉強に取り組むこと自体は嫌いではなかったものの、算数を苦手として、勉強しても内容がなかなか定着せず、最後まで苦労した受験でした。

4年生の冬期講習からアントレにお世話になりましたが、5年になって算数で大苦戦。予習は頑張っていたものの定着せず、テストも毎回散々な成績でそれでも何とか5年生の1年間は終えたものの、6年生になった途端、勉強の辛さが体調にも表れ始めたことから本人とも相談し、春期講習前に退塾、高校受験に切り替えることにしました。

ただその後も計算や漢字は基礎学力として必要なため続ける一方、中学からしか入れない学校も多いこと、中高は勉強以外のことも楽しんでほしい（私が学生時代中高受験の塾でバイトをしており、中学生の忙しさ、大変さを見ていた）と思っていたことから、学校探しは細々と続けていました。

5年生までは偏差値的にもかなりストレッチした学校を見てきていましたが、この時期はいわゆる中堅校に的を絞り、学校選びをしました。我が家が重視したことは1) 英語教育に力をいれていること2) ユニークな教育、カリキュラムがある3) 将来海外大学進学も視野に入れている4) 勉強、勉強と言わない学校、でした。

1)、2) はわりとどこの学校も謳っているのですが、4) は中堅以下の学校となるとほぼゼロ。やはりどこの学校も実績を示すとすると大学受験の結果となりますから、勉強を強調することは当然です。偏差値をグンと上げればそういう学校の選択肢は増えてますが、現実をみなければなりません。学力に見合った“この学校に行きたい”という学校に出合えていなかったのも受験をやめた理由だったのですが、ふと何かでみた第一志望校の説明会に参加してみたところ、“おお”とビビッと来るものが。本人もこの学校に行きたい、となり、さっそくフンチャンに電話をして事情を説明したところ、快く戻ってきてください、と言ってくださりました。その際にうちの志望校であればCクラスで十分、Bクラスの問題はかえって邪魔をする、というアドバイスもいただき親子ともかなり気が楽に。無理をしない受験、という路線で再スタートを切りました。その時すでに6月末。。

当初は無理をしない、多少余裕のある受験、なんて夢物語を描いていましたが、3か月余りのロスもあり、算数は相変わらず定着が悪く、最後まで親子で試行錯誤を重ねた受験となりました。国語社会が比較的安定していたのは救いでしたが、算数以上に理科に苦手意識を持っており、理科は最後まで苦労しました。ちなみに、我が家は合不合は一度も受けず、首都圏模試のみ受けました。

苦手の算数は、とにかく計算ミスの多さが減らないままで、このままではまずい、と思い12月に入り先生に相談して、予習シリーズの計算ではなく、もっと基礎的な問題集を購入し、何度も繰り返しました。また白板は間違えた問題だけを集めたやりなおしノートを作り、それを入試前日まで何度も繰り返しました。やり直しノートは親が間違えた問題をすべて別のノートに転記、答え合わせは親がして、間違えた問題のやり直しの時にはどこを間違えたのかをやり直しノートに書かせました。これは計算でも同じように、何をどう間違えたかをノートに書かせて、自分がどこで間違えをするのか、どういう間違えをするのかを本人に認識させ、何とか計算ミスをなくす努力を直前までやりこみました。

過去問については、算数は大問ごとに問題をまとめたノートを作成し、何度も繰り返しました（例：大問1のみ5年分同じ見開きページに張り付ける）それをするとその学校の問題傾向に慣れるとのこと。以上はXの中受情報を参考にしました。

なかなか手ごたえがつかめないまま冬期講習に突入しましたが、講習が始まった途端白板ノートの字が突如劇的に改善、それに伴い白板の出来もかなりよくなりました。字は大きく、一行開けて丁寧に書く、は入塾時から継続的に伝えていましたが、改善が見られずほぼ諦めていたのですが、講習中はお休みをした子用に息子のノートがコピーされる、という想像もしていなかった出来事まで起きました。また最後の入試演習ではやっと名前が載り、これは本人の自信につながったようです。

1月の埼玉受験は“こんな仕上がりで本番を受けるとは恐ろしすぎる”と思っていましたが、合格を頂くことができ、残り3週間は中だるみがありつつも、ほぼ1日中勉強、この時期は本当によく頑張りました。結果、厳しいと思っていたアドバンスクラスで合格をすることができ、期待以上で受験を終えることができました。

ポリュヅの息子はこの直前 1 か月の頑張りで学力がかなり伸びたと感じました。また嬉しい誤算としては、あれだけ嫌がっていた理科について、2/1 午前入試が終わり、昼食をとっているときに突然“理科が楽しくなってきた”と言いだしたことです。（もちろん今?! と思いましたが。。）先ほどの字についてもそうですが、受験勉強が中学以降の勉強につながり、親としてはこれが一番うれしかったかもしれません。

最後になりますが、飽きっぽく、自分の興味以外のことはなかなか集中できない、気まぐれな息子を根気よく指導してくださった先生方、また何度も同じ間違いをする息子に寄り添っていただき、湯島天神の合格祈願セットまで準備頂いた個別の武井先生には感謝してもしきれません。アントレを選んで本当によかったです。息子を成長させて下さり、ありがとうございました。

○・Kさんのお父様、お母様

アントレの先生方、5年生から2年間ご指導ありがとうございました。

3年生から受験勉強を4年間頑張った娘も本当にお疲れさまでした。よく頑張ったね。

娘が体験記を書き終えて、それを読んでから書こうと決めていました。娘の文章を読んで、第一志望に受からせてあげたかったなという思いと文章を書くのが上達したなという思いで感慨にふけっているところです。

やり終えて、娘には思うところはいろいろあると思いますが、悔しかった思いや反省を活かして、中学生から更に頑張ってくれることを期待しています。受験期間中にいつも娘には話していましたが、結局やるのは誰でもない自分自身なのだから。

なおこれから書く親目線の感想は、娘の文章とリンクしていないところも多々ありますが、ご了承ください。

【アントレ入塾のきっかけ】

「私も中学受験をやってみたい。」と言うので、受験を終えた兄と同じ大手の進学塾へ3年生から通い始めました。

しかしながら、塾に帰ってから宿題等しようにもあまり理解していなく、予習シリーズを見ながら親がもう一度最初から教えるというパターンでした。娘からは授業は聞いているけど「あんまり分からない」といった回答が多く、なんとなく楽しそうではなかったので、4年の半ばくらいから転塾を視野に入れて検討していましたが、なかなか踏み切ることはできませんでした。

通っている塾と一緒に「予習シリーズ」を扱っている塾でどこかないかなとネットサーフィンしていると「アントレ」がヒットしました。そこには、「予習」をしてから授業に望むとあったので、今までとは違うパターンだなと思いましたが、親と一緒に予習をして塾でもう一度授業を聞く方が効率的だと考え、さらに情報収集を続けました。兄の同級生でアントレに通っていた方が数名おり、その方からの評判も上々だったため、思い切って面談を申し込みました。

面談に現れたふんちゃんは何かというか、今までの塾にはいないタイプの方でした。全てを超越しているようなそれでいて話す口調は穏やかで、アントレの教育方針に絶対なる自信をもっていて、迷っている私達夫婦を包み込んでくれたというのが率直な感想です。直ぐに体験を申し込みましたが、私（父親）の中では娘が何と言おうと転塾させようと決めた瞬間でした。幸い、体験を終えた娘も、「楽しかった」というので、アントレに転塾を決めました。

【アントレでの学習】

親としたら、アントレに入った瞬間に急激に成績が伸びるのではと淡い期待をするのですが、そうは問屋がおろさず、社会以外は苦戦を強いられる日々でした。しかしながら、算数は白板で○がもらえるように自ら取り組む姿勢が生まれました。家での勉強は算数5、社会3、国語1、理科1といった比率でした。もう少しバランスよくやるように言いましたが、そこは娘がかたくなに従いませんでした。ここはもう少し軌道修正できていればなという反省点です。

娘は、まとめテスト等範囲が限定されているテストではある程度点数はとれるけど、ランダムに出題されるものや少し違った角度から聞かれるものには弱く学んだことも直ぐに忘れていくという傾向もあり、思うようには成績は伸びませんでした。それでも、楽しく学習できていることと、自ら取り組む姿勢が少しずつ形成できてきたので、家での学習も一緒にやるというより見守る機会の方が増えてきました。

5年生の半ばになると家から近い「富士見中学に通いたい」という明確な思いが娘に芽生え、富士見を目指して、まずはCクラスからBクラスに上がることを目標に一生懸命取り組みました。ただ、やはり成績の浮き沈みは激しく、過去問でも思うように点数がとれず、Cクラスのまま受験シーズンを迎えることとなりました。

【受験校の選定】

娘の思いを第一に2月1日から3日まで富士見中学に全振りする作戦をとりました。そのうえで、第2志望として跡見学園を選定し、この2校で過去問等の対策をしました。2校に絞った理由は、何校も過去問対策するよりも2校に絞った方が効率的だと考えたからです。

ただ、親の中では試験結果によっては、2日、3日は富士見以外を受けさせることも想定には入れていませんでした。

いずれにしても厳しい戦いになるなど覚悟して臨みました。

【受験結果】

2月1日午前富士見、午後跡見を受けました。午後7時の富士見の発表で不合格となり、2日目の受験校をどうするか頭の中がぐるぐるしている中、娘が塾に泣きながら電話をしたあとに、「明日も富士見を受ける」と強く言ったので、跡見の結果がどうであれ、もう突き進むしかないと言われ、娘に背中を押されました。逆境の中、娘の強さを感じる事ができました。

午後10時、跡見に合格を頂き、「これで富士見に最後まで全集中できるね」と喜び、とてもいい流れになってきたと思いましたが、富士見にはご縁がありませんでした。ただ、2月3日の受験を終えて「今まで一番できた」と帰ってきたので最後まで挑戦して出し切った娘を本当に褒めてあげたいです。

【おわりに】

テストの結果も勉強への取り組み姿勢もなかなか親の思い描いた通りにいかず、周りの子や兄妹等と比較しがちですが、その子なりの個性とポテンシャルがあり、幼いながら自ら考えて取り組んでいるということを尊重してあげることが大事であると痛感しています。何よりも友達と遊ぶ時間を削って一日の大半を勉強に取り組むということは、私達が子供のころにはしたことはなく、それだけで大いに称えてあげなければなりません。受験を終えた今だから達観した意見を書いています。受験期間中は当然このような考えにはなかなか至りません。親子喧嘩上等です。その際は、塾を上手に利用してください。

最後に娘に「アントレに入って良かったことは？」と聞いたら「友達が増えたこと」と笑顔で答えました。中学受験という過酷な環境の中で、娘が楽しく前向きに取り組めるように指導して頂いたことに感謝いたします。今後、時々で娘の成長の良い報告ができたらと思っています。娘にもアントレに胸を張って近況報告ができるように今以上に頑張れと言っております。

2年間ありがとうございました。

S・Aさんのお父様

アントレには4年生の冬期講習からお世話になりました。新4年生から入塾する人が多い中で1年近いビハインドからのスタートでしたが、第1志望の吉祥女子中学校から合格をいただくことができました。僥越ながら、その道のりについて記させていただきます。皆さまに少しでも参考になりましたら幸いです。

【入塾～6年後期】

- ・Cクラスからスタートし、5年生の5月にBクラス、11月にAクラス(国理社はSクラス)になりました。
- ・家庭学習は保護者会で指導された内容に沿って進めました。科目別には以下の通りでした。

<国語>

- ・読書好きで得意科目でしたので、漢字・知識テスト対策を中心にやりました。
- ・6年になってから安定感を欠くようになり、原因を探ったところ、感覚で解いていることがあるとわかりました。夏休み以降、本文の線引きと本文から根拠を見つけて解答することを徹底して継続したところ、冬前から安定して、それまでより高得点を取れるようになりました。

<算数>

- ・最も苦手でしたが、全くできないわけではなく、図形を筆頭に苦手意識が先行している感じでした。
- ・毎朝のシリ計、予習→その週のうちに白板復習→まとめテスト前に白板をもう1周、というパターンを継続しました。6年前期は、GWや模試の前週に四まとを進め、夏休みまでに一通り終わらせました。
- ・5・6年の夏休みは基礎力強化に努め、かなりの時間を算数に費やしました。予習として5年時はそれまでの白板の解き直し、6年時は四まとの2周目、復習は2年とも夏期白板を夏休み中に3周しました。
- ・6年後期は、過去問、入試演習の解き直し、テストに合わせて四まとの3周目の3つを中心に回し、個別授業でわからないところを消化しました。白板とAクラスプリントの復習もやりましたが、後者は消化不良になることが多く、途中で止めました。

<理科>

- ・毎週のテストとまとめテスト対策を中心にやっていましたが、6年前期になると以前ほど点数が取れなくなり、化学・物理の計算問題を筆頭に苦手意識を持つようになりました。原理原則を体系的に理解できておらず、穴だらけになっていることがわかりました。
- ・そこで、6年の夏休みは、算数の基礎固めに加えて、理科の基礎をやり直すことを2大テーマにしました。予習で夏期テキストのポイントチェックとコアプラス、復習で練習問題の解き直しをやり、「塾技100」で苦手単元の補強をしました。効果はすぐに表れ、夏期のまとめテストでは毎回トップ3以内、5期総合でトップになり、苦手意識を払拭できました。
- ・6年後期はテストに合わせてコアプラスの2周目と、入試演習と授業で扱った演習問題の復習を欠かさずやりました。個別授業では化学や物理の計算問題の強化に取り組みました。

<社会>

- ・授業で聞いただけではほぼ全て覚えてくるという特異体質で、毎週のテストとまとめテスト対策に少し時間をかける程度でした。6年の夏休みからは授業やテストスケジュールに合わせてコアプラスと年表トレーニングをやりましたが、それ以外のこと(演習問題や入試演習の復習など)はほとんどやりませんでした。
- ・歴史が好きで休憩時間に息抜きで歴史マンガを繰り返し読んでいました。また、強いて言えば地理に弱点があったため、6年後期に「合格する地理の授業」を隙間時間に読むようにしました。

【志望校選び】

- ・5年生のうちに通学圏内で受験する可能性のある学校を広く見て回りました。土日に開催される説明会や文化祭などは娘も参加し、自分の目で見るようにしました。どの学校も素晴らしいので、最初のうちはだいたい毎回その日に行った学校が「一番いい」となりましたが、いろいろ回るうちに親子ともに学校選びのポイントや基準が形成されていきました。
- ・5年生の段階では、吉祥女子、鷗友、白百合、学習院女子、東洋英和が第1志望群でした。6年生になって模試等の成績やタケノコとの面談で「このまま頑張れば吉祥と明の星は十分にチャンスあり」と言われたことも踏まえ、夏休み前には第1志望：吉祥女子、第2志望：浦和明の星、第3志望：富士見で確定しました。
- ・娘が吉祥を第1志望に選んだのは、図書室が広くて気に入った、制服が可愛い、多様性を重んじ、文化祭などのイベントで誰にでも必ず活躍の場があるという校風に魅力を感じた、といった理由からでした。

【過去問演習】

- ・保護者会で11月末までに過去問を10回分終わらせるように指導があり、日曜日と祝日にやりました。(吉祥7回、富士見1回、浦和明の星2回、淑徳与野1回)
- ・吉祥はGWに力試しでやったときは合格最低点マイナス44点でしたが、夏休みの終わりにマイナス9点、9月以降は毎回合格最低点を超え、11月頃からは合格者平均に届くようにもなりました。国理社で稼ぎ、算数は受験者平均程度というパターンが多かったです。吉祥とは相性が良かったように思います。
- ・富士見は8月末に合格者平均を大きく超えたので1回で止めました。
- ・12月からは明の星対策に切り替えましたが、3勝2敗(勝っても合格最低点をわずかに上回る程度)と苦戦しました。淑徳与野は11月に合格最低点プラス9点、1月にプラス43点でした。

【直前期】

- ・1月受験で良い結果を出して安心したいところですが、無理にそこに合わせて突貫工事にならないよう、あくまでも2/1にピークを持つてくることを念頭に取り組みました。
- ・明の星の試験翌日にやった吉祥の過去問で、算数を計算ミスで17点も失って8月以来の合格最低点未達となり、その翌日に明の星の不合格が出て「ヤバイ」と思ったらしく、本気モードのスイッチが入りました。それ以来、毎日Zoom自習室に開始時刻～終了時刻まで参加していました。やるべきことをやりきり、本番前週にやった吉祥の過去問と入試演習で過去最高点を出し、大きく伸びた1ヶ月でした。
- ・<国語> 漢字の総復習と語彙力増強は毎日やりました。明の星の国語は、本文が長く抜き出し問題にも時間がかかるため、タイムマネジメントと頭の使い方を慣らすために過去問をやりこみました。1月受験以降は吉祥の過去問を使って、本文の線引き、記述問題は要素をメモ書きし、肉付けして解答する、選択問題は選択肢を分解して本文の内容と合致するかを丁寧に確認することを徹底して練習しました。
- ・<算数> もう一度基礎を盤石にするために、夏期と冬期の白板を1月だけで3周しました。加えて、1月受験までは明の星の大問1をやりこみました。1月受験以降は、吉祥の過去問の2周目、入試演習の大問1で間違えた問題と大問2以降で出た吉祥の問題の解き直し、図形対策で武蔵プリントをやりました。武蔵プリントは12月まではなかなか進まなかったのですが、白板をやり直した成果か、1月になってどんどん解けるようになり、娘も図形に手ごたえを感じるようになりました。
- ・<理科> 吉祥の過去問の2周目と、計算問題対策としてタケノコからもらった強化プリントをやりました。総仕上げとして冬期講習の演習問題を全て解き直して基礎の再確認を行い、コアプラスは間違えた問題を中心に何周もやりこみました。
- ・<社会> 吉祥の過去問の2周目、コアプラス、白地図トレーニングをやりました。総仕上げとして、夏期講習のテキストと冬期講習の授業プリントの読み直し、夏期テキストの基本問題をやり直しました。

【入試結果】

- ・1月は淑徳与野、浦和明の星、2/1・2は吉祥女子に出願しました。2/2の午後以降は結果次第で、富士見算数、富士見3回目、明の星2回目、大妻5回目などの出願を考えていました。
- ・1/13 淑徳与野(合格)… 初めての本番で緊張したようですが、親からもZoom応援でも「今日は普通にやれば合格できる」と送り出しました。「あまり手ごたえがなかった」と言っていたので心配しましたが、国語と算数でしっかり点数が取れており、合格最低点プラス40点と過去問通りの結果でした。最初でまず一つ合格を取れたことは親子共に大きな安心材料になりました。
- ・1/14 浦和明の星(不合格)… 前日ほど緊張しなかったようです。過去問の結果から五分五分とと思っていました。娘としては手ごたえがあったようですが、結果は届かずで、悔しさから大泣きしていました。タケノコからは「算数の力が少し足りなかったかも」と言われました。
- ・2/1 吉祥女子(合格)… 前日から緊張しまくりで、「模試、過去問、入試演習(女子上位クラスで13回中11回合格、1回補欠)の成績から考えて、普段通りやれば大丈夫」と何度も言って聞かせました。Zoom応援でタケノコから「Aクラスでここまで高得点を取った子は見たことがないので大丈夫」と言われて少し落ち着いて臨めたようです。休憩時間中は個別の堀内先生と佐藤先生からいただいた手紙を読んで緊張を和らげたとのこと。「国理社はいつも通り、算数は難しかったけど、取るべき問題は取れた」という手ごたえでした。国語は家で合不合対策としてやった問題と同じ文章が出たり、社会はダンディーが話していた雑談?が出たり、といった幸運もあり(これも縁かなと思います)、「これで落ちるはずがない」と思っていたようです。当日の20:30に結果発表予定でしたが、直前に30分遅れとなり、さらに2回後ろ倒しになって、21:20によりやく発表されました。娘が自分でボタンを押して確認すると言っていたのに、私がフライングして自分の携帯で先に結果を見て「合格!」と叫んでしまうトラブル?もありましたが、無事に第1志望合格という結果になりました。

【振り返って】

- ・アントレの最大の強みは、先生方と生徒・親との距離が近いことです。保護者会のたびに「面談に来て下さい」と言われますが、先生方は本当に一人一人の生徒を丁寧に見て、よくわかっておられるので、何かあればどんどん頼った方がいいと思います。うちは保護者会の後に毎回母親が担任のタケノコと面談をしたほか、Google クラスルームや電話等でちょっとした相談をし、いつも冷静な状況判断と的確なアドバイスをいただいていた。このサポートなしでは、吉祥合格は成し得なかったと思います。
- ・「受験は算数で決まる」と言われますが、算数が一番苦手で、それを痛感していました。「本番で算数がずっこけて足を引っ張らないか？」という不安がありましたが、5・6年の夏休みの特訓も含め、とにかく基礎を徹底したのが良かったと思います。基礎から上のレベルの問題ができない、時間をかけているのに伸びない、と「偏差値58の壁」を感じた時期もありましたが、直前期はもう一度基本に立ち返って夏期・冬期の白板で基礎をやり直し、吉祥特有の誘導の乗り方を意識して過去問をやりこんだことで、本番直前は本当に力が付いたと思えるところまで伸びたように思います。
- ・保護者会で「1月の前受け校で合格と不合格の両方を経験した方がいい」と言われましたが、娘の場合はまさにその通りでした。淑徳与野の合格を取れたことで全落ちがなくなり、行きたいと思える学校には行けるようになったことが大きな安心につながりました。一方、明の星は不合格になったことで、その悔しさと危機感が吉祥に向けたラストスパートの原動力になりました。仮に明の星を取れていたら、親も娘も油断したり、緩んだりして、吉祥の結果はどうなっていたかわからないと思います。直前の2週間は本当に頑張り、「やれることは全てやりきった」と自信を持って2/1の試験に臨めたことが合格につながったと思います。
- ・この2年間、算数と理科を中心に家では私が教えることが多く、6年の夏休み以降は私が日々やることを計画し、スケジュール管理も行いましたが、親子バトルが絶えませんでした。安浪京子先生やおたとしまささんの本を何冊も読み、親はかくあるべしとか「べからず集」は頭では理解していました。しかし、私の未熟さもあってなかなか理想通りにはできず、感情的に叱っては、後から「言いすぎたな、怒りすぎたな」と反省することを繰り返していました。直前期には娘に「不合格になる家の親の特徴…①すぐ感情的になる、②スケジュール通りにいかないとキレル、③子どもにネガティブなことを言う」などと張り紙をされる始末でしたが（笑）、今となっては良い思い出です。この2年間で娘は随分と、私は少しですが、精神的に成長したと思います。受験への取り組み方や親の関わり方は百人百様で、それぞれのやり方でいいと思いますが、受験プロセスの中で親も子も少しずつ成長していければいいのかなと思います。

最後に、娘を合格に導いていただいたタケノコを始めとするアントレの先生方、個別授業で勉強面だけでなく、精神面でも寄り添って支えていただいた堀内先生、佐藤先生に、心より厚くお礼申し上げます。

第1志望に合格できたという結果だけでなく、娘が「アントレに行って良かった！楽しかった！」と受験プロセスの中でも大きな財産を築けたことは、娘の今後の人生の糧になると思います。

本当にありがとうございました！！

J・Iさんのお母様

長かった中学受験生活がようやく終わり、久々にゆっくりとした時間が流れています。読みにくい稚拙な文章になっていると思いますが、どなたかの参考になれば幸いです。

【3年夏～5年前期、アントレへの転塾】

娘の性格では中学は私立の方がいいだろうと、軽い気持ちで大手塾のテストを受けたのが3年の夏でした。そのテストの偏差値が30台！焦ってそのまま通塾を開始。近いからという理由だけで塾を決めてしまい、今思えばもう少し考えて選べば良かったと後悔しています。

3・4年の頃はどうかなくなっていたものの5年になると量が増えて難易度も上がり、宿題が大量で終わらない、次々にやってくるカリキュラムテストとその直しに追われ、そして組分けテストを受ける頃には最初の範囲はすっかり忘れ…。このままでは6年までもたないと思い転塾先を探し始めました。そこでアントレを見つけたのが5年の夏前頃。体験授業を申し込んですぐに入塾しました。決め手は授業が楽しかったこと、週末にテストがないこと、国語の記述の授業があったことでした。

【転塾後～5年後期】

国語：Bクラス→Cクラス 算数：Bクラス、理社：Bクラス

転塾後に大変だったのが予習の習慣をつけること。慣れるまで数か月はかかりました。週末にテストが無くなったとはいえ、復習と予習を回すのは想像以上に大変でした。そして白板のレベルの高さ！算数は4科目の中では得意な方でしたが、毎回ついていくのがやっと。問題を暗記しがちだったので、その場で考える白板は力が付きそうだなと思いました。超が付くほど苦手な国語は後期にはCクラスへ。記述では「要素」を拾うというやり方は分かりやすかったようで、少しずつではありますが記述の書き方や文の読み方が分かってきたように感じました。

【6年生】

国語：BCクラス 算数：Bクラス 理社：A→Bクラス

学習範囲も一通り終わり、少し楽になるかと思いきや全くそんなことはなく。見つかる大量の穴に焦る日々。この頃になり反抗期に拍車がかかり始めました。四まと1枚に1時間、白板3問にも1時間…声掛けしても反抗しか返ってきません。そこで個別を使ってみることにしました。はじめは算数のみ、後期には理科も追加しました。先輩との時間はとても楽しかったようです。家でやる5倍以上の量を解いてきてくれましたし、嫌がっていた過去問やテストの直しも個別なら文句も言わずにやってくれました。本当に助かりました。個別の小澤先生、紺野先生ありがとうございました。

そして4月から合不合。ここで足を引っ張るのがまたしても国語。後ろに人がぼぼいない状態の点数の時もあり、4科偏差値が大変なことになりました。首都圏模試の方がいいのかなと思い1回だけ受けてみましたが劇的に変わるわけもなく、調子が良い時の合不合くらいの成績に収まりました。個人的にはY50以下であれば首都圏模試で十分だと思います。

後期からの理社の暗記については色々試行錯誤しました。娘は量ができない子なので、授業の復習をしつつ回すのは難しかったです。理科はコアプラスを指定されましたが量が多すぎて挫折。最終的には100題テストと直前期にメモリーチェックを使用。社会は夏期講習テキスト指定されるも使いづらかったので、途中から四科のまとめに変えました。後半に載っている記述対策も少しずつ進めました。

【国語克服への道】

最初から最後まで悩まされ続けたのが国語です。他3教科の頑張りを全て無に帰すだけの威力がありました。音読・語彙の意味調べは時間が取れず反抗もされ続かず、強まる苦手意識。国語の読解に関する本を何冊も買い伴走を試みるもバトル勃発。家庭で国語を教えるのはハードルが高過ぎます。そもそも語彙力がなく精読もできてないのでその類の本は無意味でした。最終的にはオンラインの家庭教師の先生にご縁があり、5年春から最後までお世話になりました。

しかし、娘にオンラインは向いていなかったようで1対1でも続かない集中力。6年になり、見かねた先生が自宅まで来て教えるという申し訳ない状況に。正答率も良くはなく空欄もありますが、記述や抜き出しも抵抗なく書けるようになりました。記号以外全て空欄からのスタートだったので、これでもかなり成長したと思います。国語は成果が出るまでかなりの時間がかかります。悩まれている方は早めに手を打たれることを強くお勧めします。

【志望校について】

我が家の志望校の条件は以下の通り。

- 1、通学時間30分以内
 - 2、女子校
 - 3、温水プールがある
 - 4、バスを使わない
- (1は親、2～4は本人の希望)

娘はとにかく時間にルーズで、親としては通学時間が短いことが最優先事項でした。そうなると成績との兼ね合いも考えるとだいぶ限られてきます。実際に見学に行った学校は、富士見・三輪田・光塩・山脇・共立・跡見・十文字・豊山女子など。この中で上記の条件と本人の好みで学校を選びました。

- ・第一志望：富士見 → 当初からの不動の第一志望。どちらかという親の推し。何より近い。
- ・第二志望：跡見学園 → 娘の推し。雰囲気も穏やかで合いそう。文化祭でかるた部に2年連続1時間以上居座りました(笑)
- ・第三志望：十文字 → とにかく明るく元気で部活動が活発。面倒見が良さそう。英検の講習あり。

【過去問について】

娘の場合、「国語で引き離されすぎず、理社で持ちこたえ、算数で逃げ切る」という形に持っていけるかが勝負でした。女子は国語が得意な子が多く点数も高い。国語で離されてしまうと女子校は厳しいと感じました。

富士見は最初に過去問を手にとった時から嫌な予感はしていました。学校側も「思考力」を問うと言っての通り、長いリード文を読んで考えて解かせる。きちんと読み取れば解けるのですが、読解が苦手な娘にとっては相性最悪です。算理社で点を稼ぐのも厳しく、国語は最後まで4割。ある程度の年数を解いても最低点にかすりもしませんでした。

跡見学園は初回から最低点を超えました。秋の入試体験会では算数100点！昨年度から難易度が少し上がり最低点下がったので比較的安心して取り組むことができました。国語は記述が多めなのでどのくらい書けるか、算数は差がつくと言われた図形が解けるかポイントでした。

十文字は午後入試を想定していたので2科目。合格最低点が比較的 low、過去問の感じから算数で高得点が見込めたので、国語で多少失敗しても大丈夫だろうと予測。

以上から2/1で跡見と十文字を取り、2日以降で富士見にチャレンジということになりました。

【入試演習】

- ・9月～12月：中堅上位 → 富士見を目指すなら中堅上位とのこと。厳しいのでは…と思いつつ年内は頑張ってみようということに。国語が壊滅で算数でも稼げず、合格と補欠が数えるほどで後は不合格。理社は意外と？戦えたかなと思います。
- ・1月：中堅 → 直前期だし基本を固めようと思い、1つクラスを下げました。授業は3回だけでしたが全て合格。最後は1位で終わりました。算数で点を取っていて成長を感じましたが、最終回の国語は富士見の過去問。やはり4割いかず、本当に相性悪いなと苦笑いでした。

【入試本番】

- ・1月10日：埼玉栄 → 合格(難関大)

模試でも80%が出ており、電車のみで通えることから埼玉唯一の受験校として選びました。年末から過去問を3年分解きましたが1度も合格最低点に届かず。更に直前に最低点-30点を叩き出し、全く受かる気がしないまま本番に臨んだところ、なんと難関大クラスで合格！しかも医学クラスまであと少しの点数でした。通える学校に合格を貰えているというのは大きな安心材料になりました。が、この合格で安心したせいか、入りかけたやる気スイッチがOFFになりました。

- ・2月1日AM：跡見学園 → 合格

集合時間が早いので6時に起床。さすがに緊張している様子だったので、いつも通り送り出すことを心がけました。受験会場は体育館。暖房は効いていたものの出入口からの風は寒かったそう。各科目間で休憩時間が20分ずつあり、少し時間を持て余していたようです。

試験終了後の手応えは、国語と算数は全て埋めたけど理社は自信ないとのこと。付き添いの主人曰く「合流した時にいい表情していたし、これは受かったなと思った」らしいです。国語は過去問でも全部埋めたこ

とはありませんでした。

保護者控室は別館の講堂。主人の感想「とにかく寒かった。携帯の電波が悪い。この日はWi-Fiを解放してくれたから助かった」とのことです。

・2月1日PM:十文字 ⇒ 合格

午前中で疲れたかなり様子でした。模試でも午前午後で受けたこともなく集中力が持つかどうか。算数は全部埋め、時間も10分余ったから見直す時間もあつたそうです。過去問ではいつも時間オーバーしていたので驚きました。ちなみにこちらの保護者控室は暑かつたそうです。

余談ですが、昼食と休憩場所として巣鴨駅近くのホテルに部屋を取っておきました(テレワークプラン)。横にもなれるしおすすめです。

さて、予定通り1日に2校を取つたので富士見にチャレンジ!…とはなりませんでした。

「受けないよ?今日ほどの集中力なんて出せないし。跡見に行きたい。」

合格報告の電話の際、らっきょにも受けたらいいのと言われたそうですが…。この日はそのまま就寝。

・2月2日AM:富士見 ⇒ 熱を出しました。1日で全てを出し切ってしまった。翌日も調子が戻らず、富士見にチャレンジすることなく受験が終了しました。

過去問でボコボコにされすぎたこともあり本番時には富士見への熱量はほとんど無く、推しの学校である跡見に合格した以上、娘には富士見を受ける意志はありませんでした。まだ12歳なので、この学校へ行きたい!という気持ちが強くないと連日連戦は厳しいものようです。私としては結果がどうあれ富士見を受けて終わって欲しかったのですが、本人が嬉しそうにしているのでこれで良かったと思うことにしました。

当初は1日に富士見と十文字、富士見×なら2日に跡見を受けることを考えていました。1日しか気力体力が持たなかつたので、このプラン通りにしていたら跡見は受けられなかつたかもしれません。何が起こるか予想つかないので、改めて受験日程の組み方は難しいと感じました。

【最後に】

アントレに転塾していなければ中学受験を続けることすらできなかつたと思います。最後まで本当によく頑張りました。中学ではよく学びよく遊んで、充実した日々を過ごしてもらいたいです。

アントレの先生方、個別の先生、一緒に頑張つたクラスのみなさん、本当にありがとうございました。

H・Sさんのお母様

進学先 学習院女子中等科

【入塾のきっかけ】

近くの某大手塾にも体験授業の申し込みをしていましたが習い事の先生の息子さんがアントレに通っていたと聞きアントレの体験授業にも参加しました。娘は体験授業がよほど楽しかったらしく授業が終わるとすぐに「ここにす！！」と嬉しそうに言っていました。

また、習い事も複数していたのでアントレだと両立がしやすかったのも選んだ理由の一つです。

【受講時期と在籍クラス】

4年生 Bクラス

春期講習より算国2教科ではじめました

11月から理社も受講開始

5年生 Aクラス 国語：A寄りでたまにS 理社：Sに上がると次で落ちてしばらくA

6年生 Aクラス

個別指導 6年生5月中旬から 1コマ(算理) ※夏休み・冬休み・直前はコマ数を追加しました。

【習い事との両立】

4年生の11月に理社を追加で受講した時にはアントレに加え6つの習い事をしていました。娘はどの習い事も辞めたくないと言っていたので大変でしたが暫くは両立しつつ目標を定め納得させながら徐々に受験勉強に力を入れるようにしました。

～主な習いごと～

- ・ピアノ・声楽 : 5年生8月の発表会を無事終えるまで
- ・珠算暗算塾 : 5年生9月の検定試験合格まで(8月の予定を検定試験に合格できず延長しました)
- ・ヴァイオリン : 6年生6月まで(夏期講習に集中するため一旦はお休みしました)
- ・アクロバット教室 : 6年生8月まで(勉強の気晴らしとして11月にも練習に参加しました)

【3年間の成績について】

5年まではわりと順調でした。しかし5年後期3回まとめテストを最後に娘の成績はどんどん落ちていきました。それまでは順位表の上位者に2科4科でも名前が載ることがありましたが、ほぼそれが無くなり6年のまとめテストでは教科ごとで数回載っただけでした。習い事も徐々に減らしていったのに成績が下がり続けたのは、勉強方法の問題というよりは娘にとって勉強内容が難しくなったことや周りの子がいよいよ真剣に取り組みだしてどんどん抜かされていったからだと思っています。成績が上がることを期待していた夏、そして夏以降も決して上向きとは言えませんでした。入試演習の女子上位クラスでは数回のみ名前が載りましたが(合格1回、補欠1回)、それ以外では順位はいつも下の方でした。それでも最後までクラスは変えませんでした。合不合判定テストは第一志望においては最後まであまり良い結果は出せず、途中からは合不合判定テストそのものにあまり期待もせず気にもなくなりました。

いつ上がるかいつ上がるかとずっと思い願いながら頑張ってきましたが受験直前まで満足する結果を出せず6年生の期間は親子で本当に苦しかったです。

【我が家の志望校選び】

- ①校舎内の設備がきれいであること
- ②電車通学のみで可能な学校(乗り物酔いをしやすいので)
- ③制服があること(朝の身支度に時間がかかるので)

上記を最重要事項とし更に学校の教育方針や実際の雰囲気を見て受験校を選びましたが、学習院女子中等科と富士見中学校の他にいきたいと思う学校をなかなか見つけられずに悩みました。漸く6年生の夏に山脇学園中学校に出会い最終的には“受験校全てが熱望校”と思える学校となりました。

受験校数は多くはないと思いますが娘は全てにおいて時間のかかる子でしたので広げすぎると志望校にかける時間が少なくなると思い数を絞りました。それでも埼玉入試後に周りの話を聞きくともう少し受ければよかったかな、と後から少し後悔することもありました。でも結果的には娘に合った受験に出来たと思っています。

【受験校】

受験日	学校名	試験種別	合格
1月10日 AM	星野学園中学校	進学クラス入試 第1回2教科	合格
1月11日 AM	星野学園中学校	理数選抜入試 第2回4教科	合格
2月1日 AM	学習院女子中等科	A入試	合格
2月1日 PM	山脇学園中学校	算数1科入試	合格
2月2日 AM	富士見中学校	一般第2回入試	合格
2月2日 PM	富士見中学校	算数1教科入試	不合格

※星野学園は仕事の都合と午前午後間の待ち時間が長い事を考えて2日に分けて受験しました。

【志望校対策を含む勉強法】

過去問についてはアントレの指示どおりのスケジュールで取り組みました。第一志望校は勿論ですが他2校もかなり力を入れました。勉強スケジュールについてはその日やる事を紙に書き出して計画を伝えていましたが、いよいよ12月残りわずかとなった時には残りの日々でこれだけはやる！「to do リスト」を私の備忘録も兼ねてスプレッドシートに作成し学校ごとに色分けをしてプルダウンやチェックボックスで進み具合を管理していました。1月になると娘にはパソコン2画面を用意し1画面は zoom 自習室、もう1画面には「to do リスト」を開き常にやるべき事を意識させやる気を起こさせるようにしました。

【算数】入塾時から白板のできなかつた問題、もう一度やりたい問題には番号をつけ、別ノートで正の字をつけて管理し反復練習をしました。6年生では4まを直前までやりました。夏以降は夏期講習の白板の復習、入試直前で基本問題が取れないというスランプに陥った時には冬期講習の白板をやりました。

【理社】コアプラスは授業に合わせテストの為にやりましたが、その後何度も繰り返す時間がなかったのの後半は授業でやったコアプラステスト、知識テストの復習を中心にやりました。ただ理科の計算単元だけはコアプラスを何度も繰り返しました。後期以降は娘自身が「ここはコアプラじゃなくて5年の授業プリントの方がいいんだよね」と自分で何をやるべきかをわかるようになったので任せていました。社会はSクラス記述プリント、白地図トレーニングが役立ちました。受験でも第一志望校の社会は地理で点数を稼ぎました。

【漢字】苦手でした。ただ時間も足りないので12月に入ってから今までの漢字のテストの復習を少しずつ進めました。

◆学習院女子中等科◆

A入試B入試を6年分4教科で約2回、国語（記述）はそれ以前の問題も3年分を1回、入試直前で算理社だけを3回目として数回分解きました。「学習院女子に強い塾！」を謳い文句にしている塾の案内を目にすると気にもなりましたが最後までアントレを信じて1本で頑張りました。

<国語記述>

6年分を約2回解いた後（始めの頃は添削の仕方に試行錯誤したので複数回やりました）に更にその内の数年分は12月以降に1日2～3問だけをもう一度ノートに解いて更に書き直して完成度を高めました。とにかくスピードをあげてblankを無くすことを心がけましたがそのように頑張ると今度は文章の裏にある意味を読めず点数が取れなくなりました。頑張り続けたにもかかわらず、直前でどうにもうまくいなくなり親子で自信をなくし、入試8日前に面談を申し込みました。相談した結果、予習シリーズ5年国語下の記述プリントを提案してもらい残りの時間の記述はとにかく”自信を持つこと”を第一に取り組みました。

<社会>

Sクラス記述プリントに10月後半以降取り組みました。見事試験にもその中の問題が出ました！記述プリントをやることで社会そのものへの理解も深まりとても役立ちました。

その他：冬期講習のプリント、夏期テキスト、ニュース最前線（学習院女子は時事が出るので）

<理科>

苦手教科だったので5年の授業プリントから苦手単元分を拾いました。

◆富士見中学校◆

一般第1回2回入試を5年分2回解きました。

<算数>

大問1：色々なことを詰め込み過ぎて混乱したのか、後半入試演習でも大問1の基本が取れなくなったので12月中旬から大問1を15分と時間を決めて8年分を数回解きました。

速さ：速さが苦手だったので過去問の速さのみをピックアップして8年分を数回解きました。また5年の白板からも似た問題を探してきました。

◆山脇学園中学校◆

算数1科を4年分(内2年分は2回)、2月1日の算数1科が×の時は2日のB入試(算国2科)の受験を考
えていたのでA入試(4教科受験)の算国だけを4年分解きました。

試験前日31日のお昼には解いた算数1教科で合格点に届かずひどく泣いてしまいましたが落ち着いたと
ころで午後の勉強スケジュールを組み直し、睡眠時間が少し減りましたが夜に以前やった問題を再度解かせ
ました。そこで合格点に届いたことが翌日本番への自信に繋がったと思います。

※3校とも過去問を解いてから時間が経つと感が鈍る事がわかったので試験直前に、以前解いた問題をもう
1度やりました。

※購入した過去問の本は3校のみ、埼玉入試の星野学園はアントレで借りて1年分を解きました。

【質問が多かった娘への神対応】

とにかく質問を沢山しました。次から次へと出てくるので誰にどの問題をいつ聞くかを常に考えていま
した。先生の名前の付箋をいくつも用意し”丁寧な解説が必要な質問”や”ポイントだけ聞けばOKの質問”
などにわけて聞く先生を決めていました。担当教科でない先生に質問する時もあり本当に多くの先生を巻き
込んでいたようです。

「これ絶対にわかるから!大丈夫!」「また質問に来ていいからね」といつも優しく声をかけてくれた先生、
度重なる質問にもいつも丁寧に対応してくれた先生、質問の内容を褒めてくれた先生、寒さが厳しい時には
待っている私(母)のことまで気にかけてくれた先生、多くの指導員の先生方のおかげで辛かった時期も親
子で頑張れました。

また、個別指導の畔柳先生にも大変お世話になりました。誠実で優しい人柄、丁寧な対応に大変感謝して
おります。先生のおかげで苦手な理科も説明を聞いて理解できるようになりましたし、前向きに楽しく勉強に
取り組むことができました。

【これから受験を迎える皆さまへ】

これから大変な日々が待ち構えていることと思いますが、どうぞ最後まで粘り強く進んで下さい。
我が家の受験勉強について申しますと特に6年生では予定通り満足に1日の勉強を終えることはほぼあ
りませんでしたし、3年間を通して規則正しい生活とは決して言えませんでした。スケジュール通りにいか
ずに夜遅くまで勉強することもありましたしその分朝にゆっくりと寝させてあげることもありました。早寝早
起き十分な睡眠を取ることが大切であるのは勿論ですが、理想を追求し過ぎると思い通りにいかずに苦し
くなることも時にはあると思いますので、お子さんの体調管理に気をつけたうえでそれぞれに合ったリズムで
伴走されると気持ちも少し軽くなると思います。皆さまのことを心より応援しています。

【アントレでの3年間を振り返って】

娘はアントレでの3年間を本当に楽しんでいました。親としても活気のある楽しい授業をしてくれることを
期待していましたので入塾させて本当によかったと思っています。塾からの帰り道ではその日の白板の出来
具合やその日何が楽しかったかを必ず聞いていました。授業中やその前後での先生と生徒達との会話、お友
達との休み時間での楽しい話、イベントごとに行われた皆とのお菓子交換についてなどをいつも嬉しそうに
話してくれました。

良い仲間のおかげで娘はテスト順位を周りと比較して悲観することもほとんどありませんでした。自分より
頭の良い子や頑張っている子を素直に認め、自分自身の点数に落ち込みつつも同じように落ち込んでいるお
友達が次に良い結果を出した時にはそれを喜べる、そのような環境だったからこそ受験勉強を最後まで続け
ることができたと思っています。算数が得意なお友達には後半忙しい時期にもかかわらず何度も教えてもら
いもしました。本当にアントレのお友達は娘にとって大切な存在でした。受験前最後の授業の後にはアント
レのビルの下で「卒業パーティーはうれし涙で会おうね!」とお友達と手を握り合う姿を見て感動しました。
2月本番を前に既に先生方や仲間への感謝の気持ちでいっぱいでした。

受験当日の朝にzoom応援で先生方の顔を見た時に娘の顔がぱっと明るくなったことも忘れられません。
受験勉強は苦しく辛いことも沢山ありましたが、それ以上に得られたものは大きかったと思います。3年間
本当にありがとうございました。

これからもアントレの益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

Y・Kさんのお母様

ようやく受験が終わり、我が家にも穏やかな時間が流れています。（新4年生で入塾した次女は現在放置中）娘は毎日お友達と遊び、残り少ない小学校生活を満喫しています。
新4年生で入塾してから3年間、一度も行きたくないという事はなく、最後まで楽しく通わせていただきました。

●学習について

初めは親子共々右も左も全く分からず、手探りの状態でした。その後少しずつ勉強の仕方も身につけていきましたが、5年生の夏頃から算数が難しくなり予習の時は私も娘も苛立つことが増え、その分衝突も増え、その結果当然ですが算数の成績も下がっていきました。
このままでは良くないと思い村上先生に相談し、5年の秋から算数の予習に個別をお願いしました。初めての授業後に娘は「すごく分かりやすい。もっと早く教わってればよかった。」と話し、個別に行くことが楽しみになりました。私が予習に関わらなくなったことで親子関係もだいぶ改善（親の我慢はかなりありますが）されました。普段の学習はアントレの保護者会で説明されたことや面談でアドバイス頂いたことを集中的に行い、それ以外のことには手を出しませんでした。

●志望校と受験について

娘の希望は可愛い制服と女子校であることでした。
学校見学に数校行きましたが、娘は上記の希望を満たし且つ元気で明るい雰囲気富士見が第一志望。
親の希望で附属も見学に行き、過去問も数年分解きましたが11月に村上先生と相談し、最終的には

- | | | | |
|------|----|------------|------------|
| 1/10 | 午前 | 星野学園(進学) | ⇨合格 |
| | 午後 | 星野学園(理数選抜) | ⇨不合格 |
| 1/11 | 午前 | 星野学園(理数選抜) | ⇨合格 |
| 2/1 | 午前 | 富士見 | ⇨不合格 |
| | 午後 | 大妻中野 | ⇨合格 |
| 2/2 | 午前 | 富士見 | ⇨合格 |
| | 午後 | 山脇学園 | ⇨合格 |
| 2/3 | 午前 | 都立大泉 | ⇨不合格(記念受験) |

を受験しました。

1月校の星野学園は緊張することなく受験することができました。午後試験が終わり出て来た時に、お腹がいっぱいで眠たくなり、少し寝てしまったとのこと。びっくりしたものの、それでも何処かで大丈夫だろうと思っていましたが、結果はまさかの不合格。用意したお昼を私の分まで食べていた娘。食べさせ過ぎてしまったことを反省しました。

2/1は朝から緊張していたようでしたが試験自体は出来たとのこと。この夜、自分で結果を確認した時は私も娘も受かると思っていたので相当のショックでしたが、泣くのを我慢しながら村上先生に報告していました。村上先生と話した後は落ち着きを取り戻していましたが、精神的にも肉体的にも疲弊していたので、午後入試の結果発表は待たずに寝かせ、私は慌てて2日の入試の申し込みを行いました。結果的に2日に合格をいただきましたが、この日は午前も午後も今までに見たことのない娘の真剣な姿を目の当たりにし、精神的な成長も感じることができました。

●最後に

なんとなくはじめた中学受験でしたが、アントレで過ごした時間と出会いは娘にとってかけがえのない宝物です。村上先生をはじめ、全ての先生方、個別の上原先生(娘の憧れです)、一緒に頑張ったお友達に心より感謝申し上げます。
本当にありがとうございました。そして引き続き次女がお世話になります。

匿名希望者のお母様

家族構成 父・母・3つ上の姉・本人

在籍クラス Bクラス

→Bクラスに在籍して富士見中学を受験されるご家庭が多いと思いますので、そういったご家庭に向けて体験を語りたいと思います。

①受験のきっかけ

→3つ上の姉が中学受験をしたので。しかし、両親ともに都立受験が向いているタイプとっていたので、公立中学への進学も想定していました。

②アントレを選んだ理由

→姉が通っていたのは復習中心の大手塾でした。この塾の方針は本人には向いていないと思い、別の塾を探していたところ 「予習中心」かつ「算数に重点」を置くアントレを見つけました。この2つの方針に共感し、小4の6月体験授業を申し込みました。体験授業では楽しく授業を受けることができたようなので、入塾を決めました。

③小4・小5まで

→月例テストの結果は上がったりがったりでした。月例テストが悪いと勉強をがんばり、次の月例テストが良くて、次のテストは気を緩めてしまい悪い…といったことの繰り返しでした。

苦手分野は算数と理科。とりわけ算数は大問1の正解率が10問中2~3問でした。

また、スマホを5年生の途中から利用しはじめた結果、約束を破った使い方をして大幅に成績が下がりました。

勉強への向き合い方は「ただ言われたことをこなすだけ」のような時期でした。親のアプローチも「明日漢字のテストだよな?」くらいの声掛けでした。テスト範囲の箇所に付箋を貼ったり、学習計画はテスト直前に大まかにたてる程度。

本当ならばもっと勉強の進捗具合などの管理やサポートをしたほうがよかったのかもしれませんが。しかしながら、姉の受験の時に学んだことがあります。それは「本人にやる気がでなければいくら周りがいくら言っても無駄だ。本人のやる気がでるのをまつしかない。」ということでした。

月例テストが返ってくるたびに「成績が悪くてもべつに怒らない。ただしなせ悪かったのかを考えて、次にはそのミスをしなないようにすること、そのために何をすればいいかを考えること。これ以外成績を上げる方法はない。」ということと、中学受験ではNGワードであるかもしれませんが「やる気がないなら辞めていいよ。」ということをセットで繰り返し伝えました。12歳にはかなり難しいことだとは思いましたが、無理やり勉強させてもバトルになるだけということを経験の時に学習したので、この姿勢は崩しませんでした。

④小6春~夏前

→第一回目の合判の結果、算数と理科の偏差値が30台で、算数大問①を大きく落としていました。このタイミングで家族会議を行いました。さすがに親もあせりましたので、受験にはタイムリミットがあることを伝え、「苦手な算数」に向き合うように伝えました。このあたりから自ら苦手教科である算数に向き合い、進んで取り組むようになりました。

第二回目の合判の結果が上向きになり、このまま続けていけば必ず合格できると励みになりました。また、この時期に国語のみSクラスで受講することになり、このことも自信につながったようです。

⑤小6夏休み

→アントレからの課題のみとりくみました。一日も欠席せず通えたことは素晴らしいと思います。

⑥小6秋

→夏休みが終わったあたりから、真剣モードに突入しました。ようやく本人もこのままではまずいと本気で思ったようで、自ら机に向かう時間が増えてきました。過去問も指示通りこなしていく日々。学校訪問や文化祭へ参加。土曜日の特訓も始まりいよいよ時間がなくなった時期です。日曜日は夕方には勉強を終わらせて気分転換に家族でテレビをみて気分転換をするようにしました。

第三回目の合判は結果がよかったのですが、第四回目と第五回目合判、ともに算数がふるわなかったため、急遽あらたに志望校追加しました。

⑥小6冬から直前期

→親が声掛けをかけたたり、何かすることは特にありませんでした。塾から言われたことを自分なりに選択して勉強の計画を立てて実行。主に、過去問直し、白板復習、テスト直し、小テスト直し、土曜日特訓の復習、これらを苦手な算数・理科を中心にやっていたようです。(ようです、という言い方になります。親は全くノータッチだったからです。)

「直前期に学校を休むかどうか問題」ですが、我が家は3週間前から休ませました。途中中学校の実技のテストがあり2日ほど登校しました。コロナ前の意見はあまり参考にならないと思います。子どもが通っていた学校では、常にどこかのクラスで学級閉鎖が何か月も続いていましたので、迷わず休ませる判断をしました。

我が家は共働きですので、日中なまけずに勉強できるかどうか不安でしたが、11月に入ってからの子どもの学習態度を見ていても、ひとり自宅で学習できると判断しました。zoom自習室をたくさん利用し、他のお子さんが集中する様子を見て、本人もやる気がでたようです。(設定していただきありがとうございました。)

⑦志望校選び

→Bクラスからでも狙えるところを志望校としました。東京国際フォーラムで行うようなたくさんの学校があつまる説明会に何度か参加、その中でよさそうな学校を訪問しました。女子校を志望校としたため、近隣の女子校がまとめて参加する『女子中高フェア』も効率よく回れておすすめです。

小5の終わりには

- ・富士見中学
- ・恵泉女学園中学

この2校を志望校としました。学校説明会や文化祭に参加し、受験の意思を固めました。

過去問を進めるうち、富士見中学の方が合格者最低点を超えるようになってきました。11月の室長との面談で、「どちらかを第一志望と決めるように」とのことでしたので、富士見中学を第一志望としました。

志望校の2つとも偏差値的にも合格圏内の学校でしたが、第四回と第五回の合判の結果をみて、跡見学園中学も受験することにしました。こちらの学校は合判の模試会場になっており、模試をやっている最中に行われる学校説明会でも印象がよかったことが理由のひとつです。11月の模擬入試も参加しました。

⑧過去問対策

アントレの指示通り行いました。日曜日に算・国をやリ、平日火曜日に理科を、木曜日に社会をといった具合です。指示通り11月末には過去問を終わらせました。

自宅にプリンターがなかったため、キンコーズでコピーをしました。背表紙を断裁し、ソートで行うと時間が短縮できます。キンコーズのコピー機はソートのスピードが速いのでストレスがありません。紙つまりや補充もスピーディーにやっていただけますし、おすすめです。

直しをすることも踏まえてすべて(解答用紙・問題用紙・解答)3部コピーしました。コピーしたものは、年ごとにクリアファイルに分類。まだ解いていない答えが目に入るのを防ぐため、解答は教科ごとに分けておきました。(ページをまたいであるものはハサミで切っておく)

富士見の過去問の手ごたえはこんな感じです。ご参考ください。

8月中旬	172/192	(本人得点/合格最低点)
9月中旬	178/170	
10月中旬	201/178	
11月中旬	232/181	

⑧受験について

(1)1月受験

埼玉も千葉も自宅から距離があるため受験はしませんでした。首都圏模試盛岡白百合は、白百合学園で受験可能であり、得点開示もしていただけるので受験しました。結果、合格をいただきました。苦手な算数もかなり点数をとれており、自信がつかしました。受験をしてよかったと思います。

(2)2月受験手続き

トラブルのせいで受験できないというような後悔はしたくないため2つの志望校においてすべて日程で申し込みを済ませました。

(3)2月1日

午前 富士見 午後 恵泉

このようなスケジュールになりました。午後の恵泉への移動がギリギリだったため、富士見の受験番号が

早いほうと思い、受験手続きは開始時間と同時に申し込みました。(それでも30番代でした)

思えば、普段のテンションよりかなり高く大きな声でおしゃべりを電車ではじめたり、平常心ではなかったように思います。午後の移動もギリギリで最後から10番目くらいの到着になりました。時間に余裕がなく帰宅時には疲れ果ててしまいました。

(4)2月1日夜

結果 午前 富士見不合格 午後 恵泉不合格

富士見の結果を受けてアントレに電話報告をしてアドバイスをいただきました。恵泉の発表を待たずに、2月2日午後跡見の受験申込をしました。

どちらも不合格だった場合は、「恵泉ではなくて富士見を受験する」と話し合っていて決めていました。ですので、当初のスケジュールとおり本人を先に寝かせ、明日も2月1日と同じスケジュールで過ごすことを確認しました。

本人は「恵泉4教科受験なら合格するかもしれない」と、未練があったようですが、ここで迷うのは悪手ですので、ぶれずにシュミレーション通りに行動しました。

(5)2月2日当日

Zoom応援を電車の中で受けることができました。これは本人にとっても励みになったと思います。

また、昨日はいつもの慎重さや冷静さがなかったことを伝え、いつも通りやればいよと声をかけ送り出しました。富士見から跡見への移動はゆとりがあったので、2日はお気に入りのお店でランチをゆっくり食べて移動しました。(ちょうど3年前も姉と受験終わりに同じお店でランチをしたのを思い出しました。)

2日午後の時点で合格が1つもない状態は心身ともに疲れ果ててしまいます。午後入試はリスクがあるのを体感しました。

(6)2月2日夜

結果は 午前 富士見合格 午後 跡見合格

本人が自らひとりでパソコンを立ち上げて合格を確認しました。アントレにも報告。本当によかったです。3日午後恵泉については、明日起きてから受験するかどうかと保留としましたが、次の日には富士見への進学的意思を決め受験はしませんでした。

⑨まとめ

親の関与：塾の送り迎え、お弁当作り、過去問の用意、学校の文化祭・説明会の予約、保護者会に参加してその内容を子どもに伝える

テキスト：アントレで配布されたテキストとプリントのみ。唯一算数大問1対策として、『下剋上受験基礎編』を朝の計算課題に追加しました。アントレからの課題をこなすので精一杯でした。

学習状況：指示通りにすべて進められたとは言えませんが、とにかくなるだけ塾の指示に従いました。保護者会のプリントを本人と読み返してやり方進め方を確認しました。

6年生夏休みが終わってからは進捗管理、間違い直し、苦手分野の補強といったこともすべて本人に任せっていました。終わっ

たプリントの整理も本人自らが行っていました。不完全ではありましたが、塾の先生方にはご迷惑をかけたかもしれませんが、12歳のわが子がひとりでやり遂げたという体験、それこそ中学受験をさせてよかったことだと思います。そのせいでしょうか。姉の時には幾度となく繰り返されたバトルは今回の受験はほとんどありませんでした。

本人の努力とアントレの先生方の導きにより志望校の合格をつかむことができました。本当にありがとうございました。

⑨これから受験する皆さんへ

アントレの先生方の指導通りに勉強を進めていけばよいと思います。中学受験のプロにお任せし、子どもの成長を信じて待てば自ずと結果がついてくるように思います。様々な書籍やネットにかかっていることはあくまで他人の体験であり、ご自身の子どもの話ではありません。我が家も何度か算数のことで面談をさせてもらいました。

また、子どもの健康も大切ですが親の健康も大切です。ご無理ならぬよう中学受験をのりきってください。

匿名希望者のお母様

【はじめに】

4年生の時から憧れ続けた武蔵中学校にご縁を頂き、我が家の中学受験は終了しました。「アントレでの受験生活楽しかった。何一つ後悔がないくらいやり切った！」と息子が話すのを聞いてとても嬉しく思っております。山あり谷あり、でもいい受験だったなと思います。カッシーブログを読んでアントレなら幸せな受験生活ができるに違いないと思った私の直感は大正解でした。小学生らしくいさせてくれて、魅力的な講師陣やゲーム性のある授業を通して勉強が楽しいものだと教えていただきました。4年まとめテスト国語22点。6年4月の合不合で4科偏差値53。1月初戦の栄東× 2月初結果の巣鴨算数×。苦戦続きの中努力を続けた我が家の道中がどなたかの希望の光になればと願っています。

【受験校】

1月…栄東○ 城北埼玉(特待)○ 立教新座○
2月1日 武蔵 ○ 午後 巣鴨算数選抜 ×
2月2日 城北 ○

【アントレ生活】

4年 平日2日 理社 17:00~18:50 算国 16:50~20:10

初めての電車通塾だったので夏休み頃まではアントレまで送り迎え。短い時間の日は、ちゃんとやっているかな？とカフェでそわそわしながら待っていたことを覚えています。終了後アントレのビルの階段からみんな楽しそうに降りてくるのを見るのが好きでした。

5年 平日3日 17時~21時

週3回弁当持参になって手抜き弁当の研究に精を出す。親子丼とか初めて見たなど先生方からコメントをもらう。開かずの弁当箱を持って行って迷惑をかけたことも。たくさん試した中でおすすめの弁当箱はアスペル保温弁当箱ランタスカフェ丼。温かいお弁当は喜ばれた。サーモスのスープジャーもシチューや具沢山豚汁など汁気の多い時に重宝。別におにぎりをつけて。一口蒟蒻ゼリーもお気に入り。

6年 平日3日 17時~21時 OP 前期武蔵算数火 17時~18:50 後期入試演習土 13時半~20時

前期土曜→後期日曜の最終コマで個別も取っていたので週5通塾。後期になると電車定期券を購入するくらい日々アントレ。6年には個別の前に友達とマックや自習室で四まと算数や社会の復習や合不合対策をするなどアントレ友達との生活も謳歌。電車移動も息抜きとして満喫。冬期講習は9:30~17:20と長丁場だったがその半分をカッシーと過ごせてめちゃくちゃ楽しい！と。こんなに幸せそうな直前期を過ごせるなんてアントレらしくありがたいなと思いました。子どもの様子から幾度となく感謝の念が湧いてきたものです。

【クラス変換及び成績】

新4年春期講習から入塾 A,B,Cクラスの中、Bクラススタート 4年10月よりAクラスへ

国語が嫌いで復習を嫌がる。フンチャンに国語が22点とはどうしたんですか？と聞かれる。こちらが聞きたいくらいだった。泣 幼さ全開で算数最難関問題集を解くと決まってこんな解けないと床に転げまわっていた。解けない問題はチャレンジするだけでよし、とにかく根本理解を丁寧にと心掛けた。白板をリビングの壁にかけて息子が先生役で講義をしてもらうこともよくやっていた。アウトプットが一番効果的。

新5年より S,A,B,Cクラスの中、Sクラス所属(国理社はA)

4年の11月頃に5年のクラス発表メールが来るが、A。そりゃそうだクラスが上がってから2回しかまとめテストを受けていない。1月のまとめテスト後カッシーから直接息子にSスタートでもいいがどうする？と意思確認。迷わずカッシーに教われるSを選択したらしい。ギリギリS。この頃からカッシー教に入信しており、ついていきたい一心で算数頑張る。面談で「算数は心配していない(カッシーのサービストーク)が国語が武蔵に届かない可能性があります。」と宣告される。ここから国語の本を読み漁り家での取組みを試行錯誤し始める。5年の1年間かけて国語の研究をしながら実践していった。5年後期は算数も理解がおぼつかない所があり、相談しても解決策が見いだせず苦しい時期でもあった。

焦らない事. 先走らない事. 歩き続ける事. 信じ抜く事. それが一番大事♪

新6年より S,A,B,Cクラスの中、Sクラス所属(理社はA)

4月の合不合を受けて本人が気落ちして泣き出した。緊急で三者面談をしてもらう。私は聞き役に徹して、カッシーが子どもと話しているのを初めて目の当たりにする。とても優しく息子に不安を吐露させてくれて全ての疑問に答えてくれていた。ここで武蔵を目指すスイッチが全開になったと後に息子は話しています。入塾時のフンチャンのアドバイスから圧倒的算数次国語理社は後追いで、を地で行っていた。

理社は最後までAクラス、6年後期は居残り組も入試当日までに間に合えばいいと目を瞑る。

ギリギリでいつも生きていたいから〜あぁ〜♪

【勉強方法】

国語について

文字⇄イメージ化 この脳内での正しい変換がなによりも大事。国語が苦手な人へのアドバイスをすれば

ば、国語は解くことよりも読むことが大事。読解問題を解く以前に文字を読めるように訓練する必要があります、これは家庭での努力が必要かと思われます。まずは読めるようになってから読解問題を解く。やみくもに解いても国語はあがらない。入試は長文。1回読んで頭に画像を残すことが大事。何回も読み返す時間はない。語彙はなるべく文章の中で覚える。生きた魚か死んだ魚か。漢字は成り立ちから。熟語は意味を考える。

- 1, 文字情報を正確に読む、助詞、文末まで正確に。視野を広くとる。指で押さえない。1分400文字程度。
- 2, 大事なポイントは絵を脳内で画像化しているかチェック。時々場面の絵を描かせる。
- 3, 読めるようになったらまともな文章(過去問がよい)を解く。始めは時間オーバーしてもよいから丁寧に考えて答えを出すクセをつける。雑に解くクセをつけないように実力がつかないうちは時間で切らない。
- 4, マーキング、設問分析の仕方をマスターする。線引きは最小限。←タケノコ・ラクダに頼るとよい
- 5, 授業で扱った文章の要約はおすすめ。キーワードははずさない練習。毎週タケノコに提出していた○武蔵のように1題50分なら30分は読んで良い。読むとはどんな作業なのかを訓練すると国語はあがる。次に設問の意図に答えるとはどういうことなのか、最後に記述の技術。キーワードは入れる、結論からブラさず記述。6年の後期に得点力は十分鍛えられる。6年前期までは焦らず、読む訓練を積むことを強くおすすめする。目先の点数を取ることばかりにとらわれないで欲しいです。

国語は上がります。ただ時間がかかるので、根気強く信じて登ることをやめないで欲しいです。

【算数について】

国語と同じく、言葉で書かれたことをイメージ化する力が大事。

4年の頃は根本理解をすることのみに注力していた。根本的な考え方にたどり着くには予習シリーズの例題の解き方を重点的に読む。その方法でなぜ解けるのかを考える。

- 1, 導入の解説を読む
- 2, 例題の解き方を読む
- 3, 例題の解き方の中で「どうしてポイント…なぜこのやり方で解けるのかな?疑問に思う所」を見つける
- 4, 「どうしてポイント」の理由を考える
- 5, 考えるときは最初の解説を参考にする。授業中の解説で解ることも多々。全集中。別解にもヒント満載
- 6, 自分なりに納得して、人にわかるように説明してみる。自宅にホワイトボード。個別で先生に方針説明
- 7, NG…問題が解けるのは表面的な方法を覚えただけ

根本理解をしっかりとっておくと6年後期で伸びる。物を実際に動かす。図にする。可視化する。ツールの使い方を熟知する。時間をかけて丁寧に。問題を解きまくるのはダメ。絞って繰り返す。理解できない難問を表面の解き方だけ暗記しても効果は薄い。できない問題は付箋を貼って寝かせておこう。6年夏休み前にもう一度復習するタイミングでできたりするもの。小学生の成長は早い。一晩寝たら細胞入れ替わってます。白板は丁寧に繰り返す。白板ノートの左右の解説を読み比べる。自分の答えと先生の解説のどこが違うのか。自分の間違え方を言葉で残す。復習の時の間違え方も言葉で残す。すると段々と考え方間違え方のクセが見えてくる。自分の認識のズレを意識できるようにすると伸びる。6年夏期講習の白板はルーズリーフに1問ずつ清書して順番を入れ替えてランダムで復習するようにした。順番や位置で単元や解法のヒントを得てしまい分かった気になるのを防ぐため。位置で丸暗記してしまう人にはランダムに復習するのが有効。成績の推移も勉強法も公開してよいと伝えてあるので興味のある方は面談で聞いてみてください。こんな成績でもこんな取組みをしてみたら合格したんだねと来年以降の希望になれたら嬉しいですよ。

【学校選定】

合同説明会で一気にたくさんの学校に出会う。そこで気になった学校にはさらに学校説明会や文化祭などに訪問する。私立マップで通える範囲を確認し、偏差値帯は幅広く見に行くことをおすすめします。

3月 よみうりGENKI フェスタ、5月 Discover 東京私立中学合同相談会、7月 受験なんでも相談会声の教育社、8月 東京都私立学校展 などの合同説明会がおすすめ。早稲アカや四谷でも学校訪問会を開催していてwebで外部生も歓迎していたので積極的に利用していた。

訪問したのは20校程。武蔵、芝、城北、成城、かえつ有明、芝浦工大、桐朋、早稲田、学習院、都市大付属、本郷、巣鴨、農大一中、聖光、栄光、海城、立教池袋、立教新座、城北埼玉など

大事なことほど決めるときは好きか嫌いかで決定しました。現地で肌で感じたことを大事にしました。

【アントレ活用法】

保護者会資料はお宝の宝庫。熟読推奨。各時期の教材の狙いを知ると有効活用できる。テストの基準は聞いてみよう。まとめテストは60点でその単元の基準はクリア、など教えてくれます。思い込みで余計な悩みを抱え込むのはもったいないです。GCや面談を活用して担任を頼りましょう。その際恥や外聞は捨て、素直に話すと思疎通がしやすいです。面談での質問はその質問の理由まで話すといいと思います。この時期にここくらいまでできる必要があるだろう、など勝手な思い込みからの外的な質問をしている場合があり、そうすると答えも求めているものと齟齬が発生してしまいもったいないです。迷走すると遠回りします。

【入試演習】

武蔵クラスを選択。15回中10回合格1回補欠。合格率は70%。どの模試よりも信頼できます。

始め理社の記述が全く取れず、直しを丁寧にし、オンライン添削を積極的に利用。自分で自分の解答を要素分解し足りない要素を足して満点答案を作ったの提出なのでハードルは高いがやりきると力がつきます。ここでダンディーの添削に感動した覚えが。自分の課題を発見し、毎回次週の入試演習で修正案を实践するイメージでした。トライ修正トライ修正この15本勝負で得点力をつけてもらいました。6年後期の入試演習が始まるまでに算数の基礎固めを十分にすることをおすすめすると息子が言っていました。武蔵は算数が肝要とのこと。

【過去問】

6年のGWと夏休みに第一志望1回ずつ取組むよう指示あり。後は9月からスタート。武蔵の場合は入試演習クラスで国語は最新3年以外を、算数は最新10年より前を取組む。家ではそれらを除外した年度で取組むようにする。算数は古い年度に手をつけないように深掘りはしないでと指示あり。武蔵と城北は10回分、成城5回分、その他の併願校は2回程取り組んだ。繰り返し解くことはせず、その都度丁寧になおし満点答案を作るには何が足りないのか分析し距離を埋めることに注力。武蔵の算数だけは間違えた問題を10年分貼り付けた解きなおしノートを作り、隙間時間に1問ずつ解き進めた。後期の個別では入試演習や過去問のわからない部分をじっくり質問できたので、算数のなおしはお任せしていた。

【先生方】

フンチャン 初代担任 塾長 創業者

入室面談で一談惚れた仏様。保護者会でのお話はいつもためになり、親としての在り方を考えさせられていました。スタートの担任で面談での「切れ味のいい方ではない。上を目指すばかりが本人の幸せとは限らない。」がずっと心にあって、志望校選びに最後まで影響していました。迷った時お話をさせて頂きました。

プーサン 理科 入試演習武蔵クラス理科

質問した時抽象的な言葉ではなく具体的な答えをくれる。入試演習で「聞かれていること以外は書かないこと！」と厳しく指導してもらえたおかげでそれ以降観察問題が書けるようになったと息子談。6年後期ではいまさら？な質問を連発したけれどいつも丁寧に指導してもらっていました。

ダンディー 社会 入試演習武蔵クラス社会

過去問の添削の返信が秀逸すぎて、ダンディーの社会はアントレの宝だと思っています。この添削のおかげで社会が苦手な息子でも武蔵が求めているものをつかめた。6年後期は「ダンディーが言っていた、ダンディーに教わった」と我が家で断トツに名前があがる存在になっていました。社会の記述短答プリントも本当に重宝した。ぼろぼろになるまで繰り返した。後期に絞るべきものの指示も的確です。

ラクダ 入試演習武蔵クラス国語

記述添削が神がっかっています。もう少し早くに教わりたかったと思ったが、子どもの実力がつかないと神の言葉も馬の耳に念仏だっただろうと思う。早い時期から国語ができるようにしてやれなかったのでほぼ指導を仰げず残念無念。読書量と過去問研究の情報量も半端ないので頼るべし。

タケノコ 国語 偉い人

いつも理路整然。具体的エピソードで褒めてくれる。的確なアドバイスをくれる。算理できるのに国語もできる万能。タケノコがいてくれなければ息子の国語はここまで伸びなかった。国語で不安になると家でよくタケノコに会いたい…とつぶやいては息子に引かれていました。笑 いつも目をかけてくれてありがとうございます。これからも国語発展途上民を救ってください！

カッシー 担任様 算数の神様 代表

カッシーなくして我が家の武蔵合格なし。恩人。魅惑のカリスマ性で子供を惹きつける。レーシングカーのエンジン搭載で何でも瞬時に答えを出す。ただしそれをトレースできるかはこちら側の努力次第。親も子もカッシーについていくのに必死だった3年間。白板神。6年後期の指示が的確すぎて神。息子は4.5年の頃は受験のためというよりカッシーに教わりたい、認められたいの一心で勉強していた。クールに見えて実は周り全員の幸せを考えている熱い人。カッシー占いは最後まで100%の的中率でした！

個別の古内先生 6年の1年間

絶大な信頼をよせ憧れ続けた武蔵の先輩。教え方が上手く臨機応変でどんな問題でも素早く対応してくれて、分かるまで聞きやすい。息子が白板問題の方針を説明し理解の確認をしてもらった指導をお願いしていたが、息子の説明が甘くても頭の中を瞬時に理解してくれるので進みが早く無駄がない。時々類題をその場で作問して解かせてくれていた。その類題が入試にまで出てしまう実力の持ち主。試験の受け方も指導してくれた。古内先生に出会えて良かった。撮ってもらったツーショットはお守りにして持ち歩いていました。

【おわりに】

アントレでなかったら全く違う中学受験になっていたに違いありません。勉強の楽しさや算数の魅力を教えてもらいました。子どもの心をつかんで乗せて自分ではできるんだとポジティブな気持ちのままいさせてくれました。大変な受験期にも小学生が疲弊せず、授業開始1時間前に遊びに行くかのように出かけて行く大好きな居場所でした。知らない道を進む心細さの中、信頼できるプロが寄り添ってくれたことには感謝しても

しきれません。わがままを聞いてもらい頼らせてもらえばなしでした。本当にありがとうございました。

「私の15年の経験の中でも彼はレアキャラです。普通4年で反応が良くないと5,6年でもずっとそのまま。彼の場合はコアがどんどん大きくなって予想を超えてきましたね。私の中の成長の見通し基準を変えてくれた子です。ずっと忘れないですね。」とカッシーに言ってもらえたくらい息子は成長しました。

息子は本当によく頑張った。精神的にタフになった。運も引き寄せた。それは3年間の努力の結晶だと思う。早起きして朝勉強を欠かさなかった。くさらず国語を上げる努力を続け音読を毎日した。夏休みは1日10時間勉強した。理社のコアプラス8周はした。算数はスランプもあったけれど投げ出さずずっと積極的に取り組んでいた。中数の中で武蔵に出そうな問題をピックアップして解くことになったとき問題選定をカッシーにその通りと言わしめるまでになった。平面図形手筋カードを前夜までずっとめくり続けた。

「武蔵は努力が報われるところではない。天才型が行くと幸せ。」とおっしゃっていたフンチャンに天才型VS努力型の違う事例を示したい。努力型も幸せになれると基準を変えたい。ひそかな野望です。

これから先の息子を見つめる中で答えを探そうと思います。

関わってくださったすべての皆様方に心から感謝をしております。大団円。

匿名希望者のお母様

■本人の性格

- ・明るく話好き、授業中に話始めると長い
 - ・おっちょこちょいで忘れ物が多く面倒くさがり（ちびまる子ちゃんをご想像下さい）
 - ・本が好きで小説週2~3冊とライトノベル何冊かをいつも読んでいます
- 我が家の受験体験記が同じようなタイプのお子様の参考になりましたら幸いです。
-

■家庭の方針

- ・親の志望校は特になく、本人の行きたい学校を尊重する
 - ・体力がないので、自宅から近い所にする
 - ・結果より学習の過程を重視し、自分で目標を立て課題を見つけながら進めることを大切にする
-

■入塾まで

3年2月まで公文や家庭学習など受験に向けた特別な学習は行っておらず、花まる学習会やスマイルゼミに取り組んでいた事もありましたが、学習強度は小学校の学習と同じくらいで、いずれも短期間に終わっていました。そんな中アントレに見学に行ったところ、元気な雰囲気性格に合っていたようで入塾しました。娘は最後までアントレが大好きで、アントレのみんながいるから楽しいし絶対に辞めたくない！と言うほど、塾生活を楽しんでようです。

■4年生 Bクラス

まず中学受験の経験のない親の私が予習に苦労しておりました。仕事や家事、下の子の育児以外の時間のほとんどを割いたため、思い返すと記憶があまりありません。

■5年生 Aクラス（国語のみS）

4年の段階で親のサポートに限界を感じた為、5年からは算数の予習をアントレにお任せすることにし、シリーズ解説を受講し始めました。後半には個別授業も受講し始めました。本人曰く、個別は早めに始めた方が絶対に良い！そうです。親の目から見ても、5年前半までは何となくの理解で進んでしまっていたところが、個別を受講するようになってから改善されたと感じます。授業の合間に質問に行くよりもじっくりと向き合せて教えて頂けるので、納得して進むことができ、娘の自信に繋がっていました。精神面での支えにもなって頂いた島田先生には本当に感謝しかありません。

とはいえ、シリーズ解説や個別授業のお力を借りながらそれでも、この5年生の家庭学習が一番大変だったように感じます。そして後に分かった事ですが、理科の授業は居眠りをしている事が多かったようです。後にこれが大きく影響する事となります…。

5年のテキストや理社授業プリント、白板は6年になっても振り返ることが度々ありましたので、ファイルに閉じて管理したり、スキャンしてデータ化しておくなどしておくことで後々の親のサポートが楽になるかもしれません。クラウドに保存しておけば検索ですぐ確認することができますし、学習時にタブレットで開き参照するなどしていたこともありました。

■6年生 Aクラス（国語のみS→後期からA）

5年理科の授業に身が入っていなかったことが影響し、徐々に苦手な部分が浮き彫りになってきたため、6年からは個別を2コマ受講するようにしました。必要に応じて、算数と理科を組み合わせでご指導頂きました。本人は今でも「5年の時に真面目に聞いていれば…」と話しています。基本的な事も抜け落ちていましたので、どこから遡ったらいいか…という状況に頭を抱えました。テストでは大きな落ち込みが無かったように記憶していますが、直前の詰め込みでどうにか乗り切っていたのだらうと思います。

個別の島田先生のご指導や、らっきょ先生からの計算プリントで穴埋めしながら理解できる所が少しずつ増えてくると、娘の苦手意識が和らいでいき、毎日の学習にプラスして理科に取り組むことが習慣化されていきました。

■土曜入試演習（中堅上位クラスの上～中位）

途中から『5位以内に入ったらゲームして良い』というボーナスを設けた事もあり、テストを楽しみにしていました。親としては順位よりも大事な事があるだらうと思っていましたが、時にはニンジンもぶら下げることも、気持ちの引き締めにも丁度良く働いていたかも知れません。

過去問が始まってからは取り組みの範囲を絞る事ができたので、予習復習に忙殺される日々から少しずつ解消されていきました。目標が定まってきて私自身も思考がシンプルになり、予習シリーズの進度についていけるかどうかという不安よりも、志望校とのミスマッチが無いかどうか見極める方を重視できましたし、元々子どもも自信を持っている実力に向き合えるようになったため、全体通して6年後期の方が落ち着いていられた気がします。

一方で苦労したのは、娘は過去問を解くには積極的であるものの、解き直しの時間が面倒ですぐにはやりたがらず、目の前の問題を先延ばしにしがちにする傾向があったことです。ケアレスミスに対しては「本番までにできるようになればいい」という考え方が多く見られました。親がいくら正論を述べても、メンドクサイの気持ちと向き合わせるのはなかなか難しく、結局年末まで同じような調子でした。12歳の子どもに理解してもらおうというのは大変な事です。大人でも面倒な仕事と向き合うのは大変ですから。

■直前期

埼玉受験が近づくにつれて少しずつ緊張している様子が見受けられるようになりました。ただ、それもまるで遠足の前の日のようなもの。そわそわしているだけで、焦って勉強をはじめるとはなく、これまで通りマイペースな日々を送っていました。

娘は『本番』にむけて頑張るような習い事やスポーツを経験したことがありません。もし過去にそういった経験をしていたら、本人の向き合い方も変わっていたのかな…とも思います。練習してきた成果がその一瞬で活かされたかどうか、又は失敗したかどうかというプレッシャーを伴う体験や、手ごたえといった他人には説明できない抽象的な感覚が捉えられているかどうか、受験直前の取り組みに影響することもあるのではないのでしょうか。

緊張を感じることは良いことばかりではありませんが、傍で見ている親としては「いつになったら本気になるのだらう…」という気持ちを感じざるをえませんでした。

■学校選び

▼学習院女子

学校見学で感じた校内の雰囲気と制服を本人がとても気に入った様子で、最初の第一志望になりました。自宅最寄り駅からのアクセスが良く、図書館が大きい、答えを出すだけでなく考える過程を重視する学習が、親としても魅力的に感じました。

ですが、らっきょ先生との面談で「目指すなら今すぐにも行動を変える必要がある」とのアドバイス。本人の目指したい意志が固い割に、そこから学習のペースアップは実現されず「君は夏休み前に過去問を解いた方がいいね」と助言いただいたことから、少し早めに学習院女子の過去問に取り組むことにしました。結果的には、娘自身もかなり茨の道であることを自覚し、志望校から外すこととなりました。

▼富士見

学習院女子が第一志望から外れたことで、はじめは第二志望だった富士見中が第一志望となりました。学校見学に何度か足を運び、制服や校舎の明るさが気に入っていたようです、また、アントレの先輩が塾によく遊びに来てくれていたので、印象が良かったこともポイントであった気がします。

学習院女子の過去問のあと、富士見の過去問を受けたところ、戦えそうであるという印象を受けましたので、第一志望に据えることにしました。

▼山脇学園

富士見を第一志望に据えてからしばらくは、まだ学習院女子への未練があり、併願校への関心が薄い状態が続きました。先生から他に目標はあるかと聞かれても、あまり気持ちが乗らない様子でした。ある時、これまで見学しに行った学校のパンフレットを見直し「山脇もいいかも？」と思い始めたようです。模試などで度々受験会場になっていましたし、学校の雰囲気に慣れていたこともあったことでしょうか。2/1の富士見が合格したらという条件で、山脇も受験してみることにになりました。

■受験

1/10 PM 星野学園 理数選抜 → 合格

1週間ほど前になると、緊張からくる気持ちの高ぶりで口数も多くなり、傍から見ても浮足立っている様子が分かる状態でした。前日の9日に個別の島田先生に話を聞いてもらい、少し気持ちが落ち着いたようです。当日は1時間ほど前に会場入りしました。苦手な理科が良く解けたと話していました。

2/1 AM 富士見 → 合格

前日は21時に就寝しました。試験前の送り出しはあっけなく、特に親を振り返る事なくズンズン試験教室へと去っていき、試験後もまるで模試の後のようなあっさりとした顔で戻ってきました。星野で今年分の緊張を全て使い果たしてしまったのかもしれないと感じる程でした。

試験後は一度自宅に帰り、在宅勤務の父や妹と家族4人で昼食を取りました。普段と変わらない雰囲気で午後に望むことができたので、帰宅して良かったと思います。

2/1 PM 十文字 → 合格

終わったあとはほっとした表情をしていました。外はすっかり日が落ち、日中と比べるとぐっと気温も低く感じましたので、羽織物は午後受験に合わせて用意していた方が安心かなと思います。

2/2PM 山脇学園 → 不合格

富士見の合格が分かった時点で、予定通り山脇の受験をすることに決め、申し込みを行いました。山脇のB日程以降は倍率がどんどん高くなりますので、元々の想定でも我が家には厳しい目標であると分かっていたのですが、実際会場に足を運んでみて改めて、入場者の多さに親が圧倒されました。

試験が終わって出てくると、娘は浮かぬ表情で、あまり手ごたえが無かったと話してくれました。不思議なもので、切符を失ったと感じた瞬間、山脇に合格したいという気持ちが湧き上がってきたようです。算数の試験中、解答用紙に空欄ができてしまった時に残念さが込み上げ、「ここに入りたかったなあ」と思ったといいます。

結果は自ら、らっきよに電話報告。最後に初めて味わった不合格に、笑って報告しながらもこれまでで1番悔しそうな、複雑な顔をしていました。ここまでずっと受験生の実感を得られていなかった子でしたが、最後の最後によりやく受験生になった気がしました。

余談ですが、我が家の待機場所はラーニングフォレスト（図書室）で、人気書から古い資料まで幅広く多くの書籍が並んでおり、試験の待機時間中はそれらの読書にふけりながら待つことができました。親も気持ちが落ち着かない時間ですので、待機場所が図書室というのは良いアイデアだなと思います。

■受験を終えて

夫婦ともに働いているため子供の学習に十分な時間を割けない事が多くありましたが、新型コロナの影響でリモートワークが一般化して以降は、家庭学習をある程度サポートできるようになりました。ただし、この状況が子供との摩擦を増やし、一長一短の状態になっていきます。

5年生からの予習復習は4年生の頃と比較するとぐっと重たくなり、その中で、子どもがだらだらと時間を過ごす様子に対する私の苛立ちが募っていきました。我が家の場合、全期間を通して振り返ると5年後期が一番大変だったように思います。

親子の関わり方について、沢山の家族会議を行いました。学習へのアプローチや、お互いに直した方がよい所はあるかなど、何度も家族で話し合いました。時には娘に対して厳しく叱責し、テーブルを叩くこともありました。また、できていない事を指摘しすぎて親としてふさわしくない言葉を使ったり、無視してしまうこともありました。そしてその度に自己嫌悪に陥り、親の方がもう辞めたいと思うのです。

『これからは親が口を出すことはやめてスケジュールや体調管理だけに徹しよう』と心に誓うのですが、中学受験の勉強がなかなかそれを許してはくれません。どうしても手を差し伸べざるを得ない場面が出てきます。受験の伴奏で最も辛かったことを話して欲しいと言われてたら、まさにその「干渉したくないのに干渉せざるを得ない」ジレンマとの葛藤だったと言えます。

いま娘にその事について尋ねると、本人の性格もあってか明るく思い出を語ってケロリとしています。しかし私自身は今でも、あの時の親としての行動を振り返り考える事があります。

それでも最後まで走り切ることができたのは、アントレが娘にとって第二の居場所だったからです。家や小学校で時折つらい事があっても「アントレに行けば嫌な気持ちが吹っ切れる」と話していました。アントレに足を運ぶときは、彼女の足取りが軽くなり、塾から帰ると、その日の授業で起きたおもしろい出来事をいつも笑顔で話してくれました。

娘は決して勉強が好きなタイプではありませんので、同じ目標に向かって頑張るお友達や、気分が乗らない時に明るく盛り上げてくれる先生方の存在が、彼女にとって非常に大きな支えであったと感じます。受験結果や成績に関わらず、こうした出会いに恵まれること自体が本当に素晴らしい経験で、親が考えるように上手くいかなくても、通わせる意味があるのだと思わせてくれました。

春から娘は富士見中学校へ進学いたします。進学後も時々また塾に遊びに行くと話しています。先生方には引き続きご迷惑をおかけしてしまいそうですが、あたたかく成長を見守って頂ければ幸いです。ここまで3年間のご指導、本当にありがとうございました。

そして、これから受験を志す全てのお子様の努力が実を結びますよう、心より応援しております。

匿名希望者のお母様

受験生それぞれにドラマがあるというお通り、我が家もいろんなことがありすぎて、何を書いていいかわからないまま期限が迫ってしまいました。

ギリギリまで考えた結果、やってきた勉強の中で1番助けられたことを書くことに決めました。

それは、「過去問をメッチャ！解くこと！！」

過去問はやったほうがいいのか？二度と出ないのだからやらなくてもいい論争が起きますが、我が家の場合、過去問を解いたことにとっても助けられました。

まず、娘の受験結果です。

【埼玉】

- 1/10AM 星野学園進学クラス 合格
 - 1/10PM 星野学園理数クラス 合格
 - × 1/11PM 淑徳与野医進クラス 不合格(得点開示あり、4点足らず)
 - 1/13AM 淑徳与野特進クラス 不合格(得点開示あり、1点足らず)
 - 1/29 淑徳与野特進クラス 合格
- (1/13の淑徳与野に出題ミスがあり、採点しなおした結果合格)

【東京】

- × 2/1AM 法政 不合格
- × 2/2AM 明明 不合格
- 2/2PM 富士見算数1科 合格
- △ 2/3AM 法政 繰り上げ合格者候補
- 2/5AM 法政 合格 ← 進学先！
- × 2/5PM 明八 不合格

2/5午後まで戦い、合計10回の受験をしました。

でも、下を向くことなく、娘は常にポジティブに戦場に向かっていきました。

■娘のポテンシャル■

- ・3A→4A→5A→6A (いずれのクラスにおいても下位をさまよっていました。)
- ・入試演習は女子上位に参加するも、合格をいただけたことはありません。
- ・合不合 偏差値 4科合計50弱 算数60 国語40弱 理科55弱 社会45弱→50 (弱って日本語便利だな～オブラートに包める。40弱って、30代。見栄え)
- ・性格は真面目なポジティブ！！そして、かなり素直というか、単純というか。
- ・遊ぶのがとにかく大好きで、まとめテストもずっと点数が取れなくて、私の人生で一番ため息の多い3年間だったなと思います。

でも、そんな娘でも合格をいただくことができました。

過去問にどのように助けられたかを書いていこうと思います。

第一希望の法政の過去問は、最新5年間受験日の1回目、2回目を1周。理社は2周。国語は10年間分を1周しました。

■志望校の選択に活用■

東京受験まであと10日という1月20日に、まだ受験スケジュールが定まらない状態でした。

2月1日の午後の晃華をどうするか？

2月2日の午前は明明？富士見？

2月4日は？2月5日は？ざっくりこんな具合に悩んでいました。

そんなときにやった過去問が、富士見算数1科。

夏は全然取れなくて、娘も苦手！と言っていたのに、この時期にやると、どの年度をやっても高得点！

私はどうしても、なんとなく東京に合格が欲しかったし、富士見は娘にとっても合っている学校だったので、2月2日の午後に兆しが見えてうれしかったです。1月受験で午前午後受験を経験し、かなりの体力を消耗するのがわかっていたため、2月1日の午後にある晃華学園の入試を辞める決断ができました。

夏に富士見の過去問を解いたときは合格者平均に届かない状態でした。過去問は早い時期にやりすぎても、手を出さすぎても間に合わなくなるので、担任の先生とよく相談してみるのがいいと思います。

■過去問で理社の苦手を克服■

埼玉受験では1点で不合格になりました。でもその不合格が効いて、あと1点をとりに行くぞ！！と逆に気分が盛り上がり、理社での1点の取り方で過去問を活用しました。

コアプラスとニュース最前線はボロボロになるまでやりこんではいたのですが、入試直前になると何をやっていいのかわからなくなるので、過去問で間違えたところの単元を冬期講習のプリントや夏期のテキストで補いました。

過去問でわからなかったところは、個別の先生に教えてもらいました。そもそもは私がお勉強にまったく携われないので、個別授業は国語の復習をお願いする形ではじまったのですが、社会も全然できないため、国社でお願いしていました。

でも、ある日、苦手な国社より、点数は取れないけど、苦手意識のない理科を伸ばしましょうとご提案いただきました。社会はやればやるだけ点数が伸びると思っていたので、「理科かー」と、ぶっちゃけ思っていたのですが、これが効果的面！本当にアントレの個別の先生、優秀すぎるんです！最後はもはや理科は得点源になるわ、なにより、本人のモチベーションも変わり、自信になりました。個別の先生には、娘にあったプリントをご用意いただいたり、1週間のスケジュールを組んでいただいたり、あっ！これ以上書くと次年度へのハードルが上がっちゃうので辞めておきますが、個別の新任先生なしに合格はなかったと思います。

■法政3回目の受験の時の励まし方■

法政の受験は3回あります。1回目は不合格だったのですが、自分で計算ミスに気づいていたため、2回目の送り出しの時は「思い込みに気をつけようね」と言って送り出しました。そして、「めっちゃ！気持ちよかった！絶対、算数は満点だよ！」と帰ってきました。理社もそこそこできたとのこと。

それでも、合格はいただけませんでした。

(やばい！算数が満点だったのに、不合格だった子に励ます言葉がないじゃん！！)

(ピカーン！！閃いた！！そう、過去問だ！！いっぱいやったじゃん！！)

「2月5日の3回目の法政の受験にくる子で、〇〇(娘の名前)くらいガチで過去問をやった子はもう1回目と2回目で合格してる！だから、2月5日は〇〇ほど、法政を知ってる子はいない！〇〇が1番！

〇〇より偏差値の高い子がくるかもしれないけど、法政は8割取れないと合格が難しい。ほとんどの学校は7割取れば合格だと思ってる子が多いから、油断するはずだよ。

がつつり取っておいで！」・・・キマッタ★

■受験中、本人が冷静になれる■

娘の法政合格の条件として算数は満点！というのが私たち親子の中にあっただけなのですが、法政の3日目は満点ではなかったんです。わからない問題があったと言っていました。それでも、全然焦らない。

「あの問題は全員取れてないと思うから、大丈夫。でも正答率の低い問題は取れたから問題ないよ！」

過去問を解いているうちに、どうやら難易度や配点もわかるようになる模様。それが外れていたっていいんです。本人が焦らず、力を出せば。

■鬼門の国語■

法政最終日の試験終了後。

「ママ！はじめて、国語最後までできた！！30秒残った！！」

う、う、うん、よかったね。はじめてかーい！！

きっと、過去問やりまくったからだ！←かこつけてみた。

でも、受験前に娘が「法政の国語40個もやったもん！！そんなにやった人いない！！」と言っていたので、どこかで自信につながったのかもしれませんが。

それを聞いた私はさすがに40はやってないけどなーとは思っていたけど、勘違いしてるならいいか！と思い「40やったよね！」と言って、送り出しました。

■清水先生との最終面談■

アントレの授業の最終日の授業後に行ってくださいました。埼玉受験後に予約を入れたのですが、先生は大人気のため、この日になりました。志望校を迷っていた時期に予約を入れてしまったのですが、このころ

には、すでにすっきり東京受験のスケジュールが決まっていました。

12月の合不合の偏差値は45。(合不合の推移45-53の間)

ほぼ法政と富士見のラインナップ(明明は記念受験)。今になって思うのですが、あの面談のとき、先生はどう思っていたらしかったのかが、今更ながらとても気になります。

私たち、なぜか自信満々というか、すごくすっきりしちゃってて。

合不合も入試演習も全然ダメダメなんです。でも、過去問だけ、調子がよかったんです。ただそれだけだったんです。今思えば、それだけだったなって。それだけで、メンタルアゲアゲで入試に臨んでいけました。

でも、合不合は12月。娘が伸びたと感じたのが1月。1月も伸びるんだと思います！2月も！

最後に、長女と合わせて6年間、本当にお世話になりました。

先生方には、時にはご迷惑や不快な思いもたくさんさせてしまったと思います。それでも見放さず、最後まで親子ともども、心優しいご対応に感謝申し上げます。ありがとうございました。

(これも、締め切り時間を過ぎてしまった。最後までごめんなさい。)

アントレ、とっても楽しかったです！

益々のご発展をお祈り申し上げます。